

令和7年度

第6次川本町総合計画施策評価

■第6次川本町総合計画 施策評価

施策 番号	施 策 名	主担当課	ページ
1	住民主体の地域づくりの推進	まちづくり推進課	3～7
2	地域福祉の充実	健康福祉課	8～13
3	健康づくりの推進	健康福祉課	14～19
4	地域医療の充実	健康福祉課	20～23
5	公共交通の充実	まちづくり推進課	24～27
6	移住・交流の推進	まちづくり推進課	28～37
7	農林推進業の振興	産業振興課	38～47
8	商工業・サービス業の振興	産業振興課	48～52
9	経済循環の向上	産業振興課	53～57
10	起業支援・企業誘致の推進	産業振興課	58～62
11	雇用機会の充実と安定	産業振興課	63～68
12	結婚・子育て支援の充実	健康福祉課	69～73
13	川本らしい学びの環境の充実	教育課	74～87
14	学び続けられる環境の充実	教育課	88～99
15	多様性のある地域社会の実現	まちづくり推進課	100～103
16	防災・減災対策の充実	総務財政課	104～110
17	日常の安全対策の充実	総務財政課	111～113
18	インフラ整備・環境対策の推進	地域整備課	114～122
19	効率的な行財政運営の推進	総務財政課	123～129

■重点プロジェクト評価

重点	施 策 名	主担当課	ページ
1	地域運営・たすけあいの仕組みづくり	まちづくり推進課	130～133
2	医療・介護・福祉サービスの強化	健康福祉課	134～138
3	コンパクトタウン弓市の魅力向上	まちづくり推進課	139～142
4	地域資源を活かした付加価値の創出	産業振興課	143～148
5	保小中高の連携による教育環境の充実	教育課	149～159
6	治水対策の推進	地域整備課	160～163

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策 番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
01	住民主体の地域づくりの推進	P36～37	まちづくり推進課

施策の方針	地域でコミュニケーションが図られ、地域の課題解決に向け、積極的に 取り組めるように、たすけあい、支えあう地域運営の仕組みをつくります。
施策の 方向性	・地域運営の仕組みづくりの推進 ・住民主体の地域包括ケアシステムの構築

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
地域運営組織の設立数 【累計値】（単位：組織）	目標値	1	1	2	3	4
	実績値	1	1	1	1	1
	達成率	100%	100%	50%	33%	25%
住民自らが地域ビジョンを策定した地区数 【累計値】（単位：地区）	目標値	2	5	5	8	8
	実績値	2	2	2	2	2
	達成率	100%	40%	40%	25%	25%
住民主体の集いの場の設立数 【累計値】（単位：箇所）	目標値	5	5	5	6	6
	実績値	5	5	5	5	5
	達成率	100%	100%	100%	83%	83%

評 価	担当課評価
B	・今年度は集落対策施策への反映のため、全自治会にヒアリングを実施した。各自治会毎に様々な課題はあるものの、審議会での意見のとおり、地区別ビジョン策定については限界があると感じた。 ・中間支援組織「たすけあい川本」は、暮らしの保健室に加え、令和7年度よりファミリーサポートセンター事業を開始し、地域での子育て支援を一層充実できた。

評 価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・立地適正化計画をふまえて、自治会長連合会や社会福祉協議会や中間支援組織等関係機関と連携を密にし広域的な課題や個別課題の把握等に細やかに対応すること。 ・中間支援組織による新たなサービスの拡充などは、これまでの取り組みの成果。安定的な運営や継続的な活動が行えるよう状況把握に努めること。

評 価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	01	基本施策名	住民主体の地域づくりの推進	施策の方向性	地域運営の仕組みづくりの推進	1/4
------------	----	-------	---------------	--------	----------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地区別ビジョンの作成	R3	地区別座談会の実施（全10地区） 【予算】 3,080 千円 【決算】 3,080 千円	B	・地区別座談会を実施し情報の共有、意見交換を実施したが、ビジョン（活動計画）策定の効果等の共有までには至らず地域住民が主体となった活動計画の策定はなかった。
	R4	地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業を創設 【予算】 1,500 千円 【決算】 0 千円	B	・自治会長会議等で周知を図ったが事業の活用がなかった。 ・複数自治会での取組など、きっかけの創出等難しい面もあると考えられるため、引き続き周知を図る。
	R5	地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業の実施 【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円	B	・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。 ・島根県と協働で集落実態調査を行い実態把握を行った。
	R6	地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業の実施 【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円	B	・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。 ・地区別ビジョンについては、審議会でも意見を頂いたとおり限界を感じている。R7年度は各自治会にヒアリングを行い、状況把握に努める。
	R7	自治会ヒアリング実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	D	・今年度は集落対策施策への反映のため、全自治会にヒアリングを実施した。審議会での意見のとおり、地区別ビジョン策定については限界があるため終了とする。
② 持続的な取り組み体制・組織の形成支援	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・活動計画の策定に至った団体が無かったため実績なし。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・活動計画の策定に至った団体が無かったため実績なし。
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・活動計画の策定に至った団体が無かったため実績なし。
	R6	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・活動計画の策定に至った団体が無かったため実績なし。
	R7	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・活動計画の策定に至った団体が無かったため実績なし。
③ 実践活動への支援	R3	・地域住民が主体となった団体が日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を開始し、その活動について広報周知を中心に支援した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年4月に地域住民が主体となった、地域のたすけあいを目的とした団体が設立。同年9月より生活支援サービスを開始。
	R4	・地域住民が主体となった団体が日常生活に必要な生活サービスを支援する取組R3年9月から開始している。その活動について広報周知を中心に支援した。（R4年度生活支援実績143件） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・除草や草刈り等、家屋の維持管理に係る支援を中心に、住民有志のボランティアが生活支援サービスを提供している。今後も互助の取り組みが推進されるよう、周知を中心とした後方での支援を行っていく。
	R5	・地域住民が主体的に運営する団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組をR3年9月から開始している。その活動について周知を中心に支援した。（R5年度生活支援実績25件、子ども預かり11件） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・生活支援実績件数は利用実人数の減により減っているが、提供体制は維持できており、今年度子ども預かりも初めて実施した。今後も周知を中心とした後方支援を継続していく。
	R6	・地域住民が主体的に運営する団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組をR3年9月から開始している。その活動について周知を中心に支援（R6年度生活支援実績44件、子ども預かり12件） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・暮らしの保健室等、その人の暮らしづくりが見える関係性を起点に生活支援の相談や依頼が入るようになってきたことで実績件数は増加している。子育て支援についても一時預かりの拠点を開設した。今後も取り組みを推進していく。 ・令和7年度は、ファミリーサポートセンター事業に取り組み、子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現にむけて取り組んでいく。
	R7	・地域住民が主体的に運営する団体が、生活サービスを支援する取り組みをR3年9月から開始している。また、R7年2月より子育て支援の拠点として「ここにこ」を設置し、同年8月よりファミリーサポートセンター事業を開始している。これら活動の立ち上げにおいて後方支援を実施した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・暮らしの保健室や一時預かりの拠点整備に伴い、全世代が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりが進められている。今後も取り組みを継続していく。 ・令和7年度よりファミリーサポートセンター事業を開始した。基本施策12（子育て支援の充実）とあわせて、地域共生社会の実現にむけて取り組みの拡充を検討していく。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	01	基本施策名	住民主体の地域づくりの推進	施策の方向性	地域運営の仕組みづくりの推進	2/4
------------	----	-------	---------------	--------	----------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ まちづくりの担い手の育成	R3	「かわもと一く」の事業計画立案及び予算措置	B	・「かわもと一く」として、中学生と地域の大人が1対1で対話することで、将来への不安や悩みの解消を図る。また、大人は中学生との関係性をつくることで、自分が地域の担い手であるとの自覚を芽生えさせる。その事業計画立案及び予算措置を実施した。企画の実行は令和4年度を予定。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・多世代対話活動「かわもと一く」の事業の実施	B	・川本中学校2、3年生と地域の大人が1対1での対話をし、一緒にこれまでの人生を振り返り今の自分と向き合いながら、これからの目標について考える授業を行った。生徒も大人も満足度も高く、これからの将来に対する気持ちの変化が見られた。
		【予算】 891 千円 【決算】 891 千円		
	R5	・多世代対話活動「かわもと一く」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人 第2回：小学生×島根中央高校生（NEW）	B	・中学生と地域の大人との対話では、中学生は今悩んでいることや将来のことについて、親でもない、友達でもない関係性の方と話し、これからの人生のヒントや人とながれるきっかけとなった。 ・小学生と高校生との対話では、小学生にとっては少し先の自分の姿を描き、身近な存在への憧れや将来への動機づけのきっかけとなった。
		【予算】 1,250 千円 【決算】 1,150 千円		
	R6	・多世代対話活動「かわもと一く」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人（11月7日） 第2回：小学生×島根中央高校生（12月11日）	A	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の大人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
		【予算】 1,250 千円 【決算】 1,172 千円		
	R7	・多世代対話活動「かわもと一く」の事業の実施 第1回：小学生×島根中央高校生（7月10日） 第2回：中学生×地域の大人（11月12日）	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の大人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
		【予算】 1,250 千円 【決算】 1,172 千円		
⑤ 中間支援組織の育成・運営支援	R3	・地域をサポートする住民主体の中間支援組織が設立された。 ・同組織が行う事業運営に対し事業運営支援を行った。	B	・令和3年4月に地域住民が主体となった、地域のたすけあいを目的とした団体（中間支援組織）が設立。 ・福祉分野を中心に民側の相談窓口として行政と連携し活動を展開。
		【予算】 1,600 千円 【決算】 1,600 千円		
	R4	・令和3年度に続き中間支援組織が実施する活動に対し運営支援（業務委託）を行った。	B	・令和3年度に続き福祉分野を中心に民側の相談窓口として行政と連携し活動を展開。 ・子どもの見守り（子育て支援）についても活動の幅を広げ、幅広い層に対しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
		【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円		
	R5	・R3年度より中間支援組織が実施する活動に対し運営支援（業務委託）を行っており、R5年度も前年度に引き続き運営支援を行った。	B	・前年度に続き福祉分野を中心に、民側の相談窓口として行政と連携し活動を展開。 ・子育て支援について活動を充実させ、いただきますの日の開催し、幅広い層に対しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
		【予算】 2,300 千円 【決算】 1,700 千円		
	R6	・R3年度より中間支援組織（たすけあい川本）が実施する活動に対し運営支援（業務委託）を行っている。今年度も前年度に引き続き運営支援を行う予定。 ・かわもとあそラボの取り組み支援	A	【たすけあい川本】 ・前年度に続き福祉分野を中心に、民側の相談窓口として行政と連携し活動を展開。 ・子育て支援サービスの充実を図り、いただきますの日の開催を継続しながら、新たに「ここにこ」も実施。住民主体の団体として地域福祉行政に関与。 【かわもとあそラボ】 ・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・いわみ留学に参加し、1名の短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ不足、活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続けていきたい。
		【予算】 6,750 千円 【決算】 6,750 千円		
	R7	・あそラボ（一社asolab）の取り組み支援	B	【asolab】 ・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に、毎年行っている中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・6名の大学生短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ・活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続ける。
		【予算】 9,700 千円 【決算】 9,700 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	01	基本施策名	住民主体の地域づくりの推進	施策の方向性	住民主体の地域包括ケアシステムの構築	3/4
------------	----	-------	---------------	--------	--------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 集いの場づくり	R3	・住民主体の集いの場を既存も含め町内5ヶ所で開始。 ・行政と住民が連携した集いの場を町内2ヶ所で開始。 【予算】 1,600 千円 【決算】 1,600 千円	B	・住民主体の集いの場（三原、三島、馬野原、多田、尾原）、行政と連携した集いの場（弓市、因原）を開始。また、各集いの場運営者の情報共有の場を定期的に開催。 ・たすけあいの中間支援組織が実施する生活支援サービス等と連携した取組が図られている。
	R4	・昨年度に続き住民主体の5ヶ所、行政と連携した2ヶ所の開催を支援。 【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円	B	・昨年度の事業に加え、子どもの見守り（子育て支援：集いの場）についても活動の幅を広げ、幅広い層に對しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
	R5	・昨年度に続き住民主体の5ヶ所、行政と連携した2ヶ所の開催を支援。 【予算】 2,300 千円 【決算】 1,700 千円	B	・住民主体の集いの場事業に加え、子どもの見守り（子育て支援：集いの場）についても活動の幅を広げ、幅広い層に對しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
	R6	・昨年度に続き住民主体の5ヶ所、行政と連携した2ヶ所の開催を支援。※予算再掲 【予算】 2,300 千円 【決算】 2,300 千円	B	・住民主体の集いの場事業に加え、子どもの見守り（子育て支援：集いの場）についても活動の幅を広げ、幅広い層に對しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
	R7	・昨年度に続き住民主体の5ヶ所（三原、三島、三大字、多田、尾原）および行政と連携した2ヶ所（弓市、因原）の開催を支援。※予算再掲 【予算】 2,300 千円 【決算】 1,900 千円	B	・住民主体の集いの場事業に加え、子どもの見守り（子育て支援：集いの場）についても活動の幅を広げ、幅広い層に對しての福祉行政に住民主体の団体として関与。
② 住民同士のたすけあいの推進	R3	・地域住民が主体となった団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を開始した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・社会福祉協議会が主体となったシルバー人材センターやボランティア会に加え、住民団体が主体となった日常生活のたすけあいの仕組みづくりが開始。徐々にサービスの認知と利用が広まっている。
	R4	・地域住民が主体となった団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を開始した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民団体が主体となった日常生活のたすけあいの仕組みづくりが継続的に実施されている。利用者のニーズ等についてもきめ細やかに把握・分析されサービスの改善につながっている。
	R5	・地域住民が主体となった団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を開始した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民団体が主体となった、たすけあいの仕組みづくりが継続的に実践されている。利用者のニーズ等についてもきめ細やかに把握・分析し、サービスの改善や新たな地域資源の発掘につながっている。
	R6	・地域住民が主体となった団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を行っている。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民団体（三原、三島、尾原、多田、馬野原）が主体となった、たすけあいの仕組みづくりが継続的に実践されている。利用者のニーズ等についてもきめ細やかに把握・分析し、サービスの改善や新たな地域資源の発掘につながっている。
	R7	・地域住民が主体となった団体が、日常生活に必要な生活サービスを支援する取組を行っている。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民団体（三原、三島、尾原、多田、馬野原）が主体となった、たすけあいの仕組みづくりが継続的に実践されている。利用者のニーズ等についてもきめ細やかに把握・分析し、サービスの改善や新たな地域資源の発掘につながっている。R7年度は状況把握のみ実施した。
③ 暮らしの保健室の運営支援	R3	・住民主体の団体による暮らしの保健室が全32回開催された。（巡回型14回、常設型18回） 【予算】 1,600 千円 【決算】 1,600 千円	B	・巡回、常設等幅広く身近に健康相談を行える場が設けられた。 ・一方で中間支援組織という新たな民間組織のサービス、サービス提供初年度もあり相談件数は全27件と伸び悩んだため、広報周知等を中心に引き続き支援を行う。
	R4	・住民主体の団体による暮らしの保健室が全39回開催された。（巡回型22回、常設型17回） 【予算】 356 千円 【決算】 220 千円	C	・巡回、常設等幅広く身近に健康相談を行える場が設けられた。 ・一方で、常設型保健室の来場者数はSNS等を活用し周知・発信を行ったが1件にとどまったため、R5年度は巡回型を中心に開催する。
	R5	・住民主体の団体による暮らしの保健室が全38回開催された。（巡回型38回） 【予算】 195 千円 【決算】 163 千円	B	・R5年度は方法を見直し、巡回型を中心に開催した。身近な地域の集いの場で健康相談を行える機会として、利用している住民にも次第に認知されてきている。次年度も引き続き支援を行っていく。
	R6	・住民主体の団体（たすけあい川本）による暮らしの保健室を開催予定（巡回型28回）。 【予算】 230 千円 【決算】 138 千円	B	・今年度は巡回型を中心に開催した。身近な地域の集いの場で健康相談ができる機会として、利用している住民にも活動が認知され、広く受け入れられてきている。次年度も引き続き支援を行っていく。
	R7	・住民主体の団体（たすけあい川本）による暮らしの保健室を開催予定（巡回型28回）。※予算は当該事業分 【予算】 110 千円 【決算】 80 千円	B	・今年度は巡回型を中心に開催した。身近な地域の集いの場で健康相談ができる機会として、利用している住民にも活動が認知され、参加者からの一定数のニーズも出てきている。次年度も引き続き支援を行っていく。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	01	基本施策名	住民主体の地域づくりの推進	施策の方向性	住民主体の地域包括ケアシステムの構築	4/4
------------	----	-------	---------------	--------	--------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 住民主体の地域ケア会議の確立	R3	・三原地区で実施。 【予算】 1,600 千円 【決算】 1,600 千円	B	・三原地区で実施できたが、他の地区では実施に至らなかった。 ・行政主体の同様の会議には住民主体の団体等の参画もあるため、あり方については今後検討を行う。
	R4	・三原地区、多田地区で実施 【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円	B	・三原地区に加え多田地区でも実施。 ・情報共有の結果、実際の支援につながったケースもあり。 ・令和5年度は尾原地区でも実施を予定。
	R5	・三原地区、尾原地区で実施 【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円	B	・R5年度は左記2地区で住民主体の地域ケア会議が実施された。日々の活動を通して情報共有ができていたとの声あり。 ・次年度の開催頻度は地区での判断に委ね、行政は必要に応じて参加し、助言等の支援を行う方針。
	R6	・地区の役員会等に合わせて実施予定。 ・必要に応じて参加し、助言等の支援を行う予定 【予算】 55 千円 【決算】 0 千円	B	・R6年度は住民団体の主導で住民主体の地域ケア会議が実施された。日々の活動を通して情報共有ができていたとの声あり。 ・次年度の開催頻度は地区での判断に委ね、行政は必要に応じて参加し、助言等の支援を行う方針。
	R7	・住民主体の地域ケア会議はR6年度より役員会等に合わせた自主的に実施する形へ移行済み 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	D	・R6年度より役員会等に合わせて自主的に実施する形となっており、R7年度も実状に合わせて3地区で開催されている。住民の主体的な活動が確立・定着しているためR7年度をもって評価終了としたい。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
02	地域福祉の充実	P38～39	健康福祉課

施策の方針	公的サービスと地域での活動を組み合わせて、地域資源を有効活用でき、人が人を支える地域福祉を進めます。
施策の方向性	・介護保険・高齢者福祉の充実 ・障害者福祉の充実 ・要配慮者への支援の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
要介護認定率 【単年数値】（単位：％）	目標値	21.7	21.9	21.7	22.0	22.4
	実績値	20.9	19.9	20.2	21.0	21.5
	達成率	103%	110%	107%	105%	104%
相談支援事業の利用者数 【単年数値】（単位：人）	目標値	210	220	230	240	250
	実績値	222	251	271	231	224
	達成率	106%	114%	118%	96%	89%
生活困窮者自立支援事業の支援計画に基づく支援により終結となった件数 【単年度数値】（単位：件）	目標値	1	1	1	1	1
	実績値	0	0	0	0	0
	達成率	0%	0%	0%	0%	0%

評価	担当課評価
B	・要介護認定率について 認定率は目標値を達成できた。地域の自助・互助の仕組みと公的資源を効果的に活用しながら、地域住民が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう、生活支援体制の維持を図っていく。 ・相談支援事業について 相談支援事業の利用者数は、サービス利用やその他の支援につながった利用者がいたため、令和7年度は目標をやや下回った。前年度に引き続きサテライト出張相談等を実施しながら、相談しやすい体制づくりに努めている。今後も関係機関と連携を図りながら、障害者福祉の充実を図っていく。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・令和5年度に策定した「第9期川本町介護保険事業計画」「第7期川本町障害福祉計画」に基づき町民へのサービス維持のほか、関係機関や事業者と連携を密にして効率的な運営に努めること。 ・両計画の次期計画策定の過程で、これまでの事業の点検と課題に対する検討を行うこと。 ・高齢者向けの配食サービスについて、利用者・事業者双方の意見や、事業の継続性の観点を踏まえ検討すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	02	基本施策名	地域福祉の充実	施策の方向性	介護保険・高齢者福祉の充実	1/5
主な取り組み	年度	具体的取組内容		評価	評価の説明	
① 介護保険制度の運営	R3	・広域保険者および構成町との会議：年4回 ・町内介護福祉関係者との会議：年11回 【予算】 90,403 千円 【決算】 88,382 千円		B	・介護保険制度が適正に運営されるよう、日々関係者と密な連携を図りながら第8期介護保険事業計画に沿って事業を実施した。 ・広域保険者や構成町と協働しながら、今後も事業運営を続けていく。	
	R4	・広域保険者および構成町との会議：年4回 ・町内介護福祉関係者との会議：年12回 【予算】 96,650 千円 【決算】 92,169 千円		B	・介護保険制度が適正に運営されるよう、日々関係者と密な連携を図りながら第8期介護保険事業計画に沿って事業を実施した。 ・R5年度は第9期介護保険事業計画の策定年度となるため、関係機関とともに事業評価及び策定を行っていく。	
	R5	・広域保険者および構成町との会議：年4回 ・町内介護福祉関係者との会議：年12回 【予算】 94,615 千円 【決算】 92,270 千円		B	・R5年度は第9期介護保険事業計画の策定に際し、年度を通して関係機関とともに事業評価及び策定に取り組んだ。 ・広域保険者や構成町と協働しながら、今後も事業運営を続けていく。	
	R6	・広域保険者および構成町との会議：年5回 ・町内介護福祉関係者との会議：年12回 【予算】 109,924 千円 【決算】 96,606 千円		B	・介護保険制度が適正に運営されるよう日々、関係者と密な連携を図りながら第9期介護保険事業計画に沿って事業を実施した。 ・広域保険者や構成町と協働しながら、今後も事業運営を続けていく。	
	R7	・広域保険者および構成町との会議：年5回 ・町内介護福祉関係者との会議：年12回 【予算】 103,082 千円 【決算】 100,143 千円		B	・介護保険制度が適正に運営されるよう、関係者と密な連携を図りながら第9期介護保険事業計画に沿って事業を実施した。また、第10期介護保険事業計画にかかる方向性の検討を行った。 ・広域保険者や構成町と協働しながら、今後も事業運営を続けていく。	
② 介護サービス・介護予防サービスの提供	R3	・事業対象者および要支援または要介護の認定者に対し、介護(予防)サービスを提供する※下記予算決算は要介護認定者を除いたプラン料 ・サービス提供に係るアセスメントに際し、介護等の有資格者が関与する。 【予算】 3,780 千円 【決算】 3,371 千円		B	・本人の意思を尊重した上で本人の心身の状態に適したサービスが提供できるよう、適時関係者と連携を図り、いつでも住み慣れた地域で生活できるよう支援を行っている。	
	R4	・事業対象者および要支援または要介護の認定者に対し、介護(予防)サービスを提供する※下記予算決算は要介護認定者を除いたプラン料 ・サービス提供に係るアセスメントに際し、介護等の有資格者が関与する。 【予算】 3,560 千円 【決算】 3,215 千円		B	・住み慣れた地域で本人らしい生活が営めるよう、適時関係者と連携を図りながら支援を行っている。 ・今後も介護サービス・介護予防サービスの供給が維持できるよう、人材確保状況等を含めた運営体制に係る情報について、関係機関や広域保険者と適宜共有を行っている。	
	R5	・事業対象者および要支援または要介護の認定者に対し、介護(予防)サービスを提供する※下記予算決算は要介護認定者を除いたプラン料 ・サービス提供に係るアセスメントに際し、介護等の有資格者が関与する。 【予算】 3,561 千円 【決算】 3,392 千円		B	・住み慣れた地域で本人らしい生活が営めるよう、適時関係者と連携を図りながら支援を行っている。 ・今後も介護サービス・介護予防サービスの供給が維持できるよう、人材確保状況等を含めた運営体制に係る情報について、関係機関や広域保険者と適宜共有を行っている。	
	R6	・事業対象者および要支援または要介護の認定者に対し、介護(予防)サービスを提供する※下記予算決算は要介護認定者を除いたプラン料 ・サービス提供に係るアセスメントに際し、介護等の有資格者が関与する。 【予算】 989 千円 【決算】 821 千円		B	・法改正に伴い、令和6年4月から居宅介護支援事業所が介護予防支援を行う場合、保険者(邑智広域)からの指定を受けることで地域包括支援センターとの委託契約が不要となり、介護予防支援を直接実施できることとなった。そのため、同年6月分よりプラン策定の委託件数が減少し決算額は減額となった。 ・今後も介護サービス・介護予防サービスの供給が維持できるよう、人材確保状況等を含めた運営体制に係る情報について、関係機関や広域保険者と適宜共有を行っている。	
	R7	・事業対象者の認定を受けて訪問型サービスまたは通所型サービスを利用している者に対し、介護予防ケアマネジメント支援を提供する。 ・サービス提供に係るアセスメントに際し、介護等の有資格者が関与する。 【予算】 675 千円 【決算】 203 千円		B	・事業対象者の認定を受けて訪問型サービスまたは通所型サービスを利用している者に対し、町内の居宅介護支援事業所に委託し介護予防ケアマネジメント支援を提供した。 ・今後も介護サービス・介護予防サービスの供給が維持できるよう、人材確保状況等を含めた運営体制に係る情報について、関係機関や広域保険者と適宜共有を行っている。	
③ 高齢者の見守り体制の充実	R3	・緊急通報電話を貸与し、24時間365日の受報体制を整備(稼働数14) ・令和3年度の新規登録数：1件 【予算】 643 千円 【決算】 344 千円		B	・利用者より、月1回の定期交信と有事の際にいつでもSOS発信ができる安心感につながっているとの声あり。 ・必要な方にサービスが届くよう周知を続けていく。	
	R4	・緊急通報電話を貸与し、24時間365日の受報体制を整備(稼働数14) ・令和4年度の新規登録数：1件 【予算】 643 千円 【決算】 339 千円		B	・利用者より、月1回の定期交信と有事の際にいつでもSOS発信ができる安心感につながっているとの声あり。一方で、一般固定電話回線の契約がない人からの相談もあり、ニーズに応えられない事例も一部発生した。今後の見守り体制の充実に向けて検討を行っていく。	
	R5	・緊急通報電話を貸与し、24時間365日の受報体制を整備(稼働数14) ・R5年度の新規登録数：6件 【予算】 487 千円 【決算】 341 千円		B	・今年度より、電話装置に新たに相談ボタンが追加され、月1回の定期交信や有事の際にいつでも相談ができる体制へ拡充された。 ・支援の必要な方にサービスが届くよう、周知を引き続き行っていく。	
	R6	・緊急通報電話を貸与し、24時間365日の受報体制を整備(R7.3末現在稼働数：17台) ・R6年度の新規登録数：4件 【予算】 497 千円 【決算】 457 千円		B	・R5年度より従来の通報ボタンに加えて相談ボタンが利用可能となり、登録者のさらなる安心につながっている。 ・支援の必要な方にサービスが届くよう周知を引き続き行っていく。	
	R7	・緊急通報電話を貸与し、24時間365日の受報体制を整備(R8.3末現在稼働数：15台) ・R7年度の新規登録数：2件 【予算】 616 千円 【決算】 459 千円		B	・R7年度は3件の通報が救急搬送につながり、利用者家族から通報装置があっけなかったという声があった。 ・R7年度は民生児童委員を対象に事業説明を行い、支援の必要な方にサービスが届くよう周知を行った。 ・支援の必要な方にサービスが届くよう周知を引き続き行っていく。	

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	02	基本施策名	地域福祉の充実	施策の方向性	介護保険・高齢者福祉の充実	2/5
--------	----	-------	---------	--------	---------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 高齢者の日常生活支援	R3	・最大週3回まで、弁当を玄関先まで配達し安否を確認する ・実績：1527食、月平均利用者数：15人	B	・定期的な配食により、栄養状態の維持・改善につながっている。 ・見守りを兼ねている為、利用者の不調時等の早期発見や対応につながっている。 ・高齢者等が自宅で安心して生活が続けられるよう支援していく。
		【予算】 1,280 千円 【決算】 1,222 千円		
	R4	・最大週3回まで、弁当を玄関先まで配達し安否を確認する ・実績：1,612食、月平均利用者数：12人	B	・定期的な配食により、栄養状態の維持・改善につながっている。また、見守りを兼ねている為、利用者の不調時等の早期発見や対応につながっている。 ・R4年度は事業者より物価高騰の影響により料金値上げの相談があり、委託料を増額し個人負担金は据え置きとした。R5年度は提供体制の維持に向けて、情報共有や検討を行っていく。
		【予算】 1,700 千円 【決算】 1,546 千円		
	R5	・最大週3回まで、弁当を玄関先まで配達し安否を確認する(実績：1,043食、月平均利用者数：8人)	B	・見守りを兼ねた定期的な配食により、栄養状態の維持・改善と利用者の不調時等の早期発見や対応につながっている。 ・R5年度は事業者より物価高騰の影響により料金値上げの相談があったが、委託料は前年度と同額で実施した。次年度も提供体制の維持に向けて、情報共有や検討を引き続き行っていく。
		【予算】 1,530 千円 【決算】 1,001 千円		
	R6	・最大週3回まで、弁当を玄関先まで配達し安否を確認する(実績：746食、月平均利用者数：5人)	B	・今年度、事業者より物価高騰の影響により料金値上げの相談があったが、当該事業の委託料は前年度と同額で実施している。次年度も提供体制の維持に向けて、情報共有や検討を引き続き行っていく。 ・見守りを兼ねた定期的な配食により、栄養状態の維持改善だけでなく体調異変時等の早期発見・対応につながっている。
		【予算】 1,210 千円 【決算】 716 千円		
	R7	・最大週3回まで、弁当を玄関先まで配達し安否を確認する(実績：590食、月平均利用者数：5人)	A	・見守りを兼ねた定期的な配食により、栄養状態の維持改善だけでなく体調異変時等の早期発見・対応につながっている。 ・当事業サービス利用者の実人数は減少しているが、事業者が自費で実施している副食のみ提供の利用実人数は横ばいで推移していることを協議にて確認。実状にあわせて、次年度より副食のみの提供を新たに事業対象とすることとし、利用者と事業者双方の負担軽減を図っていく。
		【予算】 1,008 千円 【決算】 566 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	02	基本施策名	地域福祉の充実	施策の方向性	障がい者福祉の充実	3/5
主な取り組み		年度	具体的取組内容	評価	評価の説明	
① 障がい福祉サービスの充実	R3		・総合支援法に基づくサービスの提供（介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具） ・地域生活支援事業によるサービス提供（日中一時支援、移動支援他） 【予算】 166,278 千円 【決算】 164,425 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。	
	R4		・総合支援法に基づくサービスの提供（介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具） ・地域生活支援事業によるサービス提供（日中一時支援、移動支援他） 【予算】 166,368 千円 【決算】 164,963 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・令和5年度は障害福祉計画の最終年度となるため、サービスの充実に向けて、関係機関と協議を行うこととする。	
	R5		・総合支援法に基づくサービスの提供（介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具） ・地域生活支援事業によるサービス提供（日中一時支援、移動支援他） 【予算】 163,797 千円 【決算】 150,457 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・令和5年度に第7期川本町障がい福祉福祉計画・第3期川本町障がい児福祉計画を策定した。	
	R6		・総合支援法に基づくサービスの提供（介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具） ・地域生活支援事業によるサービス提供（日中一時支援、移動支援他） 【予算】 158,583 千円 【決算】 142,559 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・川本町自立支援協議会において、第7期川本町障がい福祉福祉計画・第3期川本町障がい児福祉計画についての進捗状況等の共有を行っている。	
	R7		・総合支援法に基づくサービスの提供（介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具） ・地域生活支援事業によるサービス提供（日中一時支援、移動支援他） 【予算】 142,620 千円 【決算】 137,366 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・令和8年度は障害福祉計画の最終年度となるため、サービスの充実に向けて、関係機関と協議を行うこととする。	
② 障がい者の就労支援	R3		・総合支援法に基づくサービスの提供（就労継続支援A型・B型） ・障がい者就労促進事業委託（下記金額は委託分のみ） 【予算】 2,293 千円 【決算】 2,173 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・障がい者就労支援事業所へ庁舎内のトイレ掃除や自治会配布文書の仕分け作業などの業務を委託し、障がい者の工賃向上による経済的自立や社会参加の促進を図っている。	
	R4		・総合支援法に基づくサービスの提供（就労継続支援A型・B型） ・障がい者就労促進事業委託（下記金額は委託分のみ） 【予算】 2,305 千円 【決算】 2,304 千円	B	・障がい者就労支援事業所へ庁舎内のトイレ掃除や自治会配布文書の仕分け作業などの業務を委託し、障がい者の工賃向上による経済的自立や社会参加の促進を図っている。 ・就労継続支援A型・B型のサービス利用者はやや増加傾向となっている。	
	R5		・総合支援法に基づくサービスの提供（就労継続支援A型・B型） ・障がい者就労促進事業委託（下記金額は委託分のみ） 【予算】 2,305 千円 【決算】 2,044 千円	B	・障がい者就労支援事業所へ庁舎内のトイレ掃除や自治会配布文書の仕分け作業などの業務を委託し、障がい者の工賃向上による経済的自立や社会参加の促進を図っている。 ・就労継続支援B型のサービス利用者はやや増加傾向となっている。	
	R6		・総合支援法に基づくサービスの提供（就労継続支援A型・B型） ・障がい者就労促進事業委託（下記金額は委託分のみ） 【予算】 2,477 千円 【決算】 1,944 千円	B	・障がい者就労支援事業所へ庁舎内のトイレ掃除や自治会配布文書の仕分け作業などの業務を委託し、障がい者の工賃向上による経済的自立や社会参加の促進を図っている。 ・令和6年度に邑智郡障がい者就労相談会を開催した。令和7年度も開催予定としている。	
	R7		・総合支援法に基づくサービスの提供（就労継続支援A型・B型） ・障がい者就労促進事業委託（下記金額は委託分のみ） 【予算】 2,478 千円 【決算】 2,438 千円	B	・障がい者就労支援事業所へ庁舎内のトイレ掃除や自治会配布文書の仕分け作業などの業務を委託し、障がい者の工賃向上による経済的自立や社会参加の促進を図っている。 ・令和6年度から邑智郡障がい者就労相談会を開催しており、令和7年度は、障がいのある方24名、郡内7事業所の参加があった。令和8年度も開催予定としている。	
③ 障がい者の地域移行支援	R3		・総合支援法に基づくサービスの提供（地域移行支援） 【予算】 15,872 千円 【決算】 15,212 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。	
	R4		・総合支援法に基づくサービスの提供（地域移行支援） 【予算】 13,592 千円 【決算】 12,437 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。 ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた啓発事業を実施できなかったため、令和5年度は実施を検討したい。	
	R5		・総合支援法に基づくサービスの提供（地域移行支援） 【予算】 17,486 千円 【決算】 14,737 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。	
	R6		・総合支援法に基づくサービスの提供（地域移行支援） 【予算】 18,852 千円 【決算】 12,020 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。	
	R7		・総合支援法に基づくサービスの提供（地域移行支援） 【予算】 17,790 千円 【決算】 17,790 千円	B	・町、相談支援事業所、サービス提供事業所が常に連携し、必要な方に必要なサービスの提供を行っている。	

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	02	基本施策名	地域福祉の充実	施策の方向性	障がい者福祉の充実	4 / 5
--------	----	-------	---------	--------	-----------	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 地域福祉の拠点整備	R3	・地域活動支援センター事業委託（ひまわり） ・障がい者相談支援事業委託（サポートセンターおおち）	A	・R3年度より相談支援事業のサテライト相談会を月に1回、三原まちづくりセンターで実施し、遠方を理由に出にくかった方が参加されたり、参加者が福祉就労につながるなど、日中活動のサポートや社会との交流促進が図られている。 ・地域活動支援センターひまわりの建物は経年劣化が進んでおり、今後、障がい児から障がい者までの一体的なサービス提供の展開を行っていくために、新たな障がい者の拠点整備が必要。
		【予算】 7,179 千円 【決算】 7,179 千円		
	R4	・地域活動支援センター事業委託（ひまわり） ・障がい者相談支援事業委託（サポートセンターおおち）	A	・R3年度より実施しているサテライト相談会を今年度も毎月1回、三原まちづくりセンターで実施した。三原まちづくりセンターの協力を得て、わかばカフェを開催したりまちセンマルシェで出店するなど、参加者の活躍機会の拡大や地域社会との交流促進が図られている。 ・地域活動支援センターひまわりの建物は経年劣化が進んでおり、今後、障がい児から障がい者までの一体的なサービス提供の展開を行っていくために、新たな障がい者の拠点整備が必要。
		【予算】 7,355 千円 【決算】 7,355 千円		
	R5	・地域活動支援センター事業委託（ひまわり） ・障がい者相談支援事業委託（サポートセンターおおち）	A	・R3年度より実施のサテライト相談会を今年度も毎月1回、三原まちづくりセンターで実施した。わかばカフェの開催やまちセンマルシェ出店の取り組みも定着してきており、参加者の活躍機会の拡大や地域社会との交流促進が図られている。 ・地域活動支援センターひまわりは建物の経年劣化が進んでいるため、新たな障がい者の拠点整備について関係機関と協議を行っていく。
		【予算】 8,404 千円 【決算】 8,404 千円		
	R6	・地域活動支援センター事業委託（ひまわり） ・障がい者相談支援事業委託（サポートセンターおおち）	A	・R3年度より実施のサテライト相談会を今年度も毎月1回、三原まちづくりセンターで実施した。わかばカフェの開催やまちセンマルシェ出店の取り組みも定着してきており、参加者の活躍機会の拡大や地域社会との交流促進が図られている。 ・地域活動支援センターひまわりは建物の経年劣化が進んでいるため、新たな障がい者の拠点整備について関係機関と協議を行っていく。
		【予算】 7,888 千円 【決算】 7,832 千円		
	R7	・地域活動支援センター事業委託（ひまわり） ・障がい者相談支援事業委託（サポートセンターおおち）	A	・R3年度より実施のサテライト相談会を今年度も毎月1回、三原まちづくりセンターで実施した。わかばカフェの開催やまちセンマルシェ出店の取り組みも定着してきており、参加者の活躍機会の拡大や地域社会との交流促進が図られている。 ・地域活動支援センターひまわりは建物の経年劣化が進んでいるため、新たな障がい者の拠点整備について関係機関と協議を行っていく。
		【予算】 7,833 千円 【決算】 7,833 千円		
⑤ 地域生活支援体制の充実	R3	・地域生活支援拠点整備	B	・地域生活支援拠点事業の中で、町、障がい者支援事業所、医療機関等が連携し、個別支援計画の作成を行い、緊急時に対応可能な体制の整備を進めている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・地域生活支援拠点整備	B	・地域生活支援拠点事業の中で、町、障がい者支援事業所、医療機関等が連携し、支援台帳の作成を行い、緊急時に対応可能な体制の整備を進めている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・地域生活支援拠点整備	B	・地域生活支援拠点事業の中で、町、障がい者支援事業所、医療機関等が連携し、支援台帳の作成を行い、緊急時に対応可能な体制の整備を進めている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・地域生活支援拠点整備	B	・地域生活支援拠点事業の中で、町、障がい者支援事業所、医療機関等が連携し、支援台帳の作成を行い、緊急時に対応可能な体制の整備を進めている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・地域生活支援拠点整備	B	・地域生活支援拠点事業の中で、町、障がい者支援事業所、医療機関等が連携し、支援台帳の作成を行い、緊急時に対応可能な体制の整備を進めている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	02	基本施策名	地域福祉の充実	施策の方向性	要配慮者への支援の充実	5/5
------------	----	-------	---------	--------	-------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 生活保護及び母子・父子自立支援	R3	・生活保護制度 ・児童扶養手当 ・母子家庭自立支援給付	B	・国の制度に基づき実施。 ・相談体制を確保し生活へのサポートを行っている。
		【予算】 88,557 千円 【決算】 87,644 千円		
	R4	・生活保護制度 ・児童扶養手当 ・母子家庭自立支援給付	B	・国の制度に基づき実施。 ・相談体制を確保し生活へのサポートを行っている。 ・必要に応じて、関係機関と連携しながら、支援を行っている。
		【予算】 70,522 千円 【決算】 67,843 千円		
	R5	・生活保護制度 ・児童扶養手当 ・母子家庭自立支援給付	B	・国の制度に基づき実施。 ・相談体制を確保し生活へのサポートを行っている。 ・必要に応じて、関係機関と連携しながら、支援を行っている。
		【予算】 89,540 千円 【決算】 89,540 千円		
	R6	・生活保護制度 ・児童扶養手当 ・母子家庭自立支援給付	B	・国の制度に基づき実施。 ・相談体制を確保し生活へのサポートを行っている。 ・必要に応じて、関係機関と連携しながら、支援を行っている。
		【予算】 89,268 千円 【決算】 77,565 千円		
	R7	・生活保護制度 ・児童扶養手当 ・母子家庭自立支援給付	B	・国の制度に基づき実施。 ・相談体制を確保し生活へのサポートを行っている。 ・必要に応じて、関係機関と連携しながら、支援を行っている。
		【予算】 87,080 千円 【決算】 63,860 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
03	健康づくりの推進	P40～41	健康福祉課

施策の方針	川本町に暮らす人がいつまでも元気でいられるように、幼少期から高齢期まで健康づくりを進めていきます。
施策の方向性	- 健康寿命を伸ばす健康づくりの推進 - 食育の推進 - 心の健康づくりの推進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
特定健診の受診率 【単年数値】（単位：％）	目標値	56.5％	58.5％	60.0％	60.0％	60.0％
	実績値	44.9%	51.5%	49.5%	50.9%	46.4%
	達成率	79.5%	88.0%	82.5%	84.8%	77.3%
平均自立期間 男性 【単年数値】（単位：歳）	目標値	78.5	78.9	79.3	79.7	80.0
	実績値	80.1	79.2	81.5	81.5%	81.9
	達成率	102%	100.4%	102.8%	102.3%	102.3%
平均自立期間 女性 【単年数値】（単位：歳）	目標値	85.2	85.4	85.6	85.8	86.0
	実績値	82.4	82.4	82.4	85.9	85.9
	達成率	96.7%	96.5%	96.3%	100.1%	99.8%

評価	担当課評価
B	- 特定健診の受診率について令和7年度は46.4%（令和8年5月法定報告速報値）と伸び悩んでいる。40代から60代前半の方の受診率が低い。未受診者の内、7割程度が継続未受診者で、その内8割程度がこれまで1度も受けたことがない状況。健診を受ける必要性について周知していく必要がある。また行動変容につながる勧奨通知を検討していく。 - 平均自立期間について、男女共延伸している。男性は目標達成し、女性についても令和6年度時点では目標達成している。継続して保健事業を実施していく。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	平均自立期間の延伸傾向は評価できる一方で、国保における1人あたりの医療費が県内ではなお高い水準にあるので、引き続き予防事業や健康診断の受診率向上と、きめ細やかな保健指導に努めること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策 番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
03	健康づくりの推進	P40～41	健康福祉課

施策の方針	川本町に暮らす人がいつまでも元気でいられるように、幼少期から高齢期まで健康づくりを進めていきます。
施策の 方向性	・健康寿命を伸ばす健康づくりの推進 ・食育の推進 ・心の健康づくりの推進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
学校給食における川本町産野菜の使用割合（重量ベース） 【単年数値】（単位：％）	目標値	30.0％	31.0％	32.0％	34.0％	35.0％
	実績値	22.6％	25.40％	20.09％	24.20％	17.5％
	達成率	75.3％	81.90％	62.78％	71.17％	50.00％
自死率 【単年数値】 （単位：人 ※人口10万対）	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	31.63	32.49	0	67.07
	達成率	100％	0％	0％	100％	0％
	目標値					
	実績値					
	達成率	％	％	％	％	％

評 価	担当課評価

評 価	一次評価（副町長、総務課長）

評 価	最終評価（町長、教育長）

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	03	基本施策名	健康づくりの推進	施策の方向性	健康寿命を伸ばす健康づくりの推進	1 / 4
主な取り組み			年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 各種検(健)診の受診率向上	R3	特定健診と胃がん検診・胸部CT検査を同日にセットで受診できることとした。また土日開催し受診率向上を図った。受診勧奨の個別送付回数を増やした。	A	・特定健診については受診率が減少した。集団検診の受診者数は大幅な減少はないため、個別で医療機関へ受診する個別検診受診者が減少したと考えられる。引き続き未受診者勧奨を積極的に行うとともに受診を促進するよう制度を拡充する。		
		【予算】 5,701 千円 【決算】 5,741 千円				
	R4	・特定健診を初受診になる方の特定健診費無料 ・特定健診へのセット検診実施（胃がん・胸部CT検査、各種オプション検査） ・土日検診の実施 ・子宮・乳がん検診の無料化（一部の対象年齢） ・個別の受診勧奨送付回数を増加	B	・特定健診受診率（R4：51.5%）はR3年度と比較し受診率は上昇した。集団検診の受診者数は減少したが個別検診や医療情報提供の勧奨を実施したことにより、受診者数及び特定健診受診率は向上した。引き続き未受診者勧奨を積極的に行うとともに受診を促進する取り組みを継続していく。 ・胃・肺がん検診の受診者数は増加、大腸・子宮頸・乳がん検診の受診者数は減少している。受診率をみると肺がん検診のみ上昇している。がん検診の未受診者対策をすめながら継続して取り組む必要がある。		
		【予算】 9,347 千円 【決算】 7,343 千円				
	R5	・特定健診初受診になる方の特定健診費無料 ・特定健診とのセット検診実施（胃がん・胸部CT検査、各種オプション検査） ・土日検診の実施 ・子宮・乳がん検診の無料化（一部の対象年齢） ・個別の受診勧奨送付回数を増加 ・健診受診者へまげなポイントの付与	B	令和5年度の特定健診受診率は49.5%（令和6年5月時点法定報告速報値より）で、昨年度より下がっている。集団健診の受診者を比較すると対前年度比2.9%の減だが、個別検診受診者、みなし健診件数は昨年度より増加している。 ・乳がん検診の受診者数は増加したが、胃・大腸・肺・子宮頸がん検診の受診者数は減少している。受診率は乳がん検診のみ上昇している。がん検診の未受診者対策をすめながら継続して取り組む必要がある。		
		【予算】 10,605 千円 【決算】 7,450 千円				
② 生活習慣病の予防対策	R3	生活習慣病予防としてストレッチ&ヨガ教室を、運動指導士を講師として夕方仕事終わりの時間帯に開催。	B	・令和6年度の特定健診受診率は50.9%（令和7年5月時点法定報告速報値より）で、昨年度の現在値と比較すると増加している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。65歳～74歳までの方では男女の受診率はほぼ同程度だが、64歳以下では、男性の受診率30.6%、女性42.9%と、男性の受診率が低い。 ・乳がん検診の受診者数は増加したが、胃・大腸・肺・子宮頸がん検診の受診者数は減少している。受診率は乳がん検診のみ上昇している。がん検診の未受診者対策をすめながら継続して取り組む必要がある。		
		【予算】 145 千円 【決算】 116 千円				
	R4	生活習慣病予防としてストレッチ&ヨガ教室を、運動指導士を講師として夕方仕事終わりの時間帯に開催（全15回）。	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。		
		【予算】 136 千円 【決算】 137 千円				
	R5	生活習慣病予防としてストレッチ&ヨガ教室を、運動指導士を講師として夕方仕事終わりの時間帯に開催（全12回）。	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。		
		【予算】 139 千円 【決算】 99 千円				
③ 介護予防・認知症予防	R3	・通所型ミニデイ（悠湯プラザ）：21自治会延べ840人参加 ・地区ミニデイ（集会所）：19自治会延べ803人参加 ・地区サロン：6地区で開催	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。		
		【予算】 11,058 千円 【決算】 10,123 千円				
	R4	・通所型ミニデイ（悠湯プラザ）：19自治会延べ606人参加 ・地区ミニデイ（集会所）：14自治会延べ621人参加 ・地区サロン：6地区で開催	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。		
		【予算】 6,680 千円 【決算】 6,200 千円				
	R5	・通所型ミニデイ（悠湯プラザ）：18自治会延べ600人参加 ・地区ミニデイ（集会所）：14自治会延べ650人参加 ・地区サロン：6地区で開催	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。		
		【予算】 6,501 千円 【決算】 6,164 千円				
R6	・通所型ミニデイ（悠湯プラザ）：16自治会延べ574人参加 ・地区ミニデイ（集会所）：14自治会延べ675人参加 ・地区サロン：6地区で開催	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。			
	【予算】 6,764 千円 【決算】 6,579 千円					
R7	・通所型ミニデイ（悠湯プラザ）：16自治会で各地区月1回程度実施しており、延べ519人参加 ・地区ミニデイ（集会所）：14自治会で各地区月1回程度実施しており、延べ670人参加 ・地区サロン：5地区で開催	B	・令和7年度の特定健診受診率は46.4%（令和8年5月時点法定報告速報値より）で昨年より大きく低下している。40代50代または60代前半の方の受診率が低い。男女比でみると、女性の受診率の方が高い状況。 ・子宮頸がん検診の受診率は向上したが、胃・大腸・肺・乳がん検診の受診率は低下している。がん検診の未受診者に対する受診勧奨や、早期のがん発見の必要性について、周知する必要がある。			
	【予算】 7,343 千円 【決算】 7,117 千円					

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	03	基本施策名	健康づくりの推進	施策の方向性	健康寿命を伸ばす健康づくりの推進	2/4
--------	----	-------	----------	--------	------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ たばこ・アルコール対策	R3	・禁煙治療費助成の実施。 【予算】 36 千円 【決算】 24 千円	B	・禁煙治療費助成事業申請者2名。継続して事業の周知を行っていく。
	R4	・禁煙治療費助成の実施。 【予算】 36 千円 【決算】 0 千円	A	・禁煙治療費助成事業申請者0名。事業を継続するとともに、助成の取り組みについて積極的な周知が必要である。
	R5	・禁煙治療費助成の実施。 ・禁煙週間にあわせ助成制度について広報を実施。 【予算】 36 千円 【決算】 12 千円	B	・禁煙治療費助成事業申請者1名。継続して事業の周知を行っていく。
	R6	・禁煙治療費助成の実施。 ・禁煙週間にあわせ助成制度について広報を実施。 【予算】 36 千円 【決算】 19 千円	B	・禁煙治療費助成事業申請者2名。継続して事業の周知を行っていく。
	R7	・禁煙治療費助成の実施。 ・禁煙週間にあわせ助成制度について広報を実施。 【予算】 36 千円 【決算】 0 千円	B	・禁煙治療費助成事業申請者0名。事業を継続するとともに、助成の取り組みについて積極的な周知が必要である。
⑤ 8020運動の推進	R3	40・50・60・70歳の節目年齢の方を対象に歯周病検診を無料で実施。 【予算】 85 千円 【決算】 82 千円	B	・受診率9.9%と低い状況。年に1回未受診者へ個別に受診勧奨ハガキを送付している。チラシやまげなねっとを利用し、歯科受診の重要性について周知する必要がある。
	R4	40・50・60・70歳の節目年齢の方を対象に歯周病検診を無料で実施。 【予算】 242 千円 【決算】 91 千円	B	・受診率14.4%と低い状況。年に1回未受診者へ個別に受診勧奨ハガキを送付している。広報や、まげなねっとを利用し、歯科検診、歯周病の早期発見・治療の重要性について周知する必要がある。
	R5	40・50・60・70歳の節目年齢の方を対象に歯周病検診を無料で実施。 【予算】 282 千円 【決算】 128 千円	B	受診率は14.3%で、年々減少傾向にある。年に1回未受診者へ個別に受診勧奨ハガキを送付している。引き続き広報や、まげなねっとを利用し、歯科検診、歯周病の早期発見・治療の重要性について周知していく。
	R6	20歳から70歳まで5歳きざみの該当者を対象に歯周病検診を無料で実施。 【予算】 472 千円 【決算】 308 千円	B	対象者を拡大したことで受診率が17.7%となり、前年度より増加したが、受診率が低い状況は変わっていない。引き続き、未受診者への受診勧奨や、歯周病の歯周病の早期発見・治療の重要性について周知していく。
	R7	20歳から70歳まで5歳きざみの該当者を対象に歯周病検診を無料で実施。 【予算】 505 千円 【決算】 200 千円	B	受診率は14.1%で、前年度より低下した。対象者を拡大したことにあわせ、未受診者への受診勧奨や歯周病の早期発見・治療の重要性について一層積極的な周知が必要である。
⑥ 健康意識づくりの推進	R3	加藤病院と連携して作成した健康に関するテーマ別の啓発画や、健康レシピの調理動画等をまげなねっとで放送する。 【予算】 24 千円 【決算】 18 千円	B	・視聴率が把握できないため、視聴している年齢層や人数、効果的な放送時間帯など不明で評価が難しい。今後、この事業についてアンケートを実施するなど、評価につながるような施策を検討する必要がある。
	R4	加藤病院と連携して作成した健康に関するテーマ別の啓発画や、健康レシピの調理動画等をまげなねっとで放送する。 【予算】 24 千円 【決算】 17 千円	B	・視聴率が把握できないため、視聴している年齢層や人数、効果的な放送時間帯などは不明で評価が難しい。普及啓発を目的として実施しているためR5に実施する健康づくりアンケート結果を参考に評価したいと考える。放送テーマについては現在課題とする内容に沿ったものに随時変更し継続して取り組む。
	R5	加藤病院と連携して作成した健康に関するテーマ別の啓発画や、健康レシピの調理動画等をまげなねっとで放送する。 【予算】 24 千円 【決算】 10 千円	B	・視聴率が把握できないため、視聴している年齢層や人数、効果的な放送時間帯などは不明で評価が難しい。健康課題である内容をテーマにとりあげながら、継続して取り組む。
	R6	加藤病院と連携して作成した健康に関するテーマ別の啓発画や、健康レシピの調理動画等をまげなねっとで放送する。 【予算】 24 千円 【決算】 20 千円	B	・視聴率が把握できないため、視聴している年齢層や人数、効果的な放送時間帯などは不明で評価が難しいが、視聴者からの感想やリクエストなどをいただくこともある。
	R7	加藤病院と連携して作成した健康に関するテーマ別の啓発画や、健康レシピの調理動画等をまげなねっとで放送する。 【予算】 24 千円 【決算】 21 千円	B	・視聴率が把握できないため、視聴している年齢層や人数、効果的な放送時間帯などは不明で評価が難しいが、視聴状況を確認したい。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	03	基本施策名	健康づくりの推進	施策の方向性	食育の推進	3/4
------------	----	-------	----------	--------	-------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 規則正しい食生活の啓発	R3	生活習慣病予防教室として小学4年生、中学3年生を対象に実施。養護教諭、栄養教諭、食生活改善推進協議員と共に実施。 【予算】 50 千円 【決算】 38 千円	B	・生活習慣病について学び、バランスの良い食事や生活態度について理解する。 ・調理実習を通して実践する力を身につけることができる。各調理台に指導者を配置し、包丁の持ち方、切り方等細やかな指導を行いながら、楽しみながら実施することができている。
	R4	生活習慣病予防教室として小学4年生、中学3年生を対象に実施。「和食」「えごまわやさしい」をテーマにしたバランスの良い食事について学ぶ。 【予算】 50 千円 【決算】 30 千円	B	・栄養教諭による事前授業の中で、バランスの良い食事や生活態度についての知識を身につける。 ・調理実習では、外部講師の食生活改善推進員により、包丁の持ち方や切り方などの調理技術を実際に体験しながら学ぶ。
	R5	早期から生活習慣病予防について知識を深めることを目的とし、小学4年生、中学3年生を対象に実施。「和食」「えごまわやさしい」をテーマにしたバランスの良い食事についての事前授業と調理実習を実施。 【予算】 50 千円 【決算】 37 千円	B	栄養教諭が事前授業を行い、バランスの良い食事や生活態度についての知識を身につける。調理実習では食生活改善推進員を講師として迎え、包丁の持ち方や切り方などの技術を学ぶ。実際に自分たちで作って食べる体験による学びは児童の意欲を高める。
	R6	早期から生活習慣病予防について知識を深めることを目的とし、小学4年生、中学3年生を対象に実施。「和食」「えごまわやさしい」をテーマにしたバランスの良い食事についての事前授業と、食生活改善推進員を講師に迎えた調理実習を実施。 【予算】 50 千円 【決算】 40 千円	B	栄養教諭が事前授業を行い、バランスの良い食事や健康的な生活習慣を身につけるための学習を行う。調理実習では食生活改善推進員を講師として迎え、包丁の持ち方や切り方などの技術を学ぶ。調理実習を行い、作って食べる体験による学びは児童の意欲を高める。
	R7	早期から生活習慣病予防について知識を深めることを目的とし、中学3年生を対象に実施。「和食」「えごまわやさしい」をテーマにしたバランスの良い食事についての事前授業と、食生活改善推進員を講師に迎えた調理実習を実施。 【予算】 50 千円 【決算】 21 千円	B	栄養教諭が事前授業を行い、バランスの良い食事や健康的な生活習慣を身につけるための学習を行う。調理実習では食生活改善推進員を講師として迎え、包丁の持ち方や切り方などの技術を学ぶ。調理実習を行い、作って食べる体験による学びは児童の意欲を高める。令和7年度から学校のカリキュラムの変更により、対象が小学校4年生から6年生に変更になったことで、小学4年生時に当授業を受けた児童が卒業するまで、小学校での事業は休止。中学校3年生のみに実施。
	R3	・学校給食で使用するエゴマ油の購入費に係る費用を町が負担。 ・また、地産地消の推進及び児童生徒への食育の充実を図るため、地元産の農産物、農産加工品の購入に要する費用を補助。 【予算】 766 千円 【決算】 712 千円	A	・エゴマ油については、ほぼ毎月提供しているが献立等の関係により提供できない月もある。 ・また、地元産の農産物及び農産加工品補助については、令和3年度は2学期以降の白米に要する費用を補助し、学校給食における町内産白米利用率100%。 ・今後も対象品目を増やして地産地消の推進を行っていく必要がある。
	R4	地産地消の推進児童生徒への食育の充実を図るため、地元産の農産物、農産加工品の購入に要する費用の補助。令和4年度はコロナの臨時金が入り、それを充当したため、予算に対して決算額が少ない。 【予算】 1,000 千円 【決算】 175 千円	A	令和3年度の事業に加え、令和4年度は学校給食における農産加工品(エゴマ油、エゴマ葉パウダー、えごまかまぼこ等)を補助。
② 地元産品の活用	R5	令和4年度から継続して学校給食での町内産農作物及び農産加工物の活用を継続し、地産地消の推進及び安全性の向上並びに児童・生徒への食育の充実を促進。 【予算】 2,322 千円 【決算】 1,846 千円	A	令和5年度は令和4年度の事業から変更なし。これからも継続して実施していく。
	R6	学校給食での町内産農作物及び農産加工物の活用を継続し、地産地消の推進及び安全性の向上並びに児童・生徒への食育の充実を促進。 【予算】 44,345 千円 【決算】 44,157 千円	B	農産加工品(えごま)を毎月提供。学校給食における白米は100%町内産を使用。その他の農作物等についても町内産を活用したいと考えているが、農家の高齢化等により給食センターへ納入可能な農家が減少しており、今後検討が必要。
	R7	学校給食での町内産農作物及び農産加工物の活用を継続し、地産地消の推進及び安全性の向上並びに児童・生徒への食育の充実を促進。 【予算】 14,957 千円 【決算】 13,156 千円	B	学校給食における白米は100%町内産を使用。その他の農作物等についても可能な範囲で町内産を活用している。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	03	基本施策名	健康づくりの推進	施策の方向性	心の健康づくりの推進	4 / 4
------------	----	-------	----------	--------	------------	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 啓発活動の推進	R3	性教育を川本中学校生徒に実施。7月に2・3年生。3月に1年生。 【予算】 73 千円 【決算】 21 千円	B	性に関する不安や悩みは解消できましたか」の質問に「とても思う・少し思う」と回答した割合。目標85%に対して実績79.4%。「自分のことが好きになりましたか」の質問に「そう思う・少しそう思う」と回答した割合。目標85%に対して実績76.5%。引き続き継続する。
	R4	性教育を川本中学校生徒に実施。7月に2・3年生、2月に1年生を対象に行った。 【予算】 73 千円 【決算】 21 千円	B	「性に関する不安や悩みは解消できましたか」の質問に「とても思う・少し思う」と回答した割合が、目標85%に対して実績96.7%、「自分のことが好きになりましたか」の質問に「そう思う・少しそう思う」と回答した割合が目標85%に対して実績90.3%であった。引き続き事業は継続していきたい。
	R5	性教育を川本中学校生徒に実施。11月に3年生、2月に1年生を対象に行った。 【予算】 73 千円 【決算】 21 千円	B	「性に関する不安や悩みは解消できましたか」の質問に「とても思う・少し思う」と回答した割合が、目標85%に対して実績100%。「自分のことが好きになりましたか」の質問に「そう思う・少しそう思う」と回答した割合が目標85%に対して実績89.5%であった。引き続き事業は継続していきたい。
	R6	命を大切さを知るための性教育講演会を12月に川本中学校生徒(3年生)、1月に島根中央高校生徒(3年生)を対象に実施した。 【予算】 43 千円 【決算】 43 千円	C	「性に関する不安や悩みは解消できましたか」の質問に「とても思う・少し思う」と回答した割合が、目標85%に対して実績93.3%、「自分のことが好きになりましたか」の質問に「そう思う・少しそう思う」と回答した割合が目標85%に対して実績86.7%であった。川本町自死対策推進計画の改訂に伴い、R7年度より事業の見直しを実施することとしている。
	R7	命を大切さを知るための性教育講演会を12月に川本中学校生徒(3年生)を対象に実施。また、教職員向けに臨床心理士による研修会を11、12月に実施。 【予算】 62 千円 【決算】 45 千円	B	「悩みがある時に大人に相談できそうですか？」の質問に「そう思う・少しそう思う」と回答した割合が、目標90%に対して実績88.9%であった。教職員向けの研修会には小中学校から延べ29名の参加があり、子どもとの関わり方やケアの仕方に関して学べたという声が多数であった。
② 自死予防対策	R3	自死予防啓発のチラシを全戸配布。また、まげなねっとで周知を行う。 【予算】 23 千円 【決算】 14 千円	B	自死率0%。引き続き啓発を行う。
	R4	自死予防啓発のチラシを全戸配布。また、まげなねっとで周知を行う。 【予算】 21 千円 【決算】 10 千円	A	R4年度は自死死亡率が31.63と上昇した。様々な媒体を通しより積極的に啓発を行う必要がある。
	R5	・自死予防啓発のチラシを全戸配布。また、まげなねっとで周知を行う。 ・一般町民向けのゲートキーパー研修を実施。 【予算】 21 千円 【決算】 1 千円	B	R5年度は自死死亡率が32.6となった。様々な媒体を通しより積極的に啓発を行う必要がある。
	R6	・自死予防啓発のチラシを全戸配布。また、まげなねっとで周知を行う。 ・一般町民向けのゲートキーパー研修を実施。 【予算】 21 千円 【決算】 11 千円	B	R6年度の自死死亡率は0であった。引き続き様々な媒体を活用し積極的に啓発を行っていく。
	R7	・自死予防啓発のチラシを全戸配布。また、まげなねっとで周知を行う。 ・一般町民向けのゲートキーパー研修を実施。 【予算】 18 千円 【決算】 15 千円	B	R7年の自死死亡率は67.07であった(地域における自殺の基礎資料より)。様々な媒体を通しより積極的に啓発を行う必要がある。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
04	地域医療の充実	P42～43	健康福祉課

施策の方針	生活する上で欠かすことの出来ないものとして医療体制の維持を図るとともに、現在の体制を有効に活用し、不足している部分を補うための施策を進めていきます。
施策の方向性	・医療体制の確保 ・医療・保健・介護の連携強化

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町内医療機関の診療科目数 【単年数値】（単位：科目）	目標値	14	14	14	14	15
	実績値	14	14	14	14	14
	達成率	100%	100%	100%	100%	93%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評価	担当課評価
B	・安定的な医療提供体制維持のため、医療機関との連携を継続し必要な支援を講ずる。 ・KPI目標値に向け医療機関と連携し取り組んできたが、効果的な施策等が実施できなかったため達成に至らなかった。 ・中間見直しにおける目標値は、現状維持の14。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・令和8年5月の新病院スタート後の円滑な運営に向けて、医療機関と更なる連携を図っていくこと。 ・1人あたりの医療費が高い水準にある1つの要因として考えられる糖尿病対策の強化に向けて、関係者と十分に対話を行ったうえで体制を検討すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・新たにスタートした地域医療拠点と積極的に連携し、より充実したサービスの提供に努めること。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み評価シート

基本施策番号	04	基本施策名	地域医療の充実	施策の方向性	医療体制の確保	1/3
--------	----	-------	---------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 医療従事者の育成・確保	R3	町独自の事業は行うことが出来なかった。	A	・教育課と連携し、先行団体を参考にして、町としての取り組みを進めていく必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	町独自の事業は行うことが出来なかった。	A	・保健師が島根中央高校に向向き、生徒を対象に、保健師の魅力テーマに仕事内容等について講義を行った。 ・令和5年度3町共同で医療従事者確保をテーマにシンポジウム開催を予定しており、今後具体的に検討を進める。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	町独自の事業は行うことが出来なかった。	A	・保健師が川本中学校に向向き、生徒を対象に、保健師の仕事テーマにガイダンスを行った。 ・令和5年度3町共同でのシンポジウム開催は見送りとなったが、今後町独自で具体的に検討を進める。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	石見高等看護学院の地域枠推薦者学生への面接実施	A	・令和6年7月に石見高等看護学院地域枠推薦者在学生1名との面接を実施。面接は仁寿会理事長、町長、健康福祉課長が対応し、学業を通しての学びや将来についての考えを確認した。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・中学生を対象としたジョブカフェ（主催：かわもと暮らし）における町内福祉現場（川本福祉会）のPR ・高校への島根大学医学部への地域枠推薦型選抜の周知 ・高校生を対象とした町企業ガイダンスへ医療、福祉事業所の参画（R8.2予定・産振所管）	A	・中高生が医療福祉分野への関心を持つ機会となるため、引き続き事業所の参加を呼びかける。 ・医療機関等と連携した、医療福祉従事者確保事業の検討を進める。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 町内医療体制の確保	R3	地域医療補助金として130,000千円補助	B	・地域医療補助金をほぼ医師確保事業の費用として活用され、診療科目の維持、医師確保に繋がっている。このことにより、町内の医療提供体制を維持出来ている。
		【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円		
	R4	地域医療補助金として130,000千円補助	B	地域医療補助金をほぼ医師確保事業の費用として活用され、診療科目の維持、医師確保に繋がっている。このことにより、町内の医療提供体制を維持出来ている。令和4年度は、物価高騰等の影響を受けた不採算地区医療機関への支援として額を拡充している。
		【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円		
	R5	地域医療補助金として168,000千円補助	B	地域医療補助金をほぼ医師確保事業の費用として活用され、診療科目の維持、医師確保に繋がっている。このことにより、町内の医療提供体制を維持出来ている。令和5年度は、オンライン診療等環境整備のためアウトパシムを構築し地域福祉の充実を図るため額を拡充している。
		【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円		
	R6	地域医療補助金として168,000千円補助	A	・新病院建設に向けて資材高等に伴う負担軽減策を次年度に検討する。 ・地域医療補助金をほぼ医師確保事業の費用として活用され、診療科目の維持、医師確保に繋がっている。このことにより、町内の医療提供体制を維持出来ている。
		【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円		
	R7	地域医療推進補助金の交付 ふるさと融資に伴う保証料補助事業の制定	B	・補助金を活用し、医師確保に取り組みされており、医療サービス提供を維持されているが、施設移転に伴う病床数の減少により次年度補助金額は減少。 ・借入に伴い発生する保証料補助及び利子負担をR8から実施。
		【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円		
③ 周辺の医療機関との連携	R3	公立邑智病院へ負担金支出	C	・公立邑智病院へ建設改良費（3,465千円）を含む負担金を支出しており、公立邑智病院にて建設にかかる準備を進めておられる。 ・近隣の病院との連携推進については、取り組みが不足しており、今後進めていく必要がある。
		【予算】 45,017 千円 【決算】 45,017 千円		
	R4	公立邑智病院へ負担金支出	B	・公立邑智病院にて建設にかかる準備を進めておられるが、4年度内に事業が完了しなかったため、来年度も継続。 ・近隣の病院との連携推進については、邑智郡3町の医療部局との定期的な会を開催している。
		【予算】 45,204 千円 【決算】 45,204 千円		
	R5	公立邑智病院へ負担金支出	B	・公立邑智病院にて建設にかかる準備を進めておられるが、5年度内に事業が完了しなかったため、来年度も継続。 ・近隣の病院との連携推進については、邑智郡3町の医療部局との定期的な会を開催している。
		【予算】 182,705 千円 【決算】 138,265 千円		
	R6	公立邑智病院へ負担金支出	B	・R6秋に新本館棟が竣工し一部機能が移転した。引き続き隣接する棟の改修工事が進められており、来年度も継続する。
		【予算】 104,223 千円 【決算】 73,626 千円		
	R7	公立邑智病院への負担金	B	・R7.12に本館棟の建替え工事が完了し、グランドオープンとなった。次年度は医療体制充実に向けた機器整備を行う予定。
		【予算】 69,620 千円 【決算】 69,620 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み評価シート

基本施策 番 号	04	基本施策名	地域医療の充実	施策の方向性	医療体制の確保
-------------	----	-------	---------	--------	---------

2/3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 救急医療体制の確保	R3	邑智郡医師会に対し在宅当番医制運営費の支払い	B	邑智郡3町で負担し、土日の休日診療体制を維持している。(71日_205人)
		【予算】 3,099 千円 【決算】 3,099 千円		
	R4	邑智郡医師会に対し在宅当番医制運営費の支払い	B	邑智郡3町で負担し、土日の休日診療体制を維持している。(71日_283人)
		【予算】 3,099 千円 【決算】 3,099 千円		
	R5	邑智郡医師会に対し在宅当番医制運営費の支払い	B	邑智郡3町で負担し、土日の休日診療体制を維持している。(72日_311人)
		【予算】 3,099 千円 【決算】 3,099 千円		
	R6	邑智郡医師会に対し在宅当番医制運営費の支払い	B	邑智郡3町で負担し、土日の休日診療体制を維持している。(72日_326人)
		【予算】 3,099 千円 【決算】 3,099 千円		
	R7	邑智郡医師会に対する在宅当番医制運営費（委託料）の支払い	B	邑智郡3町で負担し、土日の休日診療体制を維持している。(72日_269人)
		【予算】 3,099 千円 【決算】 3,099 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み評価シート

基本施策 番号	04	基本施策名	地域医療の充実	施策の方向性	医療・保健・介護の連携強化	3/3
------------	----	-------	---------	--------	---------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 医療・保健・介護連携	R3	・医療保健連携会議：1回 【予算】 15 千円 【決算】 15 千円	B	・年1回、町内の医療関係者と管内保健所が一堂に会 する会議を設けている。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のた めリモートで開催し討議を行った。町における課題を 圏域内で共有し、効果的な連携のあり方について協議 を行っていく。
	R4	・医療保健連携会議：1回 【予算】 15 千円 【決算】 11 千円	B	・年1回、町内の医療関係者と管内保健所が一堂に会 する会議を設けている。 ・感染症の拡大防止のためリモートで開催し討議を 行った。今年度は重症化対策について町の取り組みと 病院での取り組み状況について情報交換を行った。今 後も町における課題を圏域内で共有し、効果的な連携 のあり方について協議を行っていく。
	R5	・医療保健連携会議：1回 【予算】 15 千円 【決算】 15 千円	B	・年1回、町内の医療関係者と管内保健所が一堂に会 する会議を設けている（リモート併用で実施）。 ・今年度は歯科保健対策、禁煙対策について協議し、 町の取り組みと病院での取り組み状況について情報交 換を行った。今後も町における課題を圏域内で共有 し、効果的な連携のあり方について協議を行ってい く。
	R6	・医療保健連携会議：1回 【予算】 15 千円 【決算】 15 千円	B	・年1回、町内の医療関係者と管内保健所が一堂に会 する会議を設けている。 ・今年度は重症化対策として肥満リスクのある方につ いての個別フォローについての事業を説明し、ご助言 いただいた。町の取り組みと病院での取り組み状況に ついて情報交換を行い、今後も町における課題を圏域 内で共有し、効果的な連携のあり方について協議を 行っていく。
	R7	医療保健連携会議 【予算】 16 千円 【決算】 16 千円	A	・年1回、町内の医療関係者と管内保健所が一堂に会 する会議を設けている。 ・糖尿病対策の強化として、医療機関、保健所、町と で糖尿病対策に係る連絡会議の開催を提案した。令和8 年度から開催予定。 ・町の取り組みと病院での取り組み状況について情報 交換を行い、今後も町における課題を圏域内で共有 し、効果的な連携のあり方について協議を行ってい く。
	R3	・地域ケア会議：11回 ・地域ケア推進会議：1回 【予算】 72 千円 【決算】 50 千円	B	・毎月1回、町内の医療・保健・介護担当者が集い、 住み慣れた地域で生活していけるような支援体制につ いて協議を行っている。また、年1回、町内の関係法 人の代表者に参集いただき町全体の課題について討議 を行っている。
	R4	・地域ケア会議：12回 ・地域ケア推進会議：1回 【予算】 59 千円 【決算】 54 千円	B	・毎月1回、町内の医療・保健・介護担当者が集い、 住み慣れた地域で生活していけるような支援体制につ いて協議を行っている。また、年1回、町内の関係法 人の代表者に参集いただき町全体の課題について討議 を行っている。
② 地域包括ケアシステムの構築	R5	・地域ケア会議：12回 ・地域ケア推進会議：1回 【予算】 60 千円 【決算】 54 千円	B	・毎月1回、町内の医療・保健・介護担当者が集い、 住み慣れた地域で生活していけるような支援体制につ いて協議を行っている。また、年1回、町内の関係法 人の代表者に参集いただき町全体の課題について討議 を行っている。 ・さらなる資質向上のため、次年度より地域ケア会議 の参加職種を増やして実施していく。
	R6	・地域ケア会議：12回 ・地域ケア推進会議：1回 【予算】 99 千円 【決算】 90 千円	B	・月1回、町内の医療・保健・介護担当者が参加し協議 を行った。R6より参加職種を増やし、支援体制の更な る強化に向け検討を行った。 ・引き続き関係機関との連携を密にし、支援体制の強 化を図る。
	R7	・地域ケア会議：12回 ・地域ケア推進会議：1回 【予算】 99 千円 【決算】 90 千円	B	・月1回、町内の医療・保健・介護担当者が参加し協議 を行った。また、年1回、関係機関の代表者、中間支 援組織に参集いただき町全体の課題について協議を 行った。 ・引き続き関係機関との連携を密にし、支援体制の強 化を図る。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
05	公共交通の充実	P44～45	まちづくり推進課

施策の方針	地域間交通や町内交通の充実を図ることで、自家用者での移動ができない人でも、行きたいところに行けるように、町内外を円滑に移動できる交通環境を整えます。
施策の方向性	・地域間交通の維持・確保 ・町内移動手段の維持・充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
隣接する市町との地域間乗合バス路線数 【単年数値】（単位：路線）	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	3	3	3	3	3
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%
広域都市部との地域間乗合バス路線数 【単年数値】（単位：路線）	目標値	1	1	1	1	1
	実績値	1	1	1	1	1
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%
町内移動の新たなシステムの導入数 【累計値】（単位：件）	目標値	0	0	2	2	2
	実績値	0	0	0	0	0
	達成率	0%	0%	0%	0%	0%

評価	担当課評価
B	・地域公共交通計画で定めた目標達成に向け、計画記載の各種取り組みを進めていく。 ・地域公共交通計画に基づき、令和7年度に矢谷線デマンド乗合タクシー事業の実証運行を実施した。引き続き、令和8年度には三原線デマンド乗合タクシー拡充実証事業を実施し、令和9年度以降の本格運行に向けた協議・検討を行う。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・三江線沿線地域公共交通計画のR8からの更新の目途が立ったことは、交通事業者との対話・連携の成果。引き続き町民の利便性確保のため、便数の確保に努めること。 ・他自治体の事例を参考に、各地域の実情をふまえてデマンド交通等の対策を検討すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・令和6年度に策定した立地適正化計画の考え方「コンパクト・プラス・ネットワーク」に基づき、実情を踏まえながら最適な地域公共交通体系を具現化すること。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	05	基本施策名	公共交通の充実	施策の方向性	地域間交通の維持・確保	1/3
------------	----	-------	---------	--------	-------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 路線バスの維持・確保	R3	・県や関係市町と協調し路線バスの維持を目的とした補助を実施した。 【予算】 15,514 千円 【決算】 14,929 千円	B	・近隣自治体と連携し地域間を結ぶ路線バスの維持を目的とした補助金を交付（おおなんバス：6,089千円、石見交通、大和観光：8,840千円）。 ・生活交通実態調査を実施。 ・令和4年度には調査結果をふまえ公共交通計画を策定し利便性等の向上を目指す。
	R4	・県や関係市町と協調し路線バスの維持を目的とした補助を実施した。 ・町の交通マスタープランとなる地域公共交通計画を策定した。 【予算】 15,329 千円 【決算】 13,756 千円	B	・近隣自治体と連携し地域間を結ぶ路線バスの維持を目的とした補助金を交付（おおなんバス：5,993千円、石見交通：5,153千円、大和観光：2,610千円）。 ・令和5年度には持続可能な公共交通体系の実現を目指し公共交通計画の取り組みを進める。
	R5	・県や関係市町と協調し路線バスの維持を目的とした補助を実施した。 【予算】 15,660 千円 【決算】 15,003 千円	B	・近隣自治体と連携し地域間を結ぶ路線バスの維持を目的とした補助金を交付（おおなんバス：5,411千円、石見交通：7,132千円、大和観光：2,460千円）。 ・公共交通計画に基づき、持続可能な交通体系の実現に向けて取り組む。
	R6	・県や関係市町と協調し路線バスの維持を目的とした補助を実施 【予算】 14,899 千円 【決算】 15,956 千円	B	・近隣自治体と連携し地域間を結ぶ路線バスの維持を目的とした補助金を交付（おおなんバス：4,998千円、石見交通：7,928千円、大和観光：3,030千円）。 ・R6年度に各運行事業者から減便の意向が示され、一部減便となったが、近隣市町との協議の末、島根中央高校生の通学便は維持できた。 ・公共交通計画に基づき、持続可能な交通体系の実現に向けて取り組む。
	R7	・県や関係市町と協調し路線バスの維持を目的とした補助を実施 【予算】 21,087 千円 【決算】 20,667 千円	B	・近隣自治体と連携し地域間を結ぶ路線バスの維持を目的とした補助金を交付（おおなんバス：4,991千円、石見交通：10,445千円、大和観光：5,231千円）。 ・加藤病院の移転に伴うダイヤ変更に併せて、石見交通江津川本線について、日曜・祝日における利用者の少ない便の減便について申し出があった。中央高校生の部活動利用に必要な便については、交渉の結果、運行を維持することができた。 ・公共交通計画に基づき、持続可能な交通体系の実現に向けて取り組む。
② 利便性の向上に向けた協議の継続	R3	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での意見交換、答申を実施。 【予算】 200 千円 【決算】 200 千円	B	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での広域的な検討、取組の実施（負担金：200千円） ※R3実施：網形成計画の改定及び改定に係る住民意識調査の実施協力
	R4	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での意見交換、答申を実施。 【予算】 200 千円 【決算】 200 千円	B	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での広域的な検討、取組の実施（負担金：200千円）
	R5	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での意見交換、答申を実施。 【予算】 200 千円 【決算】 200 千円	B	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での広域的な検討、取組の実施（負担金：200千円） ・令和6年度には近隣自治体と連携し、三江線沿線地域公共交通計画を策定し利便性等の向上を目指す。
	R6	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での協議 ・第2期三江線沿線地域公共交通計画策定 【予算】 1,800 千円 【決算】 200 千円	B	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での広域的な検討、取組の実施（負担金：200千円） ・令和7年度には近隣自治体と連携し、三江線沿線地域公共交通計画を策定し利便性等の向上を目指す。
	R7	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での意見交換、答申を実施。 【予算】 325 千円 【決算】 200 千円	B	・三江線沿線地域公共交通活性化協議会での広域的な検討、取組の実施（負担金：200千円） ・令和8年度には近隣自治体と連携し、三江線沿線地域公共交通計画を策定し利便性等の向上を目指す。 ・三江線代替交通石見交通江津川本線が、利便増進実施計画が国の要件に当てはまらず策定できなかった。今後は県と沿線市町で費用負担して路線を維持していく。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	05	基本施策名	公共交通の充実	施策の方向性	町内移動手段の維持・充実
------------	----	-------	---------	--------	--------------

2/3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 公共交通の運行の見直し	R3	・生活交通実態調査の実施 【予算】 3,850 千円 【決算】 3,850 千円	B	・令和3年度に行った実態調査結果をふまえ、令和4年度に地域公共交通計画を策定予定。 ・策定した計画に基づき、利便性が高く、効率性の高い移動手段の再構築を目指す。
	R4	・地域公共交通計画（法定計画）を策定 ※策定主体：川本町地域公共交通協議会 【予算】 1,646 千円 【決算】 1,646 千円	B	・地域公共交通計画を策定。 ・令和5年度には持続可能な公共交通体系の実現を目指し公共交通計画の取り組みを進める。
	R5	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和7年度の加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、検討を行った。
	R6	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 ・町内公共交通の再編に向けた協議・検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和8年度の加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、検討を行った。 ・公共交通を利用される方の特性、ニーズに適した運行形態を検討するため、スクールバス矢谷線を朝夕の時間帯に限り運行し、日中は随時予約に応じてエリア内を運行するデマンド乗合タクシー実証事業を令和7年度に実施することで決定。
	R7	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 ・町内公共交通の再編に向けたデマンド乗合タクシーの実証運行を実施 【予算】 1,500 千円 【決算】 1,469 千円	B	・令和8年度の加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、協議・検討を行った。その結果を踏まえ、令和8年5月2日から運行を開始予定。 ・公共交通を利用される方の特性、ニーズに適した運行形態を検討するため、スクールバス矢谷線を朝夕の時間帯に限り運行し、日中は予約に応じてエリア内を運行するデマンド乗合タクシー実証事業を令和7年度に実施した。（1,469千円）
② 町内の公共交通の維持・確保	R3	・デマンドタクシーの運行 【予算】 4,816 千円 【決算】 4,816 千円	B	・自家用車や免許を保有していない方等の町内の公共交通手段としてデマンドタクシーの運行を実施。利用効果等を見極めながら継続して町内交通の維持に取り組む。
	R4	・デマンドタクシーの運行 【予算】 4,816 千円 【決算】 4,816 千円	B	・自家用車や免許を保有していない方等の町内の公共交通手段としてデマンドタクシーの運行を実施。利用効果等を見極めながら継続して町内交通の維持に取り組む。
	R5	・デマンドタクシーの運行 【予算】 4,816 千円 【決算】 4,816 千円	B	・自家用車や免許を保有していない方等の町内の公共交通手段としてデマンドタクシーの運行を実施。利用効果等を見極めながら継続して町内交通の維持に取り組む。
	R6	・デマンドタクシーの運行 【予算】 4,914 千円 【決算】 4,914 千円	B	・自家用車や免許を保有していない方等の町内の公共交通手段としてデマンドタクシーの運行を実施。利用効果等を見極めながら継続して町内交通の維持に取り組む。
	R7	・デマンドタクシーの運行 【予算】 4,938 千円 【決算】 4,889 千円	B	・自家用車や免許を保有していない方等の町内の公共交通手段としてデマンドタクシーの運行を実施。利用効果等を見極めながら継続して町内交通の維持に取り組む。
③ 地域内の移動手段の確保	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度策定予定の地域公共交通計画の内容を踏まえ、将来にわたり持続可能な交通のあり方と併せ検討を進める。
	R4	・地域公共交通計画（法定計画）を策定 ※策定主体：川本町地域公共交通協議会 【予算】 1,646 千円 【決算】 1,646 千円	B	・令和4年度に地域公共交通計画を策定。 ・具体的取組について令和5年度から関係各所と調整を図る。
	R5	・交通事業運営業者との意見交換 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・自治会や地域運営組織等と連携、協議を行い、たすけあい交通等持続可能な交通体系の実現に向け取り組みを行う必要がある。
	R6	・関係課、地域運営組織等と情報交換 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・地域内での運行を担う体制、人材が確保できておらず、今後のあり方について検討する。
	R7	・関係課、地域運営組織等と情報交換 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・地域内での運行を担う体制、人材が確保できておらず、今後のあり方について検討する。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	05	基本施策名	公共交通の充実	施策の方向性	町内移動手段の維持・充実
------------	----	-------	---------	--------	--------------

3/3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 免許返納者等への支援	R3	・高齢者フリーパスの交付 ・バスカード購入補助金の交付 ・タクシー利用助成の実施	B	・免許を返納した返納者や、元から免許を保有していない方に対し一定の利便性が確保された公共交通体系の維持を引き続き実施する。 ・一方で財政的負担等も踏まえ効率性を意識した取組に努める。
		【予算】 1,045 千円 【決算】 1,045 千円		
	R4	・高齢者フリーパスの交付 ・バスカード購入補助金の交付 ・タクシー利用助成の実施	B	・免許を返納した返納者や、元から免許を保有していない方に対し一定の利便性が確保された公共交通体系の維持を引き続き実施する。 ・一方で財政的負担等も踏まえ効率性を意識した取組に努める。
		【予算】 1,307 千円 【決算】 1,307 千円		
	R5	・高齢者フリーパスの交付 ・バスカード購入補助金の交付 (7/31をもって販売終了) ・タクシー利用助成の実施	B	・免許を返納した返納者や、元から免許を保有していない方に対し一定の利便性が確保された公共交通体系の維持を引き続き実施する。 ・一方で財政的負担等も踏まえ効率性を意識した取組に努める。
		【予算】 1,506 千円 【決算】 1,064 千円		
	R6	・高齢者フリーパスの交付 ・タクシー利用助成の実施	B	・免許を返納した返納者や、元から免許を保有していない方に対し一定の利便性が確保された公共交通体系の維持を引き続き実施する。 ・一方で財政的負担等も踏まえ効率性を意識した取組に努める。
		【予算】 1,295 千円 【決算】 1,118 千円		
	R7	・高齢者フリーパスの交付 ・タクシー利用助成の実施	B	・免許を返納した返納者や、元から免許を保有していない方に対し一定の利便性が確保された公共交通体系の維持を引き続き実施する。 ・一方で財政的負担等も踏まえ効率性を意識した取組に努める。
		【予算】 897 千円 【決算】 814 千円		
⑤ 人材の確保・育成	R3	-	B	・現時点で町内公共交通やタクシー事業を委託している事業者で運転手確保の需要等はなし。 ・今後の公共交通のあり方を進めるうえで事業者の要望があれば確保に向けた支援を行う。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	-	B	・現時点で町内公共交通やタクシー事業を委託している事業者で運転手確保の需要等はなし。 ・今後の公共交通のあり方を進めるうえで事業者の要望があれば確保に向けた支援を行う。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・島根の生活交通を考えるプロジェクトチームへの参画	B	・島根県が主導となっているプロジェクトチームに参画し、今後のバス事業者に対する人材確保・育成に向け、協議を行う。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・島根の生活交通を考えるプロジェクトチームへの参画	B	・島根県が主導となっているプロジェクトチームに参画し、今後のバス事業者に対する人材確保・育成に向けた協議を行った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	-	B	・現時点で町内公共交通やタクシー事業を委託している事業者で運転手確保の需要等はなし。 ・今後の公共交通のあり方を進めるうえで事業者の要望があれば確保に向けた支援を行う。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
06	移住・交流の推進	P46～48	まちづくり推進課

施策の方針	観光資源や地域資源を磨き、発信するとともに、町外の人との多様なつながりをつくる体制を強化することで、川本町の価値に共感する人の輪の拡大に努めます。
施策の方向性	・ 定住環境の整備 ・ 相談支援体制の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町の住宅支援制度の利用者数（令和3年度からの累計値） 【累計値】（単位：件）	目標値	7	15	22	30	37
	実績値	6	12	19	21	24
	達成率	86%	87%	100%	70%	65%
相談事業を経た年間Iターン件数 【単年数値】（単位：件）	目標値	10	10	15	15	20
	実績値	19	11	18	26	11
	達成率	190%	110%	120%	173%	55%
相談事業を経た年間Uターン件数 【単年数値】（単位：件）	目標値	4	4	5	6	6
	実績値	0	14	7	2	0
	達成率	0%	350%	140%	33%	0%

評価	担当課評価
B	・ 移住・定住のワンストップ窓口である（一社）かわもと暮らしへの相談を経て移住につながった件数は、引き続き一定数を維持している。特にIターンについては、女子野球をはじめとした本町独自の取組や移住支援制度の活用により、町外からの関心呼び込み、移住の受け皿づくりが進んでいる。 ・ 一方で、相談事業を経たUターン件数は目標値に達しておらず、進学や就職により町外へ転出した若者やその家族への情報発信、関係人口との継続的なつながりづくりが課題となっている。 ・ 住まい相談については、かわもと暮らしへの認知が進み、空き家バンクや民間賃貸住宅など住まいに関する情報の集約が図られている。相談件数も増加傾向にあり、移住希望者と住まいのマッチング機能が強化されている。 ・ 女子野球を活用した交流人口・関係人口創出の取組として「島根フィルティーズ」の活動が本格化し、町外からの来訪や地域との交流機会の創出につながっている。今後も移住・定住施策と連携しながら、川本町の魅力発信と関係人口の拡大を図る必要がある。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・ 女子野球で繋がるプロジェクトについて、地域おこし協力隊期間終了後、野球を続けられる受け皿などの検討を進めること。 ・ 住宅施策については若年層の定住に一定の効果があることから、引き続き新たな住宅整備等を検討すること。 ・ 交流人口拡大、関係人口拡大に対応するため、宿泊業立地可能性調査の結果を踏まえ、開業意向者の進捗状況に応じ側面的な支援を行うこと。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・ 住環境プロジェクトチームの連携により、人口減少対策に即効性のある住宅施策を一層充実させること。 ・ 令和6年度に策定した立地適正化計画が打ち出している方向性にのっとり、一層の民間活力を促すこと。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 住み慣れた地域の暮らしが持続するまち（暮らし）
基本方針	持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくり

基本施策 番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
06	移住・交流の推進	P46～48	まちづくり推進課

施策の方針	観光資源や地域資源を磨き、発信するとともに、町外の人との多様なつながりをつくる体制を強化することで、川本町の価値に共感する人の輪の拡大に努めます。
施策の 方向性	・ 定住環境の整備 ・ 相談支援体制の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
年間Iターン者数 【単年数値】（単位：人）	目標値	20	20	25	25	30
	実績値	7	3	20	13	7
	達成率	35%	15%	80%	52%	23%
年間Uターン者数 【単年数値】（単位：人）	目標値	10	10	13	15	15
	実績値	8	1	12	20	6
	達成率	80%	10%	92%	133%	40%
町内の関係案内所を通じたマッチング 件数 【単年数値】（単位：人）	目標値	0	5	10	10	15
	実績値	0	25	25	41	11
	達成率	0%	500%	250%	410%	73%

評 価	担当課評価

評 価	一次評価（副町長、総務財政課長）

評 価	最終評価（町長、教育長）

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	定住環境の整備	1/8
------------	----	-------	----------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 定住促進住宅の整備	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・新型コロナウイルスの影響で令和3年度は実績なし。 ・令和4年度に2棟の建設を予定。また、民間事業者と連携した住宅施策のあり方について検討を進める。
	R4	因原地区に2棟を建設 【予算】 67,194 千円 【決算】 66,111 千円	B	・因原地区に2棟を建設。 ・2世帯（うち18歳未満3人）の1ターン実績。
	R5	因原地区にて4棟分の土地購入、建築設計を行った 【予算】 18,999 千円 【決算】 18,442 千円	B	・因原地区で2棟の建設を予定していたが、地盤改良の必要性が生じたため、事業見送りとなった。 ・令和6年度建設に向け、4棟分の土地購入、建築設計を行った。
	R6	因原地区に4棟建設 【予算】 141,951 千円 【決算】 120,788 千円	B	・因原地区に4棟を建設。 ・4世帯（うち18歳未満4人）の1ターン実績。 ・今後の住宅建設については、従前の15年後分譲型ではなく、戸建て住宅を建設するまでの、家族形成期向け集合住宅を検討（12月全員協議会で説明済）。
	R7	次期定住促進住宅について検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和8年度～令和9年度にかけて整備を予定している三原地区定住促進の事業スケジュールを固め、令和8年度の予算化を行った。今後、住宅の形態や入居スキーム等の検討を行う。
② 住まい確保の支援	R3	・住まいづくり応援事業の実施 【予算】 12,570 千円 【決算】 12,570 千円	B	・住宅購入助成事業（新築：1件 中古購入：5件）。 ・住環境確保支援のため引き続き事業を実施する。
	R4	・住まいづくり応援事業の実施 【予算】 8,709 千円 【決算】 8,451 千円	B	・住宅購入助成事業（新築：1件 中古購入：5件） ・住環境確保支援のため引き続き事業を実施する。 ※ただし、令和6年度から一部要件見直し予定
	R5	・住まいづくり応援事業の実施 【予算】 14,500 千円 【決算】 22,918 千円	B	・住宅購入助成事業（新築：2件、中古購入：5件） ・住環境確保支援のため引き続き事業を実施する。 ※ただし、令和6年度から一部要件見直し予定
	R6	・一部要件を見直し住まいづくり応援事業を実施 【予算】 658 千円 【決算】 658 千円	B	・住宅購入助成事業（中古購入：3件） ・住環境確保支援のため引き続き事業を実施する。
	R7	・住まいづくり応援事業の実施 【予算】 5,500 千円 【決算】 5,255 千円	B	・住宅購入助成事業（新築：2件 中古購入：1件） ・住環境確保支援のため引き続き事業を実施する。
③ 住まい情報の発信	R3	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」との連携 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・かわもと暮らしへの情報の集約化等により住まい情報の安定的な受発信が可能となった。
	R4	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」との連携 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・「住まい相談」＝かわもと暮らしが町内でも徐々に認知され、空き家バンク登録情報や民間アパート情報を含め住まいの情報が集約化されマッチングの機会が増えている。
	R5	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」との連携 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住まい相談を最初からかわもと暮らしへされることも増えており、さらに情報の集約化がされ、マッチングの機会が増えている。
	R6	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」との連携 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・Uターンを検討している方も最初にかわもと暮らしのホームページを発見し、そちらへ連絡を入れることが増えており、情報提供がスムーズになりマッチングの機会が増えている。
	R7	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」との連携 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住まい相談窓口として「かわもと暮らし」の認知が広がり、移住希望者や住宅所有者からの相談が継続的に寄せられている。住まいに関する情報の集約と提供体制の充実により、住まいの確保に向けたマッチング機会の創出につながっている。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	定住環境の整備
------------	----	-------	----------	--------	---------

2/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 空き家の利活用の推進	R3	・空き家バンク制度の運営 ・空き家バンク利活用促進事業費補助の実施	B	・令和3年度空き家バンク登録相談：18件 登録：空き家4件空き地3件 ・利活用促進事業費補助（家財撤去2件 ハウスクリーニング2件） ・空き家バンクへの登録から利活用までを促し流動化できるよう取組を継続。
	R4	・空き家バンク制度の運営 ・空き家バンク利活用促進事業費補助の実施	B	・令和4年度空き家バンク登録相談：29件 登録：空き家11件空き地1件 ・利活用促進事業費補助（家財撤去7件 ハウスクリーニング4件 相続登記2件） ・空き家バンクへの登録から利活用までを促し流動化できるよう取組を継続。
	R5	・空き家バンク制度の運営 ・空き家バンク利活用促進事業費補助の実施	B	・令和5年度空き家バンク登録相談：11件 登録：空き家7件、空き地2件 ・利活用促進事業費補助（家財撤去5件 ハウスクリーニング5件 相続登記4件） ・空き家バンクへの登録から利活用までを促し流動化できるよう取組を継続。
	R6	・空き家バンク制度の運営 ・空き家バンク利活用促進事業費補助の実施	B	・令和6年度空き家バンク登録相談：20件 登録：空き家5件、空き地4件 ・利活用促進事業費補助（家財撤去4件、ハウスクリーニング4件、相続登記2件） ・空き家バンクへの登録から利活用までを促し流動化できるよう取組を継続。
	R7	・空き家バンク制度の運営 ・空き家バンク利活用促進事業費補助の実施	B	・令和7年度空き家バンク登録相談：20件 登録：空き家12件、空き地4件 ・利活用促進事業費補助（家財撤去8件、ハウスクリーニング7件、相続登記2件） ・空き家バンクへの登録から利活用までを促し流動化できるよう取組を継続。
⑤ 民間資産の活用による住宅整備	R3	-	B	・令和3年度は実績なし。 ・戸建て賃貸住宅等も視野にいれた補助事業の拡充を令和4年度に実施予定。
	R4	-	B	・令和4年度は実績なし。
	R5	-	B	・令和5年度は実績なし。 ・令和5年度に要綱を改正し、事業対象を県内に拡充した。
	R6	・住まいづくり応援事業の実施	B	・単身向けの賃貸集合住宅（新築）8戸、世帯向けの賃貸住宅（中古改修）1戸の整備事業に対して助成を行った。
	R7	-	A	・令和7年度は実績なし。 ・資材費高騰等に対応するため、令和8年度以降は補助額を増額し更なる制度活用を促す。
	R3			
	R4			
	R5			
	R6			
	R7			

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	相談支援体制の充実	3/8
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① ブランド戦略・PR戦略づくり	R3	・かわもと暮らしを中心としたPR活動の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・新型コロナウイルスの影響により具体的なPR機会（定住フェア等）はなし。 ・オンライン開催にてテーマ設定（薪ストーブのある暮らし など）を設け一定の集客あり（60名）。		
	R4	・かわもと暮らしを中心としたPR活動の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・県外対面式相談会参加 5回 オンライン4回 ・計105名の相談受付 ・計13回の移住体験プログラム受入等によりPRを実施。		
	R5	・かわもと暮らしを中心としたPR活動の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・県外対面式相談会参加 6回 オンライン 3回 ・計120件の相談受付 ・計10回（16名）の川本町移住体験プログラム、計7名の移住ツアー受入等によりPRを実施		
	R6	・かわもと暮らしを中心としたPR活動の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・県外対面式相談会参加 6回 オンライン 3回 ・計100件の相談受付 ・計10回（16名）の川本町移住体験プログラム、計7名の移住ツアー受入等によりPRを実施		
	R7	・かわもと暮らしを中心としたPR活動の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・県外対面式相談会参加 5回 オンライン 1回 ・計148件の相談受付 ・計4回の川本町移住体験プログラムによりPRを実施		
② 定住コーディネートの推進	R3	・かわもと暮らしの運営 【予算】 14,692 千円 【決算】 14,692 千円	B	・3名の定住相談員体制により充実した相談体制の構築ができています。 ・また、住まいや仕事など移住定住に不可欠な要素に対しそれぞれ担当を持ち、専門性も高めた取組を行っている。		
	R4	・かわもと暮らしの運営 【予算】 14,584 千円 【決算】 14,584 千円	B	・3名の定住相談員体制により充実した相談体制の構築ができています。 ・住まいや仕事など移住定住に不可欠な要素に対しそれぞれ担当を持ち、専門性も高めた取組を行っている。加えて、職業紹介イベントなども主催しており、活動の幅も広げている。		
	R5	・かわもと暮らしの運営支援 【予算】 14,282 千円 【決算】 14,282 千円	A	・3名の定住相談員体制により充実した相談体制の構築ができています。 ・住まいや仕事など移住定住に不可欠な要素に対しそれぞれ担当を持ち、専門性も高めた取組を行っている。 また、移住者と地域住民の交流を図るイベントを開催し、移住後のサポートも充実させている。		
	R6	・かわもと暮らしの運営支援 【予算】 15,437 千円 【決算】 15,432 千円	B	・3名の定住相談員体制により充実した相談体制の構築ができています。 ・住まいや仕事など移住定住に不可欠な要素に対しそれぞれ担当を持ち、専門性も高めた取組を行っている。また、移住後のサポートも充実させており、単なる移住相談窓口以上の存在となっている。		
	R7	・かわもと暮らしの運営支援 【予算】 14,550 千円 【決算】 14,550 千円	B	・3名の定住相談員体制により充実した相談体制の構築ができています。 ・住まいや仕事など移住定住に不可欠な要素に対しそれぞれ担当を持ち、専門性も高めた取組を行っている。また、移住後のサポートも充実させており、単なる移住相談窓口以上の存在となっている。		
③ 地域おこし協力隊制度の活用促進と定着支援	R3	・かわもと暮らしによる協力隊相談体制の整備 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度からかわもと暮らしが地域おこし協力隊の相談業務を開始。月1回の定例面談のほか、活動補助金の申請サポートを行った。 ・スキルアップにつながる研修情報の提供など相談のワンストップ化による効果も現れているため、継続し実施する。		
	R4	・例月個別面談の実施 ・初任者向け研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・昨年に続きかわもと暮らしにて協力隊の例月面談（相談受付）を実施。 ・外部研修への案内に加え、かわもと暮らしが主催し初任者研修を行うなど、活動の幅を広げている。		
	R5	・例月個別面談の実施 ・初任者向け研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度から引き続き、かわもと暮らしにて協力隊の例月面談（相談受付）を実施。 ・外部研修への案内に加え、かわもと暮らしが主催し初任者研修（4月、10月）を行い、地域おこし協力隊員同士や役場職員のつながりを作る試みに取り組んだ。		
	R6	・例月個別面談の実施 ・初任者向け研修会を2回開催（しまね協力隊ネットワーク） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・R6年度末時点で、5名の地域おこし協力隊が町内で活動。 ・引き続き、かわもと暮らしにて協力隊の例月面談（相談受付）を実施。 ・外部研修への案内に加え、かわもと暮らしが主催し初任者研修（4月、10月）を行い、地域おこし協力隊員同士や役場職員のつながりを作る試みに取り組んだ。		
	R7	・研修会2回開催（しまね協力隊ネットワーク） ・月例個別面談の実施 ・活動報告会6回開催 ・川本町地域おこし協力隊活動報告会 【予算】 2,387 千円 【決算】 2,167 千円	B	・令和7年度より安定した協力隊の活動支援等を行うため「かわもと暮らし」に業務委託。活動報告会では、町民に活動を知ってもらうことができた。また、活動を振り返り、言語化することで隊員自身の成長にもつながった。		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	相談支援体制の充実
------------	----	-------	----------	--------	-----------

4/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ マッチングサービス	R3	・かわもと暮らしによる就職相談窓口の開設、中学校でのジョブカフェイベントの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・かわもと暮らしにて職業紹介事業を実施。 ・ハローワークや事業者と連携した人材確保、移住希望者とのマッチングに加え、中学校での職業紹介イベントを開催。
	R4	・中学校、島根中央高校でのジョブカフェイベントの開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・昨年度に続き中学校での職業紹介イベントのほか、島根中央高校でのイベントも開催。 ・一般求職のほか、若年層への企業PR活動も行っている。
	R5	・中学校、島根中央高校でのジョブカフェイベントの開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き中学校、島根中央高校でのイベントを実施。 ・求人情報や企業情報の広報や若年層への企業PR活動を行っている。
	R6	・町内企業を対象とした就職ガイダンス開催 (R7. 2. 13) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・中高生を対象とした継続的なイベントの検討 ・R6年度からジョブカフェイベントに高校1年生も対象として追加 ・若年層への求人、企業情報等の広報実施 ・ふるさと島根定住財団「くらしまねっと」の有効活用を検討
	R7	・中学1年生対象にジョブカフェかわもと、高校1～2年生対象に企業ガイダンス (R8. 2. 12)を開催 ・事業所等を対象に「くらしまねっと」活用セミナーを開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・中学生対象のジョブカフェイベント及び高校生対象の企業ガイダンスの開催を継続。 ・ふるさと島根定住財団「くらしまねっと」の有効活用を図るため、継続周知の方法検討。
⑤ 情報発信	R3	・かわもと暮らしのホームページのリニューアル ・空き家、空き地バンク情報の一元化 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住サイト「かわもとぐらし」のリニューアルに伴い住まい情報等の一元化を実施。 ・かわもと暮らしにてLINE、Twitter等のSNSによる暮らしや住まいの情報発信を実施。
	R4	・かわもと暮らしのホームページによる住まい（空き家、民間住宅等）、仕事、移住相談等の一元情報の発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住サイト「かわもとぐらし」による情報の一元発信を継続。 ・かわもと暮らしにてLINE、Twitter等のSNSによる暮らしや住まいの情報発信を実施。
	R5	・かわもと暮らしのホームページによる住まい（空き家、民間住宅等）、仕事、移住相談等の一元情報の発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住サイト「かわもとぐらし」による情報の一元発信を継続。 ・かわもと暮らしにてLINE、Twitter等のSNSによる暮らしや住まいの情報発信を実施。
	R6	・かわもと暮らしのホームページによる住まい（空き家、民間住宅等）、仕事、移住相談等の一元情報の発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住サイト「かわもとぐらし」による情報の一元発信を継続。 ・かわもと暮らしにてLINE、Twitter等のSNSによる暮らしや住まいの情報発信を実施。
	R7	・かわもと暮らしのホームページによる住まい（空き家、民間住宅等）、仕事、移住相談等の一元情報の発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住サイト「かわもとぐらし」による情報の一元発信を継続。 ・かわもと暮らしにてLINE、Twitter等のSNSによる暮らしや住まいの情報発信を実施。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	関係人口の受け入れ体制の充実	5/8
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① 関係人口に関する戦略づくり	R3	-	B	・令和3年度は実績なし。 ・令和4年度に向け県と連携した事業提案に応募し採択された。		
	R4	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 ・移住・定住・交流促進事業（一財）地域活性化センターを活用した大学生インターンシップモデル事業を実施 【予算】 6,220 千円 【決算】 5,970 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：87名） 県外でのイベントの実施（東京0名・広島17名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する意識調査 ・移住・定住・交流促進事業 2名の受け入れサポート＋R5年度1名の受入決定 PRのための動画作成		
	R5	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 【予算】 7,000 千円 【決算】 5,731 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：144名） 県外でのイベントの実施（東京8名・広島7名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する説明会実施（参加企業：8社） 町内企業のPR動画を作成		
	R6	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 ・山陰初の社会人女子硬式野球クラブ「島根フィルティーズ」創設準備 【予算】 20,100 千円 【決算】 19,658 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：203名） イベントの実施（東京2名・広島3名・大阪3名・川本8名） 町内企業のPR動画を作成（新規：4社分） ・都市部からの新たな人の流れを創出するため、女子野球という本町独自のコンテンツを用いた「女子野球で繋がるプロジェクト」が始動。R7年度より「島根フィルティーズ」を創設し、関係人口や交流人口の拡大を図る。		
	R7	・県内高校卒業生還流促進事業を県と協働で実施 【予算】 6,996 千円 【決算】 6,996 千円	B	・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より県内高校卒業生還流促進事業として再編 ・専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：245名） ・令和7年度よりInstagram「時々、川本のことを思い出してね」開設 ・イベントの実施（東京5名・広島5名・大阪3名・川本5名）		
	R3	・かわもと暮らしによる窓口機能の整備。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移住定住、観光協会なども含めたワンストップ窓口機能として組織運営。 ・地域ニーズの把握等までは行ったが具体的な事業化やマッチングには至らず。 ・ふるさと島根定住財団が運営する関係人口サポートマッチングサイト「しまっち」にレールバイクイベントを登録。		
	R4	・大学生インターン事業や高校生つながり創出モデル事業においてかわもと暮らしが受入窓口となり実施した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・各事業でかわもと暮らしが窓口となり受入サポートを行った。移住・定住の窓口機能を有しており、住まい相談等円滑な対応ができることが確認できた。		
② 関係案内所の創設	R5	・大学生インターン事業や高校生つながり創出モデル事業においてかわもと暮らしが受入窓口となり実施した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に引き続き、各事業でかわもと暮らしが窓口となり受入サポートを行った。移住・定住の窓口機能を有しており、住まい相談等円滑な対応ができることが確認できた。 また、つながり創出モデル事業では、スポーツの試合の際のイベントへ出展するなど新たな試みを行ったところ、イベント後の卒業生交流会への参加者が増加するなど効果が確認できた。		
	R6	・大学生インターン事業や高校生つながり創出モデル事業においてかわもと暮らしが受入窓口となり実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4、5年度に引き続き、各事業でかわもと暮らしが窓口となり受入サポートを行った。移住定住の窓口として、住まい相談への円滑な対応や仕事紹介なども行っている。 ・つながり創出モデル事業では、イベントのボランティアスタッフ募集など工夫することで町内出身学生とのつながりを維持できている。		
	R7	・大学生インターン事業や県内高校卒業生還流促進事業においてかわもと暮らしが受入窓口となり実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4、5、6年度に引き続き、各事業でかわもと暮らしが窓口となり受入サポートを行った。移住定住の窓口として、住まい相談への円滑な対応や仕事紹介なども行っている。 ・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より再編した県内高校卒業生還流促進事業では、イベントのボランティアスタッフ募集など工夫することで町内出身学生とのつながりを維持できている。		
	R3	-	B	・令和3年度は実績なし。 ・令和4年度に県と連携した取組にとり事業実施を予定。		
	R4	・高校生とのつながり創出モデル事業の実施 【予算】 4,220 千円 【決算】 3,970 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業【再掲】 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：87名） 県外でのイベントの実施（東京0名・広島17名）		
	R5	・高校生とのつながり創出モデル事業の実施 【予算】 7,000 千円 【決算】 5,731 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業【再掲】 令和4年度に引き続き専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」を運営。（登録者数：144名） 県外でのイベントの実施（東京8名・広島7名）		
	R6	・高校生とのつながり創出モデル事業の実施 【予算】 7,000 千円 【決算】 6,650 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業【再掲】 令和4年度に引き続き専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」を運営。（登録者数：203名） 県外でのイベントを実施 ・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より県内高校卒業生還流促進事業として再編		
③ 高校卒業生との関係維持（卒業生交流会、都心部でのイベント）	R7	・県内高校卒業生還流促進事業の実施 【予算】 6,996 千円 【決算】 6,996 千円	B	・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より県内高校卒業生還流促進事業として再編 ・令和4年度に引き続き専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」を運営。（登録者数：245名） ・令和7年度よりInstagram「時々、川本のことを思い出してね」開設 ・県外でのイベントを実施		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	関係人口の受け入れ体制の充実
------------	----	-------	----------	--------	----------------

6/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 定期的な交流機会づくり	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・かわもと暮らしによる公式LINE登録促進を実施。 ・令和4年度以降高校卒業生とのつながりと併せ具体的な交流の機会づくりを実施予定。
	R4	【再掲】 ・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 ・移住・定住・交流促進事業（（一財）地域活性化センター）を活用した大学生インターンシップモデル事業を実施 【予算】 6,220 千円 【決算】 5,970 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設 （登録者数：87名） 県外でのイベントの実施 （東京0名・広島17名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する意識調査 ・移住・定住・交流促進事業 2名の受け入れサポート＋R5年度1名の受入決定 PRのための動画作成
	R5	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 【予算】 7,000 千円 【決算】 5,731 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設 （登録者数：144名） 県外でのイベントの実施 （東京8名・広島7名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する説明会実施（参加企業：8社） 町内企業のPR動画を作成
	R6	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 【予算】 7,000 千円 【決算】 6,650 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業【再掲】 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設 （登録者数：203名） イベントの実施 （東京2名・広島3名・大阪3名・川本8名） 町内企業のPR動画を作成 （新規：4社分） ・令和7年度からは「つながる機会の醸成」から実際の「還流」へテーマを移行し、県と協働で「県内卒業生還流促進事業」を実施予定
	R7	・県内高校卒業生還流促進事業を県と協働で実施 【予算】 6,996 千円 【決算】 6,996 千円	B	・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より県内高校卒業生還流促進事業として再編 ・専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設 （登録者数：245名） ・令和7年度よりInstagram「時々、川本のことを思い出してね」開設 ・イベントの実施 （東京5名・広島5名・大阪3名・川本5名）
	R3	・実施可能な大学との協働事業などについて検討中 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業について検討中。 ・島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。
	R4	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業について検討。 ・島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。
⑤ 町外の教育機関との連携	R5	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）、ハングル語講座、短期留学生の受け入れを県立大学と実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。
	R6	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）、ハングル語講座、短期留学生の受け入れを県立大学と実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県立大学とバーチャル国際交流等の協働事業を実施。 ・島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。
	R7	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）、ハングル語講座、短期留学生の受け入れを県立大学と実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県立大学とバーチャル国際交流等の協働事業を実施。 ・島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	観光・交流の充実	7/8
------------	----	-------	----------	--------	----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 観光・交流コンテンツの充実	R3	・体験プログラムの実施による誘客(いわみん)	B	・町内実践者による体験プログラムの提供。 ・さらなる実践者の発掘、育成に取り組む。 ・県助成制度を活用した合宿誘致を図る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・新規体験プログラムの実施による誘客(いわみん)	B	・石見川本駅を活用した体験プログラムを実施。 ・新たな資源、人材の発掘に引き続き取り組む。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・新規体験プログラムの実施(いわみん)	B	・町内事業者と連携した体験プログラムの実施。 ・新たな体験型プログラムの検討。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・新規体験プログラムの実施(いわみん)	B	・R6年度は、島根中央高校吹奏楽部体験等の5つの町内プログラムを実施した。 ・引き続きいわみん担当者との連携促進を図る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・新規体験プログラムの実施(いわみん)	B	・R7年度は、島根中央高校吹奏楽部体験や町内事業所による練り切り体験等の6つの町内プログラムを実施。 ・引き続きいわみん担当者との連携促進を図る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 関連市町村と連携した広域観光の推進	R3	・江の川流域広域観光連携推進協議会への参画	B	・協議会HPによる情報発信、郡内3町のオンラインツアーの開催等、町単独では困難な事業を実施。 ・誘客ツアーの催行、集客イベントの開催等に取り組む。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・江の川流域広域観光連携推進協議会への参画	B	・誘客ツアーの催行、集客イベントの開催等に取り組む。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・江の川流域広域観光連携推進協議会への参画	B	・誘客ツアー催行、集客イベントを実施した。 ・町外イベントにおけるPR活動の実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・江の川流域広域観光連携推進協議会への参画	B	・広域的な連携強化を図った。 ・広島わがまち魅力発信隊等の町外イベントにおけるPR活動を実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・江の川流域広域観光連携推進協議会への参画 ・広島広域都市圏によるツアー事業へ参画	B	・広島わがまち魅力発信隊等の町外イベントにおけるPR活動を実施。 ・邑智郡と連携し、観光に特化した「おおちデジタル旅マップ」を作成し、R8.1から運用中。 ・広島広域での取組として、ええなあ祭りやイズモコパイモを訪問先としたツアー造成及び実施。
		【予算】 100 千円 【決算】 100 千円		
③ 観光客の受け入れ環境の充実	R3	・各施設の修繕 ・指定管理者との協議	B	・施設の老朽化等に伴う修繕を行い、安定的な施設運営を図った。
		【予算】 64,450 千円 【決算】 63,772 千円		
	R4	・各施設の修繕・整備 ・アウトドアイベント(観光協会 笹遊里)	B	・施設の老朽化等に伴う修繕を行い、安定的な施設運営を図った。 ・観光協会と連携した施設利用イベントの実施。
		【予算】 32,878 千円 【決算】 32,853 千円		
	R5	・アウトドアイベント(観光協会:笹遊里) ・おおちぐんぐルメフェア(道の駅) ・各施設の修繕、整備	B	・施設の老朽化等に伴う修繕を行い、安定的な施設運営を図った。 ・観光協会、郡内他町と連携した施設利用イベントを実施した。
		【予算】 32,402 千円 【決算】 33,127 千円		
	R6	・アウトドアイベント(観光協会:笹遊里) ・各施設の修繕、整備 ・指定管理者との協議	A	・観光協会が主催し、笹遊里でイベントを実施した。更なる受入れ環境の充実が図られるよう、宿泊業展開の可能性を調査し、人の往來の受け皿の確保を検討したい。 ・各施設の老朽化等に伴う修繕を実施した。特に、音戯館のブル天井修繕は、繰越事業で対応する。 ・指定管理委託料の大幅に増額となった要因は、音戯館の所管換え(教育→産振)と電気や燃料などの価格高騰に伴う差額調整による。
		【予算】 77,514 千円 【決算】 70,467 千円		
	R7	・アウトドアイベント(観光協会:笹遊里) ・各施設の修繕、整備 ・指定管理者との協議	B	・観光協会が中心となって、レールバイクイベントの開催やイズモコパイモ祭りでは団体ツアーも実施し、推定来場者数2,100名の方に足を運んでいただいた。 ・その観光客の受け皿となるように、宿泊可能性調査を実施し、本町の宿泊需要は特定月に集中し年間の変動が大きいことが結果と判明し、閑散期の収入減がリスクとならない運営体系を含めた事業計画が必要 ・民間による宿泊開業の動きと連携をとりながら指定管理施設の運営に努めたい。
		【予算】 63,463 千円 【決算】 62,372 千円		

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)
D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

主な取り組み 評価シート

基本施策 番 号	06	基本施策名	移住・交流の推進	施策の方向性	観光・交流の充実
-------------	----	-------	----------	--------	----------

8/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 観光の担い手育成	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 具体的取組は行っていない。
	R4	・ 地域おこし協力隊の委嘱（1名） 【予算】 2,200 千円 【決算】 2,200 千円	B	・ 観光協会のスタッフとして1名配属した。
	R5	・ 地域おこし協力隊の支援 ・ 地域おこし協力隊の確保（1名） 【予算】 4,400 千円 【決算】 4,400 千円	B	・ 観光協会スタッフの確保（R6.4委嘱）
	R6	・ 地域おこし協力隊（観光協会）R6.4着任 1名 ・ 地域おこし協力隊（観光協会）R6.6退任 1名 ・ 地域おこし協力隊（観光協会）の確保 2名 ・ 地域おこし協力隊（観光協会）R6.10着任 1名 【予算】 13,200 千円 【決算】 9,086 千円	B	・ 観光協会のスタッフに1名途中退任があったが、年度内に2名配置した ・ 観光協会スタッフの確保（①R6.10委嘱 ②R7.4委嘱）
	R7	・ 地域おこし協力隊（観光協会）R7.4着任 1名 ・ 地域おこし協力隊の支援（観光協会：3名） 【予算】 15,584 千円 【決算】 15,584 千円	B	・ 観光協会事務局長1名を確保し、配置（R7.4委嘱） ・ 観光協会スタッフ2名の任期が令和8年度で満了となるため、次期スタッフの確保に向けた取組を今後検討。
⑤ 姉妹縁組都市との交流充実	R3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施 【予算】 718 千円 【決算】 0 千円	B	・ 坂町との姉妹都市交流活動の取組であるが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、未実施となっている。 ・ 姉妹都市交流の充実に向けて、継続して取組が必要である。
	R4	・ 坂町・川本町特産品フェア ・ ようよう祭り 【予算】 351 千円 【決算】 66 千円	B	・ 従来型のイベント実施。 ・ 継続した取組、情報交換が必要。
	R5	・ 坂町・川本町特産品フェア（3事業者・11月） ・ ようよう祭り（1事業者・3月） 【予算】 473 千円 【決算】 95 千円	B	・ 坂町でのイベント共催、参加 ・ 観光協会を交えた坂町職員との意見交換
	R6	・ 坂町・川本町特産品フェア開催計画（R6.11） ・ 職員人事交流 等 【予算】 291 千円 【決算】 66 千円	B	・ 坂町でのイベント共催、参加 ・ 継続した坂町職員との情報共有及び意見交換
	R7	・ 坂町・川本町特産品フェア開催及び参加（R7.11） ・ 職員人事交流 等 【予算】 187 千円 【決算】 136 千円	B	・ 坂町でのイベント共催、参加 ・ 継続した坂町職員との情報共有及び意見交換 ・ 令和8年度に迎える、姉妹縁組40周年記念に関連したイベント等を今後検討。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・起業支援

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
07	農林水産業の振興	P50～52	産業振興課

施策の方針	新たな就労者の確保や作業の効率化、生産基盤の保全などを進め、持続可能な農林水産業の確立を目指します。
施策の方向性	・農業の高付加価値化の推進 ・農業基盤の整備・保全 ・林業の振興 ・水産業の振興 ・担い手の確保・育成

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
エゴマ10アールあたり販売額 【単年度値】（単位：円）	目標値	55,500	64,750	74,000	83,250	92,500
	実績値	36,200	40,984	40,000	40,000	36,425
	達成率	65.2%	63.3%	54.1%	48.0%	39.4%
有害鳥獣被害額 【単年度値】（単位：千円）	目標値	1,600	1,500	1,400	1,200	1,000
	実績値	2,055	2,326	1,167	1,086	2,235
	達成率	28.4%	55.1%	119.9%	110.4%	44.7%
荒廃竹林の整備面積 【単年度値】（単位：アール）	目標値	200	100	100	100	100
	実績値	0	33	0	0	0
	達成率	0%	33.0%	0%	0%	0%

評価	担当課評価
B	・エゴマ生産者の高齢化により作付面積や生産量が減少しており、収穫期の違う品種の栽培、新たな販路拡大支援や高付加価値化の推進を図った。引き続き、新たな担い手の確保や、生産量の増加を推進していく必要がある。 ・有害鳥獣対策として、R6に続いて農作物被害を軽減するために購入した資材費等に対し補助金を交付し支援を行った。また、猿の群れ分布やGPSによる行動域の把握を実施し、関係機関と協力しながら大型捕獲檻による個体数の削減を目指す。 ・荒廃竹林の整備について、竹林の利活用に向けた取組の進展がなく、町の資源も乏しいことから森林組合とも補助金活用には至らず、見直しが必要である。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・資材エネルギー価格高騰など厳しい状況が続く中、本町の農林水産業の持続性を高めるための諸施策を令和7年度より拡充。施策の活用を図り状況を注視すること。 ・水田農業については夏場の渇水対策、ため池の点検など効果的な対策を検討すること。 ・エゴマについては裏作や有利な販売先確保などにより収益増を図ること。 ・有害鳥獣対策は集落での追い払い体制の構築を図り、実践を通じてより効果的な対策を検討すること。 ・全国的に熊被害が多発する中、緊急銃猟マニュアルの早期策定に取り組むこと。 ・有害鳥獣の駆除については、猟友会を中心としながら民間事業者との連携を検討すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・起業支援

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
07	農林水産業の振興	P50～52	産業振興課

施策の方針	新たな就労者の確保や作業の効率化、生産基盤の保全などを進め、持続可能な農林水産業の確立を目指します。
施策の方向性	・農業の高付加価値化の推進 ・農業基盤の整備・保全 ・林業の振興 ・水産業の振興 ・担い手の確保・育成

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
新たな森林管理システム実施面積 【累計値】（単位：ヘクタール）	目標値	10	15	20	25	30
	実績値	2	2	2	2	2
	達成率	20%	13%	10%	8%	6%
新規就農者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	1	1	1	1	1
	実績値	0	2	0	1	0
	達成率	0%	200.0%	0%	100%	0%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評価	担当課評価
	・新たな森林管理システムについては、地権者や現地確認を実施したものの、地権者との課題解決に至っていないため頓挫している。ただし課題解消に至った場合、次のステップを踏むとともに候補地の選定を行う。 ・新規就農者の確保について、R7年は0人となったものの、R8開始に向けた就農計画を候補者と協力して検討し、年度末に認定に至った。今後も毎年1名の確保に向けて新たな就農プランを作成し募集等を行っていききたい。
評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
評価	最終評価（町長、教育長）

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	農業の高付加価値化の推進
------------	----	-------	----------	--------	--------------

1/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 循環型農業・有機農業の推進	R3	・土づくり育成事業の実施 ・環境保全型農業直接支払事業の実施 【予算】 2,600 千円 【決算】 2,350 千円	B	土づくり育成補助金は、有機堆肥への補助をおこなっており、有機農業の推進を図っている。環境保全型農業直接支払事業は、化学合成農薬を5割以上、低減している農家へ補助しており、循環型農業の推進を図っている。
	R4	・土づくり技術導入補助金の交付 ・環境保全型農業直接支援対策交付金の交付 【予算】 2,610 千円 【決算】 1,969 千円	B	取組の実施により有機農業へ取り組んでいる営農団体もいることから、有機農業の維持に寄与する取組であり、継続することが重要。
	R5	・土づくり育成事業補助金 ・環境保全型農業直接支払事業補助金 【予算】 2,501 千円 【決算】 1,868 千円	B	有機的農業の推進を図るため、有機堆肥の活用、農薬の低減を推進する農業者、営農団体の支援を継続することが重要。
	R6	・土づくり育成事業補助金 ・環境保全型農業直接支払事業補助金 【予算】 2,014 千円 【決算】 1,828 千円	B	有機的農業の推進を図るため、有機堆肥の活用、農薬の低減を推進する農業者、営農団体の支援を継続することが重要。
	R7	・土づくり育成事業補助金 ・環境保全型農業直接支払事業補助金 【予算】 2,012 千円 【決算】 1,663 千円	B	有機的農業の推進を図るため、有機堆肥の活用、農薬の低減を推進する農業者、営農団体の支援を継続することが重要。
② 水田農業の振興	R3	・経営所得安定対策等推進事業の実施 ・特別栽培米生産拡大事業の実施 【予算】 1,362 千円 【決算】 1,362 千円	B	水田農業の推進を図るため、経営所得安定対策推進事業の活用をおこなった。また、JAが推進する特色のある米づくりの推進の一翼であるハーブ米の栽培に対して、補助をおこなった。
	R4	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・特別栽培米生産拡大補助金の交付 【予算】 1,162 千円 【決算】 1,150 千円	B	取組が町内全体の水田活用状況の把握や、水田活用の支援等へとつながっており、水田農業の振興のために継続して実施する必要がある。
	R5	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・特別栽培米生産拡大補助金の交付 【予算】 1,187 千円 【決算】 1,022 千円	B	水田を活用した取組を支援することで、耕作放棄地対策に繋がっている。また、JAで推奨している特別栽培米（ハーブ米）の買取価格支援を行い、生産者の確保、面積の拡大を図った。
	R6	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 【予算】 1,172 千円 【決算】 1,072 千円	B	水田を活用した取組を支援することで、耕作放棄地対策に繋がっている。
	R7	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・水稲農業経営安定化支援事業補助金の交付 【予算】 2,372 千円 【決算】 2,133 千円	B	水田を活用した取組や、物価高騰の影響を受けている水稲生産者に対し、乾燥調製に対する費用を支援することで、生産者の確保や面積の維持拡大を図った。水田農業の振興のため、継続して実施する必要がある。なお、渇水対策に向け、ため池の水位状況を把握し対策を検討する。
③ エゴマの高品質化の推進	R3	・奨励作物拡大支援補助金 ・島根県と連携した圃場確認 ・モンオビヒメトウ対策に伴う島根県農業技術センターとの共同施策（令和4年度実証圃設置） 【予算】 12,500 千円 【決算】 8,265 千円	B	県の専門機関と連携し、高品質化・高収量を目的に、害虫対策を協議してきた。その結果、令和4年度で、実証圃の検証をおこなっている。
	R4	・奨励作物拡大支援補助金の交付 ・エゴマ害虫防除実証は業務の実施 【予算】 12,720 千円 【決算】 7,741 千円	B	補助金はエゴマ生産を支える重要な制度であり、継続は必須。また実証は業務の実施により、害虫防除に関する一定の知見を得られた。
	R5	奨励作物拡大支援補助金の交付 【予算】 9,950 千円 【決算】 6,924 千円	B	補助金を継続し、エゴマ生産者への支援を行った。今後の課題として新たな担い手の確保が必要。
	R6	奨励作物拡大支援補助金の交付 【予算】 7,450 千円 【決算】 5,654 千円	B	町の奨励作物（エゴマ・ピーマン）を継続するため補助を行う。今後の課題として、生産量が減少傾向なので新たな担い手の確保が必要。
	R7	奨励作物拡大支援補助金の交付 【予算】 7,880 千円 【決算】 6,693 千円	B	町の奨励作物（エゴマ・ピーマン）の生産に向け補助事業を継続実施した。エゴマでは、収量増加を目的として従来品種に加え新規2品種の作付も行い、作付面積が減少する中でも収量の維持・増加につなげた。一方、高齢化や離農等により作付面積や生産量が減少傾向にあるが、新たな奨励作物の取組などの検討や担い手の確保・育成が必要である。なお、作付面積や収量の維持に向け、次年度に「一坪ファーマー」の取組を再開予定である。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	農業の高付加価値化の推進
-------------	----	-------	----------	--------	--------------

2/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 畜産の振興	R3	・畜産予防注射補助事業 ・繁殖雌牛更新補助事業 【予算】 450 千円 【決算】 207 千円	B	町内の畜産農家に対して、補助をおこなった。 また、令和4年度に新規就農者を目指す、若手畜産家と就農相談をおこない、新規就農支援をおこなった。
	R4	・畜産予防注射補助事業 ・繁殖雌牛更新補助事業 【予算】 450 千円 【決算】 401 千円	B	町内の畜産農家に対して、支援をおこなうことは必要である。 また、若手畜産家と経営相談をおこない、新規就農支援をおこなった。
	R5	・畜産予防注射補助事業 ・繁殖雌牛更新補助事業 【予算】 370 千円 【決算】 119 千円	B	町内の畜産農家に対して、支援を行った。また、若手畜産農家と経営相談を行い支援を行った。畜産農家も高齢化しており、新たな担い手の確保が必要。
	R6	・畜産予防注射補助事業 ・繁殖雌牛更新補助事業 【予算】 370 千円 【決算】 245 千円	B	町内の畜産農家に対して、支援を行った。また、若手畜産農家と経営相談を行い支援を行った。畜産農家も高齢化しており、新たな担い手の確保が必要。
	R7	・畜産予防注射補助事業 ・繁殖雌牛更新補助事業 ・畜産経営持続化支援補助金の交付 【予算】 1,370 千円 【決算】 1,331 千円	B	飼料価格の高騰及び子牛価格の下落により収益が減少した町内の畜産農家に対し、助成支援を行った。畜産農家も高齢化や事業承継が不足しており、新たな担い手の確保が必要である。
⑤ エゴマと他製品のコラボレーション商品の開発の推進	R3	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	令和4年度において、コラボレーションできる商品の調査予定。
	R4	えごま鴨だしラーメンの販売(民間事業者により実施) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	民間事業者を中心に新たな商品開発が実施された。
	R5	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	民間事業者を中心に新たな商品開発の検討が必要。
	R6	6次産業化推進事業補助金の活用による商品開発 【予算】 1,200 千円 【決算】 978 千円	B	商品の新規開発や販路拡大、施設整備等が実施された。 実績：7件
	R7	6次産業化推進事業補助金の活用による商品開発 【予算】 4,000 千円 【決算】 2,936 千円	B	新規性があると認められるハード事業に対する支援を拡充。商品の新規開発、販路拡大や施設整備等を実施。 実績：8件 ・新規植物油(カメレ油)の専用搾油機の導入 ・エゴマ、加工品PR、販路拡大に向けた出展(3件)ほか4件
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	農業基盤の整備・保全	3/8
------------	----	-------	----------	--------	------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 農地の保全・管理の推進	R3	・ 中山間直接支払事業補助金 ・ 多面的機能支払交付金事業 【予算】 33,862 千円 【決算】 32,192 千円	B	多面的機能支払交付金事業については、町内10団体の一元化を図り、広域化することにより事務の簡素化及び新たな事業への取組が行われた。
	R4	・ 中山間地域等直接支払交付金 ・ 多面的機能支払交付金 【予算】 33,837 千円 【決算】 33,444 千円	B	取組によって25集落組織が農地の保全・管理を実施している。農地の保全・管理推進のため、継続して実施することが重要。
	R5	・ 中山間地域等直接支払交付金 ・ 多面的機能支払交付金 【予算】 33,883 千円 【決算】 33,871 千円	B	中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金の取組によって農地の保全・管理が行われている。荒廃農地対策として今後も継続していくことが重要。
	R6	・ 中山間地域等直接支払交付金 ・ 多面的機能支払交付金 【予算】 34,173 千円 【決算】 32,230 千円	B	中山間地域等直接支払交付金については、第5期の最終年度になり、第6期対策でも引き続き荒廃農地対策として継続していくことが重要。
	R7	・ 中山間地域等直接支払交付金 ・ 多面的機能支払交付金 【予算】 33,326 千円 【決算】 31,702 千円	B	多面的機能支払交付金については、第2期の最終年度になり、第3期対策でも引き続き農地の保全・管理の取り組みを継続していくことが重要である。
② 先進技術を活用した省力化の推進	R3	・ 農業経営安定支援事業 ・ 三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業 【予算】 314 千円 【決算】 314 千円	A	三原地区の農事組合法人の3法人の連携により、ドローンの共同防除が本格始動となった。内容精査の結果、従来の作業と比較すると約6割減の省力化が図れた。
	R4	・ 三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	昨年度と同様に、3法人連携により、ドローンの共同防除を実施した。令和4年度において、若手オペレーターが1名増え、またT10のドローンを購入し、2台体制により、3法人以外の外部農地への防除も実施する運びとなった。担い手不在集落への支援等を視野にいれた支援が必要である。
	R5	・ 三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施した。大型、小型の2台体制により実施し、令和5年度にからは肥料散布に新たに取組んだ。今後は、3法人以外の農地への防除等を拡大し、運営の安定化を図る必要がある。
	R6	・ 三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施した。大型、小型の2台体制により実施し、農業・肥料散布に取り組んだ。今後は、3法人以外の農地への防除等を拡大し、運営の安定化を図る必要がある。
	R7	・ 三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施。大型、小型の2台体制により、農業・肥料散布を実施。3法人以外の農地への防除等に向け、面積拡大を進め、運営の安定化を図る。
③ 農地・農業施設整備の推進	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	令和3年度において、ハウス等の希望者がいなかったが、幅広く調査した結果、ハウス希望者1名、牛舎希望者1名があり、令和4年度において、支援予定である。
	R4	- 【予算】 6,600 千円 【決算】 0 千円	B	認定新規就農者が、ハウスを設置予定であったが、資材価格にお高騰により断念している。令和5年度については、新規就農者が牛舎を建設予定であり、引き続き支援をおこなう必要がある。
	R5	農業経営安定支援事業補助金 【予算】 7,000 千円 【決算】 187 千円	B	令和5年度から対象を認定農業者等から出荷に取り組む農業者に拡充した。産直市出荷のためにハウス1棟が整備された。また、令和5年度に新規就農者が牛舎を建設予定であったが、令和6年度に建設されることになり、引き続き支援する必要がある。
	R6	・ 農業経営安定支援事業補助金 ・ ハウス等整備事業補助金 【予算】 24,000 千円 【決算】 22,143 千円	B	新規就農者が牛舎を建設しそれに対して補助金を交付した。畜産経営の安定に向け今後も支援を継続する必要がある。
	R7	農業経営安定支援事業補助金 【予算】 7,349 千円 【決算】 7,349 千円	B	10件の申請があった。認定農業者のほか、一般の農業者も活用できる事業のため、新たな遊休農地の発生防止、既存農業者の育成や新たな農業者の確保のためにも有効である。今後も支援を継続する必要がある。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	農業基盤の整備・保全
-------------	----	-------	----------	--------	------------

4/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 鳥獣被害対策の推進	R3	有害鳥獣対策事業の実施 【予算】 6,232 千円 【決算】 6,073 千円	A	有害鳥獣被害防止の対策として、電気柵等の補助をおこなっているとともに、有害鳥獣被害に強い作物（ピーマン）の推進もJAと協働しておこなった。
	R4	有害鳥獣対策事業の実施 【予算】 8,520 千円 【決算】 8,514 千円	B	有害鳥獣被害防止の対策として、既存事業の支援とともに、猿のルートセンサスや各地域の被害状況調査をおこない、町内の被害状況の把握をおこなった。それらを基に、令和5年度については、GPSIによる詳細なルートセンサスの解明と大型捕獲檻による個体数の削減を実施するため継続して支援が必要。
	R5	有害鳥獣対策事業の実施 【予算】 2,541 千円 【決算】 2,541 千円	B	令和5年度は鳥獣被害対策協議会が主体となり、国庫補助金を活用し、事業実施した。 令和4年度の調査結果に基づき、町内2群にGPS発信機を装着し、行動域の調査や大型捕獲檻の導入、効果的な防護柵の設置研修等をおこなった。
	R6	有害鳥獣対策の実施 【予算】 11,593 千円 【決算】 9,792 千円	B	令和6年度も引き続き鳥獣被害対策協議会が主体となり、国庫補助金を活用し、事業を実施した。 サル位置情報システムを導入し、出没情報の共有体制を今度構築していく必要がある。
	R7	有害鳥獣対策の実施 【予算】 11,993 千円 【決算】 9,137 千円	B	令和7年度も鳥獣被害対策協議会が主体となり、国庫補助金等を活用し、事業を実施した。 サルイテ情報システムを活用したサルの同行把握や大型捕獲檻の設置による捕獲等を取り組んだ。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	林業の振興	5/8
-------------	----	-------	----------	--------	-------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 循環林業を目指した森林計画の再構築	R3	森林経営管理法に基づく森林施業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	谷戸地区において、初めて森林経営管理法に基づき、2haの森林施業をおこなった。今後においても、類似森林の掘り起こしを森林組合とおこなっている。
	R4	森林経営管理法に基づく森林施業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	森林組合と対象地域を調査した結果、三島地区（中学校裏山）を選定調査森林とし、令和5年6月末までに調査結果が出される予定であり、その後において、施業をおこなう予定。
	R5	森林経営管理法に基づく森林施業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	三島地区での森林施業を予定していたが、地権者との交渉が難航することが見込まれるため他候補の森林の選定をおこなった。
	R6	森林経営管理法に基づく森林施業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	現在、対象候補地が見つからない状態。今後、森林組合等と対象地の掘り起こしを行っていく必要がある。
	R7	森林経営管理法に基づく森林施業 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	現在、対象候補地が見つからない状態。今後、森林組合等と対象地の掘り起こしを行っていく必要がある。
② 作業道の整備	R3	森林組合との作業道の選定 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	また、町内の森林団地を精査し、搬出・販売を視野に入れた、作業道の修繕箇所の選定をおこない、令和4年度に予算計上をおこなっている
	R4	森林組合との作業道の選定 【予算】 400 千円 【決算】 400 千円	B	町内の森林団地を、森林組合と現地確認をおこない、作業道（多田・円山）の修繕をおこなった。今後も、森林組合を協働しながら、森林施業に不可欠な路網整備を推進していく必要がある。
	R5	森林組合等との作業道の選定 【予算】 1,180 千円 【決算】 1,180 千円	B	町内の森林団地において、令和5年度は2社の業者が作業道の整備を新規におこなった。 延長、1,180m（川内地区）
	R6	森林組合等との作業道の選定 【予算】 1,300 千円 【決算】 1,300 千円	B	町内業者1社が作業道の整備を行った。 延長1,300m（小谷多田区間）
	R7	森林組合等との作業道の選定 【予算】 1,000 千円 【決算】 2,500 千円	B	町内業者1社と郡内業者1社が伐採のための集積等に使用するため作業道の開設を行った。 延長 726m(川下)、1,083m(川内)、391m(三原) 300m(南佐木)
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	水産業の振興
------------	----	-------	----------	--------	--------

6/8

主な取組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 江川漁業協同組合の支援	R3	・ 江川漁業振興協議会負担金	B	江川漁業への負担金
		【予算】 46 千円 【決算】 46 千円		
	R4	・ 江川漁業振興協議会負担金 ・ 親魚養成事業負担金	B	江川漁業への負担金 江の川沿線の市町村が、鮎の親魚の養成の支援をおこなっている。江の川の資源環境の向上に向けた、広域的な取り組みと考えるため、継続して支援が必要である。
		【予算】 692 千円 【決算】 692 千円		
	R5	・ 江川漁業振興協議会負担金（親魚養成事業）	B	江川漁業への負担金 江の川沿線の市町村が、鮎の親魚の養成の支援をおこなっている。江の川の資源環境の向上に向けた、広域的な取り組みと考えるため、継続して支援が必要である。
		【予算】 694 千円 【決算】 694 千円		
	R6	・ 江川漁業振興協議会負担金（親魚養成事業）	B	江川漁業への負担金 江の川沿線の市町村が、鮎の親魚の養成の支援をおこなっている。江の川の資源環境の向上に向けた、広域的な取り組みと考えるため、継続して支援が必要である。
		【予算】 684 千円 【決算】 684 千円		
	R7	・ 江川漁業振興協議会負担金（親魚養成事業）	B	江川漁業への負担金 江の川沿線の市町村による鮎の親魚の養成について支援した。江の川の資源環境の向上にあたり、広域的な支援が必要なため、引き続き実施する必要がある。
		【予算】 657 千円 【決算】 656 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直し必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	担い手の確保・育成	7/8
------------	----	-------	----------	--------	-----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 多様な就業モデルの構築	R3	地域おこし協力隊就農プランの作成	B	エゴマによる就農プランを作成し、地域おこし協力隊を募ったところ1名の募集があり、体験研修をおこなったが辞退となった。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	-	B	コロナ過により、都市圏の就農フェアー等に参加することができず、地域おこし協力隊の募集をおこなうことができなかった。しかし、コロナ過が終了したことにより、就農フェアーに参加をおこない、新規就農者の確保をおこなう予定である。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	就農相談会への参加	B	新たな農業の担い手確保のため、都市圏での就農相談会に出席した。就農希望者のニーズを確認しながら、本町の就農プランの構築を検討する必要がある。
		【予算】 333 千円 【決算】 318 千円		
	R6	就農相談会への参加	B	新たな担い手確保のため、就農プランを完成させ、都市圏での相談会等に参加する必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・就農相談会への参加 ・三原農村RMOの設立に向けた準備	B	新たな農業の担い手確保のため、新たな就農プランにより都市圏での就農相談会に出席したが、就農には繋がらなかった。担い手確保の継続が必要である。若手や移住者等の多様な人材の受け皿として、三原農村RMO（地域生活圏運営組織）の設立に向け、地域内でのネットワークや連携を目指す。
		【予算】 204 千円 【決算】 173 千円		
② 新規農業者、認定農業者の確保・育成	R3	・既存地域おこし協力隊及び新規就農者の就農支援	B	既存の地域おこし協力隊が令和4年3月で終了するにあたり、就農相談を毎週おこない、令和4年度には新規就農者のなった。また、親から承継予定の畜産農家の担い手と毎週、就農相談をおこない、令和4年度には新規就農者となった。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・新規就農者への営農相談及び支援	B	令和4年度は、2名の新規就農者を確保しており、今後の営農相談等を定期的に関係機関（島根県）とおこなった。畜産の新規就農者については、定期的に関係機関と営農相談会を開催し、令和5年度に牛舎の増築をおこなう予定となった。今後も、新規就農者を伴った支援をしていく必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・新規就農者への営農相談及び支援 ・就農相談会への参加	B	新たな農業の担い手確保のため、都市圏での就農相談会に出席した。コロナ禍が終了したため、就農相談会への出席を継続する。畜産の新規就農者については、定期的に関係機関と営農相談を開催し、令和6年度に牛舎の増築実施予定となった。
		【予算】 333 千円 【決算】 318 千円		
	R6	・新規就農者への営農相談及び支援 ・就農相談会への参加	B	新たな担い手支援のため、半農半Xを活用し支援を行った。今後も半農半Xでの支援を継続すると併せて、就農相談会等にも参加する必要がある。
		【予算】 720 千円 【決算】 720 千円		
	R7	・新規就農者への営農相談及び支援 ・就農相談会への参加	B	就農相談会に参加しPRしたものの新たな就農者の確保には至らなかった。ただし、半農半X事業担い手育成事業（経営開始資金）において支援を実施し、定着に向け取り組んだ。引き続き継続した取り組みが必要である。
		【予算】 3,613 千円 【決算】 3,113 千円		
③ 農業経営サポート体制の強化	R3	・三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業	B	三原地区の農事組合法人の3法人の連携により、ドローンの共同防除が本格始動となった。内容精査の結果、従来の作業と比較すると約6割減の省力化が図れた。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業	B	昨年度と同様に、3法人連携により、ドローンの共同防除を実施した。令和4年度において、若手オペレーターが1名増え、またT10のドローンを購入し、2台体制により、外部の農地への防除も実施する運びとなった。しかし、美郷町のような「農業経営サポート体制」を構築していくことは、更なる検討が必要である。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施した。大型、小型の2台体制により実施し、令和5年度からは肥料散布に新たに取り組んだ。今後は、3法人以外の農地への防除等を拡大し、運営の安定化を図る必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施した。大型、小型の2台体制により実施し、農業・肥料散布に取り組んだ。今後は、3法人以外の農地への防除等を拡大し、運営の安定化を図る必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・三原地区3法人の広域化連携によるドローンの共同防除事業	B	3法人連携により、ドローン共同防除を実施。大型、小型の2台体制により、農業・肥料散布を実施。3法人以外の農地への防除等に向け、面積拡大を進め、運営の安定化を図る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	07	基本施策名	農林水産業の振興	施策の方向性	担い手の確保・育成	8/8
-------------	----	-------	----------	--------	-----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 利用権設定農地の確保	R3	・ 農地中間管理機構事業人件費（会計年度職員）	B	農地中間管理機構と連携した、利用権設定の推進による農地確保を図った。
		【予算】 2,516 千円 【決算】 2,516 千円		
	R4	・ 農地中間管理機構事業人件費（会計年度職員）	B	農地中間管理機構と連携し、利用権設定の推進による農地確保を図った。農地の保全・管理、また荒廃農地の削減を図る上で、必要である。
		【予算】 2,628 千円 【決算】 2,628 千円		
	R5	・ 農地中間管理機構事業人件費（会計年度職員）	B	農地中間管理機構と連携し、利用権設定の推進による農地確保を図った。
		【予算】 2,535 千円 【決算】 2,454 千円		
	R6	・ 農地中間管理機構事業人件費（会計年度職員）	B	農地中間管理機構と連携し、利用権設定の推進による農地確保を図った。
		【予算】 3,640 千円 【決算】 3,640 千円		
	R7	・ 農地中間管理機構事業人件費（会計年度職員）	B	農地中間管理機構と連携し、利用権設定の推進による農地確保を図った。農地の保全・管理、また荒廃農地の削減を図る上で、必要である。
		【予算】 3,921 千円 【決算】 3,810 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・起業支援

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
08	商工業・サービス業の振興	P54～55	産業振興課

施策の方針	町民の暮らしを支える商工業・サービス業を維持し、生活利便機能と雇用の維持、町の拠点エリアの魅力向上を図ります。
施策の方向性	・地元事業者への支援の充実 ・新たなサービス業の振興 ・町の拠点エリアの魅力向上

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町内の起業件数（令和3年度からの累計値） 【累計値】（単位：件）	目標値	1	3	4	6	7
	実績値	1	1	3	5	7
	達成率	100%	33.3%	75.0%	83.3%	100%
弓市地区での起業・開業者数（令和3年度からの累計値） 【累計値】（単位：件）	目標値	1	2	3	4	5
	実績値	1	1	2	2	3
	達成率	100%	50.0%	66.7%	50.00%	60.00%

評価	担当課評価
B	町内の起業件数は目標値を達成することができ、これも商工会や地域の方と打ち合わせを重ねた結果だと考える。 また、令和7年度に実施した「宿泊施設可能性調査」を結果をもとに、令和8年度町単独事業として、「宿泊業開業等支援事業」を「川本町地域商業等支援補助金」として拡充できた。このことにより、令和8年度以降民間による宿泊業の開業に向けての取り組みが加速することが想定される。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
A	・商工会や（一社）かわもと暮らしなど関係機関と情報交換会を密にし、事業承継や新たなビジネスチャンスにつながる細やかな情報把握に努めること。 ・社会情勢の変化に応じて商工会を中心とした事業者の状況把握等をサポートすること。 ・起業創業を想定している地域起こし協力隊員の活動状況の把握や必要なサポートを検討すること。 ・立地適正化計画都市機能誘導区域における新たな支援施策の活用により、空き店舗対策や起業、創業の促進に努めること。 ・宿泊業可能性立地調査結果を踏まえ、持続可能な宿泊業開業に向けたサポート体制等を構築すること。 ・特定地域づくり事業協同組合については女子野球でつながるプロジェクト事業を契機に具体的な方向性を示すこと。

評価	最終評価（町長、教育長）
A	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	08	基本施策名	商工業・サービス業の振興	施策の方向性	地元事業者への支援の充実	1/4
------------	----	-------	--------------	--------	--------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 事業者の経営安定支援	R3	・小規模事業者経営改善資金利子補給金交付(25件) ・災害対策特別資金利子補給(4件) 【予算】 1,200 千円 【決算】 693 千円	B	・融資の償還を行う事業者の経営安定の一助となっている。
	R4	・小規模事業者経営改善資金利子補給金交付(18件) ・災害対策特別資金利子補給(4件) 【予算】 906 千円 【決算】 686 千円	B	・償還を行う事業者の経営安定の一助となっている
	R5	・小規模事業者経営改善資金利子補給金交付(16件) ・災害対策特別資金利子補給(4件) 【予算】 623 千円 【決算】 515 千円	A	・補助対象を拡充した内容への見直しを検討
	R6	・小規模事業者経営改善資金利子補給金(12件) ・災害対策特別資金利子補給(2件) 【予算】 258 千円 【決算】 258 千円	B	・R6の対象は小規模12件、災害2件だったが、償還を行う事業者の経営安定の一助となっている
	R7	・小規模事業者経営改善資金利子補給金交付(見込16件) ・災害対策特別資金利子補給(見込2件) 【予算】 291 千円 【決算】 209 千円	B	・R7の対象は小規模13件であり、償還を行う事業者の経営安定の一助となっている
② 事業承継の支援	R3	・川本町商工会との協議 ・島根県との協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・町内事業所の減少対策として引き続き実態把握と対策に取り組む。
	R4	・川本町事業承継推進協議会への参画 ・島根県、引継ぎセンターとの協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県、商工会と連携し支援制度の周知等に引き続き取り組む
	R5	・川本町事業承継推進協議会への参画 ・島根県、引継ぎセンターとの協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県等関係機関と連携し、支援制度及びセミナー等の周知に引き続き取り組む ・商工会との定期的な協議により町内事業者の現状把握を継続する
	R6	・川本町事業承継推進協議会への参画 ・島根県、引継ぎセンターとの協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県等関係機関と連携し、支援制度及びセミナー等の周知に引き続き取り組む ・商工会との定期的な協議により町内事業者の現状把握を継続する
	R7	・川本町事業承継推進協議会への参画 ・島根県、引継ぎセンターとの協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県等関係機関と連携し、支援制度及びセミナー等の周知に引き続き取り組む ・商工会との定期的な協議により町内事業者の現状把握を継続する
③ 商店街の振興	R3	・かわもと景気回復応援券の発行(新型コロナ) 発行数: 63,620枚(3,181部) 利用実績: 62,542枚(98.3%) 【予算】 29,976 千円 【決算】 31,271 千円	B	・交付金を活用した消費喚起策となった。 ・商工会と連携した振興策に取り組む。
	R4	・かわもと景気回復応援券の配布【新型コロナ】 配布額: 42,857,000円 利用実績額: 41,600,500円(97.0%) ・電子決済普及事業【新型コロナ】 まげなポイント利用額: 13,051,008円 【予算】 73,386 千円 【決算】 72,872 千円	B	・交付金を活用した消費喚起となった ・引き続き商工会と連携した振興策に取り組む
	R5	・かわもと景気回復応援券の配布【新型コロナ】 配布額: 32,760,000円 利用額: 32,209,000円(98.3%) ・電子決済普及事業(まげなポイント) 決済還元(第1弾・第2弾): 4,178,859円 健診・検診: 69,177円 ・物価高騰対応商品券の配布(R6繰越) 事務委託料: 19,187,240円 委託先: 川本町商工会 既支払額: 14,000,000円 【予算】 64,881 千円 【決算】 48,876 千円	B	・商品券及びキャッシュレス決済による消費拡大につながった ・物価高騰対応商品券事業に引き続き取り組む ・商工会と連携した消費喚起策を検討する
	R6	・電子決済普及事業(まげなポイント) 事務委託料: 3,630,000円 決済還元: 1,988,882円 健診・検診: 150,899円 新規登録: 25,500円 ・物価高騰対応商品券の配布【繰越】 事務委託料: 15,820,800円 委託先: 川本町商工会 既支払額: 12,000千円(繰越分: 3,821千円) 【予算】 17,796 千円 【決算】 17,796 千円	C	・キャッシュレス決済による消費拡大について一定の成果を得ることができた ・物価高騰対応商品券事業に引き続き取り組む ・商工会と連携した消費喚起策を検討する
	R7	・地域商業等支援事業(小売店等開業支援事業・商業環境持続化事業)に係る補助率を改定し、都市機能誘導区域内の活性化をはかる。小売店等1/2→3/4、商業環境2/3→4/5 ・商店街活性化支援として商工会に補助し、消費拡大等につなげる(補助率1/2) 【予算】 6,325 千円 【決算】 5,208 千円	A	・地域商業等支援事業については、小売店等開業支援事業としてカフェ営業が1件、簡易宿泊施設の運営が1件の申請があった。いずれも順調に稼働している。R8年度も小売店等開業支援事業や町単独事業の宿泊業開業支援に対して申請への相談が寄せられている。

- 【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
C…見直し(事務事業の効率化などにより見直し必要がある)
D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	08	基本施策名	商工業・サービス業の振興	施策の方向性	新たなサービス業の振興	2/4
-------------	----	-------	--------------	--------	-------------	-----

主な取組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 医療・福祉事業及び健康 関連産業の育成	R3	・医療、介護事業者の実態ニーズ把握方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・医療、介護事業者の実態を把握し、需要ニーズ及び町 内事業者との関わりを進める。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R5	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・医療、介護事業者の実態把握を進める
	R6	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・医療、介護事業者の実態把握を進めるが、具体的な取 組みは行っていない
	R7	・商工会との定期的な協議を進める中で、医療や介護事 業者健康関連産業の構築の進展に向け、協議検討を行う。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・医療、介護事業者の実態把握を進めるが、具体的な取 組みは行っていない
② コミュニティビジネス開 発支援	R3	・地域商業等支援事業 (移動販売開業補助：0件) 【予算】 4,614 千円 【決算】 4,614 千円	B	・買い物不便者の実態把握が必要。
	R4	・地域商業等支援事業（移動販売開業補助） 申請：0件 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き補助制度の活用により起業、開業の支援を行 う
	R5	・地域商業等支援事業（移動販売・買い物不便対策事業）に 係る補助率を改定 ※1/2→2/3 実績：0件 【予算】 4,000 千円 【決算】 0 千円	B	・補助制度を活用し新規開業者の支援に取り組む
	R6	・地域商業等支援事業（移動販売・買い物不便対策事業補 助 申請：0件） 【予算】 2,733 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き補助制度の活用により起業、開業の支援に取 り組む
	R7	・地域商業等支援事業（移動販売・買い物不便対策事業補 助 申請：0件） 【予算】 6,000 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き補助制度の周知に努め起業や開業等の支援に 取り組む
③ 事業者の相談支援体制の 強化	R3	・商工会を中心とした事業者の窓口対応。 【予算】 5,285 千円 【決算】 5,285 千円	B	・商工会と連携した事業者の相談対応。 ・商工会との定期的な情報共有。
	R4	・商工会を中心とした事業者の窓口対応 【予算】 5,220 千円 【決算】 5,220 千円	B	・商工会と定期的な協議の場を持ち情報共有を行う
	R5	・商工会を中心とした事業者の窓口対応 【予算】 5,000 千円 【決算】 4,943 千円	B	・商工会との定期的な協議による情報共有、町内事業者 の現況把握を図った
	R6	・商工会を中心とした創業、事業承継、空き店舗等の相談 窓口対応 【予算】 5,135 千円 【決算】 5,135 千円	B	・商工会と定期的な協議を行うとともに、情報共有や町 内事業者の現況把握を実施した
	R7	・商工会を中心とした創業、事業承継、空き店舗等の相談 窓口対応 【予算】 5,457 千円 【決算】 5,457 千円	A	・商工会と定期的な協議を行うとともに、情報共有や町 内事業者の現況把握を実施した ・R8年度から川本町商工会に集落支援員として1名 配置し、空き家、空き店舗対策や商店街活動活性化、商 店街の情報発信等を担う

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	08	基本施策名	商工業・サービス業の振興	施策の方向性	新たなサービス業の振興	3/4
----------------	----	-------	--------------	--------	-------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 特定地域づくり事業協同組合の運営支援	R3	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・組合設立について検討を進めたが、事業者へのヒアリング等から現時点では需要が乏しいため設立を見送った。 ・国や県等と情報交換を行いながら引き続き検討を進める。
	R4	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度に続き全国や近隣の導入事例を見ながら検討を進めたが、事業者ニーズが不足している等の理由から導入には至っていない。
	R5	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に続き導入には至っていない。 ・全国や近隣の導入事例、補助事業等を参考に調整、検討が必要。
	R6	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度以降、全国や近隣の導入事例、補助事業等を参考に検討するものの、取り組みに向けた前進には至っていない。
	R7	・協同組合の設立に向けた検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・協同組合設立に向けて、まちづくり推進課とともに協議検討を進めた。 ・来年度は、令和9年度中の設立に向けて、先進地視察の実施や派遣先企業の選定など設立準備にとりかかる。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	08	基本施策名	商工業・サービス業の振興	施策の方向性	新たなサービス業の振興
-------------	----	-------	--------------	--------	-------------

4/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 空き店舗対策の充実	R3	・商工会による空き店舗データベースHP「つながる、かわもと」の運営 空き店舗掲載件数：4件 【予算】 3,870 千円 【決算】 1,964 千円	B	・空き店舗を活用した進出事業者の情報収集。 ・新たな活用可能な空き店舗の把握。
	R4	・商工会による空き店舗データベースHP「つながる、かわもと」の運営 空き店舗掲載件数：4件 ・商工会を窓口とした空き店舗相談対応 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・新たな活用可能空き店舗の把握
	R5	・地域商業等支援事業費補助金の活用 実績：1件 ・商工会による空き店舗データベースHP「つながる、かわもと」運営 ・商工会を窓口とした空き店舗相談対応 【予算】 4,000 千円 【決算】 678 千円	B	・補助金活用による新規開業：1件 ・商工会と連携し、活用可能な空き店舗等の把握、選定を進める
	R6	・地域商業等事業費補助金（継続：1件） ・商工会による空き店舗HP「つながる、かわもと」の運営及びかわもと暮らしHPへのリンク掲載 ・商工会、かわもと暮らしとの定例連絡会開催による情報共有 【予算】 742 千円 【決算】 742 千円	B	・補助金活用による開業継続：1件 ・商工会やかわもと暮らしと連携し、活用可能な空き店舗等の把握、選定を進める
	R7	・地域商業等事業費補助金（新規：2件） ・商工会による空き店舗HP「つながる、かわもと」の運営及びかわもと暮らしHPへのリンク掲載 ・商工会、かわもと暮らしとの定例連絡会開催による情報共有 【予算】 6,000 千円 【決算】 4,897 千円	B	・補助金の活用による開業：2件 ・商工会やかわもと暮らしと連携し、月1回の定例会による情報共有。活用可能な空き店舗等の把握に努める
② 旧JR石見川本駅周辺の利活用の検討	R3	・観光協会によるレールバイクイベント等の実施 ・交流人口拡大推進事業補助金（かわもと暮らし） 【予算】 26,500 千円 【決算】 19,210 千円	B	・イベント実施による賑わい創出。
	R4	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金（かわもと暮らし） 【予算】 15,050 千円 【決算】 15,050 千円	B	・継続的なイベント実施による賑わい創出
	R5	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金（かわもと暮らし） 【予算】 17,250 千円 【決算】 16,750 千円	B	・継続的なイベント実施による賑わい創出
	R6	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金（かわもと暮らし） 【予算】 23,550 千円 【決算】 22,775 千円	B	・継続的なイベント実施による賑わい創出
	R7	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金（かわもと暮らし） 【予算】 29,134 千円 【決算】 29,134 千円	B	・継続的なイベント実施による賑わい創出。 ・三江線全線開通50周年イベントが広域的に開催され、多くの方が石見川本駅にも来場。
③ まちの魅力化助成の導入	R3	・レールバイクイベントへの高校生スタッフの参加。 ・弓市ストアの開催。 【予算】 950 千円 【決算】 950 千円	B	・商店街、駅舎等を活用したイベント実施者の発掘。 ・イベント実施に対する助成制度の検討。
	R4	・レールバイク、アウトドアイベント、イルミネーション点灯式への高校生スタッフの参加 【予算】 950 千円 【決算】 950 千円	B	・商店街との関わり方の検討。 ・助成制度の検討。
	R5	・レールバイク、アウトドアイベント、イルミネーション点灯式への高校生スタッフの参加 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・商店街との関わり方の検討。 ・助成制度の検討。
	R6	・レールバイク、アウトドアイベント、イルミネーション点灯式への高校生スタッフの参加 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・商店街との関わり方の検討。 ・助成制度の検討。
	R7	・レールバイク、アウトドアイベント実施 ・イルミネーション点灯式（予定） 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・各種イベントを計画通り実施 ・今後、施設管理者や事業者等を巻き込んだ活動の検討

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・起業支援

基本施策番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
09	経済循環の向上	P56～57	産業振興課

施策の方針	域内経済の活性化を図るため、町内消費者や事業所・施設などによる町内調達を推進し、町内での商取引の拡大促進を図るとともに、町内産品の町外への販売促進を図り、経済循環を高めます。
施策の方向性	・地元事業者への支援の充実 ・新たなサービス業の振興 ・町の拠点エリアの魅力向上

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
電子決済導入事業者（店舗）数 【累計値】（単位：件）	目標値	20	60	70	75	80
	実績値	20	61	60	60	60
	達成率	100%	101.7%	85.7%	80.0%	75%
道の駅への新規出荷組合員数 【累計値】（単位：人）	目標値	1	1	1	1	3
	実績値	2	3	10	17	6
	達成率	200%	300.0%	1000.0%	1700.0%	200%
道の駅かわもとの売上高 【単年度値】（単位：百万円）	目標値	152.8	152.8	152.8	168.1	183.4
	実績値	139.3	151.4	156.5	146.6	157.9
	達成率	91.16%	99.1%	102.4%	87.2%	86.09%

評 価	担当課評価
B	・産直市出荷者と協議などを重ね、道の駅への新規出荷組合員数は目標値を達成することができた。 ・道の駅への来店者は横ばいであるが、食堂と売店の来店者数は減少している。引き続き施設の魅力向上を推進し、次年度以降も更なる増加を目指すため継続する。

評 価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・道の駅の来客者減や売上減の要因分析と対策を検討すること。 ・6次産業化の助成制度等を活用しながら出荷組合との連携を強化し、商品の開発や組合員数の維持拡大に努めること。 ・商工会と連携し、ふるさと納税制度なども活用し、地産地消や来訪者増に繋がる取組を検討すること。 ・指定管理者間の連携による経済循環の効果に期待し、必要なサポートに努めること。

評 価	最終評価（町長、教育長）
B	・圏域内の経済循環の拠点である道の駅のソフト及びハード面の今後のあり方について、昨年度策定した立地適正化計画による方向性を見据え、検討すること。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	09	基本施策名	経済循環の向上	施策の方向性	医療機関を中心とする経済循環の強化	1/4
------------	----	-------	---------	--------	-------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 医療・介護関連物資の町内調達の強化	R3	・町内調達に関する実態把握調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・調査を実施し現状の把握が必要。
	R4	・実態把握、調査方法の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・関連施設における実態と対応可能策の検討
	R5	・実態把握、調査方法の検討 ・商工会との定期的な協議による状況把握 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・関連施設における実態と対応可能策の検討
	R6	・商工会との定期的な協議による状況把握と対応策の検討 【予算】 千円 【決算】 千円	B	・商工会と現状把握や今後の見通しに向け対応策を検討するに留まっている。仁寿会や介護関連事業所とともに、見通しを踏まえた対応に向け継続する。
	R7	・商工会との定期的な協議を進める中で、医療や介護事業者健康関連産業の構築の進展に向け、協議検討を行う。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・仁寿会の病院の移転に伴い、小売業の営業（薬局）にも影響が及んでくると考え、引き続き情報の共有に努める。 ・川本町商工会がヒアリング調査を実施し、その結果分析を通じて、地域経済への影響緩和に向けた具体的な対策（打ち手）を検討する。
② 町内事業者の共同受注の仕組みの構築	R3	・町内調達に関する実態把握調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・調査を実施し現状の把握が必要。
	R4	・商工会との協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・町内事業者の現状と動向の把握。
	R5	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・町内事業者の現状と動向の把握。
	R6	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と協議し、現状把握から今後の見通しを検討するが進展できていない。事業所も含め協議し、共同受注の構築の進展に向け検討を継続する。
	R7	・商工会との定期的な協議を進める中で、共同受注の仕組みについて議論検討を行う。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と協議し、現状把握から今後の見通しを検討するが進展できていない。事業所も含め協議し、共同受注の構築の進展に向け検討を継続する。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	09	基本施策名	経済循環の向上	施策の方向性	道の駅を中心にした経済循環の拡大
------------	----	-------	---------	--------	------------------

2/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地域ブランドの発信拠点としての機能充実	R3	・ SNS等を通じた情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 指定管理業者によるSNSによる情報発信。 ・ 道の駅店内表示(商品ポップ)の作成。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 新たな商品開発の検討。
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 新たな商品開発の検討。
	R6	6次産業化推進事業 【予算】 1,200 千円 【決算】 978 千円	B	・ 商品の新規開発や販路拡大、施設整備等が実施された。実績：7件
	R7	6次産業化推進事業 【予算】 4,000 千円 【決算】 2,936 千円	B	・ 商品の新規開発や販路拡大、施設整備等が実施された。実績：8件
② 「道の駅」への出荷者の確保・育成	R3	・ 生産者出荷組合との意見交換。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 指定管理者を交えた意見交換を行い、現状、ニーズの把握。
	R4	・ 生産者出荷組合との意見交換。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 地域農業再生協議会を通じた意見交換による活動の実施、検討。
	R5	・ 生産者出荷組合との意見交換、視察研修。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 地域農業再生協議会を通じた意見交換、視察研修の実施。
	R6	・ 生産者出荷組合との意見交換、視察研修。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 地域農業再生協議会を通じた意見交換、視察研修を実施。（視察：6/28広島 安芸高田市）
	R7	・ 生産者出荷組合との意見交換、視察研修。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 地域農業再生協議会を通じた意見交換、視察研修を実施（視察：6/27山口 萩市・長門市）。出荷者の知識向上や意識向上を図り、販売方法や商品構成の工夫など行う必要がある。
	R3	 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	09	基本施策名	経済循環の向上	施策の方向性	新たな経済循環の形成
------------	----	-------	---------	--------	------------

3/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 産業連関の把握	R3	・現状把握方法の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携した町内消費等の現状把握方法を検討する。
	R4	・商工会との協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携した町内消費等の現状把握方法を検討する。
	R5	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携した町内消費等の現状把握方法を検討する。
	R6	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携した町内消費等の現状把握方法を検討する。
	R7	・商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	D	・KPI変更により進捗追跡はないため終了した。 ・R8年度において宿泊業開業支援事業にて、民間による宿泊業の開業を支援する。
② 地産地消の推進	R3	・学校給食における町内調達率の調査実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・医療、福祉施設への調査を実施し、現状の把握が必要。
	R4	・実態把握、調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・関連施設における域内消費の実態把握を検討。
	R5	・実態把握、調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・関連施設における域内消費の実態把握を検討。
	R6	・実態把握、調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携し、地元産品の販路について、町内商店（飲食店含む）へ周知するなど検討。
	R7	・実態把握、調査方法の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・毎月商工会との協議の場を実施しており、令和8年度 の加藤病院移転後の影響等にあわせて実態把握についても検討促進。
③ 観光における経済循環の 向上	R3	・江の川流域広域観光連携推進協議会による誘客企画。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・町ならではの体験プログラム等の開発。
	R4	・江の川流域広域観光連携推進協議会による誘客ツアー、 いわみんの実施。 ・観光協会、各施設における電子決済導入。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・旧三江線、駅舎等を活用したイベント等の実施。 ・来訪者の消費喚起策の検討。
	R5	・江の川流域広域観光連携推進協議会による誘客ツアー、 イベント実施及びいわみん参画 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・旧三江線、駅舎等を活用したイベント等の実施。 ・まげなポイント事業による外貨獲得機会の創出
	R6	・江の川流域広域観光連携推進協議会によるイベント等の 実施や「いわみん」への参画 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・旧三江線、駅舎等を活用したイベント等の実施。 ・広域的なイベント連携等により、外貨獲得機会の創出 を検討。
	R7	・江の川流域広域観光連携推進協議会によるイベント等の 実施や「いわみん」への参画 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・旧三江線、駅舎等を活用した広域イベントを開催し、 外貨獲得の機会に寄与。 ・今後もさらなる広域連携等を検討。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	09	基本施策名	経済循環の向上	施策の方向性	新たな経済循環の形成
-------------	----	-------	---------	--------	------------

4/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 新しい物流の仕組みづくり	R3	・ スクールバスを活用した出荷方法の実証実験(ピーマン)	B	・ JA、生産者と連携した実証実験を実施。 ・ 農産物以外の商品、サービスの提供を検討する。 ・ 運送事業者との協議。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	-	B	・ 継続的な実証事業の実施 ・ ピーマン農家の出荷作業の効率化
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	-	D	・ ピーマン農家の出荷作業の効率化を進めたが、生産者の車両で直接出荷するなど、利用者がいないため、終了が望ましい。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	-	-	-
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	-	-	-
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・企業支援

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
10	起業支援・企業誘致の推進	P58～59	産業振興課

施策の方針	起業支援・町外からの企業誘致により、町に新たな力や人材を取り込み、新たな産業の育成を目指します。
施策の方向性	・起業支援の充実 ・企業誘致の推進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町内の起業件数（令和3年度からの累計値）【再掲】 【累計値】（単位：件）	目標値	1	3	4	6	7
	実績値	1	1	3	5	7
	達成率	100%	33.3%	75.0%	83.3%	100%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評価	担当課評価
B	・町内の起業件数は目標値を達成することができ、これも商工会や地域の方と打ち合わせを重ねた結果だと考える。 ・また、地域おこし協力隊員として県外から移住された方で協力隊の任期終了後に町内で起業を考えておられる隊員もおられ、その方々の伴走支援を行う必要がある。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・商工会や（一社）かわもと暮らしなど関係機関と情報交換会を密にし、事業承継や新たなビジネスチャンスにつながる細やかな情報把握に努めること。 ・誘致企業については町内での再投資による雇用拡大に向けて関係を密にして取組を進めること。 ・国の地域未来交付金を活用し、昨年度に引き続き若者や女性にとって魅力のある雇用の場の創出に向けたサテライトオフィス誘致に取り組むとともに、必要に応じ誘因となる施策を検討すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	10	基本施策名	起業支援・企業誘致の推進	施策の方向性	起業支援の充実
-------------	----	-------	--------------	--------	---------

1/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 弓市ビジネスチャレンジコンペティションの継続	R3	・既存事業者の事業継続に注力のため実施せず。 【予算】 152 千円 【決算】 0 千円	C	・新規起業家等の募集ではなく、既存事業者への支援、事業継続策を実施する。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・具体的な取り組みは行っていない
	R5	・R6実施に向けた検討 ・商工会との定期的な協議による事業実施の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会との協議による空き店舗や業種の選定を進める ・R6予算計上（募集経費）
	R6	・商工会との定期的な協議による事業実施の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会との協議による空き店舗や業種の選定を進める ・R7予算計上（提案者募集→審査→決定）
	R7	・商工会との定期的な協議による事業実施の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会との協議による空き店舗や業種の選定を進める ・R8予算計上（提案者募集→審査→決定）
② 起業支援	R3	・しまね産業振興財団等による支援事業、セミナー等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業型地域おこし協力隊への継続的な支援、情報提供。
	R4	・しまね産業振興財団等による支援事業、セミナー等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業家となりうる人材の発掘と継続的な支援及び情報提供の実施。
	R5	・しまね産業振興財団等による支援事業、セミナー等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業家となりうる人材の発掘と継続的な支援及び情報提供の実施。
	R6	・しまね産業振興財団等による支援事業、セミナー等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業家となりうる人材の発掘と継続的な支援及び情報提供の実施。
	R7	・しまね産業振興財団等による支援事業、セミナー等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業家（特に可能性がある「地域おこし協力隊員」）となりうる人材の発掘と継続的な支援及び情報提供の実施。
③ 商工業担い手育成支援事業の強化	R3	・起業型地域おこし協力隊への支援。 【予算】 18,600 千円 【決算】 18,600 千円	B	・任期満了、卒業後の協力隊への継続的な関わり、情報提供。
	R4	・起業型地域おこし協力隊への支援 【予算】 13,966 千円 【決算】 13,966 千円	B	・任期満了後の隊員との継続的な関わり ・起業家となりうる人材の発掘
	R5	・起業型地域おこし協力隊への支援 【予算】 6,266 千円 【決算】 3,566 千円	B	・任期満了後の隊員との継続的な関わり ・各種情報の提供 ・起業家となりうる人材の発掘
	R6	・地域おこし協力隊（起業型）任期満了前後1年以内の隊員の起業を支援 【予算】 1,000 千円 【決算】 1,000 千円	B	・任期満了となった隊員へ起業支援補助金を交付 ・任期満了後の隊員との継続的な関わり ・各種情報の提供
	R7	・起業型地域おこし協力隊への支援（対象者なし） 【予算】 500 千円 【決算】 0 千円	B	・任期満了となった隊員へ起業支援補助金を交付 ・任期満了後の隊員との継続的な関わり ・各種情報の提供。R8は活用見込みあり（2件）

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	10	基本施策名	起業支援・企業誘致の推進	施策の方向性	起業支援の充実
------------	----	-------	--------------	--------	---------

2/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ コワーキングスペースの整備推進	R3	・物件の選定、整備等の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・コワーキングスペースに対するニーズ把握。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R6	・島根県のパンフレット等への記載。 ・チラシを作成し、PRの実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・チラシ等による周知の実施
	R7	・島根県のパンフレット等への記載。 ・チラシを作成し、PRの実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・チラシ等による周知の実施
⑤ 子ども達の起業マインドの養成	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的取組は実施せず。 ・学びの場づくり、機会づくりの検討を進める。
	R4	・高校「まちごとキャンパス学習」による事業所体験。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業した事業者との継続的な関わりが必要。
	R5	・高校「まちごとキャンパス学習」による事業所体験や企業ガイダンスへの参加。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・起業した事業者との継続的な関わり。 ・職業等について知る機会づくりの検討。
	R6	・高校「まちごとキャンパス学習」による事業所体験の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・事業者との継続的な関わり。 ・職業等について知る機会づくりの検討。
	R7	・高校「まちごとキャンパス学習」による事業所体験の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・事業者との継続的な関わりを創出 ・今後は対象生徒以外が職業等について知る機会づくりを要検討
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	10	基本施策名	起業支援・企業誘致の推進	施策の方向性	企業誘致の推進
------------	----	-------	--------------	--------	---------

3/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 株式会社三協の関連企業の誘致の推進	R3	・三協との協議、情報共有の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・三協のニーズ、必要な支援策等の検討。
	R4	・三協との協議、情報共有（広報紙の発行）。 ・植樹イベントの実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的な協議、効果的な支援策の検討が必要。
	R5	・三協との協議、情報共有（広報紙の発行）。 ・植樹イベントの実施や各種イベントへの参加。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的な協議を行い、企業のニーズに合った効果的な支援策の検討が必要。 ・各種イベントの情報発信を行い、継続的に交流を図る。
	R6	・三協との定期的な協議、情報共有の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・定期的な協議の実施 ・企業ニーズに合った支援策の検討 ・各種イベント情報の発信による継続的な交流促進
	R7	・三協との定期的な協議、情報共有の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・定期的な協議の実施 ・企業ニーズに合った支援策の検討 ・各種イベント情報の発信による継続的な交流促進
② IT系企業のサテライトオフィス等の誘致の推進	R3	・かわもとテレワークスペース0to-LaVoへの新規入居(1件) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県等と連携した進出企業の把握。 ・サテライトオフィスに必要な物件選定、整備等の検討。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R6	・県等が実施する企業誘致のPRやパンフレットの作成 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・県「企業立地ガイドブック」及び広島広域都市圏作成パンフレット「ぶちすごい広島広域都市圏！」に掲載し周知した。 ・引き続き周知が必要のため継続する。
	R7	・県等が実施する企業誘致PRやパンフレットの作成 ・サテライトオフィス誘致等の推進に向け、戦略を策定し、企業視察まで繋げる。 【予算】 5,400 千円 【決算】 5,399 千円	B	・昨年度に引き続き、県「企業立地ガイドブック」及び広島広域都市圏作成パンフレット「ぶちすごい広島広域都市圏！」に掲載し周知した。 ・誘致戦略策定を行い、企業視察を目標としていた4社、受け入れた。
③ ターゲットを絞った誘致活動の推進	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的取組は実施せず。 ・ターゲットとする業種の選定を進める。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは実施していない。
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは実施していない。
	R6	・ターゲットとする業種の洗い出しや現状の整理 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ターゲットとする業種の洗い出しや現状を整理し、今後に向け国の交付金を活用した展開ができるよう検討した。 ・交付金の採択が得られれば、検討内容を基に展開するため継続する。
	R7	・川本町にあった誘致戦略を策定し、企業視察実施までを計画。 【予算】 5,400 千円 【決算】 5,399 千円	B	・ターゲットをIT系の企業に絞り、サテライトオフィス誘致戦略を策定した。 ・また、企業視察を2泊3日で開催し、4社参加があったため、引き続きアプローチを続けていく。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	10	基本施策名	起業支援・企業誘致の推進	施策の方向性	企業誘致の推進
------------	----	-------	--------------	--------	---------

4/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 誘致企業の人材確保支援	R3	・ 島根県人材育成コーディネーターとの協議。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 企業のニーズ把握。 ・ 県と連携した企業側への協力依頼。
	R4	・ 島根県人材確保コーディネーターとの協議。 ・ 町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 継続的なガイダンスの開催と参加呼びかけ。
	R5	・ 島根県人材確保コーディネーターとの協議。 ・ 町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 継続的なガイダンスの開催と参加呼びかけ。
	R6	・ 広島広域都市圏の就職促進リーフレットに掲載。 ・ 町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 継続的なガイダンスの開催と参加呼びかけ ・ 県及び広島広域都市圏関係パンフレット等、露出機会の拡大
	R7	・ 広島広域都市圏の就職促進リーフレットに掲載。 ・ 町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 継続的なガイダンスの開催と参加呼びかけ実施 ・ 県及び広島広域都市圏関係パンフレット等、露出機会の拡大を図った。
⑤ 情報通信網の充実	R3	FTTH施設の維持管理。 【予算】 72,233 千円 【決算】 71,228 千円	B	・ 町内一円にFTTHが導入済みのため、現在は既存施設の維持管理が中心。 ・ 今後、最新の通信技術の導入の検討が必要。
	R4	・ FTTH施設の維持管理。 【予算】 74,125 千円 【決算】 73,679 千円	B	・ 町内一円にFTTHが導入済みのため、現在は既存施設の維持管理が中心。 ・ 今後、最新の通信技術の導入の検討が必要。
	R5	・ FTTH施設の維持管理。 【予算】 70,156 千円 【決算】 69,203 千円	B	・ 町内一円にFTTHが導入済みのため、現在は既存施設の維持管理が中心。 ・ 今後、最新の通信技術の導入の検討が必要。
	R6	・ FTTH施設の維持管理。 【予算】 81,668 千円 【決算】 77,266 千円	B	・ 町内一円にFTTHが導入済みのため、現在は既存施設の維持管理が中心。 ・ 今後、最新の通信技術の導入の検討が必要。
	R7	・ FTTH施設の維持管理。 【予算】 127,422 千円 【決算】 125,110 千円	B	・ 町内一円にFTTHが導入済みのため、現在は既存施設の維持管理が中心。 ・ 今後、最新の通信技術の導入の検討が必要。
	R3	 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち（産業）
基本方針	産業育成・起業支援

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
11	雇用機会の充実と安定	P60～61	産業振興課

施策の方針	事業者が人材を確保できるように支援するとともに、すべての人が働きやすく、活躍できるような就労環境の実現を目指します。
施策の方向性	・事業者の人材確保の支援 ・子育て世代が働きやすい環境づくり ・多様な立場・状況に応じた雇用・就業支援 ・誰もがいきいき働ける職場づくり

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町内企業ガイダンスへの参加者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	0	40	45	50	55
	実績値	0	62	88	137	189
	達成率	－ %	155.0%	195.6%	274.0%	343.6%
「かわもと暮らし」における就業相談件数 【単年度値】（単位：人）	目標値	10	10	15	15	20
	実績値	10	3	6	0	3
	達成率	100%	30.0%	40.0%	0.0%	15.0%
「夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業」申請件数 【累計値】（単位：件）	目標値	2	10	20	30	40
	実績値	2	4	9	12	15
	達成率	100%	40.0%	45.0%	40.0%	37.5%

評価	担当課評価
B	・川本中学校及び島根中央高校の生徒向けに企業ガイダンスを実施し、目標値を大幅に超える参加者数となった。令和8年2月には島根労働局と川本町で雇用対策協定を締結。労働力不足、特に若年女性の顕著な傾向が見られ、多様な働き方の実現に向けた人材育成や町内就職に向けても取り組み目標を定め、引き続き関係機関が連携し達成に向けて取り組みを行う。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・深刻な人手不足が継続する中、連携協定を締結した労働局等とともに、若年層等に対する企業情報の発信や、事業者側に魅力ある職場を整備してもらうための意識啓発を継続すること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	11	基本施策名	雇用機会の充実と安定	施策の方向性	事業者の人材確保の支援
------------	----	-------	------------	--------	-------------

1/5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 高校生への町内就職情報等の提供	R3	・雇用促進協議会による会員事業所と進路指導教諭とのガイダンス実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・学校側への継続的なアプローチ。 ・中高生向け町内企業ガイダンスの実施計画。
	R4	・雇用促進協議会による企業と高校との意見交換会の開催。 ・町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・企業と学校をつなぐ場の提供。
	R5	・雇用促進協議会による企業と高校との意見交換会の開催。 ・町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・企業と学校をつなぐ場の提供。 ・情報発信の方法等を検討。
	R6	・雇用促進協議会による企業と高校との意見交換会の開催。 ・町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・企業と学校をつなぐ場の提供。 ・情報発信の方法等を検討。
	R7	・町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・企業と学校をつなぐ場として引き続き開催し、13社の参加があった。
② 新規雇用促進や離職防止支援	R3	・企業人材確保育成支援事業(0件) 【予算】 500 千円 【決算】 0 千円	C	・事業者のニーズを把握し活用しやすい補助制度等の検討が必要。
	R4	・企業人材確保育成支援事業(1件) 【予算】 200 千円 【決算】 91 千円	C	・商工会と連携し、事業者のニーズを把握し活用しやすい補助制度等の検討が必要。
	R5	・企業人材確保育成支援事業(3件) 【予算】 200 千円 【決算】 161 千円	B	・商工会と連携し、事業者のニーズを把握し活用しやすい補助制度等の検討が必要。 ・企業への周知方法等を検討。
	R6	・企業人材確保育成支援事業(2件) 【予算】 200 千円 【決算】 17 千円	B	・活用しやすく、ニーズにあった制度の検討 ・企業への継続的な周知
	R7	・企業人材確保育成支援事業(募集中) 【予算】 200 千円 【決算】 0 千円	B	・商工会と連携した周知を検討。
③ 企業と連携した人材確保支援	R3	・人材確保コーディネーターとの協議。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・事業者のニーズ把握。 ・企業ガイダンス等の実施が必要。
	R4	・人材確保コーディネーターとの協議。 ・町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催。
	R5	・人材確保コーディネーターとの協議。 ・町内企業ガイダンスの開催。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的にコーディネーターと連携。 ・途切れることなく継続的に企業ガイダンスを開催することが必要。
	R6	・島根県人材確保コーディネーターとの情報連携。 ・町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催
	R7	・島根県人材確保コーディネーターとの情報連携。 ・町内企業ガイダンスを開催予定。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・企業ガイダンスの開催 ・人材確保コーディネーターとの意見交換実施

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	1 1	基本施策名	雇用機会の充実と安定	施策の方向性	子育て世代が働きやすい環境づくり
-------------	-----	-------	------------	--------	------------------

2/5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 意識改革の推進	R3	・ 島根県等が主催するセミナー開催の周知。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 雇用促進協議会による継続的な取り組みが必要。
	R4	・ 島根県等が開催する研修、セミナー開催の周知。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 雇用促進協議会、商工会を通じて制度やセミナー開催等の周知、参加促進を図る。
	R5	・ 島根県等が開催するセミナーや制度に関する周知（チラシ配架） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 雇用促進協議会、商工会を通じてセミナーや制度に関する周知を引き続き行う。
	R6	・ 島根県等が開催するセミナーや研修、制度に関する周知の実施（チラシ配架など） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 雇用促進協議会、商工会を通じてセミナーや制度に関する周知を継続
	R7	・ 島根県等が開催するセミナーや研修、制度に関する周知の実施（チラシ配架など） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 雇用促進協議会、商工会を通じてセミナーや制度に関する周知を継続
② 就業規則の改定に向けた支援	R3	・ 国や県制度、法律改正等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 商工会やハローワークと連携した事業者への継続的な情報発信。
	R4	・ 国や県制度、法律改正等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 商工会やハローワークと連携した事業者への継続的な情報発信。
	R5	・ 国や県制度の情報発信（チラシ配架） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 商工会やハローワークと連携した事業者への継続的な情報発信
	R6	・ 国や県制度、法律改正等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 商工会やハローワークと連携した事業者への継続的な情報発信
	R7	・ 国や県制度、法律改正等の情報発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 商工会やハローワークと連携した事業者への継続的な情報発信
	R3	 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	11	基本施策名	雇用機会の充実と安定	施策の方向性	多様な立場・状況に応じた雇用・就業支援
------------	----	-------	------------	--------	---------------------

3/5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 高齢者の再就職支援	R3	・ハローワーク求人情報の公開(町HP、雇用促進協議会HP) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ハローワーク等と連携した高齢者に特化した取り組みの検討が必要。
	R4	・ハローワーク求人情報の公開(町HP、雇用促進協議会HP) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ハローワーク等と連携し、高齢者の就労に対する意識や求職状況の把握が必要
	R5	・ハローワーク求人情報の公開(町HP、雇用促進協議会HP、チラシ配架) ・高齢者向けセミナー等の情報発信(町広報紙掲載) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ハローワーク等と連携し、高齢者の就労に対する意識や求職状況の把握が必要
	R6	・ハローワーク求人情報公開(町HP、雇用促進協議会HP、チラシ配架など) ・セミナー等の情報発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ハローワーク等と連携し、高齢者の就労に対する意識や求職状況の把握が必要
	R7	・ハローワーク求人情報公開(町HP、雇用促進協議会HP、チラシ配架など) ・セミナー等の情報発信 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ハローワークと雇用対策協定を締結、求職状況の把握やR8年度目標達成に向けた取り組みを実施
② 事業者の意識啓発	R3	・県、技術校などの情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・高齢者雇用に関する制度、支援策等の情報収集。
	R4	・県、技術校などの情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・高齢者雇用に関する制度、支援策等の情報収集及び発信
	R5	・県、技術校などの情報提供 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・高齢者雇用に関する制度、支援策等の情報収集及び発信
	R6	・県、技術校などの情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・各種雇用に関する制度、支援等の情報収集及び発信
	R7	・県、技術校などの情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・各種雇用に関する制度、支援等の情報収集及び発信の実施
③ 事業者の意識啓発及び雇用支援	R3	・企業情報2021の発行 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・雇用促進協議会への負担金支出。 ・雇用促進協議会による小中高生向け会員企業情報誌を発行。
	R4	・町内企業ガイダンスの開催 ・高校との意見交換会(雇用促進協議会) 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催。
	R5	・町内企業ガイダンスの開催 ・高校との意見交換会(雇用促進協議会) 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催。
	R6	・町内企業ガイダンスを開催予定。 ・高校進路担当との意見交換会(雇用促進協議会) 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催。 ・学校と企業との交流機会の創出。
	R7	・町内企業ガイダンスを開催予定。 ・進路担当との意見交換予定(雇用促進協議会) 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・継続的な企業ガイダンスの開催による学校と企業との交流機会の創出 ・川本町が事務局を担っている「おおち・さくらえ地域雇用促進協議会」では、R8年度、加入企業から若手社員を集めた「異業種交流会」の開催や求人、離職率にアンケート調査を実施し、状況把握に努める。 ・令和8年2月18日に川本町と島根労働局にて雇用対策協定を締結。女性活躍の推進や若者、雇用に関し具体的な数値目標を掲げ、関係機関との連携しながら取り組みを実施する。

- 【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)
D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	1 1	基本施策名	雇用機会の充実と安定	施策の方向性	多様な立場・状況に応じた雇用・就 業支援
-------------	-----	-------	------------	--------	-------------------------

4/5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 相談体制の充実	R3	・相談体制の検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・他課、関係機関等と連携した体制づくりを進める。
	R4	・相談案件の把握。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・他課、関係機関等と連携した体制づくりの検討が必要。
	R5	・相談案件の把握。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・他課、関係機関等と連携した体制づくりの検討が必要。
	R6	・相談案件の把握。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・他課、関係機関等と連携した体制づくりの検討
	R7	・相談案件の把握。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・かわもと暮らしを通したUIJターン者からの就業相談は3件 ・今後も情報の共有に努めたい。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	11	基本施策名	雇用機会の充実と安定	施策の方向性	誰もがいきいき働ける職場づくり
-------------	----	-------	------------	--------	-----------------

5/5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① ワークライフバランスの推進支援	R3	・雇用促進協議会を通じて会員事業所への情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県や関係機関が実施するセミナー等を周知。
	R4	・雇用促進協議会を通じて会員事業所への情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県や関係機関が実施するセミナー等を周知。
	R5	・雇用促進協議会を通じて会員事業所への情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県や関係機関が実施するセミナー等を周知。
	R6	・雇用促進協議会を通じて会員事業所への情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県や関係機関が実施するセミナー等を周知。
	R7	・雇用促進協議会を通じて会員事業所への情報提供。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・HPやメール等を活用し、県や関係機関が実施するセミナー等を周知
② テレワーク環境の整備支援	R3	・町内テレワークニーズの把握方法検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・町内事業所、施設等のテレワーク利用実態を把握する必要がある。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・具体的な取り組みは行っていない
	R5	・テレワーク拠点施設「オトラボ」の機器更改（PC等）の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・島根県等を通じた施設PRに取り組む
	R6	・テレワーク拠点施設「オトラボ」の機器（PC、タブレット端末など）更改の実施 【予算】 1,500 千円 【決算】 1,485 千円	B	・施設PRの実施 ・導入機器の活用について検討
	R7	・テレワーク拠点施設「オトラボ」の維持、管理 【予算】 148 千円 【決算】 148 千円	B	・経年劣化による修繕を実施
	R3	 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
12	結婚・子育て支援の充実	P62～64	健康福祉課

施策の方針	川本町で生まれ、育つ子ども達と育てる保護者が、川本で子育て出来て良かったと感じることができるよう、きめ細かな子育て支援を進めます。
施策の方向性	・結婚・出産・子育てしやすい環境の充実 ・健やかに子育てする環境の充実 ・地域で支える環境の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
年間出生者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	20	20	20	20	20
	実績値	16	16	14	11	17
	達成率	80.0%	80.0%	70.0%	55.0%	85.0%
保育所待機児童数 【単年度値】（単位：人）	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0	0	0	0
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%
地域住民主体の子育て拠点施設の年間利用者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	250	250	300	350	400
	実績値	0	10	240	363	423
	達成率	0%	4.0%	80.0%	103.7%	105.8%

評価	担当課評価
B	・地域共生社会の実現をめざして三原まちづくりセンターを拠点に、中間支援組織が子育て世代の交流・相談の場として「ここにこ」を開所し、保護者や子どもたち、地域住民の交流の場となっている。R7.8月よりファミリーサポートセンター事業に取り組み、地域での子育て支援を一層、充実できた。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・中間支援組織を中心とする子育て支援拠点における活動が拡充したことによって、子育て支援の充実に寄与したことは評価できる。 ・引き続き充実した子育てしやすい環境づくりに取り組むとともに、出生率増加については広報活動や移住定住施策と連携した取り組みを行うこと。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	12	基本施策名	結婚・子育て支援の充実	施策の方向性	結婚・出産・子育てしやすい環境の 充実	1/4
------------	----	-------	-------------	--------	------------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 結婚支援の充実	R3	・しまね縁結びサポートセンターが実施する、マッチングサイト「しまこ」登録支援イベントへの広報協力 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・近隣市町での「しまこ」登録支援イベントの町内広報にも協力し、町内からも近隣市町への同イベントに参加実績あり。 ・民間事業者が実施するイベント補助はコロナ禍もあり活用なし。 ・引き続き縁結びサポートセンターと連携した広域での支援を行う。
	R4	・しまね縁結びサポートセンターが実施する、マッチングサイト「しまこ」登録支援イベントへの広報協力 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・近隣市町での「しまこ」登録支援イベントの町内広報にも協力し、町内からも近隣市町への同イベントに参加実績あり。 ・民間事業者が実施するイベント補助はコロナ禍もあり活用なし。 ・引き続き縁結びサポートセンターと連携した広域での支援を行う。
	R5	・しまね縁結びサポートセンターが実施する、マッチングサイト「しまこ」登録支援イベントへの広報協力 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・近隣市町での「しまこ」登録支援イベントの町内広報にも協力。 ・引き続き縁結びサポートセンターと連携した広域での支援を行う。
	R6	・しまね縁結びサポートセンターが実施する、マッチングサイト「しまこ」登録支援イベントへの広報協力 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・近隣市町での「しまこ」登録支援イベントの町内広報にも協力。 ・引き続き縁結びサポートセンターと連携した広域での支援を行う。
	R7	・しまね縁結びサポートセンターが実施する、マッチングサイト「しまこ」登録支援イベントへの広報協力 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・近隣市町での「しまこ」登録支援イベントの町内広報にも協力。 ・引き続き縁結びサポートセンターと連携した広域での支援を行う。
② 妊娠、出産及び不妊への支援の充実	R3	・赤ちゃん訪問16件(対象児16名中) ・産後ケア事業 利用実人数5名 ・一般不妊治療費助成2件 ・生殖補助医療費助成3件 ・不育治療費用助成0件 ・男性不妊検査費助成0件 【予算】 2,186 千円 【決算】 955 千円	B	乳児の産後全数訪問を行うことで母子の健康状態を把握することができた。不妊治療に臨まれた結果妊娠された方もいるため、今後も不妊治療を受ける方に対して支援を継続する。
	R4	・妊婦一般健康診査費用14回分無料 ・産婦健康診査費用5,000円/回 実績24件 ・妊婦歯科健診 実績10件 ・赤ちゃん訪問16件(対象児16名中) ・産後ケア事業 利用実人数3名延6回 ・一般不妊治療費助成 1件 ・特定不妊治療費助成 2件 ・生殖補助医療費助成 1件 ・不育治療費用助成 0件 ・男性不妊検査費助成 0件 【予算】 5,017 千円 【決算】 1,969 千円	B	乳児の産後全数訪問を行うことで母子の健康状態を把握することができた。 令和4年度は不妊治療の制度も変わり新たに生殖補助医療費の助成も開始し、実績も1名あった。不妊治療に臨まれた結果妊娠された方もいるため、今後も不妊治療を受ける方に対して支援を継続する。 安心して妊娠・出産できる体制づくりとして、妊婦歯科健診や妊婦健診の助成も継続する。
	R5	・妊婦一般健康診査費用14回分無料 ・産婦健康診査費用5,000円/回 実績18件 ・妊婦歯科健診 実績6件 ・赤ちゃん訪問10件(対象児14名中) ・産後ケア事業 利用実人数1名延7回 ・一般不妊治療費助成 3件 ・生殖補助医療費助成 2件 ・不育治療費用助成 0件 ・男性不妊検査費助成 0件 ・出産子育て応援ギフト 21件 【予算】 6,890 千円 【決算】 2,939 千円	B	里帰り出産や3月出産された方の訪問は年度内に行えなかったが、その他のケースについては全数訪問を行うことで母子の健康状態を把握することができた。 不妊治療に臨まれた結果妊娠された方もいるため、今後も不妊治療を受ける方に対して支援を継続する。 出産子育て応援ギフトによる経済的支援と伴走型支援を組み合わせながらすべての妊産婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう支援を継続する。
	R6	・妊婦一般健康診査費用14回分無料 ・産婦健康診査費用5,000円/回 実績21件 ・妊婦歯科健診 実績1件 ・新生児・こんにちは赤ちゃん訪問実施率100%(令和6年度出生児7名) ・産後ケア事業 利用実人数4名延22回 ・一般不妊治療費助成 2件 ・生殖補助医療費助成 5件 ・不育治療費用助成 0件 ・男性不妊検査費助成 0件 ・出産子育て応援ギフト 23件 【予算】 5,473 千円 【決算】 2,819 千円	B	新生児・乳児の産後全数訪問を行うことで母子の健康状態を把握することができた。産後ケア事業の対象者を産後4か月から1年未満の母子に拡大したところ、利用件数が増加した。 不妊治療に臨まれた結果妊娠された方もいるため、今後も不妊治療を受ける方に対して支援を継続する。 出産子育て応援ギフトは今後妊婦のための支援給付に移行するが、経済的支援と伴走型支援を組み合わせながらすべての妊産婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう支援を継続する。
	R7	・妊婦一般健康診査費用14回分無料 ・産婦健康診査費用5,000円/回 実績25件 ・妊婦歯科健診 実績8件 ・新生児・こんにちは赤ちゃん訪問実施率88% ・産後ケア事業 利用実人数7名延18回 ・一般不妊治療費助成 延4件 ・生殖補助医療費助成 延1件 ・不育治療費用助成 0件 ・男性不妊検査費助成 0件 ・妊婦に対する交通費及び宿泊費助成事業 2件 ・妊婦のための支援給付交付事業など 23件 【予算】 5,548 千円 【決算】 3,105 千円	B	令和7年度はケースによって産後訪問が難しいケースもあったが可能な限り新生児・乳児の産後訪問を行うことで母子の健康状態を把握した。産後ケア事業の利用料を一部無料化したところ、新規の利用者もみられた。 不妊治療に臨まれた結果妊娠された方もいるため、不妊治療の支援は継続する。 すべての妊産婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう支援を継続する。
③ 保育サービスの充実	R3	・各保育所において、延長保育、一時保育、障がい児保育を実施 【予算】 2,686 千円 【決算】 2,056 千円	B	・様々なニーズに対応するため、各保育所において各種保育サービスを実施した。 ・地域交流活動事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。
	R4	・各保育所において、延長保育、一時保育、障がい児保育を実施 【予算】 1,970 千円 【決算】 2,708 千円	B	・様々なニーズに対応するため、各保育所において各種保育サービスを実施した。 ・地域交流活動事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。
	R5	・各保育所において、延長保育、一時保育、障がい児保育を実施 【予算】 3,598 千円 【決算】 3,033 千円	B	・様々なニーズに対応するため、各保育所において各種保育サービスを実施した。
	R6	・各保育所において、延長保育、一時保育、障がい児保育を実施 【予算】 3,594 千円 【決算】 3,397 千円	B	・様々なニーズに対応するため、各保育所において各種保育サービスを実施した。
	R7	・各保育所において、延長保育、一時保育、障がい児保育を実施 【予算】 3,580 千円 【決算】 3,378 千円	B	・様々なニーズに対応するため、各保育所において各種保育サービスを実施した。 ・R8以降は従前サービスに加えてこども誰でも通園制度を開始し、事由に関わらず3歳未満の未就学児の通園を可能とすることで、すべてのこどもの健やかな成長を支援する。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

70 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直し必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取組 評価シート

基本施策番号	1 2	基本施策名	結婚・子育て支援の充実	施策の方向性	結婚・出産・子育てしやすい環境の充実	2/4
--------	-----	-------	-------------	--------	--------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 経済的負担の軽減	R3	・保育料の完全無償化、完全給食事業 ・子ども医療費（高校卒業まで）の全額助成 【予算】 13,836 千円 【決算】 13,457 千円	B	・保育料の完全無償化、完全給食、子ども医療費の全額助成を継続して実施することにより、経済的負担軽減を図った。
	R4	・保育料の完全無償化、完全給食事業 ・子ども医療費（高校卒業まで）の全額助成 【予算】 22,496 千円 【決算】 21,581 千円	B	・保育料の完全無償化、完全給食、子ども医療費の全額助成を継続して実施することにより、経済的負担軽減を図った。 保育料の完全無償化（予算額11,528千円、決算額10,638千円） 完全給食（予算額2,338千円、決算額2,558千円） 子ども医療費の全額助成（予算額8,630千円、実績額8,385千円）
	R5	・保育料の完全無償化、完全給食事業 ・子ども医療費（高校卒業まで）の全額助成 【予算】 23,533 千円 【決算】 23,533 千円	B	・保育料の完全無償化、完全給食、子ども医療費の全額助成を継続して実施することにより、経済的負担軽減を図った。 保育料の完全無償化（予算額10,723千円、決算額14,869千円） 完全給食（予算額2,072千円、決算額2,153千円） 子ども医療費の全額助成（予算額10,738千円、実績額9,710千円）
	R6	・保育料の完全無償化、完全給食事業 ・子ども医療費（高校卒業まで）の全額助成 【予算】 27,084 千円 【決算】 24,305 千円	B	・保育料の完全無償化、完全給食、子ども医療費の全額助成を継続して実施することにより、経済的負担軽減を図った。 保育料の完全無償化（予算額14,211千円、決算額12,671千円） 完全給食（予算額2,558千円、決算額2,491千円） 子ども医療費の全額助成（予算額10,315千円、実績額9,143千円）
	R7	・保育料の完全無償化、完全給食事業 ・子ども医療費（高校卒業まで）の全額助成 【予算】 28,668 千円 【決算】 25,707 千円	B	・保育料の完全無償化、完全給食、子ども医療費の全額助成を継続して実施することにより、経済的負担軽減を図った。 保育料の完全無償化（予算額16,430千円、決算額12,621千円） 完全給食（予算額2,766千円、決算額2,741千円） 子ども医療費の全額助成（予算額9,472千円、実績額10,345千円）
⑤ 乳幼児健診体制の充実	R3	・新生児聴覚検査費用無料化 ・産婦健康診査助成 5,000/回 ・乳児一般健康診査費助成 ・乳幼児健診(集団)の実施/年6回 ・4歳児健診の実施 年2回 ・発達クリニックの実施年3回 【予算】 4,120 千円 【決算】 2,740 千円	B	・法に基づく健診以外に児の成長発達を確認するため2歳児、4歳児健診などを町独自で実施し、児の成長発達を確認し、支援が必要な子や家庭に対し関係機関と連携を図りながら支援を行っていく必要がある。
	R4	・新生児聴覚検査費用無料化 ・乳児一般健康診査費助成 ・乳幼児健診(集団)の実施/年6回 ・4歳児健診の実施 年2回 ・発達クリニックの実施年3回 【予算】 1,276 千円 【決算】 1,001 千円	B	・児の健診や発達クリニックにて児の発育・発達における異常の早期発見につながっている。 ・法に基づく健診以外に児の成長発達を確認するため2歳児、4歳児健診などを町独自で実施し、児の成長発達を確認し、支援が必要な子や家庭に対し関係機関と連携を図りながら支援を行っていく必要がある。
	R5	・新生児聴覚検査費用無料化 ・乳児一般健康診査費助成 ・乳幼児健診(集団)の実施/年6回 ・4歳児健診の実施 年2回 ・発達クリニックの実施年3回 【予算】 1,398 千円 【決算】 989 千円	B	・法に基づく健診以外に児の成長発達を確認するための健診を実施し、要観察となった児のフォローの機会を設けている。児の成長発達を確認し、支援が必要な子や家庭に対し関係機関と連携を図りながら支援を行っていく必要がある。
	R6	・新生児聴覚検査費用無料化 ・乳児一般健康診査費助成 ・乳幼児健診(集団)の実施/年6回 受診率100%(46人/46人 3月末時点) ・4歳児健診の実施 年2回 受診率92.8%(13人/14人 3月末時点) ・発達クリニックの実施年3回 【予算】 1,319 千円 【決算】 1,244 千円	B	・児の健診や発達クリニックにて児の発育・発達における異常の早期発見につながっている。 ・法に基づく健診以外に児の成長発達を確認するための健診を実施し、要観察となった児のフォローの機会を設けている。児の成長発達を確認し、支援が必要な子や家庭に対し関係機関と連携を図りながら支援を行っていく必要がある。
	R7	・新生児聴覚検査費用無料化 ・乳児一般健康診査費助成 ・乳幼児健診(集団)の実施/年6回 受診率100%(53人/53人) ・4・5歳児健診の実施 年2回 受診率100%(23人/23人) ・発達クリニックの実施年3回 【予算】 1,176 千円 【決算】 1,095 千円	B	・児の健診や発達クリニックにて児の発育・発達における異常の早期発見につながっている。 ・法に基づく健診以外に児の成長発達を確認するための健診を実施し、要観察となった児のフォローの機会を設けている。児の成長発達を確認し、支援が必要な子や家庭に対し関係機関と連携を図りながら支援を行っていく必要がある。
⑥ 小児保健医療の充実	R3	採算性が困難な地域である川本町での医療を担う社会医療法人仁寿会加藤病院に財政的支援を実施 【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円	B	国の財政支援として、コロナ禍においても地域医療を支える不採算地域の公的病院等への基準単価が引き上げられたことにより、50,000千円の増額支援を行った。
	R4	採算性が困難な地域である川本町での医療を担う社会医療法人仁寿会加藤病院に財政的支援を実施 【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円	B	令和3年度同様、支援額を増額し財政支援を継続。
	R5	採算性が困難な地域である川本町での医療を担う社会医療法人仁寿会加藤病院に財政的支援を実施 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	B	令和4年度同様、支援額を増額し、更に地域包括ケアシステム構築のためのクラウドシステム環境整備等の必要により支援額を増額し財政支援を継続。
	R6	採算性が困難な地域である川本町での医療を担う社会医療法人仁寿会加藤病院に財政的支援を実施 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	B	令和5年度同様、地域包括ケアシステム構築のためのクラウドシステム環境整備等の必要により財政支援を継続。
	R7	採算性が困難な地域である川本町での医療を担う社会医療法人仁寿会加藤病院に財政的支援を実施 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	B	町内の保小中高の学校医を担い、児童・生徒の健康管理、増進に寄与。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

-71-C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取組 評価シート

基本施策番号	1 2	基本施策名	結婚・子育て支援の充実	施策の方向性	健やかに子育てする環境の充実	3/4
主な取り組み	年度	具体的取組内容		評価	評価の説明	
① 子どもの健康づくり	R3	・乳幼児相談の実施 令和3年度11回実施 ・歯科保健におけるフッ化物塗布、フッ素洗口の実施		B	・児の発育・発達における異常の早期発見や保護者の不安軽減のための相談等のみならず、親と子の、また親同士のコミュニケーションの場としても活用してもらっている。今後も内容の充実を図りながら継続していく。 ・むし歯予防において、早期からのフッ化物塗布が有効であるため、フッ化物塗布、フッ素洗口を無料化し、実施を推進している。	
		【予算】	186 千円	【決算】	160 千円	
	R4	・乳幼児相談の実施 12回実施 ・小児生活習慣病予防教室 小・中学校実施 ・歯科保健におけるフッ化物塗布(3歳、4歳、5歳以上の在宅児が対象) 実績22件 ・フッ素洗口の実施(保育所年中・年長) ・歯の健康教室(保育所)⇒中止		B	・出生の時期や初産婦が少ないなどの理由から乳幼児相談の参加人数が結果として少ない。保護者の不安軽減のための相談等のみならず、親と子、また親同士のコミュニケーションの場としても活用してもらっている。相談の内容の充実を図りながら継続していく。 ・むし歯予防において、早期からのフッ化物塗布が有効であることから、フッ化物塗布・洗口は実施を継続していく。	
		【予算】	274 千円	【決算】	118 千円	
	R5	・乳幼児相談の実施 12回実施 ・小児生活習慣病予防教室 小・中学校実施 ・歯科保健におけるフッ化物塗布(3歳、4歳、5歳以上の在宅児が対象) 実績27件 ・フッ素洗口の実施(保育所年中・年長) ・歯の健康教室(町内全保育所実施)		B	・出産された方の半分程度が乳幼児相談に来所あり。出生の時期や初産婦が少ないなどの理由から乳幼児相談の参加人数が結果として少ない。保護者の不安軽減やフレッシュの場、親同士のコミュニケーションの場として活用してもらっている。相談の内容の充実を図りながら継続していく。 ・むし歯予防において、早期からのフッ化物塗布が有効であることから、フッ化物塗布・洗口は実施を継続していく。	
		【予算】	285 千円	【決算】	175 千円	
	R6	・乳幼児相談の実施年12回実施参加者延82人(3月末時点) ・小児生活習慣病予防教室 小・中学校実施 ・歯科保健におけるフッ化物塗布(3歳、4歳、5歳以上の在宅児が対象) 実績 14件 ・フッ素洗口の実施(保育所年中・年長) ・歯の健康教室(町内全保育所実施)		B	・出生数の減少により、対象者数も減少しているが、対象となる乳幼児のほとんどが参加している。保護者の不安軽減やフレッシュの場、親同士のコミュニケーションの場として活用してもらっている。 ・健康教育により、児童、生徒は日頃の生活習慣を見直し、生活習慣病予防への意識を高めていくことができた。今後も健康的な体づくりを維持できるよう継続的に取り組みを継続する。 ・むし歯予防において、早期からのフッ化物塗布が有効であることから、フッ化物塗布・洗口は実施を継続していく。	
		【予算】	386 千円	【決算】	209 千円	
	R7	・乳幼児相談の実施年12回実施延35人(3月末時点) ・小児生活習慣病予防教室 中学校・高校実施 ・歯科保健におけるフッ化物塗布(3歳、4歳、5歳以上の在宅児が対象) 実績20件 ・フッ素洗口の実施(保育所年中・年長) ・歯の健康教室(町内全保育所実施)		B	・令和7年度は出生数は前年に比べ増加したがR8、1月～3月の出生数が多かったため、相談利用者数は減少した。対象となる乳幼児の半数が参加している。保護者の不安軽減やフレッシュの場、親同士のコミュニケーションの場として活用してもらっている。 ・健康教育により、児童、生徒は日頃の生活習慣を見直し、生活習慣病予防への意識を高めていくことができた。今後も健康的な体づくりを維持できるよう継続的に取り組みを継続する。 ・むし歯予防において、川本町のこどもの一人平均むし歯数は低い状況が続いているため、歯科保健対策も継続していく。	
		【予算】	343 千円	【決算】	232 千円	
② 幼児教育環境の充実	R3	・保育所、学校、地域、保護者や関係機関と連携しながら、幼児教育事業の充実を図る。		B	町内3保育所で実施予定であった地域活動事業については、コロナの影響で中止となった。家庭での絵本の読み聞かせを通した親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学3年生までの子供に絵本を届けた。	
		【予算】	919 千円	【決算】	512 千円	
	R4	・保育所、学校、地域、保護者や関係機関と連携しながら、幼児教育事業の充実を図る。		B	町内3保育所で実施予定であった地域活動事業については、昨年同様コロナの影響で中止となった。家庭での絵本の読み聞かせを通した親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学3年生までの子供に絵本を届けた。	
		【予算】	327 千円	【決算】	231 千円	
	R5	・保育所、学校、地域、保護者や関係機関と連携しながら、幼児教育事業の充実を図る。		B	町内3保育所で地域の方と交流を行う地域活動事業を再開した。家庭での絵本の読み聞かせを通した親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学3年生までの子供に絵本を届けた。	
		【予算】	672 千円	【決算】	632 千円	
	R6	・保育所、学校、地域、保護者や関係機関と連携しながら、幼児教育事業の充実を図る。		B	町内3保育所が地域住民と児童の交流を深めるを事業を行った。家庭での絵本の読み聞かせを通した親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学校3年生までの子供に絵本を届けた。	
		【予算】	722 千円	【決算】	611 千円	
	R7	・保育所、学校、地域、保護者や関係機関と連携しながら、幼児教育事業の充実を図る。		B	町内3保育所が地域住民と児童の交流を深めるを事業を行った。家庭での絵本の読み聞かせを通した親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学校3年生までの子供に絵本を届けた。	
		【予算】	805 千円	【決算】	591 千円	
③ 配慮を要する子どもや家族への支援の充実	R3	・障がい者相談支援事業委託(サポートセンターおおち)		B	・障がい者相談支援事業により、相談体制の整備を行っている。 ・令和3年度に自立支援協議会に発達支援部会を設置し、関係機関が連携して、支援体制の充実を図り、気になるケースについて適宜電話や訪問で対応した。	
		【予算】	1,179 千円	【決算】	1,179 千円	
	R4	・障がい者相談支援事業委託(サポートセンターおおち)		B	・障がい者相談支援事業により、相談体制の整備を行っている。 ・令和3年度に自立支援協議会に発達支援部会を設置し、令和4年度は関係機関の支援者向け研修を行った。今後も連携した支援体制の充実を図ることとしている。	
		【予算】	1,355 千円	【決算】	1,355 千円	
	R5	・障がい者相談支援事業委託(サポートセンターおおち)		B	・障がい者相談支援事業により、相談体制の整備を行っている。 ・令和3年度に自立支援協議会に発達支援部会を設置した。今後も連携した支援体制の充実を図ることとしている。	
		【予算】	2,204 千円	【決算】	2,204 千円	
	R6	・障がい者相談支援事業委託(サポートセンターおおち)		B	・障がい者相談支援事業により、相談体制の整備を行っている。 ・令和3年度に自立支援協議会に発達支援部会を設置した。今後も連携した支援体制の充実を図ることとしている。	
		【予算】	1,688 千円	【決算】	1,632 千円	
	R7	・障がい者相談支援事業委託(サポートセンターおおち)		B	・障がい者相談支援事業により、相談体制の整備を行っている。 ・令和3年度に自立支援協議会に発達支援部会を設置した。今後も連携した支援体制の充実を図ることとしている。	
		【予算】	1,633 千円	【決算】	1,632 千円	

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
13	川本らしい学びの環境の充実	P66～68	教育課

施策の方針	小学校、中学校、高校が1校ずつ町内にあるという特色を活かして、川本の子ども達の成長を地域全体で支えていく取り組みを進めていきます。
施策の方向性	・地域や社会に開かれた教育の推進 ・学ぶ意識の向上・確かな学力の育成 ・教育環境の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
地域社会の魅力や課題について考える学習に対して主体的に取り組んでいると回答した児童の割合（小学生） 【単年度値】（単位：％）	目標値	93.0	94.0	95.0	96.0	97.1
	実績値	88.0	93.0	86.0	89.0	85.5
	達成率	94.6%	98.9%	90.5%	92.7%	88.1%
地域社会の魅力や課題について考える学習に対して主体的に取り組んでいると回答した生徒の割合（中学生） 【単年度値】（単位：％）	目標値	84.0	85.0	86.0	87.0	88.2
	実績値	72.0	90.0	92.0	100.0	94.0
	達成率	85.7%	105.9%	107.0%	114.9%	106.6%
地域社会の魅力や課題について考える学習に対して主体的に取り組んでいると回答した生徒の割合（高校生） 【単年度値】（単位：％）	目標値	57.8	58.8	59.9	60.9	62.0
	実績値	66.0	68.3	72.4	68.8	79.7
	達成率	114.2%	116.2%	120.9%	113.0%	128.5%

評価	担当課評価
B	・学校教育と社会教育との連携により、児童生徒と地域住民との対話の機会創出が進んでいる。具体的には、ジョブカフェ（中1）、かわもと一く（小5、中2）、職業体験（中3）など。また、かわもとあそびを拠点とした異世代交流が進み、地域活動に積極的に参加する生徒も増加。KPIにおいて高校生の目標達成率が向上していることは、小中学校段階での活動の成果と思われる。 ・教育ビジョンを柱として、町全体で子どもの教育に関わる風土の醸成に向けて引き続き取り組む。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・学校教育、社会教育ともに本町ならではの環境整備に努めているところであるが、引き続き教育機関と連携を密にし子どもたちの学びや成長を支える機会の創出に関して必要な課題に細やかに取り組むこと。 ・引き続き地域活動への関心や活動への参加を促すための体制整備に取り組むこと。 ・学校建設にあたっては教育機関や関係者の意見を踏まえ、ハード・ソフト面ともに計画的に検討を進めること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
13	川本らしい学びの環境の充実	P66～68	教育課

施策の方針	小学校、中学校、高校が1校ずつ町内にあるという特色を活かして、川本の子ども達の成長を地域全体で支えていく取り組みを進めていきます。
施策の方向性	・地域や社会に開かれた教育の推進 ・学ぶ意識の向上・確かな学力の育成 ・教育環境の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
情報を、勉強したことや知っていることと関連付けて理解していると回答した中央高校3年生の割合 【単年度値】（単位：％）	目標値	83.0	85.0	88.0	90.0	95.0
	実績値	74.7	79.1	85.7	85.7	73.3
	達成率	90.0%	93.1%	97.4%	95.2%	77.2%
小中学校に配置されたタブレット端末を学習活動に活用した日数の割合 【単年度値】（単位：％）	目標値	20	29	38	47	55
	実績値	46.5	74.5	41.9	52.1	57.5
	達成率	232.5%	256.9%	110.3%	110.9%	104.5%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評価	担当課評価

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）

評価	最終評価（町長、教育長）

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取組 評価シート

基本施策番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	地域や社会に開かれた教育の推進	1/8
--------	----	-------	---------------	--------	-----------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 川本町教育ビジョンの実現と推進体制の整備	R3	・第2期川本町教育ビジョン実施計画策定。 ・第2期川本町教育ビジョンPT会議による協議。	B	・保小中高、社会教育関係者と連携し育てたい子ども像のグランドデザインを作成した。 ・今年度の目的である連携体制が構築できたため、今後は関係機関の連携に向けて協議を進めていく必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小中高のグループによる連携体制の構築。 ・教育講演会の開催。	B	・保小、中高の連携を図るために、グループ会議を開催し、令和5年度以降に実施できる内容を検討した。保小については、令和5年度よりコロナ禍前の内容を再開していくこととした。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、島根大学、鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。参加者は少数であったが、有意義な会となった。
		【予算】 65 千円 【決算】 65 千円		
	R5	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催 ・教育講演会の開催	B	・保小、中高の連携を図るためにグループ会議を開催した。保小については、令和5年度から教員の保育所見学や、年長児と小学校1年生との交流など、コロナ禍前の内容を一部再開した。中高グループは、令和5年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。 ・プロジェクトチームを対象とした保小連携合同研修会を開催し、幼小連携等の情報共有の機会となった。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。
		【予算】 3,113 千円 【決算】 1,446 千円		
	R6	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催	B	・保小については、令和6年度は年長児と小学5年生、年長児と小学校1年生との交流を行った。年長児は小学校の生活について知る機会ができたこと、小学生は自身自身の成長に気づく機会を持てた。中高グループは、令和6年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催	B	・保小の連携体制については、年長児と小学5年生及び小学校1年生との交流を継続して行った。交流活動を継続して開催することで、互いの生活の場を知ることができ、関係づくりにつながった。 ・「探求フェスタ」を開催し、町内の小中高生それぞれの段階に応じた学びの発表の場を持つことが出来た。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 地域資源を活かした教育の推進	R3	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーデイキャンプの実施（全3回、延べ104名） ・川本町ふるさとカルタの作成（500セット）	B	・総合的な時間を生かして、小学校はエゴマの栽培を体験し、パワーポイント活用し取り組みについてまとめ、他の学年に発表した。中学校は江川太鼓を体験し、文化祭や老人ホームで披露した。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し地域の大人や中高生ボランティアの方々と交流し、関係性づくりを図った。 ・地域教材として、川本町の魅力（自然、文化・暮らし、歴史、観光）に関する事柄を集めたカルタという形に残るものを作成した。カルタを通して地域の魅力を再発見することができる。
		【予算】 1,789 千円 【決算】 1,577 千円		
	R4	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジウィークの実施（全5回、延べ54名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（260セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、小学校では江川太鼓を学び、全校児童、教職員に向けて成果を発表した。中学校では川本町の施設を訪問し、インタビューを行い、パンフレットを作成した。 ・小学生を対象に、町内4カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを小中高校や公民館、福祉施設等へ配布し、公民館活動で実施するなど普及活動に努めた。
		【予算】 900 千円 【決算】 497 千円		
	R5	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジウィークの実施（全4回、延べ79名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（26セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、小学校では江川太鼓を学び、全校児童、教職員に向けて成果を発表した。中学校では川本町の施設を訪問し、交流を深めた。 ・小学生を対象に、町内5カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用しカルタ大会を実施した。
		【予算】 1,297 千円 【決算】 480 千円		
	R6	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジウィークの実施（7月に3日間開催、延べ68名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（9セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、地域のひと・もの・ことを活用した学習を行った。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用しカルタ大会を実施した。
		【予算】 900 千円 【決算】 1,055 千円		
	R7	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジイベントの実施（7月・8月に4日間開催、延べ67名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（17セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、地域のひと・もの・ことを活用した学習を行った。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用し、かわもと暮らし主催でカルタ大会を実施した。
		【予算】 538 千円 【決算】 522 千円		

③ 家庭教育支援の推進	R3	・ K-POP（親子体験プログラム）（3回実施） 【予算】 104 千円 【決算】 75 千円	B	・ 子育て世代の親子を対象に、地域の方や自然とのふれあいを通して、参加者同士で繋がりが不安や疑問を解消する。
	R4	・ K-POP（親子体験プログラム）（4回実施） 【予算】 112 千円 【決算】 112 千円	B	・ 子育て世代の親子を対象に、地域の方や自然とのふれあいを通して、参加者同士で繋がりが不安や疑問を解消する機会を提供できた。 また、新たに計画したプログラムを実施し、新たな人材の出番を創出することができた。
	R5	・ K-POP（親子体験プログラム）（4回実施） 【予算】 127 千円 【決算】 110 千円	B	・ 子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして、年4回実施し、様々な活動の場を提供できた。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。
	R6	・ K-POP（親子体験プログラム）（4回実施予定） 【予算】 144 千円 【決算】 144 千円	B	・ 子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして実施し、様々な活動の場を提供できた。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。
	R7	・ K-POP（親子体験プログラム）（4回実施予定） 【予算】 152 千円 【決算】 152 千円	B	・ 子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして実施し、様々な活動の場を提供できた。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	地域や社会に開かれた教育の推進
------------	----	-------	---------------	--------	-----------------

2/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ キャリア教育の充実	R3	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業計画及び予算措置 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・地域の大人と中学生とが1対1で対話することで「ふるさと」を愛し、地域課題に当事者意識を持ち地域づくりに貢献する」人材の育成を図る目的の事業を令和4年度から開始するにあたり、予算措置に向けて必要な書類等を準備を進め、予算化した。
	R4	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 【予算】 891 千円 【決算】 891 千円	B	・川本中学校2、3年生と地域の大人が1対1での対話をし、一緒にこれまでの人生を振り返り今の自分と向き合いながら、これからの目標について考える授業を行った。生徒も大人も満足度も高く、これからの将来に対する気持ちの変化が見られた。
	R5	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人 第2回：小学生×島根中央高校生（NEW） 【予算】 1,250 千円 【決算】 1,150 千円	B	・中学生と地域の大人との対話では、中学生は今悩んでいることや将来のことについて、親でもない、友達でもない関係性の方と話し、これからの人生のヒントや人とながれるきっかけとなった。 ・小学生と高校生との対話では、小学生にとっては少し先の自分の姿を描き、身近な存在への憧れや将来への動機づけのきっかけとなった。
	R6	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人（11月7日） 第2回：小学生×島根中央高校生（12月11日） 【予算】 1,250 千円 【決算】 1,172 千円	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の大人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
	R7	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：小学生×島根中央高校生（7月10日） 第2回：中学生×地域の大人（11月12日） 【予算】 1,250 千円 【決算】 1,172 千円	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の大人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
⑤ 地域活動の参画支援	R3	・かわもとあそラボの取り組み支援 【予算】 2,231 千円 【決算】 2,231 千円	B	・中高校生の放課後の居場所として「カフェ・オレンジ」を活動拠点に、中高校生と地域の大人とつながりがりくることができるよう教育委員会イベントにボランティアスタッフとして関わり、幅広い世代との交流ができた。
	R4	・かわもとあそラボの取り組み支援 【予算】 5,450 千円 【決算】 5,450 千円	B	・中高校生の活動の場として、教育委員会だけでなく、観光協会等にも協力し連携できる体制を図ることができた。また、小学生をはじめ、自らイベントの企画・運営をすることができ、これからの取り組みの幅を広げることが期待できる。
	R5	・かわもとあそラボの取り組み支援 【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円	C	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。これまでの経験を活かし、一人でじっくり考えたり、仲間と一緒に会話を楽しんだりすることができる場となっている。 ・委託事業として実施しているが、あそラボの認知度と共に活動内容が幅広くなっており、運営方法や行政の関わり方について、R7年度に向けて検討していきたい。
	R6	・かわもとあそラボの取り組み支援 【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円	A	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・いわみ留学に参加し、1名の短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ不足、活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続けていきたい。
	R7	・あそラボ（一社asolab）の取り組み支援 【予算】 9,700 千円 【決算】 9,700 千円	B	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に、毎年行っている中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・6名の大学生短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ・活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続ける。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	学ぶ意識の向上・確かな学力の育成
------------	----	-------	---------------	--------	------------------

3/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 基礎学力の育成	R3	- 派遣指導主事1名の配置による学校支援。 - 英検ジュニアチャレンジ会（3回） - 英語検定、英検jr検定費用助成。	A	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等の学校支援施策を推進するためには、専門性のある指導主事が行った。 - 英検費用助成制度を活用し、小学生向けの英検ジュニアを団体受検することとし、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数6名のうち3名は次のグレード（シルバー）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 - 次年度以降は、意欲ある子どもたちをさらに支援するために、幼児期から取り組める算数・数学検定や漢字検定を英語費用助成制度に加えることとし、支援を拡大する。
		【予算】 2,995 千円 【決算】 2,446 千円		
	R4	「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 英検ジュニアチャレンジ会（3回） - 英語検定、算数・数学検定、漢字検定費用助成 - 算数・数学検定、漢字検定会場設置 - 英検jr検定費用助成 - 学力育成会議の設置・運営	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等の学校支援施策を推進するためには、専門性のある指導主事が行った。 - 英検費用助成制度を活用し、小学生向けの英検ジュニアを団体受検することとし、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数15名のうち11名は次のグレード（シルバー）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」21名、「漢字検定」39名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。今後は、学ぶ意欲のある町民に対して、事前学習や検定料助成を検討する必要がある。
		【予算】 3,587 千円 【決算】 2,923 千円		
	R5	「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 各種検定助成事業（英語、算数・数学、漢字） *英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） *検定会場設置（算数・数学、漢字） - 学力育成会議の設置・運営（2回）	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 - 学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 - 中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 - 小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数は昨年の15名から21名に増え、そのうち13名は次のグレード（シルバー、ゴールド）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」28名、「漢字検定」37名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。今後は、町全体が学ぶ風土を醸成するため、学ぶ意欲のある町民に対する検定助成などを検討していきたい。 - 検定助成について、町が準会場を設置する場合、検定料徴収から補助金交付までの流れが複雑であるため、受検費用の流れを整理し、可能であれば補助制度と町費負担の検定事業との2本立てで実施するようにR7予算から見直しを検討したい。
		【予算】 3,113 千円 【決算】 1,446 千円		
	R6	「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 各種検定助成事業（英語、算数・数学、漢字） *英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） *検定会場設置（算数・数学、漢字） - 学力育成会議の設置・運営（2回）	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 - 学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 - 中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 - 小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者16名のうち9名は次のグレード（シルバー、ゴールド）や英検を目指す受検者も出てきた。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」21名、「漢字検定」27名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。 - 検定助成について、執行方法の効率化を図るため、町が準会場を設置する場合は検定料を徴収せず、令和7年度から町費負担で実施するよう検討中である。また町の準会場を利用しない受検者にも対応できるよう、補助制度は継続するよう調整中である。
		【予算】 2,700 千円 【決算】 1,082 千円		

② 保小中高の連続性を意識した学力向上の推進【教育】	R7	・「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） ・派遣指導主事1名の配置による学校支援 ・各種検定助成事業（英語・算数・数学・漢字） ・英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） ・英語検定と英検5級対策講座（5回） ・検定会場設置（算数・数学・漢字） ・学力育成会議の設置・運営（2回）	B	・児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 ・学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 ・中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 ・小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。毎年度、受検者数の増減はあるものの、低学年からの参加があり、学ぶ意欲のある児童が参加し楽しく学習している。 ・「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。 ・検定助成について、受験者の利便性や事務効率化の観点から、町が準会場を設置する場合は町費負担で実施とし、助成を充実している。
		【予算】 1,553 千円 【決算】 1,089 千円		
	R3	・第2期川本町教育ビジョン実施計画策定。 ・第2期川本町教育ビジョンPT会議による協議。	B	・保小中高、社会教育関係者と連携し、育てたい子ども像のグランドデザインを作成した。 ・学び合い学習に伴う研修を3回実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施となった。
		【予算】 480 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小中高のグループによる連携体制の構築。 ・教育講演会の開催。	B	・保小、中高の連携を図るために、グループ会議を開催し、令和5年度以降に実施できる内容を検討した。保小については、令和5年度よりコロナ禍前の内容を再開していくこととした。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、島根大学教授と鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。参加者は少数であったが、有意義な会となった。
		【予算】 65 千円 【決算】 65 千円		
	R5	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催 ・教育講演会の開催	B	・保小、中高の連携を図るためにグループ会議を開催した。保小については、令和5年度から教員の保育所見学や、年長児と小学校1年生との交流など、コロナ禍前の内容を一部再開した。中高グループは、令和5年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。 ・プロジェクトチームを対象とした保小連携合同研修会を開催し、幼小連携等の情報共有の機会となった。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。
		【予算】 30 千円 【決算】 30 千円		
	R6	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催	B	・保小については、令和6年度は年長児と小学5年生、年長児と小学校1年生との交流を行った。年長児は小学校の生活について知る機会ができたこと、小学生は自分自身の成長に気づく機会を持てた。中高グループは、令和6年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催	B	・保小の連携体制については、年長児と小学5年生及び小学校1年生との交流を継続して行った。交流活動を継続して開催することで、互いの生活の場を知ることができ、関係づくりにつながった。 ・「探求フェスタ」を開催し、町内の小中高校生それぞれの段階に応じた学びの発表の場を持つことが出来た。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		

③ 魅力ある高校カリキュラムの構築	R3	ふるさと学、まちごとキャンパス学習など地域や民間企業の協力のもと実施。ふるさと学においては、令和3年度は実施場所を川本町内に固定せず、美郷町の地域や民間企業に協力により実施	B	・地域や民間企業などと協働した授業を実施 コンソーシアム協働チームによる令和5年度入学者からスタートするカリキュラム編成及びコース再編の検討を実施。 ・地域の特性を活かした魅力あるカリキュラム構築に向け、継続して取り組みを実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	ふるさと学、まちごとキャンパス学習など地域や民間企業の協力のもと実施。ふるさと学においては、令和4年度も引き続き実施場所を川本町内に固定せず、美郷町の地域や民間企業に協力により実施。	B	・地域の特性を活かした魅力あるカリキュラム構築に向け、継続して取り組みを実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	ふるさと学、まちごとキャンパス学習など地域や民間企業の協力のもと実施。ふるさと学においては、令和5年度も引き続き実施場所を川本町内に固定せず、美郷町の地域や民間企業に協力により実施。	B	・地域の特性を活かした魅力あるカリキュラム構築に向け、継続して取り組みを実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	ふるさと学、まちごとキャンパス学習など地域や民間企業の協力のもと実施。ふるさと学においては、令和6年度も引き続き実施場所を川本町内に固定せず、美郷町の地域や民間企業に協力により実施。	B	・地域の特性を活かした魅力あるカリキュラム構築に向け、継続して取り組みを実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	ふるさと学、まちごとキャンパス学習など地域や民間企業の協力のもと実施。ふるさと学においては、令和7年度も引き続き実施場所を川本町内に固定せず、美郷町の地域や民間企業に協力により実施。 また、令和7年度2年生のコース選択より、進学ルートの運用を開始。 10月開講の学習塾と連携した取組により、生徒の学習指導をより個別最適化していく。	B	・地域の特性を活かした魅力あるカリキュラム構築に向け、継続して取り組みを実施。 ・令和6年度入学者（令和7年度の2年生）から新たなカリキュラム及びコース、個別ルートのスタート。 ・令和7年度から高校内に公設民営方式による学習塾「島根中央みらいゼミ」を開講。「特別進学ルート」との連携により、島根中央高校の新たな魅力に繋げていく。
		【予算】 21,000 千円 【決算】 17,540 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	学ぶ意識の向上・確かな学力の育成	4/8
主な取り組み		年度	具体的取組内容		評価	評価の説明
④ 心身の健康づくりと体力の向上	R3	・子育てサポートセンターでの体験活動 ・スポーツ講演会の開催 ・カヌー体験教室の開催	B	・12月に、待ジャパンの清水コーチを招いて講演会を実施。（参加者：140名） ・2030島根国体に向けたジュニア育成事業としてカヌー体験教室を開催（参加者：17名） 引き続き、体力向上に向けて事業の実施が必要である。		
		【予算】 226 千円 【決算】 226 千円				
	R4	・子育てサポートセンターでの体験活動 ・スポーツ講演会の開催 ・スボレク広場の開催	B	・子育てサポートセンターで、小学校低学年を対象に運動教室を3回実施。（参加者：延べ24名） ・3月に、スポーツ講演会として、バスケットボール選手を招いて実施。（体験会参加者33名） ・KSCを中心に、スボレク広場を開催し、クラブやニュースポーツの普及活動を行った。（参加者75名）		
		【予算】 273 千円 【決算】 265 千円				
	R5	・子育てサポートセンターでの体験活動 ・スポーツ講演会の開催 ・スボレク広場の開催	B	・子育てサポートセンターで、長期休業中に体験活動を実施。 ・3月にスポーツ講演会として、女子硬式野球ワールドカップ2023年日本代表の選手3人を講師に実施。 ・KSCを中心に、スボレク広場を開催し、クラブやニュースポーツの普及活動を開催。		
		【予算】 310 千円 【決算】 309 千円				
	R6	・子育てサポートセンター等での体験活動 ・スポーツ講演会の開催 ・スボレク広場の開催	B	・子育てサポートセンターで、長期休業中にスポーツ体験活動を実施。 ・3月にスポーツ講演会として、北京オリンピックバレーボール男子日本代表監督の植田辰哉氏を迎え、講話と実技指導を行っていただいた。（参加人数：150人） ・KSCを中心に、スボレク広場を開催し、クラブやニュースポーツの普及活動を開催。（90名参加）		
【予算】 341 千円 【決算】 318 千円						
R7	・子育てサポートセンター等での体験活動 ・スポーツ講演会の開催 ・スボレク広場の開催	B	・子育てサポートセンターで、長期休業中にスポーツ体験活動を実施。 ・スポーツ講演会として、11月に東京オリンピック3,000m障害へ出場した陸上選手の三浦龍司氏を迎え、子ども陸上教室を開催。（参加人数：112人）また、翌日の町内一周駅伝大会へ招待ランナーとして参加いただいた。 ・KSCを中心に、スボレク広場を開催し、クラブやニュースポーツの普及活動を開催。			
		【予算】 547 千円 【決算】 547 千円				
⑤ 部活動の魅力化	R3	・部活動地域指導者活用支援事業。 ・中学校部活動遠征費補助事業。	B	・吹奏楽部では、地域の指導者を招聘して演奏指導等を受けた。外部指導者を積極的に活用していくため、中学校と連携して方向性を検討する体制を構築する必要がある。		
		【予算】 641 千円 【決算】 528 千円				
	R4	・部活動地域指導者活用支援事業 ・中学校部活動遠征費補助事業	B	・吹奏楽部では、地域の指導者を招聘して演奏指導等を受け、第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会（中学校部門）に出場することができた。また、バレー部も、新たに地域の指導者を招聘して指導等を受けた。外部指導者を積極的に活用していくため、中学校と連携して方向性を検討する体制を構築する必要がある。		
		【予算】 2,334 千円 【決算】 2,171 千円				
	R5	・部活動地域指導者活用支援事業 ・中学校部活動遠征費補助事業	B	・吹奏楽部では、地域の指導者を招聘して演奏指導等を受け、第29回日本管楽合奏コンテスト全国大会（中学校部門）に出場することができた。外部指導者を積極的に活用していくため、中学校と連携して方向性を検討する体制を構築する必要がある。		
		【予算】 2,331 千円 【決算】 2,008 千円				
	R6	・部活動地域指導者活用支援事業 ・中学校部活動遠征費補助事業	B	・吹奏楽部では、地域の指導者を招聘して演奏指導等を受け、第30回日本管楽合奏コンテスト全国大会（中学校部門）に出場することができた。外部指導者を積極的に活用していくため、中学校と連携して方向性を検討する体制を構築する必要がある。		
【予算】 2,750 千円 【決算】 1,920 千円						
R7	・部活動地域指導者活用支援事業 ・中学校部活動遠征費補助事業	B	・吹奏楽部では、地域の指導者を招聘して演奏指導等を受け、上位大会に出場し貴重な体験をすることができた。部活動地域展開も見据え、外部指導者を積極的に活用・連携した体制を構築する必要がある。			
		【予算】 3,138 千円 【決算】 2,830 千円				
⑥ 大学連携の推進	R3	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
	R4	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
	R5	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
	R6	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。		
【予算】 0 千円 【決算】 0 千円						
R7	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にする機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立大学と実施	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びのとしてPRできる、高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組む。			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取組 評価シート

基本施策 番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	学ぶ意識の向上・確かな学力の育成
------------	----	-------	---------------	--------	------------------

5/8

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
⑦ 外国語に親しむ環境づくり	R3	- 英検ジュニア検定助成と英検ジュニアチャレンジ会の実施(3回) - 英語検定助成制度の活用 - 外国語指導助手(ALT)2名配置	B	- 川本小学校に在籍する児童を対象に、英語力および学習意欲の向上を推進するため、検定助成を実施。また、講師によるチャレンジ会(無料学習会)を3回開催し、希望者に対して、学習の仕方や出題のポイントなどを学ぶ機会を提供した。 ※参加者6名(ブロンズ4名、ゴールド2名) - 川本小・中学校の児童生徒、町内在住の高校生を対象に英語検定助成を実施した。対象者には学校を通じて申請書類を送付し、周知を徹底した。小・中学校の児童生徒は可否について確認しているが、高校生についても可否を確認するよう手法を検討する必要がある。 ※助成者87名(中学生68名、高校生19名) - ALT2名(小・中学校各1名)を児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的に配置。ALTは、児童生徒が英会話に触れる機会を増やすため、コミュニケーションを積極的にを行い、児童生徒の外国語能力向上を図った。
		【予算】 10,780 千円 【決算】 10,392 千円		
	R4	- 英検ジュニア検定助成と英検ジュニアチャレンジ会の実施(3回) - 英語検定助成制度の活用 - 外国語指導助手(ALT)2名配置	A	- 川本小学校に在籍する児童を対象に、英語力および学習意欲の向上を推進するため、検定助成を実施。また、講師によるチャレンジ会(無料学習会)を3回開催し、希望者に対して、学習の仕方や出題のポイントなどを学ぶ機会を提供した。 ※参加者15名(ブロンズ13名、シルバー2名) - 川本小・中学校の児童生徒、町内在住の高校生を対象に英語検定助成を実施した。対象者には学校を通じて申請書類を送付し、周知を徹底した。小・中学校の児童生徒は可否を確認しているが、高校生の可否を確認するための手法の検討が必要である。 ※助成者81名(中学生57名、高校生24名) - ALT2名(小・中学校各1名)を児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的に配置。ALTは、児童生徒が英会話に触れる機会を増やすため、コミュニケーションをとっている。児童生徒の外国語能力向上を図るために、地域で外国語に触れる機会の創出を図りたい。
		【予算】 11,584 千円 【決算】 10,164 千円		
	R5	- 英検ジュニア検定助成と英検ジュニアチャレンジ会の実施(3回) - 英語検定助成制度の活用 - 外国語指導助手(ALT)2名配置 - イングリッシュキャンプ開催(小学生対象)1回	B	- 小学生及び未就学児を対象とした英検ジュニア検定と無料学習会を実施。参加者増。 ※参加者21名(ブロンズ10名、シルバー11名) - 小・中学生と高校生を対象に英語検定助成を実施。 ※助成者64名(中学生38名、高校生26名) - ALT2名(小・中学校各1名)を児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的に配置。コロナ禍においては保育所での活動ができなかったが、今後は再開していきたい。 - 公民館活動と英語活動のコラボとして、小学生を対象にイングリッシュキャンプを開催したが、参加者のほとんどが低学年であったため調理実習に意識が向いてしまい、本来の目的に沿わない活動となってしまった。計画段階からALTに参加してもらうなど、英語教育推進の目的達成に向けて内容を見直したい。
		【予算】 11,460 千円 【決算】 9,467 千円		
	R6	- 英検ジュニア検定助成と英検ジュニアチャレンジ会の実施(3回) - 英語検定助成制度の活用 - 外国語指導助手(ALT)2名配置 - イングリッシュキャンプ開催(小学生対象)1回	B	- 小学生及び未就学児を対象とした英検ジュニア検定と無料学習会を実施。 ※参加者16名(ブロンズ6名、シルバー4名、ゴールド6名) - 小・中学生と高校生を対象に英語検定助成を実施。 ※助成者65名(中学生43名、高校生22名) - ALT2名(小・中学校各1名)を児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的に配置。令和6年度よりALTの保育所訪問を再開。毎月3保育所に訪問し、英語の絵本や歌、ゲームを通して楽しく英語に触れる機会を設けている。 - 公民館活動と英語活動のコラボとして、小学生を対象にイングリッシュキャンプを開催した。今回はブックコンサートと共同し、参加者に英語を使って料理を提供するイベントを設け、事前に勉強した提供フレーズを実践することができた。計画段階からALTに参加してもらうことができ、小学生が楽しみながら英語を使うイベントの開催ができた。
		【予算】 11,767 千円 【決算】 9,255 千円		
	R7	- 英検ジュニア検定助成と英検ジュニアチャレンジ会の実施(3回) - 英語検定助成と英検5級対策講座の実施(5回) - 英語検定助成制度の活用 - 外国語指導助手(ALT)2名配置 - イングリッシュキャンプ開催(小学生対象)1回	B	- 小学生及び未就学児を対象とした英検ジュニア検定と無料学習会を実施。 - 小・中学生と高校生を対象に英語検定助成を実施。 - ALT2名(小・中学校各1名)を児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的に配置。令和6年度よりALTの保育所訪問を再開。毎月3保育所に訪問し、英語の絵本や歌、ゲームを通して楽しく英語に触れる機会を設けている。 - 公民館活動と英語活動のコラボとして、小学生を対象にイングリッシュキャンプを開催した。ブックコンサートとの共催を継続し、参加者に英語を使って料理を提供するイベントを設け、事前に勉強した提供フレーズを実践することができた。計画段階からALTに参加してもらうことができ、小学生が楽しみながら英語を使うイベントの開催ができた。
		【予算】 11,057 千円 【決算】 11,024 千円		

- 【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
 B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
 C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)
 D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

主な取組 評価シート

基本施策番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	教育環境の充実	6/8
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① 教職員の資質向上（人材育成）	R3	・小中学校教職員合同研修会（8月） 【予算】 100 千円 【決算】 44 千円	B	・小中学校の教職員を対象に教育委員会主催の研修会を実施しており、令和3年度は「子どもを支えるということ/保護者を支えるということ」についての研修を実施した。 ・今回は、保育所、高校からも参加があり、研修終了後にアンケートをとり、研修テーマの要望などを確認した。 ・小中学校で同じ課題に向き合う良い機会であるので、今後も継続して取り組みたい。		
	R4	・小中学校教職員合同研修会（8月） 【予算】 100 千円 【決算】 43 千円	B	・小中学校の教職員を対象に教育委員会主催の研修会を実施しており、今年度は「通常学級にいる「気になる子どもたち」-その発達的理解と教育指導」についての研修を実施した。 ・コロナ対策として、オンラインでの開催となったが、保育所、高校からも参加があり、教育関係者で同じ研修を受ける機会をもてた。		
	R5	・小中学校教職員合同研修会（8月） 【予算】 100 千円 【決算】 100 千円	B	・小中学校の教職員を対象に教育委員会主催の研修会を実施しており、今年度は「発達障害の理解と対応や支援」についての研修を実施した。 ・保育所から高校まで参加があり、切れ目ない支援体制について共通認識を持てる機会ができた。		
	R6	・小中学校教職員合同研修会（8月） 【予算】 100 千円 【決算】 0 千円	B	・小中学校の教職員を対象に教育委員会主催の研修会を実施しており、今年度は「次へのヒントが見つかるケース会議の活用」についての研修を実施した。実践的な研修で校内で活用できる内容であった。 ・保育所から高校まで参加があり、町内の教育機関で同じ研修を受けることができ、切れ目ない支援体制について共通認識を持てる機会ができた。		
	R7	・小中学校教職員合同研修会（8月） 【予算】 100 千円 【決算】 33 千円	B	・小中学校の教職員を対象に教育委員会主催の研修会を実施しており、今年度は「不登校児童生徒の背景を知る」についての研修を実施した。実践的な研修で校内で活用できる内容であった。 ・保育所から高校まで参加があり、町内の教育機関で同じ研修を受けることができ、切れ目ない支援体制について共通認識を持てる機会ができた。		
② 学びを支える指導体制の充実【教育】	R3	■小学校：学習支援員3名、生活支援員1名、理科観察実験支援員1名、スクール・サポート・スタッフ1名 ■中学校：学習支援員3名、スクール・サポート・スタッフ1名 ■小中学校：ICT支援員1名 【予算】 26,636 千円 【決算】 24,692 千円	A	・支援員の配置によって担任のサポートや児童1人1人へのきめ細かな対応が可能となっている。特別支援学級の児童の支援や介助にあたる生活支援員の役割は大変重要である。また、スクール・サポート・スタッフを配置し、学習プリントの印刷・配布準備などを支援員が担うことで、きめ細やかな指導や教材研究等に注力できる指導体制づくりを図った。 ・中学校では教科担任と学習支援員が連携をとりながら、個々の学習支援と教員のサポートにあたっている。また、学級に入りづらいつい生徒の対応にあたる場面もある。生徒の基礎的・基本的な学習の定着と充実を図るため、現在の体制を継続したい。 ・教職員のICT活用サポートを推進するため、小中学校にICT支援員を配置し、事前準備や後片付け、校内で使用するシステム作成により教員をサポートし、教職員の負担軽減を図った。		
	R4	■小学校：学習支援員3名、生活支援員2名、理科観察実験支援員1名、スクール・サポート・スタッフ1名 ■中学校：学習支援員3名、スクール・サポート・スタッフ1名 ■小中学校：ICT支援員1名 【予算】 28,725 千円 【決算】 27,227 千円	A	・支援員の配置によって担任のサポートや児童1人1人へのきめ細かな対応が可能となっており、きめ細やかな指導や教材研究等に注力できる指導体制づくりが図れた。 ・教職員のICT活用サポートを推進するため、ICT支援員を1名配置しているが、ICT機器の活用促進を図るためには、大変重要な役割となっており、小中学校にそれぞれ1名配置が望ましい。		
	R5	■小学校：学習支援員3名、生活支援員2名、理科観察実験支援員1名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 ■中学校：学習支援員3名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 【予算】 24,775 千円 【決算】 24,619 千円	B	・支援員の配置によって担任のサポートや児童1人1人へのきめ細かな対応が可能となっており、きめ細やかな指導や教材研究等に注力できる指導体制づくりが図れた。 ・教職員のICT活用サポートを推進するため、ICT支援員を1名配置しているが、ICT機器の活用促進を図るためには、大変重要な役割となっており、小中学校にそれぞれ1名配置。		
	R6	■小学校：学習支援員3名、生活支援員2名、理科観察実験支援員1名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 ■中学校：学習支援員3名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 【予算】 36,443 千円 【決算】 33,661 千円	B	・支援員の配置によって担任のサポートや児童1人1人へのきめ細かな対応が可能となっており、きめ細やかな指導や教材研究等に注力できる指導体制づくりが図れた。 ・教職員のICT活用サポートを推進するため、ICT支援員を1名配置しているが、ICT機器の活用促進を図るためには、大変重要な役割となっており、小中学校にそれぞれ1名配置。		
	R7	■小学校：学習支援員3名、生活支援員2名、理科観察実験支援員1名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 ■中学校：学習支援員3名、スクール・サポート・スタッフ1名、ICT支援員1名 【予算】 40,316 千円 【決算】 36,110 千円	B	・支援員の配置によって担任のサポートや児童1人1人へのきめ細かな対応が可能となっており、きめ細やかな指導や教材研究等に注力できる指導体制づくりが図れた。 ・教職員のICT活用サポートを推進するため、ICT支援員を1名配置しているが、ICT機器の活用促進を図るためには、大変重要な役割となっており、小中学校にそれぞれ1名配置。		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	教育環境の充実	7/8
--------	----	-------	---------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
③ 高校の寄宿舎環境の充実	R3	・寮専属コーディネーターの配置（2名） ・感染症対策及び生活環境の向上として、トイレ改修（洋式化）の実施 【予算】 97,827 千円 【決算】 94,027 千円	B	・生徒の成長と生活を支えるための、専任職員配置と施設環境改善を実施。 ・学習交流センター、まちごと魅力化センター合計79名の寄宿生を受入。 ・寄宿舎の魅力向上に向け、寄宿舎生活を通じ生活力、コミュニケーション能力の向上や地域との交流場面の創出に向けた取り組みを実施。
	R4	・寮専属コーディネーターの配置（2名） ・ICT機能の充実として学習交流センター・魅力化センターともにWiFi機器を導入 ・学習交流センターに自転車小屋を設置 【予算】 80,249 千円 【決算】 78,369 千円	B	・生徒の成長と生活を支えるための、専任職員配置と施設環境改善を実施。 ・学習交流センター、まちごと魅力化センター合計68名の寄宿生を受入。 ・寄宿舎の魅力向上に向け、寄宿舎生活を通じ生活力、コミュニケーション能力の向上や地域との交流場面の創出に向けた取り組みを実施。
	R5	・寮専属コーディネーターの配置（2名） ・寮運営マネージャー配置（コンソ予算） 【予算】 80,845 千円 【決算】 78,109 千円	B	・生徒の成長と生活を支えるための、専任職員配置と施設環境改善を実施。 ・学習交流センター、まちごと魅力化センター合計67名の寄宿生を受入。 ・寮運営マネージャーの配置により、生徒の体調不良時等の緊急対応等が円滑。
	R6	・寮専属コーディネーターの配置（2名） ・寮運営マネージャー配置（コンソ予算） ・寄宿舎生活トレーナー配置（コンソ予算） 【予算】 79,422 千円 【決算】 75,526 千円	B	・生徒の成長と生活を支えるための、専任職員配置と施設環境改善を実施。 ・学習交流センター、まちごと魅力化センター合計62名の寄宿生を受入。 ・寮運営マネージャーの配置により、生徒の体調不良時等の緊急対応等が円滑。 ・舎監のリーダーを担う寄宿舎生活トレーナーを新たに配置し、寮生の生活指導体制を強化した。
	R7	・寮専属コーディネーターの配置（1名） ・寮運営マネージャー配置（コンソ予算） ・寄宿舎生活トレーナー配置（コンソ予算） 【予算】 88,314 千円 【決算】 84,277 千円	B	・生徒の成長と生活を支えるための、専任職員配置と施設環境改善を実施。 ・学習交流センター、まちごと魅力化センター合計75名の寄宿生を受入。 ・寮運営マネージャーの配置により、生徒の体調不良時等の緊急対応等が円滑。 ・舎監のリーダーを担う寄宿舎生活トレーナーを配置し、寮生の生活指導体制を強化。
④ 児童・生徒の通学環境の充実	R3	・通学路安全点検（5月）、通学路安全推進会議（9月）。 ・スクールバス運行。 【予算】 31,449 千円 【決算】 29,720 千円	B	・登下校に利用する通学路を児童と関係機関が確認、対応策を検討することで、児童生徒が安心安全に登下校することにつながっており、今後も継続していきたい。 ・小中学校児童生徒、高校生が安心してスクールバスを利用できるよう、学校の意向を反映した時刻表づくり、運転手の管理、委託業者との調整を継続していく必要がある。
	R4	・通学路安全点検（5月）、通学路安全推進会議（9月）。 ・スクールバス運行。 【予算】 31,376 千円 【決算】 30,011 千円	B	・登下校に利用する通学路を児童と関係機関が確認、対応策を検討・実施することで、児童生徒の通学環境の改善を図っている。 ・小中学校児童生徒、高校生が安心してスクールバスを利用できるよう学校、乗務員と情報を共有し、改善を進めている。
	R5	・通学路安全点検（5月）、通学路安全推進会議（10月） ・スクールバス運行 【予算】 30,925 千円 【決算】 30,295 千円	B	・登下校に利用する通学路を児童と関係機関が確認、対応策を検討・実施することで、児童生徒の通学環境の改善を図っている。 ・小中学校児童生徒、高校生が安心してスクールバスを利用できるよう学校、乗務員と情報を共有し、改善を進めている。
	R6	・通学路安全点検（5月）、通学路安全推進会議（10月） ・スクールバス運行 【予算】 42,711 千円 【決算】 42,174 千円	B	・登下校に利用する通学路を児童と関係機関が確認、対応策を検討・実施することで、児童生徒の通学環境の改善を図っている。 ・小中学校児童生徒、高校生が安心してスクールバスを利用できるよう学校、乗務員と情報を共有し、改善を進めている。 ・現在保有するバス車両は購入から10年を経過している車両もあり、計画的な更新が必要である。R6年度は、1台の更新を行った。 ・乗車人数も減少傾向にあり、更新車両のサイズダウン化を図る必要がある。
	R7	・通学路安全点検（6月）、通学路安全推進会議（11月） ・スクールバス運行 【予算】 42,318 千円 【決算】 33,802 千円	B	・登下校に利用する通学路を児童と関係機関が確認、対応策を検討・実施することで、児童生徒の通学環境の改善を図っている。 ・小中学校児童生徒、高校生が安心してスクールバスを利用できるよう学校、乗務員と情報を共有し、改善を進めている。 ・現在保有するバス車両は購入から10年を経過している車両もあり、計画的な更新が必要である。 ・乗車人数も減少傾向にあり、更新車両のサイズダウン化を図る必要がある。 ・スクールバスの安心安全な運行を図るため、車内点検サポートシステムを導入した。

⑤ 地域支援体制の充実	R3	・県外から入学した高校生76名を61世帯のまち親を配置。 ・交流会の場として12月6日まち親交流会を実施（3年生限定で実施）	B	令和3年度県外からの入学生においても、全てにまち親の配置を実施。 コロナの影響で会場の密を避けるため、まち親交流会は3年生限定で実施。 まち親や地域との交流機会の増加が、川本への愛着増につながる事から、高校後援会が主催とした、まち親との交流場面創出に取り組む。
		【予算】 35 千円 【決算】 27 千円		
	R4	・県外から入学した高校生20名を16世帯のまち親を配置。 ・交流会の場として①12月21日（3年生）、②2月3日（1,2年生）まち親交流会を実施	B	令和4年度県外からの入学生においても、すべてにまち親の配置を実施。 コロナの影響で会場の密を避けるため、まち親交流会は3年生と1,2年生で日にちを分けて実施。 まち親や地域との交流機会の増加が、川本への愛着増につながる事から、コンソーシアムが主催とした、まち親との交流場面創出に取り組む。
		【予算】 35 千円 【決算】 28 千円		
	R5	・県外から入学した高校生29名に19世帯のまち親を配置。 ・交流会の場として、12月1日にまち親交流会を実施。	B	令和5年度県外からの入学生においても、すべてにまち親の配置を実施。 まち親交流会は1～3年生同時開催。 まち親や地域との交流機会の増加が、川本への愛着増につながる事から、引き続きコンソーシアムが主催するまち親との交流場面創出に取り組む。
		【予算】 200 千円 【決算】 55 千円		
	R6	・県外から入学した高校生32名のうち、24名に23世帯のまち親を配置。 ・交流会の場として、3年生は11月29日に、1・2年生は2月5日にまち親交流会を実施予定。	B	令和6年度県外からの入学生においても、すべてにまち親の配置を実施。 まち親交流会は1～2年生と3年生でそれぞれ1回ずつ開催。 まち親や地域との交流機会の増加が、川本への愛着増につながる事から、引き続きコンソーシアムが主催するまち親との交流場面創出に取り組む。 新年度は、入学生を対象に4月開催を検討する。
		【予算】 200 千円 【決算】 40 千円		
	R7	・県外から入学した高校生33名のうち、27名に21世帯のまち親を配置。 ・交流機械の場として、1年生を対象に4月23日に、3年生を対象に11月28日に、1・2年生を対象に2月2日に、まち親交流会を実施。	B	令和7年度も県外からの入学生（広島県を除く）全員にまち親の配置を実施。 まち親交流会は入学直後の1年生、卒業前の3年生、年度末の1～2年生を対象にそれぞれ1回ずつ（計3回）開催。 まち親や地域との交流機会の増加が、川本への愛着増につながる事から、引き続きコンソーシアムが主催するまち親との交流場面創出に取り組む。 新年度は、入学生を対象に4月開催を予定。
		【予算】 200 千円 【決算】 50 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	13	基本施策名	川本らしい学びの環境の充実	施策の方向性	教育環境の充実	8/8
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
⑥ 学校危機管理対策の充実	R3	・川本町立学校の緊急時の防災基準の作成。 ・川本町スクールサポートセンター担当者会	B	・暴風、暴風雪、大雨、大雪、洪水の警報が発令されたときの休校や登下校時間の変更等の措置の判断基準を定め、学校と共有した。 ・総務財政課職員や教育委員会職員を講師に、水害時の避難所運営、感染症対策などについて、町の方針等を小中学校の教頭、事務職員、教育委員会で構成する川本町スクールサポートセンター担当者会において情報共有し、学校における対応策を検討した。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
	R4	・川本町スクールサポートセンター担当者会	B	・総務財政課職員や教育委員会職員を講師に、水害時の避難所運営、教職における異物混入対応などについて、町の方針等を小中学校の教頭、事務職員、教育委員会で構成する川本町スクールサポートセンター担当者会において情報共有し、学校における対応策を検討した。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
	R5	・川本町スクールサポートセンター担当者会	B	・総務財政課職員や教育委員会職員を講師に、水害時の避難所運営、教職における異物混入対応などについて、町の方針等を小中学校の教頭、事務職員、教育委員会で構成する川本町スクールサポートセンター担当者会において情報共有し、学校における対応策を検討した。		
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円				
⑦ 安心して学ぶことができる教育環境の整備	R3	・小中学校長寿命化調査。・教育情報化推進計画策定、実施。 ・川本町立学校のあり方検討委員会設置、運営（1回）。	B	・小中学校を今後10年間使用していくうえでの修繕内容について調査を実施し、調査結果に基づいて修繕を実施する。 ・学校でのICT活用を推進していくために、教育情報化推進計画を策定し、学校に対して説明を実施した。学校においては、取組レベル指標を基に、進捗状況を確認している。 ・学校施設の建て替えを含めた今後の学校のあり方を検討していくため、検討委員会を設置し、検討委員会を開催した。令和5年2月を目途に答申をまとめていく。		
		【予算】 3,367 千円 【決算】 3,373 千円				
	R4	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校のあり方検討委員会設置、運営（3回） ・教育情報化推進計画の推進	B	・学校改修事業は、物価の高騰により全項目の改修が完了しなかった。 ・学校施設の建て替えを含めた学校のあり方を検討するため、学校視察、地域公聴会を行い、検討委員会において審議を進め、令和5年5月を目途に答申をまとめる。 ・ICT機器の有効活用を図るため、教育委員会、学校担当者において、教育情報化推進計画の見直しに進め、活用促進を図っている。		
		【予算】 41,250 千円 【決算】 41,250 千円				
	R5	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校のあり方に関する答申を踏まえた方向性の検討 ・教育情報化推進計画の推進	B	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・川本町立学校のあり方検討委員会からの答申(5/31)を受け、小中学校の建替えを具体的に進めるための検討体制について協議した。「基本構想」及び「基本計画」の策定に向けた検討委員会を設置することが決定。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を導入。浜田管内三市三町統一システム。		
		【予算】 21,381 千円 【決算】 20,157 千円				
⑦ 安心して学ぶことができる教育環境の整備	R6	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校建設検討委員会による検討 ・教育情報化推進計画の推進	B	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・学校建設検討委員会を9月に設置して、2回の委員会を開催。主に基本構想について検討を行った。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を令和5年度導入。浜田管内三市三町統一システム。令和6年度より学校での運用開始。		
		【予算】 7,825 千円 【決算】 3,909 千円				
⑦ 安心して学ぶことができる教育環境の整備	R7	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校建設検討委員会による検討 ・教育情報化推進計画の推進	A	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・学校建設検討委員会を3回開催。主に基本構想について検討を行った。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を令和5年度導入。浜田管内三市三町統一システム。令和6年度より学校での運用開始し、業務への利活用を進めている。		
		【予算】 20,498 千円 【決算】 7,857 千円				

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直し必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
14	学び続けられる環境の充実	P70～72	教育課

施策の方針	子どものときから、高齢者になっても、主体的に活動し学び続けられる取り組みを進めて、いつまでもいきいきと暮らしていくことが出来る環境を充実させていきます。
施策の方向性	・社会教育の充実 ・文化活動等の充実・文化財の保護 ・生涯スポーツの推進 ・読書活動の充実 ・国際交流の促進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
公民館活動の参加者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	400	450	500	550	600
	実績値	374	481	435	334	353
	達成率	93.5%	106.9%	87.0%	60.70%	56.00%
体力・運動能力調査の参加者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	55	60	65	70	75
	実績値	50	34	64	59	40
	達成率	90.9%	56.7%	98.50%	84.28%	53.33%
読書の好きな子どもの割合 （小学生） 【単年度値】（単位：%）	目標値	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0
	実績値	83.0	86.0	65.0	82	81
	達成率	97.6%	97.7%	72.20%	91.1%	90%

評価	担当課評価
B	・公民館活動は、事業実施回数を感染症拡大前と同程度に戻すことができています。しかし、参加者数は伸び悩んでいるため、活動内容や周知方法について検討する必要があると考えてる。 ・体力・運動能力調査は、参加者数の減少や固定化が顕著となっていることから、調査目的である、現状を把握・分析しより効果的な社会体育事業の検討には至らないが、今後も町民のニーズを捉えながら効果的な実施方法を検討する必要がある。 ・読書の好きな子どもの割合は、中学生で大幅に増加した。小学生は横ばいであり目標値にも達していないことから、思考力や表現力・創造力を豊かにするため、引き続き継続した取り組みが必要である。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
A	・各種事業の目的に照らし、町民のニーズを踏まえながら効果的な事業の実施内容等について検証すること。 ・町民球場の改修について、財源の確定を含め計画的に進めること。 ・次代を担う人材の育成に向けて、グローバルな視点や感覚を養う機会の創出について検討を行うこと。

評価	最終評価（町長、教育長）
A	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
14	学び続けられる環境の充実	P70～72	教育課

施策の方針	子どものときから、高齢者になっても、主体的に活動し学び続けられる取り組みを進めて、いつまでもいきいきと暮らしていくことが出来る環境を充実させていきます。
施策の方向性	・社会教育の充実 ・文化活動等の充実・文化財の保護 ・障害スポーツの推進 ・読書活動の充実 ・国際交流の促進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
読書の好きな子どもの割合 （中学生） 【単年度値】（単位：％）	目標値	83.0	84.0	85.0	85.0	85.0
	実績値	88.0	71.0	44.0	78	83
	達成率	106.0%	84.5%	51.8%	91.76%	97.64%
	目標値					
	実績値					
	達成率	％	％	％	％	％
	目標値					
	実績値					
	達成率	％	％	％	％	％

評価	担当課評価

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）

評価	最終評価（町長、教育長）

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	社会教育の充実
------------	----	-------	--------------	--------	---------

1/7

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地域づくりを担う人材育成	R3	・かわもと魅了化team定例会（月1回） ・かわもとあそラボの取り組み支援	A	・教育課、観光協会、かわもと暮らし、あそラボ、三原まちセンの担当者が集まり月1回定例会を開催し、各事業について内容の検討や振り返り等を行い、横断的に協力できる体制を構築している。 ・中高校生の放課後の居場所として「カフェ・オレンジ」を活動拠点に、中高校生と地域の大人とつながりづくりができるよう教育委員会イベントにボランティアスタッフとして関わり、幅広い世代との交流ができた。
		【予算】 2,231 千円 【決算】 2,231 千円		
	R4	・かわもと魅了化team定例会（月1回） ・かわもとあそラボの取り組み支援	B	・教育課、観光協会、かわもと暮らし、あそラボ、三原まちセンの担当者が集まり月1回定例会を開催し、各事業について内容の検討や振り返り等を行い連携した事業展開を図ることができている。 ・中高校生の活動の場として、教育委員会だけでなく、観光協会等にも協力し連携できる体制を図ることができた。また、小学生をはじめ、自らイベントの企画・運営をすることができ、これからの取り組みの幅を広げることが期待できる。
		【予算】 5,450 千円 【決算】 5,450 千円		
	R5	・かわもと魅了化team定例会（月1回） ・かわもとあそラボの取り組み支援	B	・教育課、観光協会、かわもと暮らし、あそラボ、三原まちセンの担当者が集まり月2回定例会を開催し、各事業について内容の検討や振り返り等を行い連携した事業展開を図ることができている。 ・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。これまでの経験を活かし、一人でじっくり考えたり、仲間と一緒に会話を楽しんだりすることができるよう場となっている。 ・あそラボの認知度向上とともに活動の幅が広がっており、運営方法や行政の関わり方について検討が必要な時期と思われる。
		【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円		
	R6	・かわもと魅了化team定例会（月1回） ・かわもとあそラボの取り組み支援	A	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・いわみ留学に参加し、1名の短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ不足、活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続けていきたい。
		【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円		
	R7	・あそラボ（一社asolab）の取り組み支援	B	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に、毎年行っている中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・6名の大学生短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ・活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続ける。
		【予算】 9,700 千円 【決算】 9,700 千円		

② 地域資源を活かした教育の推進	R3	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーデイキャンプの実施（全3回、延べ104名） ・川本町ふるさとカルタの作成（500セット）	B	・総合的な時間を生かして、小学校はエゴマの栽培を体験し、パワーポイント活用し取り組みについてまとめ、他の学年に発表した。中学校は江川太鼓を体験し、文化祭や老人ホームで披露した。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し地域の大人や中高生ボランティアの方々と交流し、関係性づくりを図った。 ・地域教材として、川本町の魅力（自然、文化・暮らし、歴史、観光）に関する事柄を集めたカルタという形に残るものを作成した。カルタを通して地域の魅力を再発見することができる。
	R4	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジウィークの実施（全5回、延べ54名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（260セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、小学校では江川太鼓を学び、全校児童、教職員に向けて成果を発表した。中学校では川本町の施設を訪問し、インタビューを行い、パンフレットを作成した。 ・小学生を対象に、町内4カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や大学生との交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを小中高校や公民館、福祉施設等へ配布し、公民館活動で実施するなど普及活動に努めた。
	R5	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジウィークの実施（全4回、延べ79名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（26セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、小学校では江川太鼓を学び、全校児童、教職員に向けて成果を発表した。中学校では川本町の施設を訪問し、交流を深めた。 ・小学生を対象に、町内5カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用しカルタ大会を実施した。
	R6	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジイベントの実施（7月に3日間開催、延べ68名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（9セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、地域のひと・もの・ことを活用した学習を行った。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用しカルタ大会を実施した。
	R7	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジイベントの実施（7月・8月に4日間開催、延べ67名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（17セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、地域のひと・もの・ことを活用した学習を行った。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用し、かわもと暮らし主催でカルタ大会を実施した。
	R7	・総合的な時間を生かした地域学習の実施（小中学校） ・かわもとサマーチャレンジイベントの実施（7月・8月に4日間開催、延べ67名） ・川本町ふるさとカルタの販売数（17セット）	B	・総合的な学習の時間を活用して、地域のひと・もの・ことを活用した学習を行った。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・川本町ふるさとカルタを活用し、かわもと暮らし主催でカルタ大会を実施した。
③ キャリア教育の充実（再掲）	R3	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業計画及び予算措置	B	・地域の大人と中学生とが1対1で対話することで「ふるさとを愛し、地域課題に当事者意識を持ち地域づくりに貢献する」人材の育成を図る目的の事業を令和4年度から開始するにあたり、予算措置に向けて必要な書類等を準備を進め、予算化した。
	R4	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施	B	・川本中学校2、3年生と地域の大人が1対1での対話をし、一緒にこれまでの人生を振り返り今の自分と向き合いながら、これからの目標について考える授業を行った。生徒も大人も満足度も高く、これからの将来に対する気持ちの変化が見られた。
	R5	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人 第2回：小学生×島根中央高校生（NEW）	B	・中学生と地域の大人との対話では、中学生は今悩んでいることや将来のことについて、親でもない、友達でもない関係性の方と話し、これからの人生のヒントや人となりがれるきっかけとなった。 ・小学生と高校生との対話では、小学生にとっては少し先の自分の姿を描き、身近な存在への憧れや将来への動機づけのきっかけとなった。
	R6	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：中学生×地域の大人（11月7日） 第2回：小学生×島根中央高校生（12月11日）	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とつながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
	R7	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：小学生×島根中央高校生（7月10日） 第2回：中学生×地域の大人（11月12日）	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とつながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。
	R7	・多世代対話活動「かわもとーく」の事業の実施 第1回：小学生×島根中央高校生（7月10日） 第2回：中学生×地域の大人（11月12日）	B	・中学生と地域の大人との対話では、町内で働いている様々な職種の人と対話することで自分の将来を考え直す時間ができた。 ・小学生と高校生との対話では、川本出身の高校生が参加し、より小学生にとって身近な存在とつながれたことで将来を考え直すきっかけとなった。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	文化活動等の充実・文化財の保護
------------	----	-------	--------------	--------	-----------------

2/7

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 趣味や生きがいの場づくりと活動支援	R3	・悠々大学開講（全9回、延べ159名）【中央公民館】 ・サロン事業の実施（全11回、延べ135名）【西公民館】 ・三原まちセンマルシェの実施（来場者208名）【三原まちセン】	B	・50歳以上の町民を対象に趣味や教養に関する生涯学習の機会の提供。 ・西公民館区の特に男性をターゲットに西公民館を利用しやすいように健康づくりや介護予防、運動系事業を月1回実施した。 ・サークル活動団体の成果発表や子どもの遊び場の提供等地域のネットワークを生かし、出番づくりとリーダーの人材育成を図った。また、中高生もボランティアスタッフとして参加し、地域の方々と交流し関係性づくりを図った。
		【予算】 563 千円 【決算】 275 千円		
	R4	・悠々大学開講（全8回、延べ154名）【中央公民館】 ・美と健康講座（全6回、延べ118名）【三原&西公民館】 ・三原まちセンマルシェの実施（2回、来場者235名）【三原まちセン】	B	・50歳以上の町民を対象に趣味や教養に関する生涯学習の機会の提供。 ・町内外から多彩な講師をお招きし、様々な角度から「美容」と「健康」をテーマに学ぶ講座を実施し、子育て世代のネットワーク（関係性）を築くことができた。 ・サークル活動団体の成果発表や子どもの遊び場の提供等地域のネットワークを生かし、出番づくりとリーダーの人材育成を図った。また、中高生もボランティアスタッフとして参加し、地域の方々と交流し関係性づくりを図った。
		【予算】 134 千円 【決算】 106 千円		
	R5	・悠々大学開講（全8回、延べ139名）【中央公民館】 ・三原まちセンマルシェの実施（全2回）【三原まちセン】	B	・50歳以上の町民を対象に趣味や教養に関する生涯学習の機会の提供。 ・サークル活動団体の成果発表や子どもの遊び場の提供等地域のネットワークを生かし、出番づくりとリーダーの人材育成を図った。また、中高生もボランティアスタッフとして参加し、地域の方々と交流し関係性づくりを図った。
		【予算】 168 千円 【決算】 67 千円		
② 郷土芸能・伝統文化などの継承	R6	・悠々大学開講（全8回）【中央公民館】 ・鮭の観察会【西公民館】 ・三原まちセンマルシェの実施（全2回）【三原まちセン】	B	・50歳以上の町民を対象に趣味や教養に関する生涯学習の機会の提供。 ・サークル活動団体の成果発表や子どもの遊び場の提供等地域のネットワークを生かし、出番づくりとリーダーの人材育成を図った。また、中高生もボランティアスタッフとして参加し、地域の方々と交流し関係性づくりを図った。 ・西公民館では7つの自主クラブの活動が継続され、町民の生きがいづくりや交流の場、生涯学習の場となっている。
		【予算】 162 千円 【決算】 26 千円		
	R7	・悠々大学開講（全8回）【中央公民館】 ・鮭の観察会【西公民館】 ・三原まちセンマルシェの実施【三原まちセン】	B	・50歳以上の町民を対象に趣味や教養に関する生涯学習の機会の提供。 ・サークル活動団体の成果発表等、地域のネットワークを生かし、出番づくりとリーダーの人材育成を図った。また、中高生もボランティアスタッフとして参加するなど、地域の方々と交流し関係性づくりを図った。 ・西公民館では7つの自主クラブの活動が継続され、町民の生きがいづくりや交流の場、生涯学習の場となっている。7年度は、感染症対策のため実施できていなかった鮭の観察会と学習発表会を開催することができ、より地域交流が活発化された。
		【予算】 162 千円 【決算】 39 千円		
	R3	・無観客配信収録（未実施） ・神楽展示への技術提供	B	・新型コロナウイルス感染症の町内感染拡大により、実施が困難となった。 ・伝統芸能文化を継承するために、発表の場は必須であり町民が伝統芸能に触れる機会を提供していく必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 郷土芸能・伝統文化などの継承	R4	・無観客配信収録 実施	B	・新型コロナウイルス感染症により活動を自粛された団体の発表の場を設ける。伝統芸能文化の継承と次世代育成のため、今後定期的な会館利用も考える必要がある。
		【予算】 780 千円 【決算】 780 千円		
	R5	・悠色ふるさと会館利用時の技術支援	B	・2月に開催された、江川太鼓同好会結成50周年記念公演における舞台技術支援。次世代育成の場として有効活用となった。 ・各団体の自主活動において、要請があった場合に支援するものとなっており、伝統芸能継承の積極的な取組は実施していない。会館利用の使用料減免や技術支援などを継続すると同時に、各団体のニーズ把握に努める。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・悠色ふるさと会館利用時の技術支援	B	・9月に開催された、川本神楽共演大会における舞台技術支援。次世代育成の場として有効活用となった。 ・各団体の自主活動において、要請があった場合に支援するものとなっており、伝統芸能継承の積極的な取組は実施していない。会館利用の使用料減免や技術支援などを継続すると同時に、各団体のニーズ把握に努める。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 郷土芸能・伝統文化などの継承	R7	・各種団体活動支援	B	・悠色神楽フェスタにおける舞台技術支援。次世代育成の場として有効活用となった。 ・各団体の自主活動において、要請があった場合に支援するものとなっており、伝統芸能継承の積極的な取組は実施していない。会館利用の使用料減免や技術支援などを継続すると同時に、各団体のニーズ把握に努める。 ・KAWAMOTO音フェス（旧音楽芸能祭）実施により川本町音楽芸能協会登録団体の活動の発表の場を提供した。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		

③ 文化芸術鑑賞の参加の 機会創出	R3	・映画鑑賞事業として「しまね映画祭」への参加、優秀映画鑑賞、悠邑名画シアターの再開。 ・NHKとの共催による公開収録の誘致。 ・他館との連携による大型公演の誘致。	B	・生の舞台で様々な芸術を鑑賞出来る施設として、より多くの文化芸術だけでなく、風土や町民性に寄り添った分野の鑑賞機会を創出することが必要。
	R4	・映画鑑賞事業として「しまね映画祭」への参加、優秀映画鑑賞、悠邑名画シアターの開催。 ・NHKのど自慢の誘致。 ・音楽座ミュージカル公演実施	B	・新型コロナウイルス感染対策で、さまざまな制限があったが、多くのお客様に来館していただき、文化芸術にふれ楽しんで頂いた。 ・大規模文化施設としての活用方法の見直しと、集客方法の見直しが必要。
	R5	・映画鑑賞事業として「しまね映画祭」への参加、優秀映画鑑賞会、悠邑名画シアターの開催。 ・大衆演劇「宝海劇団」公演開催。 ・宝くじ文化公演ファミリコンサート実施 ・音楽座ミュージカル公演実施 ・ピアノ活用事業の実施	B	・新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことにより、会館内の制限を解除。 ・前年度より多くの事業を開催できた。久しぶりの声を出しての観劇に満足の声を多く聞けた。 ・ピアノ活用事業を再開。好評につき、R6年度は開催回数の増を検討。 ・住民参加型の企画がないが、活動団体のニーズを確認する必要がある。
	R6	・映画鑑賞事業として「しまね映画祭」への参加、優秀映画鑑賞会、悠邑名画シアターの開催。 ・大衆演劇「宝海劇団」公演開催。 ・自衛隊音楽隊コンサート実施 ・ホルンリサイタル実施 ・音楽座ミュージカルワークショップ公演実施 ・ピアノ活用事業の実施	B	・R6年度から大規模鑑賞型の事業から人材育成型の事業へのシフトを行い、限られた予算の中で事業を展開した。 ・R5年度は文化庁の補助金を活用して、ミュージカルの本公演を実施したが、R6年度は補助金が無くなったこともあり、大規模な事業を実施しなかったため、予算額決算額ともに大幅に減額となった。 ・スタインウェイピアノ活用事業は実施回数をこれまでの1回から3回に増やして実施した。どの回もすぐに予約が埋まる人気企画となっており、R7年度は更に実施回数を増やすことを検討し、多くの方にスタインウェイピアノを演奏していただくことや音響効果に優れるホールを体感していただくことで会館の利用率を上げていきたい。
	R7	・映画鑑賞事業 ・悠邑名画シアター、しまね映画祭、優秀映画 ・カルテットアマービレ（クラシックコンサート） ・大衆演劇「宝海劇団」公演 ・トップとガーコのコミカルサーカス ・ピアノ活用事業の実施	B	・昨年度は、音楽の催しだけではなくちいさな子どもから楽しめるサーカス（大道芸）を開催した。会場は小さなお子様から年配の方まで幅広いお客様が来場され、意外と年配の方からの好評のアンケートをうけとった。 ・スタインウェイピアノ活用事業は実施回数をこれまでの3回から6回に増やして実施した。どの回もすぐに予約が埋まる人気企画となっており、R8年度も引き続き、多くの方にスタインウェイピアノを演奏していただくことや音響効果に優れるホールを体感していただくことで会館の利用率を上げていきたい。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策番号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	文化活動等の充実・文化財の保護	3/7
--------	----	-------	--------------	--------	-----------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 文化施設の利活用の推進	R3	・悠昌ふるさと会館のPR動画を作成。吹奏楽団の演奏会に併せて作成することで、技術や設備も紹介することが出来た。 ・収録したDVDを県内外の演劇や音楽関係団体に提供し、今後の利用に繋げる。 【予算】 300 千円 【決算】 220 千円	A	・感染症拡大による行動制限のため、他県団体によるモデル事業としての利用促進が実現出来なかったため、R4年度以降ではPR動画を活用した利用促進戦略を観光協会と連携して実施する。
	R4	・前年度に悠昌ふるさと会館のPR動画を作成。随時県内外の劇団や音楽団体へ提供する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・R5年度も観光協会と連携し、会館利用促進を図る。
	R5	・施設のPR動画を県内劇団、文化施設へ送付 ・公文協地域別ネットワーク会議でのDVD提供 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き観光協会等と連携し、会館利用促進を図る。 ・施設予約システムの導入を計画し、利用者の利便性向上を図る。
	R6	・ふるさと納税を活用した施設利用（スタインウェイピアノ） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・産業振興課と連携しふるさと納税制度を活用したスタインウェイピアノの体験プログラムを新たに創設した。今後活用を図るため広報に努める。
	R7	・ふるさと納税を活用した施設利用（スタインウェイピアノ） ・県内外の大学等に訪問し、ホールのPRを行う。 【予算】 113 千円 【決算】 0 千円	C	・人員不足に伴う業務ひっ迫により訪問に至らず。来年度は調整をしPR活動を実施するように進める。 ・WEBの活用などPR方法を検討し、会館の利用促進を図る。
⑤ 文化財保護	R3	・丸山城跡 除草業務委託（年2回） 除伐業務委託（年1回） 遊具撤去業務委託 ・イズモコバイモ保全管理業務委託 【予算】 1,763 千円 【決算】 1,641 千円	B	・丸山城跡について、除草作業を実施することにより遊歩道が歩きやすくなり、除伐作業により山頂はもとより麓からの眺めもよくなり、登城者が増えている。 ・イズモコバイモの生育保護及び草刈り等による周辺環境の適正な管理により、開花時の見学者へよりよい観察環境を提供している。
	R4	・丸山城跡 除草業務委託（年2回） 除伐業務委託（年1回） ・イズモコバイモ保全管理業務委託 【予算】 250 千円 【決算】 79 千円	B	・丸山城跡について、除草作業を実施することにより遊歩道が歩きやすくなり、除伐作業により山頂はもとより麓からの眺めもよくなり、登城者が増えている。 ・イズモコバイモの生育保護及び草刈り等による周辺環境の適正な管理により、開花時の見学者へよりよい観察環境を提供している。
	R5	・丸山城跡 除草業務委託（年2回） 除伐業務委託（年1回） ・イズモコバイモ保全管理業務委託 ・文化財保護審議会の開催 【予算】 1,473 千円 【決算】 1,087 千円	B	・丸山城跡について、除草作業を実施することにより遊歩道が歩きやすくなり、除伐作業により山頂はもとより麓からの眺めもよくなり、登城者が増えている。 ・観光資源としての活用においては、観光協会や産業振興課が主体であるが、文化財としての価値を損なうことのないよう連携していく。 ・イズモコバイモの生育保護及び草刈り等による周辺環境の適正な管理により、開花時の見学者へよりよい観察環境を提供している。 ・審議会での意見により、温湯城跡の文化財的価値の検討を進める。
	R6	・丸山城跡 除草業務委託（年2回） 除伐業務委託（年1回） ・イズモコバイモ保全管理業務委託 ・文化財保護審議会の開催 【予算】 1,473 千円 【決算】 1,176 千円	B	・丸山城跡について、除草作業を実施することにより遊歩道が歩きやすくなり、除伐作業により山頂はもとより麓からの眺めもよくなり、登城者が増えている。 ・観光資源としての活用においては、観光協会や産業振興課が主体であるが、文化財としての価値を損なうことのないよう連携していく。 ・イズモコバイモの生育保護及び草刈り等による周辺環境の適正な管理により、開花時の見学者へよりよい観察環境を提供している。 ・審議会での意見により、温湯城跡の文化財的価値の協議を行った。
	R7	・丸山城跡 除草業務委託（年2回） 除伐業務委託（年1回） ・イズモコバイモ保全管理業務委託 ・文化財保護審議会の開催 【予算】 1,473 千円 【決算】 1,077 千円	B	・丸山城跡について、除草作業を実施することにより遊歩道が歩きやすくなり、除伐作業により山頂はもとより麓からの眺めもよくなり、登城者が増えている。 ・観光資源としての活用においては、観光協会や産業振興課が主体であるが、文化財としての価値を損なうことのないよう連携していく。 ・イズモコバイモの生育保護及び草刈り等による周辺環境の適正な管理により、開花時の見学者へよりよい観察環境を提供している。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	生涯スポーツの推進
-------------	----	-------	--------------	--------	-----------

4/7

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① スポーツ施設の整備	R3	・ 体育施設の維持管理 ・ 川本運動公園の管理	B	・ 社会体育施設照明器具LED化業務（川本西体育館・武道館・町民球場） ・ 川本運動公園中継ポンプ制御盤取替工事 ・ 川本運動公園受電設備気中開閉器取替等修繕 ・ 利用者の確保に向け、引き続き施設の整備が必要である。 ・ 適切な管理により利用者が増えることは、健康増進等にも繋がる。
		【予算】 13,283 千円 【決算】 12,769 千円		
	R4	・ 体育施設の維持管理 ・ 川本運動公園の管理	B	・ 川本町民プールハウス修繕 ・ 川本町民プールシェルター改修工事 ・ 川本町民球場常用電力ケーブル新設工事 ・ 川本公園管理棟改修工事 ・ 川本西グラウンド防球ネット改修工事 ・ 引き続き施設の整備及び適切な管理を行い、利用者が増加することは健康増進等にもつながる。 ・ 毎月、各体育施設の点検を実施
		【予算】 20,634 千円 【決算】 20,111 千円		
	R5	・ 体育施設の維持管理 ・ 川本運動公園の管理	B	・ 運動公園公衆トイレ浄化槽ブロワー取替等 ・ 毎月、各体育施設の点検を実施。緊急度や危険度に応じて計画的に修繕。
		【予算】 305 千円 【決算】 168 千円		
② スポーツ活動への支援	R6	・ 体育施設の維持管理 ・ 川本運動公園の管理	B	・ 川本西グラウンドの設計管理業務を実施 ・ 川本町民体育館のトイレ改修工事を実施 ・ 毎月、各体育施設の点検を実施。緊急度や危険度に応じて計画的に修繕。
		【予算】 16,670 千円 【決算】 6,356 千円		
	R7	・ 体育施設の維持管理 ・ 川本運動公園の管理	A	・ 川本西グラウンド、川本町民球場の芝育成管理業務を実施。 ・ 毎月、各体育施設の点検を実施。緊急度や危険度に応じて計画的に修繕。 ・ プール設備の老朽化に伴い、令和7年度末を以って町民プールを休止。 ・ 2030年の国スポ開催及び女子野球タウンを見据え川本町民球場の改修に係る基本計画・基本設計を策定。
		【予算】 7,305 千円 【決算】 6,315 千円		
	R3	・ ニューススポーツの振興 ・ かわもとスポーツクラブの支援 ・ カヌー体験教室の開催	B	・ ボッチャの道具を購入し、公民館活動等で指導を実施。 ・ かわもとスポーツクラブへ社会体育事業の委託をし、広報誌の作成により、PR活動の支援をした。また、事務局支援として、各種団体等の調整役を行った。 ・ 2030島根国体に向けたジュニア育成事業として、カヌー体験教室を開催した。（参加者：17名） - 活動状況を把握し、引き続き支援が必要である。
		【予算】 414 千円 【決算】 282 千円		
② スポーツ活動への支援	R4	・ ニューススポーツの普及活動 ・ かわもとスポーツクラブの支援	B	・ 公民館活動として、月1回2会場にてニューススポーツの体験活動を実施。（全16回、延べ41名参加） ・ KSCへ社会体育事業を委託。新規事業として、スポレク広場を開催し、75名参加。
		【予算】 330 千円 【決算】 328 千円		
	R5	・ ニューススポーツの普及活動 ・ かわもとスポーツクラブ（KSC）の支援	B	・ 公民館活動として、月1回各公民館会場にてニューススポーツの体験活動を実施。（延参加者数：154名） ・ KSCへ社会体育事業を委託。スポレク広場を継続開催した。 ・ 学校教育以外での児童生徒のスポーツ活動等を支援するため、遠征費などを助成する「川本町スポーツ大会等出場助成金交付要綱」を制定した。（R6.4.1施行）
		【予算】 330 千円 【決算】 330 千円		
	R6	・ ニューススポーツの普及活動 ・ かわもとスポーツクラブ（KSC）の支援 ・ スポーツ大会出場助成金交付事業	B	・ 月1回各公民館を会場にニューススポーツの体験活動を実施。（延参加者数：148名） ・ KSCへ社会体育事業を委託。スポレク広場を継続開催（参加者：90名） ・ ニューススポーツ普及のため、町内の様々な団体や会社に赴き指導を行った。 ・ スポーツ大会助成金については対象となる団体が無かったが、引き続き制度周知に努める。
		【予算】 597 千円 【決算】 447 千円		
② スポーツ活動への支援	R7	・ ニューススポーツの普及活動 ・ かわもとスポーツクラブ（KSC）の支援 ・ スポーツ大会出場助成金交付事業	B	・ 月1回各公民館を会場にニューススポーツの体験活動を実施。（延参加者数：180名） ・ KSCへ社会体育事業を委託。スポレク広場を継続開催（参加者：106名） ・ ニューススポーツ普及のため、町内の様々な団体や会社に赴き指導を行った。 ・ スポーツ大会助成金については対象となる団体1つあった。昨年度も引き続き制度周知に努める。
		【予算】 597 千円 【決算】 597 千円		

③ スポーツイベントの開催 及び支援	R3	・スポーツ講演会の開催 ・川本町一周駅伝競走大会の開催	B	・侍ジャパンの清水コーチを招いて講演会を実施。（参加者：140名） ・新型コロナウイルス感染症対策を講じて、一周駅伝を開催。開催時期をずらしたため参加チームが少なかった。令和4年度については、例年の時期に開催を予定する。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大等により、イベントが中止となっている。工夫しながら開催や支援をしている。
		【予算】 307 千円 【決算】 307 千円		
	R4	・春夏秋冬を楽しむウォーキングの開催（全4回） ・川本町一周駅伝競走大会の開催 ・スポーツ講演会の開催	B	・全4回。会場を変えながらウォーキングを実施（延べ106名参加） ・11月に、一般の部、自治会の部、中学校の部として、駅伝競走大会を開催。（11チーム参加） ・3月に、スポーツ講演会として、バスケットボール選手を招いて実施。（体験会参加者33名）
		【予算】 496 千円 【決算】 429 千円		
	R5	・春夏秋冬を楽しむウォーキングの開催（全4回） ・川本町一周駅伝競走大会の開催 ・スポーツ講演会の開催 ・スポレク広場開催（かわもとスポーツクラブ主催）	B	・全4回、町内を会場に健康福祉課と共催しウォーキングを実施。町のイベントに合わせて開催する場合もあるが、参加者増が課題。 ・11月に川本町一周駅伝を開催。一般・自治会・中学校・一般女子の部が参加（18チーム参加） ・3月にスポーツ講演会として、女子硬式野球ワールドカップ2023年日本代表の選手3人を講師に実施。（参加人数：200人）
		【予算】 702 千円 【決算】 570 千円		
	R6	・春夏秋冬を楽しむウォーキングの開催（全4回） ・川本町一周駅伝競走大会の開催 ・スポーツ講演会の開催 ・スポレク広場開催（かわもとスポーツクラブ主催）	B	・全4回、町内を会場に健康福祉課と共催しウォーキングを実施。1月は積雪のため中止し、3月に坂町ウォーキングへ参加した。 ・11月に川本町一周駅伝を開催。一般・自治会・中学校・一般女子の部が参加（13チーム参加） ・3月にスポーツ講演会として、北京オリンピックバレーボール男子日本代表監督の植田辰哉氏を迎え、講話と実技指導を行っていただいた。（参加人数：150人）
		【予算】 1,077 千円 【決算】 791 千円		
	R7	・春夏秋冬を楽しむウォーキングの開催 ・川本町一周駅伝競走大会の開催 ・スポーツ講演会の開催 ・陸上教室の開催 ・スポレク広場開催（かわもとスポーツクラブ主催）	B	・全4回、町内を会場に健康福祉課と共催しウォーキングを実施、3月には坂町ウォーキングへ参加した。 ・11月に70周年記念川本町一周駅伝大会を開催。ゲストランナーにオリンピック選手三浦龍司氏を招き、一般・自治会・中学校・一般女子の部が参加し例年に比べ人数が増加した。（21チーム参加） ・駅伝大会の前には、三浦龍司市による子ども陸上教室を開催し、町内及び町外の小中高生が120名参加した
		【予算】 1,426 千円 【決算】 610 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	生涯スポーツの推進
----------------	----	-------	--------------	--------	-----------

5/7

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
スポーツ指導者の確保・ ④ 育成	R3	・かわもとスポーツクラブ等関係団体との連携 ・現状把握	B	・現在、困っている競技団体はないと思われるが、指導者が高齢の競技団体もあり、今後指導者の確保や育成が必要となってくる。 ・部活動指導者の地域移行の動きもあるので、競技団体と一緒に進めていかないといけない。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・かわもとスポーツクラブ等関係団体との連携	B	・クラブによっては、指導者が高齢化しているところもあり、今後指導者の確保や育成が必要となる。 ・スポーツクラブの活動の周知を検討する必要がある。 ・部活動指導者の地域移行の動きもあるため、クラブと学校、教育委員会とが一緒になって検討を進めていかないといけない。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・かわもとスポーツクラブ等関係団体との連携	B	・クラブによっては、指導者が高齢化しているところもあり、今後指導者の確保や育成が必要。 ・スポーツクラブの活動の周知が必要。 ・部活動指導者の地域移行の動きもあるため、クラブと学校、教育委員会とが一緒になって検討が必要。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・かわもとスポーツクラブ等関係団体との連携	B	・クラブによっては、指導者が高齢化しているところもあり、今後指導者の確保や育成が必要。 ・スポーツクラブの活動の周知が必要。 ・部活動指導者の地域移行の動きもあるため、クラブと学校、教育委員会とが一緒になって検討が必要。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・かわもとスポーツクラブ等関係団体との連携	B	・クラブによっては、指導者が高齢化しているところもあり、今後指導者の確保や育成が必要。 ・スポーツクラブの活動の周知が必要。 ・部活動指導者の地域移行に向けて、クラブと学校、教育委員会等関係者で体制づくりについて協議が必要。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	読書活動の充実	6/7
------------	----	-------	--------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 本に親しむ意識の向上や 機会の充実	R3	・おはなし会（４回実施） ・館内のテーマ展示（不定期） ・読書に関するアンケート調査実施（保育所、小中学校） ・お楽しみ袋の実施（３冊セット）	B	・小学生と幼児向けに長期休みを利用しておはなし会と図書館で本を借りるイベントを実施した。また、三原まちセンマルシェにも参加し、館内以外でも実施した。 ・図書館内に季節に応じたテーマや小中学生向けにおすすめの本を展示し、利用者が目に付きやすく手に取りやすいよう工夫した。 ・保育所と小中学校に読み聞かせや読書の状況に関するアンケート調査を行い、結果を基に住民サービスの向上を図った。 ・お楽しみ貸出袋として、書段自分で選ぶことがない本との出会いを提供している。
	R4	・おはなし会（年２回） ・あおぞら図書館まじりの開催 ・館内のテーマ展示（不定期） ・読書に関するアンケート調査実施（保育所、小中学校）	B	・小学生と幼児向けに長期休みを利用しておはなし会と図書館で本を借りるイベントを実施した。（延べ30名参加） ・産業祭りととのコラボ企画である「あおぞら図書館」では、新たな読み聞かせボランティアグループも加わり、ニュースポーツ体験も併せて行い、親子連れで参加する取り組みとなった。 ・保育所と小中学校に読み聞かせや読書の状況に関するアンケート調査を行い、結果を基に住民サービスの向上を図った。
	R5	・おはなし会（年２回） ・あおぞら図書館まじりの開催 ・館内のテーマ展示（不定期） ・読書に関するアンケート調査実施（保育所、小中学校）	B	・小学生と幼児向けに長期休みを利用しておはなし会と図書館で本を借りるイベントを実施した。 ・産業祭りととのコラボ企画である「あおぞら図書館」では、新たな読み聞かせボランティアグループも加わり、親子連れで参加する取り組みとなった。 ・保育所と小中学校に読み聞かせや読書の状況に関するアンケート調査を行い、結果を基に住民サービスの向上を図った。 ・K P 1に掲げる数値（読書が好きな子どもの割合）が小中学生ともに下がっており、原因と対策を検討する。
	R6	・おはなし会（年２回） ・ぶっくんまつり・音楽会の実施 ・館内のテーマ展示（不定期） ・読書に関するアンケート調査実施（保育所、小中学校）	B	・小学生と幼児向けに長期休みを利用しておはなし会と図書館で本を借りるイベントを実施した。 ・「ブックコンサート」では、長坂氏を講師として招き、本の話をつなぎながらコンサートを開催した。読書ボランティアグループによる読み聞かせでは、小学生も読み手として参加し、親子連れで参加する取り組みとなった。 ・保育所保護者と小中学生に読み聞かせや読書の状況に関するアンケート調査を行った。その結果を基に住民サービスの向上を図った。
	R7	・おはなし会（年２回） ・ぶっくんまつり・音楽会の実施 ・館内のテーマ展示（不定期） ・読書に関するアンケート調査実施（保育所、小中学校） ・キッズボランティア講座	B	・小学生と幼児向けに長期休みを利用しておはなし会と図書館で本を借りるイベントを実施した。 ・「ブックコンサート」では、長坂氏を講師として招き、本の話をつなぎながらコンサートを開催した。読書ボランティアグループによる読み聞かせでは、小学生も読み手として参加し、親子連れで参加する取り組みとなった。また、相原氏におめんづくりの講師を依頼し、参加者数の増加に取り組んだ。 ・保育所保護者と小中学生に読み聞かせや読書の状況に関するアンケート調査を行った。その結果を基に住民サービスの向上を図った。 ・今年度から、将来読書活動を推進する人材を育成したいという目的にキッズボランティア講座を実施（8名参加）
② 図書館機能の充実	R3	・スマートフォンアプリ（貸し出しサービスの向上）開始 ・公民館に図書コーナーの設置（２カ所）	B	・非接触による感染リスク軽減と住民サービスの向上を図るため、アプリを開発し、利用者番号を登録することで図書館利用者カードの代わりとして使え、本を借りられるサービスを開始した。 ・西公民館と三原まちづくりセンターに図書館コーナーを設け、身近なところで本を借りられるようにしている。定期的に本の入れ替えも実施している。
	R4	・スマートフォンアプリの普及 ・図書館システムの運用及び保守 ・公民館に図書コーナーの設置（２カ所）	B	・非接触による感染リスク軽減と住民サービスの向上を図るため、スマートフォンアプリを開発し、普及啓発を行っている。利用者からの満足度も高く、登録件数も増えている。（登録件数231件） ・西公民館と三原まちづくりセンターに図書館コーナーを設け、身近なところで本を借りられるようにしている。（絵本も同様）定期的に本の入れ替えも実施している。
	R5	・スマートフォンアプリの普及 ・図書館システムの運用及び保守 ・公民館に図書コーナーの設置（２カ所）	B	・非接触による感染リスク軽減と住民サービスの向上を図るため、スマートフォンアプリを開発し、普及啓発を行っている。利用者からの満足度も高く、登録件数も増えている。 ・西公民館と三原まちづくりセンターに図書館コーナーを設け、身近なところで本を借りられるようにしている。（絵本も同様）定期的に本の入れ替えも実施している。
	R6	・スマートフォンアプリの普及 ・図書館システムの運用及び保守 ・公民館に図書コーナーの設置（２カ所）	B	・非接触による感染リスク軽減と住民サービスの向上を図るため、スマートフォンアプリを開発し、普及啓発を行っている。利用者からの満足度も高い。 ・西公民館と三原まちづくりセンターに図書館コーナーを設け、身近なところで本を借りられるようにしている。（絵本も同様）定期的に本の入れ替えも実施している。
	R7	・スマートフォンアプリの普及 ・図書館システムの運用及び保守 ・公民館に図書コーナーの設置（２カ所）	B	・非接触による感染リスク軽減と住民サービスの向上を図るため、スマートフォンアプリを開発し、普及啓発を行っている。利用者からの満足度も高いが、再度周知をし、利用者増加の取り組みが必要。 ・西公民館と三原まちづくりセンターに図書館コーナーを設け、身近なところで本を借りられるようにしている。（絵本も同様）定期的に本の入れ替えも実施している。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	14	基本施策名	学び続けられる環境の充実	施策の方向性	国際交流の推進
------------	----	-------	--------------	--------	---------

7/7

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① グローバルな意識の醸成	R3	・ 外国語指導助手 (ALT) 2名配置	B	・ コロナ禍のため、国際交流活動が制約される中で、英会話教室や保育所訪問など地域における国際交流活動に参加した。多文化共生に対する理解を育むため、啓発活動を啓発していく必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・ 外国語指導助手 (ALT) 2名配置 ・ 産業祭への参加	B	・ 3年ぶりの産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
		【予算】 10,464 千円 【決算】 9,511 千円		
	R5	・ 外国語指導助手 (ALT) 2名配置 ・ 産業祭への参加	B	・ 産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
		【予算】 10,328 千円 【決算】 8,715 千円		
	R6	・ 外国語指導助手 (ALT) 2名配置 ・ 産業祭への参加	B	・ 産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
		【予算】 9,850 千円 【決算】 8,907 千円		
	R7	・ 外国語指導助手 (ALT) 2名配置 ・ 産業祭への参加	A	・ 産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。 ・ ALTと協力し英語教育推進事業を展開し、児童生徒の英語力と異文化への関心と理解を深めることに取り組んだ。 ・ 外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。 ・ 国際化対応力を備えた人材の育成などを目的に強化事業を立ち上げ、事業内容や体制に係る情報収集や検討を行った。
		【予算】 10,341 千円 【決算】 10,819 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち（教育）
基本方針	子育て・学び環境の充実

基本施策 番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
15	多様性のある地域社会の実現	P74～75	まちづくり推進課

施策の方針	すべての町民がお互いの人権を尊重し、性別・人種・国籍・宗教・価値観の違いや障がいの有無に関わらずお互いを認め合い、それぞれの幸福を追求できる多様性のある地域社会の実現を目指す。
施策の 方向性	・人権意識の定着 ・男女共同参画の推進

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
人権講演会等への参加者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	200	300	400	450	500
	実績値	297	200	278	347	235
	達成率	148.5%	66.7%	69.5%	77.1%	47.0%
町の審議会等への女性の参画率 【単年度値】（単位：％）	目標値	21.9	24.0	26.2	28.4	30.6
	実績値	20.2	24.8	24.5	24.6	25.1
	達成率	92.2%	103.3%	93.5%	86.6%	82.0%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評 価	担当課評価
B	・施策の方針目標を目指し、引き続き意識的な女性の参画や意識啓発に向けた取組を進める。 ・人権講演会について例年通り開催したが、うち1回は感染症により参加者数が減少した。今後も幅広いテーマでの研修が提供できるよう取組を進める。

評 価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・引き続き広報、啓発活動を通じて意識の定着に努め、適宜現状を点検すること。

評 価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番 号	15	基本施策名	多様性のある地域社会の実現	施策の方向性	人権意識の定着	1/3
-------------	----	-------	---------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 学校教育での取り組みの充実	R3	・川本町同和担当者会の開催（年3回） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保育所、小学校、中学校、高等学校及び関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。 ・取組について意見交換やアドバイスをでき、保育や学校教育の場で生かしている。
	R4	・川本町同和担当者会の開催（年3回） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保育所、小学校、中学校、高等学校及び関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。 ・取組について意見交換やアドバイスをでき、保育や学校教育の場で生かしている。
	R5	・川本町同和教育担当者会の開催（年3回） ・人権を考えるつどい12/7 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保、小、中、高と関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。人権教育の取組を共有し、研修会のテーマを協議するなどして、児童生徒や教職員の人権意識啓発につながっている。 ・12月に開催する「人権を考えるつどい」には児童生徒（小中高）の参加を前提にテーマや講師を選定している。
	R6	・川本町同和教育担当者会の開催（年3回） ・人権を考えるつどい（12月5日） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保、小、中、高と関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。人権教育の取組を共有し、研修会のテーマを協議するなどして、児童生徒や教職員の人権意識啓発につながっている。 ・12月に開催する「人権を考えるつどい」には児童生徒（小中高）の参加を前提にテーマや講師を選定している。
	R7	・川本町同和教育担当者会の開催（年3回） ・人権を考えるつどい（12月4日） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保、小、中、高と関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。人権教育の取組を共有し、研修会のテーマを協議するなどして、児童生徒や教職員の人権意識啓発につながっている。 ・12月に開催する「人権を考えるつどい」には児童生徒（小中高）の参加を前提にテーマや講師を選定している。
	R8	・川本町同和教育担当者会の開催（年3回） ・人権を考えるつどい（12月4日） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保、小、中、高と関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。人権教育の取組を共有し、研修会のテーマを協議するなどして、児童生徒や教職員の人権意識啓発につながっている。 ・12月に開催する「人権を考えるつどい」には児童生徒（小中高）の参加を前提にテーマや講師を選定している。
② 地域社会や家庭における取り組みの充実	R3	・人権サロン及び人権講座の実施（川本西公民館・三原まちづくりセンター） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・川本西公民館及び三原まちづくりセンターで町民向けのサロンや講座を開催。 ・まだまだ人権に関心を持つ住民が少ないため、広報や周知の方法を工夫し、引き続き取組が必要である。
	R4	・人権サロン及び人権講座の実施（川本西公民館・三原まちづくりセンター） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・川本西公民館及び三原まちづくりセンターで町民向けのサロンや講座を開催。 ・まだまだ人権に関心を持つ住民が少ないため、広報や周知の方法を工夫し、引き続き取組が必要である。
	R5	・同和教育推進協議会研修会8/30 「同和問題の解決に向けて」 「島根県パートナーシップ制度」 ・人権を考えるつどい12/7 「あたりまえにそこにいるLGBTQs ～知ることから始まる性の多様性～」 ・広報「まちのじんけんほっとすべす」連載 【予算】 349 千円 【決算】 256 千円	B	・公民館での人権サロンは日程調整が難しく開催できなかった。 ・パートナーシップ制度の制定を機に、人権を考えるつどいでは「LGBTQs」をテーマとした。一般参加者が例年以上に多かった。 ・広報かわもとに人権啓発のスペースをとり、毎月記事を掲載している。
	R6	・同和教育推進協議会研修会（8月5日） 「性の多様性について」 ・人権を考えるつどい（12月5日） 「私らしく生きる～ありのままを受け入れて～」 ・広報「まちのじんけんほっとすべす」連載 【予算】 355 千円 【決算】 267 千円	B	・8月の研修は、町民からの要望等を受けて性の多様性をテーマとして開催。 ・12月の人権を考えるつどいは、町の研修計画に基づき障がい者をテーマとして開催。 ・職場研修と位置付ける企業等もあり、町開催の研修に多数の参加があった。 ・広報かわもとに人権啓発のスペースをとり、毎月記事を掲載している。
	R7	・同和教育推進協議会研修会（8月18日） ・人権を考えるつどい（12月4日） ・広報「まちのじんけんほっとすべす」連載 【予算】 205 千円 【決算】 191 千円	B	・8月の研修は、同和問題をテーマに開催。12月の人権を考えるつどいは、インターネットと人権をテーマに開催。両研修とも、職場研修と位置づけ継続参加されている。 ・広報かわもとに人権啓発のスペースをとり、毎月記事を掲載している。
	R8	・同和教育推進協議会研修会（8月18日） ・人権を考えるつどい（12月4日） ・広報「まちのじんけんほっとすべす」連載 【予算】 205 千円 【決算】 191 千円	B	・8月の研修は、同和問題をテーマに開催。12月の人権を考えるつどいは、インターネットと人権をテーマに開催。両研修とも、職場研修と位置づけ継続参加されている。 ・広報かわもとに人権啓発のスペースをとり、毎月記事を掲載している。
③ グローバルな意識の醸成（再掲）	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度は取組が出来ていないが、国際交流協会等と連携し、理解を求めていく必要あり。 ・学びの場づくりや啓発活動について、次年度以降取組が必要である。
	R4	・外国語指導助手（ALT）2名配置 ・産業祭への参加 【予算】 10,464 千円 【決算】 9,511 千円	B	・3年ぶりの産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
	R5	・外国語指導助手（ALT）2名配置 ・産業祭への参加 【予算】 10,328 千円 【決算】 8,715 千円	B	・産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
	R6	・外国語指導助手（ALT）2名配置 ・産業祭への参加 【予算】 9,850 千円 【決算】 8,907 千円	B	・産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
	R7	・外国語指導助手（ALT）2名配置 ・産業祭への参加 【予算】 10,819 千円 【決算】 10,819 千円	B	・産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。 ・ALTと協力し英語教育推進事業を展開し、児童生徒の英語力と異文化への関心と理解を深めることに取り組んだ。 ・外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。
	R8	・外国語指導助手（ALT）2名配置 ・産業祭への参加 【予算】 10,819 千円 【決算】 10,819 千円	B	・産業祭に出店し、ALTの母国料理の販売や母国紹介のパネル展示など地域における国際交流活動に参加した。 ・ALTと協力し英語教育推進事業を展開し、児童生徒の英語力と異文化への関心と理解を深めることに取り組んだ。 ・外国人との交流活動を中心とした国際理解教育を積極的に展開していく必要がある。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	15	基本施策名	多様性のある地域社会の実現	施策の方向性	人権意識の定着
------------	----	-------	---------------	--------	---------

2/3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 相談・支援体制の充実	R3	・人権担当職員が窓口となって対応（教育課では、相談案件なし） ・川本町同和担当者会の開催（年3回） ・人権のつどい等、研修会の実施	B	・保育所、小学校、中学校、高等学校及び関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。 ・取組について意見交換やアドバイスができ、保育や学校教育の場で生かしている。 人権研修について、担当職員を含めて教職員等に案内し、意識の高揚に努めている。
	R4	・人権担当職員が窓口となって対応（教育課では、相談案件なし） ・川本町同和担当者会の開催（年3回） ・人権のつどい等、研修会の実施	B	・保育所、小学校、中学校、高等学校及び関係機関の人権担当者による情報交換の場として開催。 ・取組について意見交換やアドバイスができ、保育や学校教育の場で生かしている。 人権研修について、担当職員を含めて教職員等に案内し、意識の高揚に努めている。
	R5	・人権担当窓口（町民生活課）設置 ・人権擁護委員との連携 ・パートナーシップ宣誓制度を開始 ・人権のつどい等研修会に参加	B	・人権担当窓口（町民生活課）にて相談対応（R5窓口相談実績無）。 ・島根県と共同でパートナーシップ宣誓制度を10月1日より開始、公営住宅の入居可能としている。 ・人権のつどい等の研修会に参加し職員の人権意識向上を図った。
	R6	【町生課】 ・人権担当窓口設置 ・人権擁護委員との連携 ・パートナーシップ宣誓制度の継続 ・邑智地区保護司会との連携 【教育課】 ・人権のつどい等研修会の実施（教育課主催）	B	・人権担当窓口（町民生活課）にて相談対応（R6窓口相談実績無）。 ・島根県と共同でパートナーシップ宣誓制度を10月1日より開始、公営住宅の入居可能としている。 ・人権のつどい等の研修会に参加するなど、職員の人権意識の向上推進。 ・人権擁護委員や保護司会との連携による広報活動及びその支援。
	R7	【町生課】 ・人権担当窓口設置 ・人権擁護委員との連携 ・パートナーシップ宣誓制度の継続 ・邑智地区保護司会との連携 【教育課】 ・人権を考えるつどい等研修会の実施（教育課主催）	B	・人権担当窓口（町民生活課）にて相談対応（R7窓口相談実績無）。 ・島根県と共同でパートナーシップ宣誓制度を10月1日より開始、公営住宅の入居可能としている。 ・人権のつどい等の研修会に参加するなど、職員の人権意識の向上推進。 ・人権擁護委員や保護司会との連携による広報活動及びその支援。
	R3			
	R4			
	R5			
	R6			
	R7			

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	15	基本施策名	多様性のある地域社会の実現	施策の方向性	男女共同参画の推進
------------	----	-------	---------------	--------	-----------

3/3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 男女共同参画推進計画の改定と実行	R3	・第3次川本町男女共同参画推進計画の策定。 【予算】 224 千円 【決算】 224 千円	B	・第3次川本町男女共同参画推進計画の行動計画に基づき、目標達成に向けた取組を実施する。
	R4	・第3次川本町男女共同参画推進計画に基づき取り組みを実施した。 【予算】 270 千円 【決算】 131 千円	B	・第3次川本町男女共同参画推進計画の行動計画に基づき、目標達成に向けた取組を実施した。 ・男女共同の意識啓発に係るパンフレットを作成し全戸に配布した。
	R5	・第3次川本町男女共同参画推進計画に基づき取り組みを実施した。 【予算】 182 千円 【決算】 18 千円	B	・第3次川本町男女共同参画推進計画の行動計画に基づき、目標達成に向けた取組を実施した。
	R6	・第3次川本町男女共同参画推進計画に基づき取り組みを実施した。 【予算】 101 千円 【決算】 38 千円	B	・第3次川本町男女共同参画推進計画の行動計画に基づき、目標達成に向けた取組を実施した。
	R7	・第3次川本町男女共同参画推進計画に基づき取り組みを実施した。 【予算】 108 千円 【決算】 30 千円	B	・第3次川本町男女共同参画推進計画の行動計画に基づき、目標達成に向けた取組を実施した。令和8年度は、第4次計画の策定に取り組む。
② 意識改革に向けた取り組みの充実	R3	・男女共同参画推進委員会の開催 1回 ・各種パンフレット等の配布、掲示 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・各学校等では個別に開催されているが、連携した取組は実績なし。 ・サポーターも交えた連携のあり方を検討する。
	R4	・男女共同参画推進委員会の開催 1回 ・各種パンフレット等の配布、掲示 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・意識啓発に係るパンフレットを作成し配布した。 ・学校と連携した町民向けの講習会等の開催は行うことができなかった。
	R5	・男女共同参画推進委員会の開催 1回 ・各種パンフレット等の配布、掲示 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・公民館等公共施設でのポスターの掲示、パンフレットの配布などによる周知を行った。
	R6	・男女共同参画推進委員会の開催 1回 ・各種パンフレット等の配布、掲示 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・役場においてポスターの掲示やチラシ等の配布による周知を行った。 ・自治会長会議で男女共同参画について説明を行い、参加者の理解を深めた。
	R7	・男女共同参画推進委員会の開催 1回 ・各種パンフレット等の配布、掲示 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・役場においてポスターの掲示やチラシ等の配布による周知を行った。
③ 活躍できる場の拡充	R3	・県などが主催するセミナー等をおおち・さくら地域雇用促進協議会を通じて会員事業所へ周知 【予算】 530 千円 【決算】 30 千円	B	・雇用促進協議会と連携した講習会の開催や情報提供に取り組む。
	R4	・県などが主催するセミナー等をおおち・さくら地域雇用促進協議会を通じて会員事業所へ周知 ・企業人材確保育成支援補助金（1件） 【予算】 230 千円 【決算】 121 千円	C	・雇用促進協議会と連携した講習会の開催や情報提供に取り組む。 ・企業人材確保育成支援補助金については、より効果的な内容となるよう見直す必要がある。
	R5	・県などが主催するセミナー等をおおち・さくら地域雇用促進協議会を通じて会員事業所へ周知 ・企業人材確保育成支援補助金（3件） 【予算】 230 千円 【決算】 191 千円	B	・前年に引き続き、雇用促進協議会と連携した講習会の開催や情報提供に取り組む。 ・企業人材確保育成支援補助金については、前年実績から2件分増となっており、町内企業に支援補助金の存在が認知されてきている。
	R6	・県などが主催するセミナー等をおおち・さくら地域雇用促進協議会を通じて会員事業所へ周知 ・企業人材確保育成支援補助金（2件） 【予算】 230 千円 【決算】 47 千円	B	・雇用促進協議会と連携した情報提供の実施。 ・特定の事業所のみ企業人材確保育成支援補助金活用実績あり。幅広い周知方法等要検討。
	R7	・県などが主催するセミナー等をおおち・さくら地域雇用促進協議会を通じて会員事業所へ周知 ・企業人材確保育成支援補助金（募集中） 【予算】 230 千円 【決算】 30 千円	B	・雇用促進協議会と連携した情報提供の実施。 ・企業人材確保育成支援補助金の幅広い周知方法等要検討。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち すべての住民が、安心して暮らせるまち（安全）
基本方針	防災・減災対策や生活基盤の整備

基本施策 番号	基本施策名	記 載 ページ	主担当課
1 6	防災・減災対策の充実	P76～78	総務財政課

施策の方針	一つでも多くの災害発生リスク軽減に努めるとともに、災害時にも被害が最小限に抑えられ、災害への不安が軽減されるような安全に暮らせる環境づくりを進めます。
施策の 方向性	・治水・治山対策の推進 ・地域防災力の向上 ・消防機能の充実 ・危機管理体制の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
治水対策未実施地区数 【単年度値】（単位：地区）	目標値	3	3	3	3	2
	実績値	3	3	3	3	1
	達成率	100%	100%	100%	100%	200%
防災士の数 【累計値】（単位：人）	目標値	4	6	8	9	10
	実績値	3	3	5	5	8
	達成率	75.0%	50.0%	62.50%	55.56%	80.00%
自主防災組織の訓練（研修）の参加者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	300	400	500	600	800
	実績値	302	403	487	502	535
	達成率	100%	100.8%	97.40%	83.67%	66.88%

評 価	担当課評価
B	【防災士・自主防災組織の訓練】 ・防災士については年々認知度も上がり、問い合わせが増えてきており、継続して防災の育成を行っていく。また、自主防災組織に対する研修など、防災士と連携した活動を行うため、防災士が一堂に会する場の提供を進めていき、より効果的な事業としていきたい。

評 価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・実施中の治水対策が着実に実現できるよう、また川本堤防の完成堤防化に向け引き続き国・県に対して要望を行っていくこと。 ・実施中の因原地区内水対策について、追加した施設の機能の検証を行いながら計画的に実施すること。 ・水防災をはじめ、地震や雪害などへの備えも含めて意識啓発に努めること。 ・災害ボランティアセンターの設置場所について、関係機関と調整し早期の決定を行うこと。

評 価	最終評価（町長、教育長）
B	・令和6年度に策定した立地適正化計画における防災指針をはじめ、防災・減災対策を充実するとともに、国・県への要望を強化すること。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	治水・治山対策の推進	1/6
------------	----	-------	------------	--------	------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 河川における対策の推進	R3	国・県に対して、堤防未整備地区の解消に向けた要望活動を行う。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・谷地区・尾原地区（久料谷）については、国事業による仮設対策工事が進み、今後の計画についても協議検討が進んでいる。
	R4	国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 2,149 千円 【決算】 2,075 千円	B	・瀬尻・久料谷地区、谷地区における治水対策については事業化、今後は弓市地区における川本暫定堤防の早期完成に向け引き続き要望活動を実施。
	R5	瀬尻・久料谷地区治水対策事業着手 谷地区治水対策事業着手 【予算】 211,852 千円 【決算】 208,816 千円	A	・瀬尻・久料谷地区において、治水対策事業着手済み。 ・谷地区において、治水対策事業着手済み。
	R6	瀬尻・久料谷地区治水対策事業着手 谷地区治水対策事業着手 【予算】 231,936 千円 【決算】 231,189 千円	A	・瀬尻・久料谷地区において、迂回路工事完了、護岸工事着手。 ・谷地区県施行区間において、護岸・造成工事着手 ・川本堤防の完成化に向けては、浜田河川国道事務所と用地寄附手続きに向けた確認書締結
	R7	瀬尻・久料谷地区治水対策事業着手 谷地区治水対策事業着手 【予算】 131,100 千円 【決算】 129,653 千円	A	・瀬尻・久料谷地区において、護岸工事の継続、久料谷川の改修工事を実施中。 ・谷地区県施行区間において、護岸・造成工事を継続実施。
② 流域における対策の推進	R3	・因原地区堤防の排水ポンプの更新。 ・尾原地区への緊急排水ポンプの整備（1台） 【予算】 14,317 千円 【決算】 14,316 千円	A	・因原地区上流部の内水排除対策が必要であり、また、尾原地区の緊急排水ポンプの増設が必要なため、拡充。
	R4	・因原地区への緊急排水ポンプの新規整備（1台） ・尾原地区への緊急排水ポンプの追加整備（計3台） 【予算】 15,000 千円 【決算】 14,999 千円	B	・設置後稼働する事業がなかったため、現状維持。
	R5	谷地区内水排除設備の埋設工事 【予算】 3,500 千円 【決算】 3,493 千円	A	・内水排除用の排水管を埋設したことで、県道の通行規制や近隣事業所の避難作業の影響を受けることなく排水作業の準備に取り掛かることができるため、作業時間に余裕が持てる。
	R6	・因原地区内水排除設備工事（常設排水ポンプ4台設置） 【予算】 65,500 千円 【決算】 24,500 千円	A	・既設の4台に加えて新たに4台ポンプの設置を完了。本格稼働に向けて次年度設置工事を継続。 ・出水期にポンプが正常に移動するよう試運転、点検の定期化を検討する。
	R7	・因原地区内水排除設備工事（常設排水ポンプ4台設置）※明許繰越 【予算】 39,510 千円 【決算】 39,507 千円	A	・新規排水用ポンプを4台設置を出水期までに完了。（4台→8台）リース発電機により運用。また、同ポンプを稼働するための発電機と既存発電機の管理委託を検討する。また、R8年度運用開始に向け発電機の新規購入を行い、出水期前の試運転を含め、発電機の管理委託を検討する。さらに、国土交通省所有のポンプ車をより効率的に運用するため、排水管を常設を検討する。
③ 土砂災害対策の推進	R3	国・県と連携し対応を検討する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・国・県と連携し、情報の共有を図りながら、必要な措置を講じていく。
	R4	国・県と連携し対応を検討する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・国・県と連携し、情報の共有を図りながら、必要な措置を講じていく。
	R5	国・県と連携し対応を検討する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・国・県と連携し、情報の共有を図りながら、必要な措置を講じていく。
	R6	国・県と連携し対応を検討する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・国・県と連携し、情報の共有を図りながら、必要な措置を講じていく。
	R7	国・県と連携し対応を検討する。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・国・県と連携し、情報の共有を図りながら、必要な措置を講じていく。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直し必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	地域防災力の向上	2/6
--------	----	-------	------------	--------	----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地域防災計画などの充実	R3	国や県、関係機関からの情報を活用し、現実に見合った計画の更新を進め、実災害時に活かせる計画の策定を行う。	B	・関係機関からの情報を受け、実災害に備えた計画となるよう見直しを行い、関係機関とも情報共有をしている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	国や県、関係機関からの情報を活用し、現実に見合った計画の更新を進め、実災害時に活かせる計画の策定を行う。	B	・関係機関からの情報を受け、実災害に備えた計画となるよう見直しを行い、関係機関とも情報共有をしている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	国や県、関係機関からの情報を活用し、現実に見合った計画の更新を進め、実災害時に活かせる計画の策定を行う。	B	・関係機関からの情報を受け、実災害に備えた計画となるよう見直しを行い、関係機関とも情報共有をしている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	国や県、関係機関からの情報を活用し、現実に見合った計画の更新を進め、実災害時に活かせる計画の策定を行う。	B	・関係機関からの情報を受け、実災害に備えた計画となるよう見直しを行い、関係機関とも情報共有をしている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	国や県、関係機関からの情報を活用し、現実に見合った計画の更新を進め、実災害時に活かせる計画の策定を行う。	B	・法改正等の情報を踏まえて作成し、関係機関からの修正を受け、実災害に備えた計画となるよう見直しを行い、関係機関とも情報共有をしている。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 自主防災組織の機能向上	R3	自治会を中心とした自主防災組織の充実を図ると共に、防災に関するリーダーとなる人材の育成を行う。	B	・新型コロナウイルス感染症拡大により、防災士研修会が中止されたため、支出は無かったが、今後も防災士育成補助金の活用は必要である。
		【予算】 1,150 千円 【決算】 1,077 千円		
	R4	自治会を中心とした自主防災組織の充実を図ると共に、防災に関するリーダーとなる人材の育成を行う。	B	・新型コロナウイルス感染症により、開催時期が変動し、防災士講習の参加者が得られなかったため、支出は無かった。しかし、希望される方も出ているため、継続。
		【予算】 108 千円 【決算】 0 千円		
	R5	自治会を中心とした自主防災組織の充実を図ると共に、防災に関するリーダーとなる人材の育成を行う。	B	・防災士講習に、2つの自主防災組織から2名の受講があり、防災士2名が増員された。今後も継続して増員を目指す。
		【予算】 108 千円 【決算】 63 千円		
	R6	自治会を中心とした自主防災組織の充実を図ると共に、防災に関するリーダーとなる人材の育成を行う。	B	・防災士講習の受講希望者はなかったが、来年度に向けさらに呼びかけを進める。また、自主防災組織への呼びかけを継続していく。
		【予算】 156 千円 【決算】 0 千円		
	R7	自治会を中心とした自主防災組織の充実を図ると共に、防災に関するリーダーとなる人材の育成を行う。	B	・防災士講習を3自治会から合計3名が受講し、3名の新たな防災士が増員された。今後は、防災士が会する場を設け、今後の町の防災について、助言や協力を依頼するなど連携した活動を検討していく。
		【予算】 161 千円 【決算】 67 千円		
③ 防災意識の向上	R3	・学校や地域へ出向いた防災研修会の開催。	B	・町内一斉避難訓練では、希望される自治会を対象に防災に関する講習会を実施。また、保・小・中の職員を対象とした研修会を実施した。これらは住民からの希望により実施しており、意識の向上の表れと感じる。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・学校や地域へ出向いた防災研修会の開催。	B	・町内一斉避難訓練では、希望される自治会は伸び悩んでいるが、自治会単位での避難体制について相談が始まっている。また、小学校4年生の授業で防災について授業を行った。これらは住民からの希望により実施しており、世代を問わず意識の向上の表れと感じる。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・学校や地域へ出向いた防災研修会の開催。	B	・昨年度の取り組みに加え、中学校での防災授業を行った。『地域で活躍できる中学生』を目指し、今後も継続した取り組みを行っていく。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・学校や地域へ出向いた防災研修会の開催。	B	・昨年度に引き続き、中学校での防災授業を行い、『地域で活躍できる中学生』を目指し活動を継続する。また、民間事業所と共催し、住民対象の防災セミナーを2回実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・学校や地域へ出向いた防災研修会の開催。	B	・小学校4年生を対象とした防災授業を行ったほか、PTA活動として防災講習を行い、児童と保護者への研修会を行った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	地域防災力の向上	3/6
------------	----	-------	------------	--------	----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 要配慮者支援体制の充実	R3	要配慮者の避難を円滑に進めるため、個別避難計画の作成など、自治会や福祉関係団体と連携し着手。 【予算】 35 千円 【決算】 35 千円	B	・各関係団体と連携し、個別避難計画等の作成を進めている。また、自治会毎に実情に合った計画を作成するため、個別の協議も実施していく必要がある。
	R4	要配慮者の避難を円滑に進めるため、個別避難計画の作成など、自治会や福祉関係団体と連携し着手。 【予算】 140 千円 【決算】 0 千円	B	・個別避難計画の作成について、新たな進捗がなかったが、関係機関と連携し進めていく。また、自治会毎に避難者名簿の作成など動きが見られている。
	R5	要配慮者の避難を円滑に進めるため、個別避難計画の作成など、自治会や福祉関係団体と連携し着手。 【予算】 140 千円 【決算】 0 千円	B	・個別避難計画の作成について、個人情報の取扱いに注意しながら、関係機関と連携し進めていく。また、自治会毎に避難者名簿の作成など動きが見られている。
	R6	要配慮者の避難を円滑に進めるため、個別避難計画の作成など、自治会や福祉関係団体と連携し着手。 【予算】 140 千円 【決算】 0 千円	B	・要配慮者リストは作成済であるが、個別避難計画の作成について、個人情報の取扱いに注意しながら、関係機関と連携し進めていく。また、自治会毎に避難者名簿の作成など動きが見られている。
	R7	要配慮者の避難を円滑に進めるため、個別避難計画の作成など、自治会や福祉関係団体と連携し着手。 【予算】 70 千円 【決算】 0 千円	B	・個別避難計画の作成が進んでいない。地域を限定しながら、ケアマネージャーの方など関係機関と連携し進めていく。R8年度は弓市地区を主に計画作成を進める。
⑤ 避難所の機能充実	R3	段ボールベットや間仕切り等の整備や非常食の整備。 ※施設整備については、所管課で対応 【予算】 932 千円 【決算】 908 千円	B	・避難所での備蓄品については、賞味期限や状態を管理しながら、補充や更新が必要となる。
	R4	・段ボールベットや間仕切り等の整備や非常食の整備。 ※施設整備については、所管課で対応 【予算】 3,364 千円 【決算】 3,069 千円	B	・避難所での備蓄品については、賞味期限や状態を管理しながら、補充や更新が必要となる。 ・避難所の環境整備事業として、TV環境整備を行った。今後も実施する必要がある。
	R5	・段ボールベットや間仕切り等の整備や非常食の整備。 ※施設整備については、所管課で対応 【予算】 242 千円 【決算】 242 千円	A	・避難所での備蓄品については、賞味期限や状態を管理しながら、補充や更新が必要となる。 ・能登地震の教訓から、今後トイレ等の整備状況の見直しが必要。
	R6	・賞味期限切れの備蓄品等の管理と補充 【予算】 800 千円 【決算】 756 千円	B	・避難所での備蓄品については、賞味期限や状態を管理しながら、補充や更新が必要となる。 ・避難所運営訓練等で、備蓄品について要望等を調査し、今後の備蓄品選定に活かす。
	R7	・賞味期限切れの備蓄品等の管理と補充 【予算】 600 千円 【決算】 559 千円	B	・備蓄品については、賞味期限切れ等の管理をし、計画的に補充している。また、少しずつ保管量を増やし、長期化した際の対策を行う。また、種類等も検討し、様々なニーズに応えていきたい。 ・すこやかセンター解体後から未設置となっていた、災害ボランティアセンターの設置場所について関係機関と検討する。
⑥ 情報伝達手段の充実	R3	防災無線や放送サービス、SNSやHP等を活用し、より分かりやすく、迅速に情報伝達を行う仕組みづくり。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・多様な方法で情報発信を行う仕組みはできてきたが、それぞれに入力作業等が必要になっている。そのため、少ない作業でカバー出来る方法の検討が必要である。また、テレビでの情報発信をおり簡素化できる仕組みを構築する必要がある。
	R4	防災無線や放送サービス、SNSやHP等を活用し、より分かりやすく、迅速に情報伝達を行う仕組みづくり。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・防災行政無線の更新に併せ、一つの入力作業で、防災無線・SNS・HP等への出力ができる仕組みづくりを検討を継続する。
	R5	防災無線や放送サービス、SNSやHP等を活用し、より分かりやすく、迅速に情報伝達を行う仕組みづくり。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・情報伝達手段として、町のLINEを整備 ・令和6年度に、防災行政無線の更新に併せ、一つの入力作業で、防災無線・SNS・HP等への出力ができる仕組みづくりを検討を継続する。
	R6	・防災行政無線の機器更新を行う。また、更新に合わせ、情報発信のデジタル化による効率化を進める。 【予算】 42,875 千円 【決算】 40,810 千円	B	・同報系機器についての機器の更新が完了し、また、ワンオペレーションシステムの構築についても完了した。 ・今後利用方法の周知やより効率的な活用方法について検討する。 ・また、移動系無線の更新について検討が必要。
	R7	Jアラート受信機の更新を行う。更新により国から発信される情報の高度化に対応する。 【予算】 5,000 千円 【決算】 4,730 千円	B	・国が直接情報発信するJアラートの受信機の機器更新を行い、国が行う様々な情報の発信方法に対応可能とした。 ・防災無線の個別受信機の不具合事案が多発しており、取り換えや外部アンテナの設置などの対応が必要となっているため、継続した対応を実施する。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	消防機能の充実	4/6
------------	----	-------	------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 常備消防の機能・充実	R3	江津邑智消防組合と情報を共有し、計画的な運営・機器整備を行う。 【予算】 137,071 千円 【決算】 137,071 千円	B	・引き続き江津邑智消防組合と連携し実施していく。
	R4	江津邑智消防組合と情報を共有し、計画的な運営・機器整備を行う。 【予算】 141,087 千円 【決算】 141,087 千円	B	・引き続き江津邑智消防組合と連携し実施していく。
	R5	江津邑智消防組合と情報を共有し、計画的な運営・機器整備を行う。 【予算】 149,456 千円 【決算】 149,456 千円	B	・引き続き江津邑智消防組合と連携し実施していく。
	R6	江津邑智消防組合と情報を共有し、計画的な運営・機器整備を行う。 【予算】 156,600 千円 【決算】 156,022 千円	B	・引き続き江津邑智消防組合と連携し実施していく。
	R7	江津邑智消防組合と情報を共有し、計画的な運営・機器整備を行う。 【予算】 163,748 千円 【決算】 163,748 千円	B	・引き続き江津邑智消防組合と連携し実施していく。
② 非常備消防体制の充実	R3	消防団員の確保に努め、非常備消防体制を確保する。 【予算】 13,349 千円 【決算】 12,286 千円	A	・消防団員の処遇改善（報酬など）を行うため、拡充とする。
	R4	消防団員の確保に努め、非常備消防体制を確保する。 【予算】 19,833 千円 【決算】 17,654 千円	B	・消防団員の処遇改善（報酬など）を行った。現状維持。
	R5	消防団員の確保に努め、非常備消防体制を確保する。 【予算】 21,506 千円 【決算】 17,821 千円	B	・消防団員の処遇改善（報酬など）を行った。 ・一方で、消防団員の確保は引き続き必要。
	R6	消防団員の確保に努め、非常備消防体制を確保する。 【予算】 21,957 千円 【決算】 20,767 千円	B	・火災現場での事故の教訓を活かし、出動時のルールの確認を行うとともに、装備品の更新など安全対策の徹底に努める。 ・消防団員の確保は引き続き必要。
	R7	消防団員の確保に努め、非常備消防体制を確保する。 【予算】 22,449 千円 【決算】 21,097 千円	B	・装備品の更新を行い、安全対策を実施。 ・消防団員の確保に向け、個別に入団者の勧誘活動を引き続き実施。 ・消防団活動を安全に効率的に行うため、初動マニュアルを作成し、各団員に周知した。
	R3	 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	危機管理体制の充実
------------	----	-------	------------	--------	-----------

5/6

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 迅速に対応できる体制づくり	R3	研修会等を開催し、住民意識の醸成に併せた研修会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民一人ひとりのタイムラインの作成に向けた情報発信を充実させるため、研修会等を行う必要があったが、取り組みまで至らなかった。
	R4	研修会等を開催し、住民意識の醸成に併せた研修会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民一人ひとりのタイムラインの作成に向けた情報発信を充実させるため、研修会等を行う予定としていたが、地域ごとの説明の場の要望が出ているため、実施に向け調整する。
	R5	研修会等を開催し、住民意識の醸成に併せた研修会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民一人ひとりのタイムラインの作成に向けた情報発信を充実させるため、研修会等を行う予定としていたが、地域ごとの役員会等へ出向いた際に説明の場を設けることができた。
	R6	研修会等を開催し、住民意識の醸成に併せた研修会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民一人ひとりのタイムラインの作成に向けた情報発信を充実させ、自主防災組織や小規模団体へ出向き、説明会を実施。
	R7	研修会等を開催し、住民意識の醸成に併せた研修会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・タイムラインの作成の重要性と作成方法について、自主防災組織や小規模団体へ出向き、説明会を実施し、多くの人に、避難についての不安解消に努める。
② 業務継続計画の作成及び作成支援	R3	業務継続計画の見直し。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・計画の見直しを行いながら、継続して計画の改定を行った。
	R4	業務継続計画の見直し。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・計画の見直しを行いながら、継続して計画の改定を行った。
	R5	業務継続計画の見直し。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・計画の見直しを行いながら、継続して計画の改定を行った。
	R6	業務継続計画の見直し。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・計画の見直しを行いながら、継続して計画の改定を行った。
	R7	業務継続計画の見直し。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・計画の見直しを行いながら、継続して計画の改定を行った。
③ 復旧体制の構築	R3	関係機関を始め、協力団体との連携強化。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・電気等のライフラインの復旧を迅速に行う為、今後も新たな支援団体の模索を進める必要がある。
	R4	関係機関を始め、協力団体との連携強化。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・電気等のライフラインの復旧を迅速に行う為、今後も新たな支援団体の模索を進める必要がある。
	R5	関係機関を始め、協力団体との連携強化。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・電気等のライフラインの復旧を迅速に行う為、今後も新たな支援団体の模索を進める必要がある。また、資材取扱い事業者との協定などを行った。
	R6	関係機関を始め、協力団体との連携強化。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・電気等のライフラインの復旧を迅速に行う為、今後も新たな支援団体の模索を進める必要がある。 ・定期的に協定先窓口と連絡先の確認を行う。
	R7	関係機関を始め、協力団体との連携強化。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・電気等のライフラインの復旧を迅速に行う為、今後も新たな支援団体の模索を進める必要がある。 ・定期的に協定先窓口と連絡先の確認を行う。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	16	基本施策名	防災・減災対策の充実	施策の方向性	危機管理体制の充実	6/6
-------------	----	-------	------------	--------	-----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 災害時の精神的ケアの充実	R3	災害時の体制について内部検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保健師によるケア体制や、仁寿会との連携も含め、今後も検討が必要。
	R4	災害時の体制について内部検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保健師によるケア体制や、仁寿会との連携も含め、今後も検討が必要。
	R5	災害時の体制について内部検討。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保健師によるケア体制や、仁寿会との連携も含め、今後も検討が必要。
	R6	災害時の体制等について関係機関も含めて確認。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・仁寿会との連携も含め、保健師によるケア体制を整備し、災害時に備える。
	R7	災害時の体制等について関係機関も含めて確認。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・現在、保健師の巡回によるケア体制を主としているが、仁寿会との連携を密にし、より専門性を持った対応を進めていきたい。また、仁寿会とは、災害時の協定について、福祉避難所としての連携も含めて協議を進めていく。
⑤ 新たな感染症対策	R3	対策会議の開催。 情報収集・発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・HPや告知放送による対策の呼びかけや、対策会議を頻繁に行い、緊急事態を回避するための準備を進めた。
	R4	対策会議の開催。 情報収集・発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・新型コロナウイルスが5類になったことで、対策会議の廃止など縮小方向にあるため、事業の見直しが必要
	R5	対策会議の開催。 情報収集・発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・新型コロナウイルスが5類になったが、以前収束してはいることから、対応ができる体制のみ継続する必要がある。
	R6	対策会議の開催。 情報収集・発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・新型コロナウイルスが5類になったが、以前収束してはいることから、対応ができる体制のみ継続する必要がある。
	R7	対策会議の開催。 情報収集・発信。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・新型インフルエンザ等対策行動計画の更新を行い、非常時の体制強化を進める。
⑥ テロ対策等の充実	R3	・緊急時の職員の参集方法の構築。 ・Jアラートによる緊急放送体制の維持。 【予算】 3,957 千円 【決算】 3,955 千円	B	・職員の参集メールの構築を行い運用中、また、防災無線の保守管理を継続する
	R4	・緊急時の職員の参集方法の構築。 ・Jアラートによる緊急放送体制の維持。 【予算】 2,885 千円 【決算】 2,555 千円	B	・職員の参集メールの構築を行い運用中、また、防災無線の保守管理を継続する。 ※防災行政無線については、機器更新がR6年度から必要となる。
	R5	・緊急時の職員の参集方法の構築。 ・Jアラートによる緊急放送体制の維持。 【予算】 3,166 千円 【決算】 2,959 千円	B	・職員の参集メールの構築を行い運用中、また、防災無線の保守管理を継続する。 ※防災行政無線については、機器更新がR6年度から必要となる。
	R6	・緊急時の職員の参集方法の構築。 ・Jアラートによる緊急放送体制の維持。 ・機器更新 【予算】 46,968 千円 【決算】 45,687 千円	B	・職員の参集メールの構築を行い運用中、また、防災無線の保守管理を継続する。 ・防災行政無線の機器更新により、Jアラートの情報が、公式LINE登録者へ配信可能となった。
	R7	・緊急時の職員の参集方法の運用。 ・Jアラートによる緊急放送体制の維持。 ・機器更新 【予算】 5,567 千円 【決算】 3,609 千円	B	・職員の参集メールの構築を行い運用中、また、防災無線の保守管理を継続する。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち すべての住民が、安心して暮らせるまち（安全）
基本方針	防災・減災対策や生活基盤の整備

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
17	日常の安全対策の充実	P80~81	総務財政課

施策の方針	交通事故や犯罪などが起きない、安心して暮らせる環境づくりを進めます。
施策の方向性	- 交通安全対策の充実 - 防犯対策の充実

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
町内の交通事故死者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0	0	1	0
	達成率	100%	100%	100%	0%	100%
町内の詐欺被害件数 【単年度値】（単位：件）	目標値	0	0	0	-	-
	実績値	1	0	1	-	-
	達成率	0%	100.0%	0%	%	%
	目標値					
	実績値					
	達成率	%	%	%	%	%

評価	担当課評価
B	交通安全協会と連携した町交通安全対策協議会の活動を行い、交通事故の無い町を目指した活動を行えた。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	- 警察など関係機関と連携し、交通安全運動の充実・防犯意識の啓発に取り組むこと。 - 邑智郡交通安全協会の廃止に伴う、交通安全活動の町交通安全対策協議会への一本化について町民に周知するとともに、自治会と連携しスムーズな移行に努めること。 - 川本警察署と連携し、加藤病院の移転新築に伴う車・歩行者の新たな流れを踏まえて、交通安全を徹底すること。 - 急増するスマホ、SNSを活用した特殊詐欺については警察署と連携し、広報活動に努める。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	17	基本施策名	日常の安全対策の充実	施策の方向性	交通安全対策の充実
------------	----	-------	------------	--------	-----------

1/2

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 交通安全運動の充実	R3	・春と秋の交通安全週間や毎月1日に行う街頭指導。 ・警察署と連携した交通安全啓発。 【予算】 206 千円 【決算】 193 千円	B	・今後も継続していく必要がある。
	R4	・春と秋の交通安全週間や毎月1日に行う街頭指導。運動期間中は、自動車バレード、出陣式、街頭指導を実施。 ・警察署と連携した交通安全啓発。 【予算】 331 千円 【決算】 156 千円	B	・今後も継続していく必要がある。
	R5	・春と秋の交通安全週間や毎月1日に行う街頭指導。運動期間中は、自動車バレード、出陣式、街頭指導を実施。 ・警察署と連携した交通安全啓発。 【予算】 344 千円 【決算】 201 千円	B	・今後も継続していく必要がある。
	R6	・春と秋の交通安全週間や毎月1日に行う街頭指導。運動期間中は、自動車バレード、出陣式、街頭指導を実施。 ・警察署と連携した交通安全啓発。 【予算】 403 千円 【決算】 259 千円	B	・交通安全協会川本支部傘下の各分会について、持続的に活動が行えるよう、自治会への参加協力を得ることとなり、新たな体制での活動を進めていく。
	R7	・春と秋の交通安全週間や毎月1日に行う街頭指導。運動期間中は、自動車バレード、出陣式、街頭指導を実施。 ・警察署と連携した交通安全啓発。 【予算】 393 千円 【決算】 264 千円	B	・邑智郡交通安全協会が解散することとなり、傘下にある、川本支部と各分会の活動についても変革期となった。今後、町交通安全対策協議会として、自治会等と連携した活動を行っていく。
② ライフステージに応じた交通安全教育の充実	R3	川本警察署と協力して事業を展開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・今後も年代に応じた交通安全教室などの事業実施を継続していく必要がある。
	R4	川本警察署と協力して事業を展開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・今後も年代に応じた交通安全教室などの事業実施を継続していく必要がある。
	R5	川本警察署と協力して事業を展開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・今後も年代に応じた交通安全教室などの事業実施を継続していく必要がある。
	R6	川本警察署と協力して事業を展開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・今後も年代に応じた交通安全教室などの事業実施を継続していく必要がある。
	R7	川本警察署と協力して事業を展開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・高齢者を対象とした啓発を始め、保育園児への交通安全教室の開催など、今後も年代に応じた事業を実施する。また、年代を問わず、ヘルメット購入助成を周知し、ヘルメット着用を呼びかける。
③ 交通安全対策の実施	R3	標識やカーブミラーなどの更新・新設必要箇所などの状況確認を、警察署と連携して実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・必要に応じてカーブミラーや標識の設置について警察署と連携して管理していく
	R4	標識やカーブミラーなどの更新・新設必要箇所などの状況確認を、警察署と連携して実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・必要に応じてカーブミラーや標識の設置について警察署と連携して管理していく
	R5	標識やカーブミラーなどの更新・新設必要箇所などの状況確認を、警察署と連携して実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・必要に応じてカーブミラーや標識の設置について警察署と連携して管理していく
	R6	標識やカーブミラーなどの更新・新設必要箇所などの状況確認を、警察署と連携して実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・必要に応じてカーブミラーや標識の設置について警察署と連携して管理していく
	R7	標識やカーブミラーなどの更新・新設必要箇所などの状況確認を、警察署と連携して実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・必要に応じてカーブミラーや標識の設置について警察署と連携して管理していく

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番 号	17	基本施策名	日常の安全対策の充実	施策の方向性	防犯対策の充実
-------------	----	-------	------------	--------	---------

2/2

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 見守り活動の充実	R3	・青色防犯パトロール隊の活動。 ・青色防犯パトロール隊の人員確保。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・子どもの見守りには欠かせない活動であるため、引き続き人員確保を進める。
	R4	・青色防犯パトロール隊の活動。 ・青色防犯パトロール隊の人員確保。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・子どもの見守りには欠かせない活動であるため、引き続き人員確保を進める。
	R5	・青色防犯パトロール隊の活動。 ・青色防犯パトロール隊の人員確保。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・子どもの見守りには欠かせない活動であるため、引き続き人員確保を進める。
	R6	・青色防犯パトロール隊の活動。 ・青色防犯パトロール隊の人員確保。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・子どもの見守りには欠かせない活動であるため、引き続き人員確保を進める。
	R7	・青色防犯パトロール隊の活動。 ・青色防犯パトロール隊の人員確保。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・子どもの見守りには欠かせない活動であるため、引き続き人員確保を進める。
② 防犯啓発活動の充実	R3	県及び郡の防犯連合会と連携した活動。 【予算】 233 千円 【決算】 233 千円	B	・引き続き連携して活動していく。
	R4	県及び郡の防犯連合会と連携した活動。 【予算】 233 千円 【決算】 233 千円	B	・引き続き連携して活動していく。
	R5	県及び郡の防犯連合会と連携した活動。 【予算】 233 千円 【決算】 233 千円	B	・引き続き連携して活動していく。
	R6	県及び郡の防犯連合会と連携した活動。 【予算】 224 千円 【決算】 224 千円	B	・引き続き連携して活動していく。
	R7	県及び郡の防犯連合会と連携した活動。 【予算】 226 千円 【決算】 226 千円	B	・引き続き連携して活動していく。
③ 防犯設備の整備促進	R3	・防犯灯の設置補助及び防犯カメラの管理。 【予算】 534 千円 【決算】 400 千円	B	・継続して見守り環境を維持する。
	R4	・防犯灯の設置補助及び防犯カメラの管理。 【予算】 561 千円 【決算】 244 千円	B	・継続して見守り環境を維持する。
	R5	・防犯灯の設置補助及び防犯カメラの管理。 【予算】 626 千円 【決算】 358 千円	B	・継続して見守り環境を維持する。
	R6	・防犯灯の設置補助及び防犯カメラの管理。 【予算】 609 千円 【決算】 265 千円	B	・継続して見守り環境を維持する。
	R7	・防犯灯の設置補助及び防犯カメラの管理。 【予算】 601 千円 【決算】 171 千円	B	・継続して見守り環境を維持する。

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 1

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち すべての住民が、安心して暮らせるまち（安全）
基本方針	防災・減災対策や生活基盤の整備

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
18	インフラ整備・環境対策の推進	P82～84	地域整備課

施策の方針	住み慣れた地域で暮らし続けられる生活基盤を整えます。
施策の方向性	・ 中心市街地の機能強化 ・ 居住環境の充実 ・ 道路の維持・整備 ・ 環境対策の充実 ・ 上下水道の維持・整備 ・ 情報通信網の活用

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
弓市地区の居住者数 【単年度値】（単位：人）	目標値	785	776	768	760	752
	実績値	717	747	721	728	710
	達成率	91.3%	96.3%	93.9%	95.8%	94.4%
改良計画路線の改良率 【累計値】（単位：％）	目標値	52.4	52.7	52.9	54.0	55.1
	実績値	52.4	52.4	52.4	52.4	52.4
	達成率	100.0%	99.4%	99.1%	97.0%	95.1%
污水处理人口普及率 【累計値】（単位：％）	目標値	65.5	65.9	66.4	66.8	67.2
	実績値	63.5	64.6	68.7	66.0	66.5
	達成率	96.9%	98.0%	103.5%	98.8%	99.0%

評価	担当課評価
B	・ 弓市地区の居住者については、川本堤防完成堤防化が大前提であるため、実現に向けまずは堤防断面の確保について継続して要望を行う。 ・ 因原日向線本線は完了し、付帯工事を実施中。 ・ 污水处理普及率について、普及向上に向け継続して周知強化を図る。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・ 実施中の治水対策が着実に実現できるよう、川本堤防の完成堤防化に向け引き続き国・県に対して要望を行っていくこと。 ・ 道路改良についても計画的に実施していくこと。 ・ 町民の暮らしやすい環境づくりに向け都市再生整備計画に位置付ける事業は概ね固まったため、今後具体的な事業の検討を進めること。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・ 一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	中心市街地の機能強化	1/8
------------	----	-------	----------------	--------	------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 都市マスタープラン等の作成	R3	谷地区治水事業に係る谷地区のまちづくり計画を策定。	B	弓市を中心としたマスタープラン策定に向け検討。
		【予算】 1,203 千円 【決算】 1,203 千円		
	R4	立地適正化計画策定に向けての検討。	B	立地適正化計画策定に係る補助事業に関し、国への概算要望、本要望を実施。令和5年度当初予算計上。令和5年度から2ケ年にわたり策定を予定。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	立地適正化計画の策定（1年目）	B	国庫補助を活用し本格的に計画策定に着手2ヵ年での策定（令和6年度末策定完了）を目指し取り組みを継続して進める
		【予算】 5,500 千円 【決算】 5,500 千円		
	R6	立地適正化計画の策定（2年目）	B	立地適正化計画策定完了。今後は、本町が目指すコンパクトタウンの道標とし、都市再生整備計画に具体的な事業を盛り込み、令和8年度以降の事業化へ繋げる。
		【予算】 10,000 千円 【決算】 10,000 千円		
	R7	立地適正化計画策定完了	D	・R6に立地適正化計画を策定したことにより終了 ※R7以降は毎年度評価を実施し、概ね5年毎に必要なに応じて見直し
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
② 生活サービス施設の維持・充実	R3	—	B	中心市街地の生活サービス機能の維持・充実を図るため、マスタープランを中心とした立地適正化計画策定に向け検討。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	立地適正化計画策定に向けての検討。	B	立地適正化計画策定に係る補助事業に関し、国への概算要望、本要望を実施。令和5年度当初予算計上。令和5年度から2ケ年にわたり策定を予定。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	立地適正化計画の策定（1年目） 【再掲】	B	国庫補助を活用し本格的に計画策定に着手2ヵ年での策定（令和6年度末策定完了）を目指し取り組みを継続して進める併せて誘導施策（施設）の検討を進める
		【予算】 5,500 千円 【決算】 5,500 千円		
	R6	立地適正化計画の策定（2年目） 【再掲】	B	立地適正化計画策定完了。今後は、本町が目指すコンパクトタウンの道標とし、都市再生整備計画に具体的な事業を盛り込み、令和8年度以降の事業化へ繋げる。
		【予算】 10,000 千円 【決算】 10,000 千円		
	R7	都市再生整備計画関連事業プロジェクト会議設立	B	令和9年度以降の事業化にむけ、プロジェクト会議を設立し、都市再生整備計画案を策定。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	道路の維持・整備	2/8
-------------	----	-------	----------------	--------	----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 国道・県道の整備促進	R3	国・県への事業促進要望活動。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	主要地方道川本波多線（川本バイパス）の事業化が決定となり、早期完成に向け要望活動を継続する。
	R4	国・県への事業促進要望活動。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	主要地方道川本波多線川本工区の早期完成、国道261号冠水対策に向け要望活動を継続する。
	R5	国・県への事業促進要望活動。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	主要地方道川本波多線川本工区の早期完成、国道261号冠水対策に向け要望活動を継続する。
	R6	国・県への事業促進要望活動。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	主要地方道川本波多線川本工区の早期完成、国道261号冠水対策として、尾原地区の事業化、因原地区の早期完成に向け、要望活動を継続する。
	R7	国・県への事業促進要望活動。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	主要地方道川本波多線川本BP工区の早期完成、国道261号冠水対策として、尾原地区の事業化、因原地区の早期完成に向け、要望活動を継続する。
② 町道・農林道の維持・改善	R3	中倉日向線（L=1.04Km）：開通 As舗装 A=5,025㎡、ガードレール L=332m、区画線 L=2,218m 【予算】 30,623 千円 【決算】 30,623 千円	B	町道等の改良を進めると共に、町道・農林道の維持修繕を継続する。
	R4	田原絵堂線（測量・設計） 【予算】 100,100 千円 【決算】 40,712 千円	B	町道等の改良を進めると共に、町道・農林道の維持修繕を継続する。
	R5	田原絵堂線（L=380m） 【予算】 120,100 千円 【決算】 45,281 千円	B	町道等の改良を進めると共に、町道・農林道の維持修繕を継続する。
	R6	田原絵堂線（L=820m） 舗装A=4,120㎡、側溝等 【予算】 80,100 千円 【決算】 50,222 千円	B	町道等の改良を進めると共に、町道・農林道の維持修繕を継続する。
	R7	因原日向線（L=200m） ブロック積A=281㎡、舗装工A=969㎡ 【予算】 84,600 千円 【決算】 55,696 千円	B	町道等の改良を進めると共に、町道・農林道の維持修繕を継続する。
③ 交通安全対策の充実	R3	ガードパイプ L=20.0m 側溝蓋設置 L=40.0m 【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円	B	・通学路点検結果等に基づく交通安全対策の継続。
	R4	因原仏谷線 伐採 【予算】 1,320 千円 【決算】 1,320 千円	B	・通学路点検結果等に基づく交通安全対策の継続。 ・進捗率50.0%（目標56.2%）
	R5	カーブミラー3基・ガードレールL=10.0m 区画線L=286m 【予算】 1,156 千円 【決算】 1,156 千円	B	・通学路点検結果等に基づく交通安全対策の継続。 ・進捗率50.0%（目標68.8%）
	R6	道路法面修繕A=393㎡ 道路側溝L=43m 【予算】 20,100 千円 【決算】 18,240 千円	B	・通学路点検結果等に基づく交通安全対策の継続。 ・進捗率81.3%（目標84.8%）
	R7	道路側溝工L=107m・防草コンクリートA=45㎡・舗装工A=24㎡・区画線工L=1,431m 【予算】 10,000 千円 【決算】 10,000 千円	B	・通学路点検結果等に基づく交通安全対策の継続。 ・進捗率100%（目標100%）

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	上下水道の維持・整備	3/8
-------------	----	-------	----------------	--------	------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 上水道の維持管理の充実	R3	各水道施設維持管理における業務委託。 【予算】 9,983 千円 【決算】 9,982 千円	B	職員数の減少により、直営による維持管理が困難なため外部委託を継続。
	R4	各水道施設維持管理における業務委託。 【予算】 10,376 千円 【決算】 10,347 千円	B	職員数の減少により、直営による維持管理が困難なため外部委託を継続。
	R5	各水道施設維持管理における業務委託。 【予算】 11,321 千円 【決算】 11,315 千円	B	職員数の減少により、直営による維持管理が困難なため外部委託を継続。
	R6	各水道施設維持管理における業務委託。 【予算】 18,281 千円 【決算】 16,955 千円	B	職員数の減少により、直営による維持管理が困難なため外部委託を継続。
	R7	・各水道施設維持管理における業務委託。 ・経営戦略の策定。 【予算】 26,104 千円 【決算】 26,063 千円	B	・直営による維持管理が困難なため外部委託を継続。 ・次年度以降経営の健全化に向けた検討を実施。
② 下水道の普及促進	R3	個人が設置する合併処理浄化槽設置費に対する補助。7人槽：2件、5人槽：4件 【予算】 3,980 千円 【決算】 3,980 千円	B	農業集落排水処理事業区域（三原地区）を除く町内全域について、合併処理浄化槽の普及により汚水処理人口普及率を高めていく必要がある。
	R4	個人が設置する合併処理浄化槽設置費に対する補助。7人槽：0件、5人槽：2件 【予算】 6,415 千円 【決算】 1,160 千円	B	農業集落排水処理事業区域（三原地区）を除く町内全域について、合併処理浄化槽の普及により汚水処理人口普及率を高めていく必要がある。
	R5	個人が設置する合併処理浄化槽設置費に対する補助。7人槽：2件、5人槽：7件 【予算】 5,815 千円 【決算】 5,810 千円	B	農業集落排水処理事業区域（三原地区）を除く町内全域について、合併処理浄化槽の普及により汚水処理人口普及率を高めていく必要がある。
	R6	個人が設置する合併処理浄化槽設置費に対する補助。7人槽：1件、5人槽：2件 【予算】 2,035 千円 【決算】 2,035 千円	B	農業集落排水処理事業区域（三原地区）を除く町内全域について、合併処理浄化槽の普及により汚水処理人口普及率を高めていく必要がある。
	R7	個人が設置する合併処理浄化槽設置費に対する補助。7人槽：1件、5人槽：4件 【予算】 4,470 千円 【決算】 3,105 千円	B	農業集落排水処理事業区域（三原地区）を除く町内全域について、合併処理浄化槽の普及により汚水処理人口普及率を高めていく必要がある。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	情報通信網の活用	4/8
------------	----	-------	----------------	--------	----------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① ハード施設の維持・向上の推進	R3	FTTH施設の維持管理。 【予算】 72,233 千円 【決算】 71,228 千円	B	・光通信サービスや有線テレビの放送を行うためには、必要な施設維持を継続。
	R4	FTTH施設の維持管理。 【予算】 74,125 千円 【決算】 73,679 千円	B	・光通信サービスや有線テレビの放送を行うためには、必要な施設維持を継続。
	R5	FTTH施設の維持管理。 【予算】 70,156 千円 【決算】 69,203 千円	B	・光通信サービスや有線テレビの放送を行うためには、必要な施設維持を継続。 ・告知放送、域内無料電話のリース期間がR7.12に満了する。ランニングコスト(年間20,000千円)がかかっていることから、今後の方針の検討が必要
	R6	FTTH施設の維持管理。 【予算】 81,668 千円 【決算】 77,266 千円	C	・光通信サービスや有線テレビの放送を行うためには、必要な施設維持を継続。 ・支障移転業務において、谷地区治水事業に係る電柱移設があり、決算額は前年度に比べて増。 ・IP告知端末での放送、域内無料電話サービスをR7.9末に終了することを決定。
	R7	FTTH施設の維持管理。 IP告知端末をR7.9末で終了。 V-ONUの計画更新を3カ年で実施(R7～R9)。 【予算】 125,078 千円 【決算】 122,777 千円	B	・光通信サービスや有線テレビの放送を行うためには、必要な施設維持を継続。 ・IP告知端末での放送、域内無料電話サービスをR7.9末に終了した。 ・V-ONUの計画更新(R7～R9)1年目を実施。※500世帯
② 他分野への活用促進	R3	・IP告知システム端末更改業務(画面付告知端末の導入)100台 【予算】 17,468 千円 【決算】 16,899 千円	C	医療機関や見守り対象者に画面付き告知端末を設置のため、端末購入はR3で終了。 今後、新たな防災や各種相談での活用方法を検討。
	R4	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	防災や各種相談等での活用方法を検討。
	R5	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	防災や各種相談等での活用方法を検討。
	R6	・情報インフラの防災、教育など他分野への活用促進 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	既に実施している災害時のL字テロップによる避難情報の発信をはじめ、まげなねっと(有線テレビ放送)の他分野への活用策を検討した。
	R7	・情報インフラの防災、教育など他分野への活用促進 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	既に実施している災害時のL字テロップによる避難情報の発信をはじめ、まげなねっと(有線テレビ放送)の他分野への活用策を検討した。
③ 放送サービスの充実	R3	まげなねっと112CHの番組作成(サブチャンネルによる県議会の生放送、町の行事の放送機会の確保) 【予算】 1,533 千円 【決算】 1,533 千円	B	・町内のイベントや行事などの地域情報番組や県ケーブルテレビ協会との連携により番組を放送。 ・また、災害時にも災害情報等の情報発信を実施。 ・今後も町民の利便性を高めるため、番組作成は継続。
	R4	まげなねっと112CHの番組作成(サブチャンネルによる県議会の生放送、町の行事の放送機会の確保) 【予算】 1,720 千円 【決算】 1,575 千円	B	・町内のイベントや行事などの地域情報番組や県ケーブルテレビ協会との連携により番組を放送。 ・災害時の情報発信強化のため、LGテロップ導入。 ・今後も町民の利便性を高めるため、番組作成は継続。
	R5	まげなねっと112CHの番組作成(サブチャンネルによる県議会の生放送、町の行事の放送機会の確保) 【予算】 1,685 千円 【決算】 1,664 千円	B	・町内のイベントや行事などの地域情報番組や県ケーブルテレビ協会との連携により番組を放送。 ・今後も町民の利便性を高めるため、番組作成は継続
	R6	まげなねっと112CHの番組作成(サブチャンネルによる県議会の生放送、町の行事の放送機会の確保) 【予算】 2,148 千円 【決算】 2,130 千円	B	・町内のイベントや行事などの地域情報番組や県ケーブルテレビ協会との連携により番組を放送。 ・今後も町民の利便性を高めるため、番組作成は継続
	R7	まげなねっと112CHの番組作成(サブチャンネルによる県議会の生放送、町の行事の放送機会の確保) 【予算】 2,364 千円 【決算】 2,333 千円	B	・町内のイベントや行事などの地域情報番組や県ケーブルテレビ協会との連携により番組を放送。 ・今後も町民の利便性を高めるため、番組作成は継続

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)
D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

主な取組 評価シート

基本施策 番号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	居住環境の充実	5/8
------------	----	-------	----------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 住生活基本計画の作成	R3	—	B	・令和4年度策定予定のため継続。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	住生活基本計画を策定（令和4年度）	D	・住生活基本計画を策定した。
		【予算】 5,000 千円 【決算】 4,840 千円		
	R5	—	-	・R4に住生活基本計画を策定したことにより終了 ※R5からは住環境プロジェクトチームにより進捗管理中
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	—	-	—
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	—	-	—
		【予算】 千円 【決算】 千円		
② 町営住宅の更新や多様な住宅の整備促進	R3	・八幡平団地1号棟2号棟の屋上防水工事の実施。 ・八幡平団地3号棟の戸別改善工事の実施。 ・公営住宅等長寿命化計画の策定。	B	長寿命化計画に基づき、屋上防水工事や戸別改善工事を実施した。戸別改善については、新型コロナウイルスの影響により資材の納品ができなかったことからR4に繰越して実施する。今後も、計画に基づきながら対応していく。
		【予算】 62,588 千円 【決算】 61,592 千円		
	R4	・八幡平団地3号棟の戸別改善工事の実施。	B	長寿命化計画に基づき、戸別改善工事や解体除去を実施した。特に戸別改善については、新型コロナウイルスの影響により資材の納品が懸念されたが、年度内に完成することができた。今後も、計画に基づきながら対応していく。
		【予算】 92,063 千円 【決算】 91,934 千円		
	R5	・八幡平団地3号棟の戸別改善工事の実施 ・三島団地の排水管改善工事の実施 ・川本団地1号棟の外壁改善工事の実施	B	長寿命化計画に基づき、戸別改善工事、排水管改善工事や外壁改善工事を実施した。いずれの工事についても年度内に完成することができた。今後も計画に基づきながら対応していく。
		【予算】 90,830 千円 【決算】 90,672 千円		
	R6	・八幡平団地3号棟の戸別改善工事の実施 ・五反田団地2号棟の外壁改善工事の実施 ・天神町団地の浄化槽改善工事の実施	B	長寿命化計画に基づき、個別改善工事、浄化槽改善工事や外壁改善工事を実施した。いずれの工事でも年度内の完了ができた。今後も計画に基づき対応していく。
		【予算】 99,901 千円 【決算】 88,110 千円		
	R7	・八幡平団地1・2号棟個別改善工事 ・川本団地浄化槽改善工事 ・天神町団地給排水管改善工事	B	長寿命化計画に基づき、個別改善工事、浄化槽改善工事や排水管改善工事を実施した。なお、天神町団地の工事について、当初予定していなかったアスベスト対応が必要となり、次年度へ繰越となった（令和8年6月完了予定）。今後も計画に基づき対応していく。
		【予算】 178,000 千円 【決算】 100,749 千円		
③ 空き家対策の充実	R3	・老朽危険空き家除却支援事業補助金を構築 老朽危険空き家除却支援事業補助金実績1件（上限1,000千円）	B	老朽危険空き家除却支援事業補助金制度を構築し、1件の実績があった。 毎年2件分の予算を計上し、事業の周知を行う。
		【予算】 1,259 千円 【決算】 1,011 千円		
	R4	・老朽危険空き家除却支援事業補助金を構築 老朽危険空き家除却支援事業補助金実績1件（上限1,000千円）	B	老朽危険空き家除却支援事業補助金制度を構築、今年度は実績がなかった。 毎年2件分の予算を計上し、事業の周知を行う。
		【予算】 2,000 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・老朽危険空き家除却支援事業補助金を構築 老朽危険空き家除却支援事業補助金実績2件（上限1,000千円）	B	老朽危険空き家除却支援事業補助金制度を構築、今年度は2件の申請があり、実施した。 毎年2件分の予算を計上し、事業の周知を行う。
		【予算】 2,000 千円 【決算】 1,790 千円		
	R6	・老朽危険空き家除却支援事業補助金を構築 老朽危険空き家除却支援事業補助金実績2件（上限1,000千円）	B	老朽危険空き家除却支援事業補助金制度によりR6に2件の解体を実施。 解体についての相談の際に、解体金額の相場について相談したが、回答できる情報が町にないことで苦慮している。解体の概算金額をすぐに見られるサービスを無料で提供している民間業者があり、そのサービスを川本町でもR7からスタートできるよう検討を行う。
		【予算】 2,000 千円 【決算】 1,880 千円		
	R7	・老朽危険空き家除却支援事業補助金を構築 老朽危険空き家除却支援事業補助金実績4件（上限1,000千円）	B	当初の計画では、3件の解体補助を予定していたが、1件追加して、4件の解体を実施。 今後も老朽危険空き家の増加が見込まれるので、毎年4件の予算を計上し、引き続き事業の周知を続ける。 解体の概算金額がわかるように、民間業者の無料サービスを利用できるようにした。
		【予算】 4,000 千円 【決算】 4,000 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番 号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	居住環境の充実	6/8
-------------	----	-------	----------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 公園・子どものあそび場の充実	R3	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後のマスタープランの策定に併せ公園施設等の整備を検討。
	R4	立地適正化計画未策定のため、現時点では該当無し 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後の立地適正化計画の策定に併せ公園施設等の整備を検討。
	R5	立地適正化計画の策定（1年目） 【再掲】 【予算】 5,500 千円 【決算】 5,500 千円	B	・立地適正化計画の策定に併せ各種誘導施策（施設）の一環として検討を進めている
	R6	河津桜公園整備に向け、実施設計業務を実施。 【予算】 11,527 千円 【決算】 3,300 千円	A	・河津桜公園整備に向け、実施設計を実施し、令和7年度より整備に着手予定。 ・令和12年度開催の国民スポーツ大会に向け、川本公園野球場の改修検討を令和7年度より実施予定。
	R7	河津桜公園整備工事に着手。土木工事と建築工事を分けて施工する。 【予算】 118,534 千円 【決算】 74,700 千円	B	・河津桜公園整備にあたり、起債の影響もあり建築工事をR7、R8の2カ年に分けて施工。土木工事は、建築工事の施工状況を踏まえ、R8まで期間延長（工期：R8.7.31）とした。
⑤ 景観対策の推進	R3	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後のまちづくりと並行しながら景観づくりの方向性を検討。
	R4	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後のまちづくりと並行しながら景観づくりの方向性を検討。
	R5	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後のまちづくりと並行しながら景観づくりの方向性を検討。
	R6	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	今後のまちづくりと並行しながら景観づくりの方向性を検討。
	R7	— 【予算】 0 千円 【決算】 千円	B	今後のまちづくりと並行しながら景観づくりの方向性を検討。
	R3	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	— 【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	環境対策の充実	7/8
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① ごみや廃棄物の適正処理の推進	R3	・ごみ分別アプリ、生ごみ堆肥化装置補助により、普及啓発やごみの減量化をはかる。 ・事務組合負担金（ごみ・し尿処理の運営費、ごみ処理施設整備費）により、適正な処理を推進する。	B	・冊子「家庭ごみの分別と出し方のしおり」の配付や、スマートフォンによるごみ分別アプリを通じ、ごみの分別やリサイクル活動等の促進に努めている。 ・ごみの減量化に向け、引き続き生ごみ堆肥化装置設置事業補助を実施する必要がある。 ・新可燃ごみ処理施設の供用開始に伴い、適正な施設の運営に向け、引き続き整備や運営に係る経費を負担する必要がある。		
	R4	・ごみ分別アプリ、生ごみ堆肥化装置補助により、普及啓発やごみの減量化をはかる。 ・事務組合負担金（ごみ・し尿処理の運営費、ごみ処理施設整備費）により、適正な処理を推進する。	B	・冊子「家庭ごみの分別と出し方のしおり」の配付や、スマートフォンによるごみ分別アプリを通じ、ごみの分別やリサイクル活動等の促進に努めている。 ・ごみの減量化に向け、引き続き生ごみ堆肥化装置設置事業補助を実施する必要がある。 ・ごみ処理施設の適正な施設の運営に向け、引き続き整備や運営に係る経費を負担する必要がある。		
	R5	・ごみ分別アプリ、生ごみ堆肥化装置補助により、普及啓発やごみの減量化をはかる。 ・事務組合負担金（ごみ・し尿処理の運営費、ごみ処理施設整備費）により、適正な処理を推進する。	B	・冊子「家庭ごみの分別と出し方のしおり」の配付や、スマートフォンによるごみ分別アプリを通じ、ごみの分別やリサイクル活動等の促進に努めている。 ・ごみの減量化に向け、引き続き生ごみ堆肥化装置設置事業補助を実施する必要がある。 ・ごみ処理施設の適正な施設の運営に向け、引き続き整備や運営に係る経費を負担する必要がある。		
	R6	・川本町LINEによるごみの情報の配信や、生ごみ堆肥化装置補助により、普及啓発やごみの減量化をはかる。 ・事務組合負担金（ごみ・し尿処理の運営費、ごみ処理施設整備費）により、適正な処理を推進する。	A	・冊子「家庭ごみの分別と出し方のしおり」の配付や、川本町LINEによるごみの分別やリサイクル活動等の促進に努めている。 ・ごみ処理施設の適正な運営に向け、事務組合と構成町とが連携して取り組んでいる。整備や運営に係る経費について引き続き負担していく。 ・し尿処理場「志谷苑」の基幹的設備改良計画に基づき、令和5年度に長寿命化計画策定、令和6年度に改修工事の仕様書作成～入札を実施。仮契約の後、令和7年5月に本契約。令和8年度までの2か年で設備改良工事を実施。これにより、消費電力の低減等による経費削減や、施設の安全と長寿命化が図られる。		
	R7	・川本町LINEによるごみの情報の配信により、普及啓発やごみの減量化をはかる。 ・事務組合負担金（ごみ・し尿処理の運営費、ごみ処理施設整備費）により、適正な処理を推進する。	B	・川本町LINEおよび広報誌、ケーブルテレビを活用した分別等の啓発を実施した。特に、社会的にその危険性が問題となったリチウムイオン電池の分別について、重点的な広報を実施した。 ・し尿処理場「志谷苑」の基幹的整備開庁計画に基づく改良工事を実施した。		
		【予算】 425,612 千円 【決算】 425,319 千円				
		【予算】 118,546 千円 【決算】 118,497 千円				
② 地球温暖化対策の推進	R3	太陽光発電等導入促進事業補助の実績はなかった。	B	太陽光発電等導入促進事業補助金については、地球温暖化防止に向け、引き続き実施する必要がある。		
		【予算】 800 千円 【決算】 0 千円				
	R4	太陽光発電等導入促進事業補助は1件あるが、年度内で完了できないことから令和5年度での繰越となった。	B	太陽光発電等導入促進事業補助金については、地球温暖化防止に向け、引き続き実施する必要がある。		
		【予算】 140 千円 【決算】 0 千円				
	R5	太陽光発電等導入促進事業補助の交付決定2件である。なお、県補助上、年度内完了が絶対条件であることから、申請者に対し、施工者への注意喚起を促している。	B	太陽光発電等導入促進事業補助金については、地球温暖化防止に向け、引き続き実施する必要がある。		
		【予算】 840 千円 【決算】 560 千円				
	R6	太陽光発電等導入促進事業補助事業により、家庭における太陽光発電システム等の設置を促進する。	B	太陽光発電等導入促進事業補助金については、地球温暖化防止に向け、引き続き実施する必要がある。		
③ 不法投棄対策の充実	R3	自治会とも連携し、注意看板や防犯カメラを設置し、予防対策を図る。	B	看板やカメラを設置した箇所は抑止効果があることから、継続して実施する。		
		【予算】 70 千円 【決算】 5 千円				
	R4	自治会とも連携し、注意看板や防犯カメラを設置し、予防対策を図る。	B	看板やカメラを設置した箇所は抑止効果があることから、継続して実施する。		
		【予算】 69 千円 【決算】 5 千円				
	R5	自治会とも連携し、注意看板や防犯カメラを設置し、予防対策を図る。今年度、南佐木地区を重点監視地域として指定し、保健所やしまね産業資源循環協会県央支部と連携した合同パトロールを6月と11月に実施。なお、パトロールに合わせ、地域からの推薦により、監視モニター員2名を委嘱している。	B	重点区域でパトロールした結果、2台ダンプ1台ほどの不法投棄を回収した。看板やカメラを設置した箇所は抑止効果があるため継続して実施するが、人目につかない場所における不法投棄がなくなる。引き続き注意喚起するなど啓発する。		
		【予算】 69 千円 【決算】 7 千円				
	R6	自治会とも連携し、注意看板や防犯カメラを設置し、予防対策を図る。	B	町内の4か所で不法投棄の一斉撤去をおこなった。看板やカメラを設置した箇所は抑止効果があるため継続して実施するが、人目につかない場所における不法投棄がなくなる。引き続き注意喚起するなど啓発する。		
	R7	自治会とも連携し、注意看板や防犯カメラを必要に応じて設置し、予防対策を図る。	B	不法投棄の物の連絡を受け、川本警察署と連携の上で現地調査～撤去までを実施した。現場への看板やカメラの設置は、地元住民と協議の上で行わないこととした。引き続き、看板やカメラを必要に応じて設置する必要がある。		
		【予算】 64 千円 【決算】 0 千円				

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取組 評価シート

基本施策 番号	18	基本施策名	インフラ整備・環境対策の推進	施策の方向性	環境対策の充実	8/8
------------	----	-------	----------------	--------	---------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 自然環境の保護・保全	R3	水質調査の実施時期を改め、7月・10月に実施。調査回数については変更なし。	B	定期的な検査により水質汚染状況を把握している。今後も水質環境の維持に向け継続して実施する。
		【予算】 27 千円 【決算】 27 千円		
	R4	例年実施している3河川（濁川、三谷川、祖式川）の水質調査を6月、10月の2回実施した。加えて、1河川（田水川）について調査を追加し、年1回10月に実施した。	B	定期的な検査により水質汚染状況を把握している。加えて、水浴場としての利用があったことから、1河川調査を追加し水質汚染状況を把握した。今後も水質環境の維持に向け継続して実施する。
		【予算】 55 千円 【決算】 55 千円		
	R5	濁川、三谷川、祖式川の水質調査を7月に1回・10月中に2回目を実施。また、田水川については年1回の水質調査を7月に実施。	B	定期的な検査により水質汚染状況を把握している。今後も水質環境の維持に向け継続して実施する。
		【予算】 83 千円 【決算】 83 千円		
	R6	町内4河川（5地点）水質調査を1～2回/年実施する予定。検査結果により、必要な対策等を検討する。	B	定期的な検査により水質汚染状況を把握している。今後も水質環境の維持に向け継続して実施する。
		【予算】 84 千円 【決算】 84 千円		
	R7	町内4河川（5地点）水質調査を2回/年実施する。検査結果により、必要な対策等を検討する。	B	計画通り水質調査を実施し、異常がないことを確認した。条例にもとづき、継続的に調査を実施する。
		【予算】 90 千円 【決算】 84 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

1 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 効率的な行財政運営を推進します
基本方針	効率的な行財政運営を推進

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
19	効率的な行財政運営の推進	P86～87	総務財政課

施策の方針	財政健全化を推進するとともに、町民から信頼される役場の実現に向けた行政を推進します。
施策の方向性	・公共施設等総合管理計画の推進 ・行政サービスの高度化・効率化・透明化の推進 ・持続可能な財政基盤の確立

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
公共施設の総延べ床面積 【単年度値】（単位：千㎡）	目標値	66	65	64	63	62
	実績値	67	65	65	65	65
	達成率	98.5%	98.5%	98.5%	103.2%	103.2%
自らが希望して専門研修に参加した職員の割合 【単年度値】（単位：％）	目標値	43.8	56.2	68.8	81.3	100.0
	実績値	49.2	45.9	71.0	73.8	90.2
	達成率	112.3%	81.70%	103.2%	90.8%	90.2%

評価	担当課評価
B	・令和7年度当初予算で実施しているスクラップ＆ビルドの取り組みにより、IP告知システム廃止等で年間約20,000千円の一般財源削減に寄与。一方で、治水対策事業等の実施により、歳出は増加傾向にあるため、引き続き、中長期視点をもった財政運営が必要。

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）
B	・治水対策等の大型事業により、当面の歳出増は否めないが、中長期視点に立った安定的な財政運営に努めること。 ・令和6年度に立地適正化計画策定。今後策定する都市再生整備計画に基づく事業実施に向けた財源確保のための事業のスクラップ＆ビルドが必要。 ・老朽化した公共施設の長寿命化に向けて、必要な点検や修繕を計画的に実施すること。 ・限られた体制の中で、最高のパフォーマンスを出せるよう、研修制度等の充実を図ること。 ・計画的な職員採用が行えるよう、効果的なPR手法等を検討すること。 ・企業版ふるさと納税の拡大に向けて全庁的に取り組むこと。

評価	最終評価（町長、教育長）
B	・一次評価のとおりとする。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

施策評価シート

2 / 2

第6次総合計画の位置づけ

将来像（基本目標）	たすけあい・支えあう中で自分らしく暮らし続けられるまち 効率的な行財政運営を推進
基本方針	効率的な行財政運営の推進

基本施策番号	基本施策名	記載ページ	主担当課
19	効率的な行財政運営の推進	P86～87	総務財政課

施策の方針	財政健全化を推進するとともに、町民から信頼される役場の実現に向けた行政を推進します。
施策の方向性	・ 公共施設等総合管理計画の推進 ・ 行政サービスの高度化・効率化・透明化の推進 ・ 持続可能な財政基盤の確立

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
積立金現在高 【単年度値】（単位：百万円）	目標値	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	実績値	2,425	2,495	2,474	2,340	2,290
	達成率	105.4%	108.5%	107.6%	101.7%	99.6%
地方債現在高 【単年度値】（単位：百万円）	目標値	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
	実績値	5,483	5,385	5,362	5,458	5,937
	達成率	87.5%	89.1%	89.5%	87.9%	80.9%
町税の徴収率 【単年度値】（単位：％）	目標値	95.00	95.05	95.10	95.15	95.20
	実績値	95.90	96.10	95.90	95.90	96.48
	達成率	100.9%	101.1%	100.8%	100.7%	101.3%

評価	担当課評価

評価	一次評価（副町長、総務財政課長）

評価	最終評価（町長、教育長）

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	19	基本施策名	効率的な行財政運営の推進		施策の方向性	公共施設等総合管理計画の推進	1/4
主な取り組み		年度	具体的取組内容		評価	評価の説明	
① アセットマネジメントの推進	R3	・アセットマネジメント取り組み方針に基づいた総資産量の適正化を目指し、公共施設維持管理システムの活用により建物施設の総延床面積の縮減を目指す。 ・公共施設維持管理システムの運用		B	・各課の公共施設維持管理担当者に対して施設点検マニュアル及び公共施設維持管理システムの運用研修を行い、今後の施設管理の事務的な流れを確立した。 ・各担当者が各公共施設の基本項目のほか、施設の修繕履歴や維持管理費等の情報をシステムに入力したが、現時点では建物施設の延べ床面積の縮減には繋がっていない。		
		【予算】	880 千円		【決算】	880 千円	
	R4	・アセットマネジメント取り組み方針に基づいた総資産量の適正化を目指し、公共施設維持管理システムの活用により建物施設の総延床面積の縮減を目指す。 ・公共施設維持管理システムの運用		B	・各担当者が施設の修繕履歴や維持管理費等の情報をシステムに入力し、施設の適正管理に繋がった。 ・定住促進住宅を新たに建設した一方で、神田団地、古布毛団地、井ノ迫団地の除却を行い、総延床面積の縮減に繋がった。		
		【予算】	660 千円		【決算】	660 千円	
	R5	・アセットマネジメント取り組み方針に基づいた総資産量の適正化を目指し、公共施設維持管理システムの活用により建物施設の総延床面積の縮減を目指す。 ・公共施設維持管理システムの運用		B	・各担当者が施設の修繕履歴や維持管理費等の情報をシステムに入力し、施設の適正管理に繋がった。 ・旧合銀住宅の除却を行い、総延床面積の縮減に繋がった。		
		【予算】	660 千円		【決算】	660 千円	
	R6	・アセットマネジメント取り組み方針に基づいた総資産量の適正化を目指し、公共施設維持管理システムの活用により建物施設の総延床面積の縮減を目指す。 ・公共施設維持管理システムの運用 ・遊休町有地の売却		C	・各担当者が施設の修繕履歴や維持管理費等の情報をシステムに入力し、適正に管理することとしているが、各課での運用に差が生じているため、運用を見直す必要がある。 ・古布毛団地の除却を行い、総延床面積の縮減に繋がった。 ・老朽化した五反田団地1号棟の除却方針を決定した。		
【予算】		660 千円	【決算】		660 千円		
R7	・アセットマネジメント取り組み方針に基づいた総資産量の適正化を目指し、公共施設維持管理システムの活用により建物施設の総延床面積の縮減を目指す。 ・公共施設維持管理システムの運用 ・遊休町有地の売却		B	・神田団地の除却を行い、総延べ床面積の縮減につながった。			
	【予算】	825 千円		【決算】	825 千円		
② 長寿命化・予防保全推進	R3	・施設毎の戸別施設計画を策定し、予防保全の観点に基づき安全性の確保と延命化に向けた対策を進める。		B	・公共施設点検マニュアルに基づき、各公共施設の施設点検を行った。 ・この施設点検結果に基づき、令和4年度以降順次予防修繕を行う。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
	R4	・施設毎の戸別施設計画に基づいた安全性の確保と延命化に向けた対策を進める。		B	・令和3年度の点検結果に基づき、予防修繕を行った。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
	R5	・施設毎の戸別施設計画に基づいた安全性の確保と延命化に向けた対策を進める。		B	・令和4年度の点検結果に基づき、予防修繕を行った。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
R6	・施設毎の戸別施設計画に基づいた安全性の確保と延命化に向けた対策を進める。		B	・所管課において前年度の点検結果に基づき、計画的な予防修繕に取り組む ・町営住宅について移住、定住促進の観点から戸別修繕の充実を図る。			
	【予算】	0 千円		【決算】	0 千円		
R7	・施設毎の戸別施設計画に基づいた安全性の確保と延命化に向けた対策を進める。		A	・所管課において前年度の点検結果に基づき、計画的な予防修繕に取り組む ・公営住宅長寿命化計画に基づく個別改善事業を計画通りに行った。			
	【予算】	0 千円		【決算】	0 千円		
③ 民間活力の導入	R3	・民間活力を施設の整備や管理に積極導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用した公共サービスの提供を推進する。 ・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案募集		B	・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案を募集したところ、小売電気事業者1社から価格交渉力に特化した電力最適購入について提案があり、採択を行った。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
	R4	・民間活力を施設の整備や管理に積極導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用した公共サービスの提供を推進する。 ・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案募集		B	・R3年度に採択した電力最適購入について、ウクライナ情勢により、新規契約が不可となったため、契約に至っていない。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
	R5	・民間活力を施設の整備や管理に積極導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用した公共サービスの提供を推進する。 ・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案募集		B	・電力最適購入については、ウクライナ情勢の影響によりR5年度も契約には至らなかった。採択事業者からはR6年度に再度説明を受ける予定。		
		【予算】	0 千円		【決算】	0 千円	
	R6	・民間活力を施設の整備や管理に積極導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用した公共サービスの提供を推進する。 ・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案募集		B	・事業所から説明は受けたが、R6年度も契約に至っていない。近隣市町村の動向等を踏まえ検討を行う。		
【予算】		0 千円	【決算】		0 千円		
R7	・民間活力を施設の整備や管理に積極導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用した公共サービスの提供を推進する。 ・川本町公共マネジメント民間提案制度に基づく提案募集 ・公共施設包括管理の導入に向けた検討		B	・事業所から説明は受けたが、R6年度も契約に至っていない。近隣市町村の動向等を踏まえ検討を行う。 ・公共施設包括管理の導入に向けた情報収集を開始した。			
	【予算】	0 千円		【決算】	0 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策番号	19	基本施策名	効率的な行政運営の推進	施策の方向性	行政サービスの高度化・効率化・透明化の推進	2/4
--------	----	-------	-------------	--------	-----------------------	-----

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 職員の意識改革と資質向上	R3	・職員の能力開発を進めるための人事評価制度の運用や、資質向上に向けた研修等を推進 ・人事評価研修の開催 ・各種研修への積極的な参加助奨	B	・全職員を対象に人事評価研修を開催し、特別職も含む43名が参加した。 ・人事評価研修は評価者と被評価者に分かれての研修とし、人事評価の基本的な知識を再確認することができた。 ・コロナ感染防止の観点から全国研修への参加は行わなかったが、県自治研修所や県総合事務組合が開催する選択研修に延べ42名と多くの職員が参加し、職員数あたりの参加率は県内自治体でもトップであった。
		【予算】 1,642 千円 【決算】 1,163 千円		
	R4	・職員の能力開発を進めるための人事評価制度の運用や、資質向上に向けた研修等を推進 ・人事評価研修の開催 ・各種研修への積極的な参加助奨	B	・選択研修の情報などを発信し研修への積極的な参加を促した。また、町独自研修として人権研修や倫理研修を実施し、全職員（休職・育休中除く）が何らかの研修に参加することができた。
		【予算】 2,036 千円 【決算】 1,624 千円		
	R5	・職員の能力開発を進めるための人事評価制度の運用や、資質向上に向けた研修等を推進 ・人事評価研修の開催 ・各種研修への積極的な参加助奨	B	・研修情報の発信に加え、管理職から研修参加の促しにより、研修へ参加しやすい環境を構築できた。 また、町独自として人権研修、セクハラ研修やカスハラ研修なども実施し、職員の意識改革・資質向上につながる研修実施をすることができた。
		【予算】 2,036 千円 【決算】 1,434 千円		
	R6	・職員の能力開発を進めるための人事評価制度の運用や、カスタマーハラスメント研修等の町独自研修を実施に加え、各種研修への積極的な参加助奨を実施	B	・人事評価制度の有効活用により、職員と管理職が半期ごとの業績評価の面談を通じ、問題の早期発見や起動修正などを行う体制の整備を目的に、年間評価から半期評価へ変更。 ・研修情報の発信に加え、管理職から研修参加の促しにより、研修へ参加しやすい環境を構築できた。 また、町独自研修として、近年問題となっている、カスタマーハラスメント研修を実施し、問題を未然に防ぐ、発生時の対応などについて学ぶ機会を、職員全体で持つことができた。
		【予算】 2,559 千円 【決算】 2,254 千円		
	R7	・職員の能力開発に加え、業務の進捗管理への活用として人事評価制度の運用や、若手職員の育成に向けた新たな研修を実施	A	・人事評価の半期評価の変更により、業務の進捗管理向上につながった。 ・研修の積極的な参加に向け、年度当初に管理職による声かけ実施などにより、高い参加割合の実現となっている。 ・令和7年度には、若手職員の企画・立案能力向上に向け、専門講師による全5回の町単独研修を実施するなど、新たな取り組みを実施
		【予算】 4,857 千円 【決算】 4,124 千円		
② ICT活用の推進	R3	・議会、庁議ペーパーレス化事業（タブレット30台）	A	・議員、管理職にタブレットを配布し、議会・庁議のペーパーレス化を実施 ・今後は、デジタル化の推進にあわせ、内部手続き等でのペーパーレス化やICTを活用した業務改善の実施が必要
		【予算】 3,675 千円 【決算】 3,675 千円		
	R4	・ペーパーレス会議システム利用 ・庁舎内ICT機器の整備（窓口用PC、タブレット、モニター）	A	・ペーパーレス会議システムによりペーパーレスの取り組みを実施 ・窓口用PCやタブレットを配備し、デジタル化の取り組みを推進
		【予算】 1,410 千円 【決算】 1,410 千円		
	R5	・TV会議システム（ZOOM）利用	A	・TV会議システム（ZOOM）を活用することで、出張旅費の削減に加え、移動時間を有効活用できるようになった。
		【予算】 1,023 千円 【決算】 1,023 千円		
	R6	・ペーパーレス会議システム利用 ・kintoneによるシステム内製化・効率化 ・町公式LINEの運用 等	A	・ペーパーレス会議システムによりペーパーレスの取り組みを実施 ・kintoneを活用し、業務の効率化を図った。 （全24業務） ・町公式ラインの導入により、告知放送の確認やごみの情報など、町民サービスの向上に繋がった。 ・鳥根電子申請サービスを活用した町民からのデジタル手続きの拡充を行った。
		【予算】 2,620 千円 【決算】 2,534 千円		
③ 業務の組織機構の効率化	R3	・町民との協働の推進、組織力の維持・向上を図り、事務事業の企画・改善を進める。 ・自治会長会議、まちづくり意見交換会の開催 ・庁議の定期開催	B	・自治会長会議の実施やまちづくり意見交換会の開催等により、町民との協働推進を図った。 ・庁議等の定期開催により事務運営について情報の共有を図った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・町民との協働の推進、組織力の維持・向上を図り、事務事業の企画・改善を進める。 ・自治会長会議の開催（3回） ・テーマを設定したまちづくり意見交換会の開催（3回） ・庁議の定期開催	B	・これまでの開催内容を見直し、意見交換するテーマを設定し、まちづくり意見交換会を開催し、参加者が増え多様な意見交換の場づくりに取り組んだ。 ・庁議等の定期開催は継続して取り組み、事務運営について情報の共有を図った。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・ペーパーレス会議システム利用 ・kintoneによるシステム内製化・効率化	B	・ペーパーレス会議システムによりペーパーレスの取り組みを実施 ・kintoneを活用し、業務の効率化を図った。
		【予算】 990 千円 【決算】 990 千円		
	R6	・ペーパーレス会議システム利用 ・kintoneによるシステム内製化・効率化 ・ロゴチャットによる情報共有の効率化	B	・ペーパーレス会議システムによりペーパーレスの取り組みを実施 ・kintoneを活用し、業務の効率化を図った。 （全24業務） ・ロゴチャットを活用し、情報共有の効率化やペーパーレス化を図った。
		【予算】 2,224 千円 【決算】 2,138 千円		
	R7	・ペーパーレス会議システム利用 ・kintoneによるシステム内製化・効率化 ・ロゴチャットによる情報共有の効率化	B	・ペーパーレス会議システムによりペーパーレスの取り組みを実施 ・kintoneを活用し、業務の効率化を図った。 （全24業務） ・ロゴチャットを活用し、情報共有の効率化やペーパーレス化を図った。
		【予算】 3,344 千円 【決算】 3,105 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	19	基本施策名	効率的な行政運営の推進	施策の方向性	行政サービスの高度化・効率化・透明化の推進
------------	----	-------	-------------	--------	-----------------------

3/4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 住民に開かれた行政運営の推進	R3	・広報かわもとの発行 ・HP、SNSでの定期的な情報発信 ・まちづくり意見交換会の開催（3回） ・地区別座談会の開催（10地区）	A	・多くの町民がスマートフォンを所有していることから、スマートフォンへのプッシュ通知（LINE・アプリ）の導入により、情報発信の強化が必要。 ・また、より見やすく、編集が容易なHPの改修の検討も必要。
		【予算】 6,295 千円 【決算】 5,894 千円		
	R4	・広報かわもとの発行 ・HP、SNSでの定期的な情報発信 ・まちづくり意見交換会の開催（3回）	A	・多くの町民がスマートフォンを所有していることから、スマートフォンへのプッシュ通知が必要。 ・発信する情報、対象者、活用するツールを整理し、的確な情報発信が必要。
		【予算】 11,467 千円 【決算】 7,267 千円		
	R5	・広報かわもとの発行 ・HP、町公式LINEでの定期的な情報発信 ・住民との対話の機会をつくり、事務事業の企画改善を進める ・まちづくり意見交換会の開催（3回）	A	・まちづくり意見交換会の開催（全3回） ・自治会長会議の開催（全3回） ・町公式LINE構築を構築し、スマートフォンへ情報配信できる環境を構築（R6.5.28時点 登録者数861人）
		【予算】 10,666 千円 【決算】 9,279 千円		
	R6	・広報かわもとの発行 ・HP、町公式LINEでの定期的な情報発信 ・住民との対話の機会をつくり、事務事業の企画改善を進める ・まちづくり意見交換会の開催（3回）	B	・広報かわもととR7.1月号から全頁フルカラーへ変更 ・まちづくり意見交換会の開催（全3回） ・自治会長会議の開催（全3回） ・町公式LINEを活用し、町からのお知らせなどの情報を配信（R7.6.16時点 登録者数1,250人） ・高齢者や障がい者を含め、誰もが見やすく必要な情報を素早く取得できるようホームページのリニューアルを実施
		【予算】 9,043 千円 【決算】 7,895 千円		
	R7	・広報かわもとの発行 ・HP、町公式LINEでの定期的な情報発信 ・住民との対話の機会をつくり、事務事業の企画改善を進める ・まちづくり意見交換会の開催（3回）	B	・まちづくり意見交換会の開催（全3回） ・自治会長会議の開催（全3回） ・町公式LINEを活用し、町からのお知らせなどの情報を配信（R8.6.18時点 登録者数 1,527人）
		【予算】 8,690 千円 【決算】 8,093 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

主な取り組み 評価シート

基本施策 番号	19	基本施策名	効率的な行政運営の推進	施策の方向性	持続可能な財政基盤の確立	4/4
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① 健全な財政運営の推進	R3	・第三次行政改革大綱を改定し、健全な財政運営に努めるとともに、町民への情報公開を推進する。 ・地方公会計に基づく財務書類の作成と町HPへの公表。	B	・令和2年度決算に基づく固定資産台帳の整備及び財務書類の作成を行い、町公式HPに公表した。 ・財務書類に基づく分析結果をふまえて予算編成方針の策定を行い、健全な財政運営に向けた取り組みの参考とした。		
		【予算】 2,530 千円 【決算】 2,530 千円				
	R4	・地方公会計に基づく財務書類の作成と町HPへの公表。	B	・令和3年度決算に基づく固定資産台帳の整備及び財務書類の作成を行い、町公式HPに公表した。 ・財務書類に基づく分析結果をふまえて予算編成方針の策定を行い、健全な財政運営に向けた取り組みの参考とした。		
		【予算】 2,530 千円 【決算】 2,530 千円				
	R5	・地方公会計に基づく財務書類の作成と町HPへの公表。	B	・令和4年度決算に基づく固定資産台帳の整備及び財務書類の作成を行い、町公式HPに公表した。 ・財務書類に基づく分析結果をふまえて予算編成方針の策定を行い、健全な財政運営に向けた取り組みの参考とした。		
		【予算】 2,530 千円 【決算】 2,420 千円				
	R6	・地方公会計に基づく財務書類の作成と町HPへの公表。	B	・令和5年度決算に基づく固定資産台帳の整備及び財務書類の作成を行い、町公式HPに公表した。 ・財務書類に基づく分析結果をふまえて予算編成方針の策定を行い、健全な財政運営に向けた取り組みの参考とした。		
		【予算】 2,420 千円 【決算】 2,420 千円				
	R7	・地方公会計に基づく財務書類の作成と町HPへの公表。	B	・令和5年度決算に基づく固定資産台帳の整備及び財務書類の作成を行い、町公式HPに公表した。 ・財務書類に基づく分析結果をふまえて予算編成方針の策定を行い、健全な財政運営に向けた取り組みの参考とした。		
		【予算】 2,420 千円 【決算】 2,420 千円				
② 町税等の賦課徴収の推進	R3	・適正な賦課と納税意識の高揚を促すと共に、納付方法の多様化により納税者の利便性を高め、期限内納付の推進に努める。 ・コンビニエンスストア及び決済アプリPayPay納付の運用開始。	B	・従前の口座振替や金融機関での窓口納付に加えて、コンビニ及びPayPayでの納付を可能としたことで、納税者の利便性を高め期限内納付の推進に繋げることが出来た。		
		【予算】 208 千円 【決算】 199 千円				
	R4	・適正な賦課と納税意識の高揚を促すとともに納付方法の多様化により納税者の利便性を高め、期限内納付の推進に努める。 ・令和3年度から開始したコンビニエンスストア及びPayPayアプリ納付の促進を図る。	B	・コンビニ納付やPayPayアプリ納付利用促進のため、各税目納付書送付時に利用案内を促した。また、令和5年4月から「QRコード」を利用した運用を行い、納税手段の拡大を行うため、地方税共同機構や金融機関等との調整を行った。		
		【予算】 183 千円 【決算】 107 千円				
	R5	・適正な賦課と納税意識の高揚を促すとともに納付方法の多様化により納税者の利便性を高め、期限内納付の推進に努める。 ・コンビニエンスストア及びアプリ納付の促進を図る。	B	・コンビニ納付やPayPayアプリ納付利用促進のため、各税目納付書送付時に利用案内を促した。また、令和5年4月から「QRコード」を利用した運用を行い、納税手段の拡大を図った。		
		【予算】 276 千円 【決算】 171 千円				
	R6	・適正な賦課と納税意識の高揚を促すとともに納付方法の多様化により納税者の利便性を高め、期限内納付の推進に努める。 ・コンビニエンスストア及びアプリ納付の促進を図る。	B	・コンビニ納付やPayPayアプリ納付利用促進のため、各税目納付書送付時に利用案内を促した。また、QRコードを利用した運用を行うことで、納税者の利便性を高め期限内納付の推進に繋げることが出来た。		
		【予算】 248 千円 【決算】 248 千円				
	R7	・適正な賦課と納税意識の高揚を促すとともに納付方法の多様化により納税者の利便性を高め、期限内納付の推進に努める。 ・コンビニエンスストア及びアプリ納付の促進を図る。	B	・コンビニ納付やPayPayアプリ納付利用促進のため、各税目納付書送付時に利用案内を促した。また、QRコードを利用した運用を行うことで、納税者の利便性を高め期限内納付の推進に繋げることが出来た。		
		【予算】 315 千円 【決算】 313 千円				

③ ふるさと納税等の増大対策	R3	・ポータルサイトの追加(楽天) ・ガバメントクラウドファンディング、災害寄附の実施。	B	・寄附額の総計が3千万円を超え、平成30年度に次ぐ2番目となった。 ・引き続き新規返礼品、魅力的な返礼品の開発に取り組む。 ・寄附を活用した事業実施の検討を進める。
		【予算】 14,371 千円 【決算】 14,176 千円		
	R4	・ポータルサイトの追加検討 (R5.6月開始:ANAのふるさと納税) ・雑誌への広告掲載 (『農産物を買Walker2023』) ・返礼品提供事業者研修会の開催 ・新規返礼品の追加 (23品)	B	・寄附の活用実績を町HPや寄附者宛てのメルマガで情報発信するなど、使途について共感を得る工夫が必要。 ・引き続き返礼品の開拓・見直しを行う。
		【予算】 11,699 千円 【決算】 11,698 千円		
	R5	・募集チラシの作成 ・新規返礼品の追加 (13品) ・ガバメントクラウドファンディング (3月～) の実施	A	・魅力ある返礼品の開拓・見直しが必要。 ・中間支援業務委託先に対して業務内容の向上を図ることに合わせて、連携をさらに強化させる。 ・新規納税者の発見方法について検討が必要。
		【予算】 10,269 千円 【決算】 9,168 千円		
	R6	・ガバメントクラウドファンディング(～5/29) 寄附額: 4,192千円 ・起業家育成補助金の交付 交付決定額: 5,435千円 ・企業版ふるさと納税募集チラシの作成 ・体験型返礼品の開発	B	・新規返礼品の提供を開始(体験型1件を含む) ・前年度以上の寄附額を更新 ・中間支援業務委託先に対して業務内容の向上を図ることに合わせて、連携強化を図る。 ・町ならではの取り組みと連動した企業版ふるさと納税の拡充を検討する。
		【予算】 20,868 千円 【決算】 15,410 千円		
	R7	・ガバメントクラウドファンディング(花火大会)の実施 ・企業版ふるさと納税募集チラシの作成 ・ふるさと納税推進方針の策定	B	・「令和7年度川本町ふるさと納税推進方針」を策定し、課題と取組の見える化と評価を実施。次年度以降も継続して実施。 ・昨年度に引き続きガバメントクラウドファンディングを実施(5/1～7/29_合併70周年記念花火大会開催のために、3/9～花火大会を次世代へつないでいくために)。 ・企業版ふるさと納税のPR動画を作成。今後の活用及び周知方法の検討が必要。
		【予算】 15,933 千円 【決算】 8,860 千円		

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
01	地域運営・たすけあいの仕組みづくり	P92～P95	まちづくり推進課
施策の 目指す姿	住み慣れた地域の暮らしを維持するために、持続可能な地域運営・助け合いの仕組みづくりを推進することにより住民同士がつながり、支え合い、誰もが居場所と役割を持って自分らしく暮らし続けられるまちづくりをめざす。		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
住民自らが地域ビジョンを策定した地区数（累計） （単位：地区）	目標値	2	5	5	8	8
	実績値	2	2	2	2	2
	達成率	100%	40%	40%	25%	25%
住民主体の集いの場の設置数（累計） （単位：ヶ所）	目標値	5	5	5	6	6
	実績値	5	5	5	5	5
	達成率	100%	100%	100%	83%	83%

評価	【担当評価】
B	・全自治体を対象に実施したヒアリングでは、様々な課題を確認したもの、地区別ビジョンの策定や自治機能の再編には限界を感じた。 ・一方で、三原地域に設立された地域運営組織はR7年度で活動10年を迎えた。三原地域での住民主体活動は他の地域住民との交流を生み出すきっかけとなり、また住民主体の集いの場の継続を実践している団体として地域に欠かせない存在となっている。今後も持続可能な団体運営に向けた後方的な支援を続けていくと共に、その他の地区で展開される地域づくりの活動についても引き続き支援を行う。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
B	・立地適正化計画をふまえて、自治会長連合会や社会福祉協議会や中間支援組織等関係機関と連携を密にし広域的な課題や個別課題に細やかに対応すること。 ・中間支援組織による新たなサービスの拡充などは、これまでの取り組みの成果。安定的な運営や継続的な活動が行えるよう状況把握に努めること。

【外部評価】
・自治機能の再編についてはどの自治体においても苦慮している。高齢化や担い手不足が進む一方で、自治会の役の整理にポイントが移っている。自治会の役が若い世代の定住阻害要因になっているのも事実であり、住民と役場とのつながり・橋渡ししが欠落せぬよう留意しながら整理していく必要がある。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
B	・今後の自治機能をリードすることとなる組織等と緊密に連携し、令和6年度に策定した立地適正化計画の考え方「コンパクト・プラス・ネットワーク」に基づく地域づくりに取り組むこと。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	01	プロジェクト名	地域運営・たすけあいの仕組みづくり	(1)	集いの場の運営を軸とした、生活支援が身近 なところで持続できる仕組みづくり	1 / 3
------------	----	---------	-------------------	-----	--	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 三原モデルの横展開 (住民主体の集いの場づくりの推進)	R3	・地区別座談会の実施。(全10地区) ・町内全域のたすけあいの仕組み(生活支援サービス)開始。 【予算】 4,680 千円 【決算】 4,680 千円	B	・地区別座談会にて情報の共有、意見交換を行ったが、住民主体の地域運営組織の新規設立、地区計画の策定には至らなかった。 ・住民主体の団体による生活支援サービスが開始された。 ・住民主体の取組が創出されるよう継続して支援。
	R4	・町内全域のたすけあいの仕組み(生活支援サービス)の継続。 ・社会福祉協議会主催ミニデイサービスとの連携 【予算】 2,000 千円 【決算】 2,000 千円	B	・住民主体の団体による生活支援サービスを継続して支援した。 ・子どもの見守りなど、住民主体の立場から福祉支援において幅広く活動を展開された。
	R5	・町内全域のたすけあいの仕組み(生活支援サービス)の継続。 ・社会福祉協議会主催ミニデイサービスとの連携 【予算】 2,300 千円 【決算】 1,700 千円	B	・住民主体の団体による互助の仕組みづくり活動について継続支援を行った。 ・他団体との連携も有機的に実践し、集いの場において好循環が生まれつつある。引き続き支援を行っていく。
	R6	・町内全域のたすけあいの仕組み(生活支援サービス)の継続。 ・社会福祉協議会主催ミニデイサービスとの連携 【予算】 2,300 千円 【決算】 2,300 千円	B	・住民主体の団体による互助の仕組みづくり活動について継続支援を行った。 ・他団体との連携も有機的に実践し、集いの場において世代間交流が生まれている。引き続き支援を行っていく。 ・令和7年度は、ファミリーサポートセンター事業に取り組み、子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現にむけて取り組んでいく。
	R7	・町内全域のたすけあいの仕組み(生活支援サービス)の継続。 ・社会福祉協議会主催ミニデイサービスとの連携 【予算】 2,300 千円 【決算】 1,900 千円	B	・互助の創出活動において継続的な支援を行うことで、他団体との連携も有機的に実践し、集いの場において世代間交流が生まれている。 ・令和7年度は、ファミリーサポートセンター事業の周知発信に取り組み、イベント等を通して徐々に認知されるようになってきている。子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現にむけて引き続き取り組んでいく。
② 集いの場をつなぐ買い物対策	R3	・運営事業者、サロン運営主体にヒアリングを実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施に向け令和3年度事業者側、サロン運営側にヒアリングを実施。 ・ヒアリング結果では、現時点では民業の採算性やサロンでの必要性の面から早急な需要は無い結果となった。 ・買い物支援のあり方を含め状況を注視しながら検討を継続。
	R4	・各地域支援業務の中での現状の把握を行った 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・買い物支援の実態についてサロン運営者や関係機関からヒアリングを実施。家族等による支援や移動販売で対応できているケースが多い現状であった。 ・集いの場での定期的な購買機会は、コーヒーの日、スープの日に加え、R4年5月よりサテライト型相談の場にキッチンカー巡回が加わり4箇所となっている。 ・尾原地区の集いの場では、前年度から始まった無償の産直市が定着している。 ・買い物支援の早急な需要は低いと判断するが、今後も継続的に検討を行っていく必要がある。
	R5	・各地域支援業務の中での現状の把握を行った 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移動販売の活用で、購買行動に対する満足度は概ね得られている実状あり。 ・集いの場での定期的な購買機会は、コーヒーの日、スープの日に加え、R4年度よりキッチンカー巡回が加わり4箇所となっている。 ・R3年度から開催の尾原地区集いの場での産直市は、今年度も継続され好評を得ている。 ・買い物支援の早急な需要は低いと判断するが、今後も継続的に検討を行っていく必要がある。
	R6	地域支援事業にかかる業務を通して現状把握を行った 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移動販売の活用で、購買行動に対する満足度は概ね得られている実状あり。 ・集いの場での定期的な購買機会は、コーヒーの日、スープの日に加え、R4年度よりキッチンカー巡回が加わり4箇所となっている。 ・R3年度から開催の尾原地区集いの場での産直市は、今年度も継続され好評を得ている。 ・介護予防事業(悠湯プラザ)利用者は、弥山荘で入湯だけでなく産直品等を購入できることが通いたい理由の1つとなっている。 ・買い物支援の早急な需要は低いと判断するが、今後も継続的に検討を行っていく必要がある。
	R7	・地域支援事業にかかる業務を通じた現状把握の継続 把握方法：住民および関係機関からの情報収集 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・移動販売の活用で、購買行動に対する満足度は概ね得られている実状あり。 ・集いの場での定期的な購買機会は、コーヒーの日、スープの日、キッチンカーとなっている。 ・尾原地区での集いの場(R3年度～)での産直市は、今年度も継続されて好評を得ている。 ・介護予防事業(悠湯プラザ)利用者は、弥山荘で入湯だけでなく産直品等を購入できることが通いたい理由の1つとなっている。 ・買い物支援の早急な需要は低いと判断するが、今後も継続的に検討を行っていく必要がある。

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	01	プロジェクト名	地域運営・たすけあいの仕組みづくり	(1)	集いの場の運営を軸とした、生活支援が身近なところで持続できる仕組みづくり
------------	----	---------	-------------------	-----	--------------------------------------

2 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
③ 自治機能の再編	R3	・地区別座談会にて自治会運営の現状等を確認。 ・R3年度においては、自治機能の再編について各自治会と検討する場面はなかった。	B	・地区別座談会にて集落、自治会の現状や自治会間での連携について確認。 ・集落間、自治会間での共同作業の確認をはじめ、将来の自治機能のあり方について引き続き検討を進める。 ・自治機能の再編について特に取り組む事はできなかったが、高齢化に伴う担い手不足等により自治機能を維持することが困難な自治会もあるのは事実である。 ・自治会との意見交換を行いながら、検討を行う必要がある。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・集落の生活機能維持確保に活用可能な補助制度を新設した。	B	・結果として補助制度の活用実績なし。 ・活用検討の契機となるような機会創出を工夫したい。
		【予算】 1,500 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業を設置	B	・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。 ・集落実態調査を行い、自治会長会議等で周知を行った。
		【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円		
④ 住民主体の活動起こしに向けた助成事業	R6	・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業の実施 ・各自治会役員を対象に研修会開催を検討	B	・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。
		【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円		
	R7	・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業を整備しているが、当初予算には計上せず、実施見込みがあれば予算化する。	C	・補助事業の活用はなかった。 ・今年度は集落対策施策への反映のため、全自治会にヒアリングを実施した。審議会での意見での意見のとおり、地区別ビジョンについては限界があると感じた。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3	・地区別座談会でのヒアリングをもとに助成事業の骨子を作成	B	・令和4年度から助成事業を創設し広く利用を募る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【再掲】 ・集落の生活機能維持確保に活用可能な補助制度を新設した。	B	【再掲】 ・結果として補助制度の活用実績なし。 ・活用検討の契機となるような機会創出を工夫したい。
		【予算】 1,500 千円 【決算】 0 千円		
	R5	【再掲】 ・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業を設置	B	【再掲】 ・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。 ・集落実態調査を行い、自治会長会議等で周知を行った。
		【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円		
	R6	【再掲】 ・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業の実施 ・各自治会役員を対象に研修会開催を検討	B	・生活機能の維持・確保に向けた支援事業の活用はなかった。 ・令和7年度は各自治会にヒアリング調査を実施し、状況把握に努める。
		【予算】 1,000 千円 【決算】 0 千円		
	R7	【再掲】 ・地域の生活機能の維持確保、ビジョン策定等に活用できる補助事業を整備しているが、当初予算には計上せず、実施見込みがあれば予算化する。	C	・補助事業の活用はなかった。 ・今年度は集落対策施策への反映のため、全自治会にヒアリングを実施した。審議会での意見での意見のとおり、地区別ビジョンについては限界があると感じた。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ番号	01	プロジェクト名	地域運営・たすけあいの仕組みづくり	(2)	買い物、通院に不便なく利用できる交通体系の構築
--------	----	---------	-------------------	-----	-------------------------

3 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 生活交通実態調査	R3	・生活交通実態調査の実施 【予算】 3,850 千円 【決算】 3,850 千円	D	・生活交通実態調査を行い、効果や課題等の抽出が終わり次の取組へ移行するため本取組は終了。
	R4	- 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	- 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	- 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	- 【予算】 千円 【決算】 千円		
② 住民主体のたすけあい交通等の試行	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民主体の地域運営組織との協議や、令和4年度策定予定の地域公共交通計画策定検討において導入や試行について検討を進める。
	R4	・地域公共交通計画のアクションプラン、評価指標に住民主体（多様な交通）について記載した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・住民主体の地域運営組織とたすけあい交通について意見交換を実施 ・地域公共交通計画に記載 ・導入について検討を継続していく必要がある。
	R5	・住民主体の地域運営組織との意見交換を実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・地域公共交通計画に基づき、導入について検討を継続していく必要がある。 ・住民主体の地域運営組織とたすけあい交通について協議、検討が必要。
	R6	・住民主体の地域運営組織との意見交換を実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・地域公共交通計画に基づき、導入について検討を継続していく必要がある。 ・住民主体の地域運営組織とたすけあい交通について協議、検討が必要。
	R7	・全自治会に対してヒアリングを実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・全自治会に行ったヒアリングでは、デマンドタクシーを中心とした既存公共交通の更なる利便性向上を求める意見が多かった。住民主体のたすけあい交通については、他自治体の先行事例の動向も参考にしながら慎重に検討を行う。
③ 地域交通の再設計	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度策定予定の地域公共交通計画にて再設計を検討する。
	R4	・地域公共交通計画にて持続可能な交通のあり方を明記。 【予算】 1,646 千円 【決算】 1,646 千円	B	・地域公共交通計画に記載したアクションプラン、目標の実現に向け各関係機関と連携、調整のもと取り組みを推進していく必要がある。
	R5	・加藤病院移転に伴う延伸に関し各種運行事業者と協議を実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・路線バス事業者及び地域運営組織等と連携、協議を行い、持続可能な交通体系の実現に向け取り組みを行う必要がある。
	R6	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 ・町内公共交通の再編に向けた協議・検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和8年度に加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、検討を行った。 ・公共交通を利用される方の特性、ニーズに適した運行形態を検討するため、スクールバス矢谷線を朝夕の時間帯に限り運行し、日中は随時予約に応じてエリア内を運行するデマンド乗合タクシー実証事業を令和7年度に実施することで決定。
	R7	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 ・スクールバス矢谷線のデマンド型乗合タクシー実証事業を実施 【予算】 1,500 千円 【決算】 1,469 千円	B	・令和8年度に加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、協議・検討を行った。その結果を踏まえ、令和8年5月2日から運行を開始した。 ・地域公共交通計画に基づき、矢谷線デマンド乗合タクシー実証事業を行った（1,469千円）。令和8年度には三原線デマンド乗合タクシー実証事業を行い、令和9年度以降の本格運行に向けた協議・検討を行う。

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
02	医療・介護・福祉サービスの強化	P96～P99	健康福祉課
施策の 目指す姿	子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる地域づくりをめざす		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
平均自立期間（男性） （単位：歳）	目標値	78.5	78.9	79.3	79.7	80.0
	実績値	80.1	79.2	81.5	81.5	81.9
	達成率	102.0%	100.4%	102.8%	102.3%	102.3%
平均自立期間（女性） （単位：歳）	目標値	85.2	85.4	85.6	85.8	86.0
	実績値	82.4	82.4	82.4	85.9	85.9
	達成率	96.7%	96.5%	96.3%	100.1%	99.8%
地域住民主体の子育て拠点施設の年間利用者数 （単位：人）	目標値	250	250	300	350	400
	実績値	0	10	240	363	423
	達成率	0.0%	4.0%	80.0%	103.7%	105.8%

評価	【担当評価】
B	・住民、医療、介護、福祉の専門機関と行政が協働で構築してきた地域包括ケアシステムがあり、R8.5月に「仁寿会地域総合ヘルスケアステーションかわもと 社会医療法人仁寿会 加藤病院 介護医療院」が整備され、住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける地域づくりにむけ体制が強化できた。 ・地域共生社会の実現をめざして三原まちづくりセンターを拠点に、中間支援組織が子育て世代の交流・相談の場として「ここにこ」の開催、R7.8月よりファミリーサポートセンター事業に取り組み、地域での子育て支援を一層、充実できた。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
B	・中間支援組織を中心とする子育て支援拠点における活動が拡充したことによって、子育て支援の充実へ寄与したことは評価できる。 ・令和8年5月の新病院スタート後の円滑な運営に向けて、医療機関と更なる連携を図っていくこと。 ・引き続き町民やサービス利用者の声を基に、中間支援組織や医療機関と連携を図りながら、医療従事者確保、子育て環境の充実や平均自立期間の延伸に努めること。

【外部評価】
・ファミリーサポートセンター事業の拠点について、三原だけでなく学校に近い町内での実施も検討すべき。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
B	・今春の社会医療法人・仁寿会による「地域総合ヘルスケアステーションかわもと施設群」の竣工を契機として、医療・介護・福祉サービスと子育て支援の更なる充実を図ること。

- 【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	02	プロジェクト名	医療・介護・福祉サービスの強化	(1)	病院機能と一体となった福祉・子育てのワンストップ拠点の整備
------------	----	---------	-----------------	-----	-------------------------------

1 / 4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 病院機能と一体となった福祉・子育てのワンストップ拠点の整備	R3	・基本方針を定めた基本プランを策定した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・基本プラン実現に向けて令和4年度以降、仁寿会・関係団体と協議しながら、拠点の整備を目指す。
	R4	・病児病後児保育等の具体的な整備についての検討を継続した 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・仁寿会、庁内関係部署と協議を継続。 ・資材調達等の問題から建物建設スケジュールが遅延しているが、完成時に拠点整備が可能となるよう目指す。
	R5	・病児病後児保育等の具体的な整備についての検討を継続した 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・仁寿会、庁内関係部署と協議を継続。 ・資材調達等の問題から建物建設スケジュールが遅延しているが、完成時に拠点整備が可能となるよう目指す。
	R6	・病児病後児保育等の具体的な整備について検討を継続中 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・仁寿会、庁内関係部署と協議を継続。
	R7	・ふるさと融資の実行 ・保証料補助金の制定 【予算】 300,000 千円 【決算】 300,000 千円	B	・仁寿会の施設移転に係るふるさと融資を実行。 ・次年度以降、町が融資借入に伴い発生する保証料の補助及び利子負担することで安定的な病院運営を支援。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	02	プロジェクト名	医療・介護・福祉サービスの強化	(2)	地域と専門機関が連携した地域包括 ケアシステムの構築
------------	----	---------	-----------------	-----	-------------------------------

2 / 4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 暮らしの保健室の運営	R3	・巡回型暮らしの保健室の開催(14回:6地区) ・常設型暮らしの保健室の開催(18回:シーブス) 【予算】 410 千円 【決算】 263 千円	B	・巡回型と常設型、2つの手法を活用することで少しずつではあるが認知度は高まってきている。 ・現状で継続し、効果評価を行っていく。
	R4	・住民主体の団体による暮らしの保健室が全39回開催された。(巡回型22回、常設型17回) 【予算】 356 千円 【決算】 220 千円	C	・巡回、常設等幅広く身近に健康相談を行える場が設けられた。 ・一方で、常設型保健室の来場者数はSNS等を活用し周知・発信を行ったが伸び悩んだため、R5年度は巡回型を中心に開催する。
	R5	・住民主体の団体による暮らしの保健室が全38回開催された。(巡回型38回) 【予算】 195 千円 【決算】 163 千円	B	・R5年度は方法を見直し、巡回型を中心に開催した。身近な地域の集いの場で健康相談を行える機会として、利用している住民にも次第に認知されてきている。次年度も引き続き支援を行っていく。
	R6	・住民主体の団体による暮らしの保健室を全28回開催する。(巡回型28回) 【予算】 230 千円 【決算】 138 千円	B	・R6年度は巡回型を中心に開催した。身近な地域の集いの場で健康相談を行える機会として、利用している住民に広く受け入れられる活動となってきた。次年度も引き続き支援を行っていく。
	R7	・住民主体の団体(たすけあい川本)による暮らしの保健室を開催予定(巡回型28回)。 ※予算は当該事業分 【予算】 110 千円 【決算】 80 千円	B	・R7年度は巡回型を中心に開催した。地域の集いの場で健康相談を行える機会として、住民に広く認知される活動となり、複数回利用する人もみられてきている。次年度も引き続き支援を行っていく。
② 住民主体の「地域ケア会議」の確立	R3	・任意団体主催による地域ケア会議を開催(0回) 【予算】 145 千円 【決算】 0 千円	B	・地域住民によるケア会議が未実施となった要因と次年度の実施計画や開催の意思について確認が必要。
	R4	・任意団体主催による地域ケア会議を開催(2地区) 【予算】 72 千円 【決算】 10 千円	B	・任意団体と地域包括支援センターで住民主体の地域ケア会議を開催し、各地区の現状、課題について共有できた。次年度は、1地区拡大し各地区の課題を関係機関と協議していきたい。
	R5	・任意団体主催による地域ケア会議を開催(2地区) 【予算】 129 千円 【決算】 0 千円	B	・今年度は住民団体主導で2地区で開催があった。各地区の現状や課題の共有機会は、実状に応じて定期的に行いたいとの意向あり。次年度も住民団体主導で開催していく。
	R6	・任意団体主催による地域ケア会議を地区の役員会等にあって開催予定(3地区) 【予算】 55 千円 【決算】 0 千円	B	・R6年度は住民団体主導で、実状に合わせて3地区で開催があった。各地区の現状や課題の共有機会は今後も住民団体主導で行い、必要に応じて後方的な支援を行っていく。
	R7	・住民主体の地域ケア会議はR6年度より役員会等に合わせて自主的に実施する形へ移行済み 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・R6年度より役員会等に合わせて自主的に実施する形となっており、R7年度も実状に合わせて3地区で開催されている。住民の主体的な活動が確立・定着しているためR7年度をもって評価終了としたい。次年度以降は隔月で実施するサロン運営者会議を通して状況把握や後方的な支援を行い、年1回開催する協議体で各地域の課題を全町レベルで共有し、解決策の検討を関係団体と共に取り組んでいく。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	02	プロジェクト名	医療・介護・福祉サービスの強化	(3)	子育て支援体制の強化、運営の仕組みづくり	3 / 4
------------	----	---------	-----------------	-----	----------------------	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 子育て支援体制の強化	R3	家庭での絵本の読み聞かせを通じた親子のコミュニケーション機会の増加を図るため、小学3年生までの全員へ絵本を届けた。町内各保育所を対象とした地域子育て支援活動補助については、新型コロナ対策で事業が中止となった。 【予算】 919 千円 【決算】 512 千円	B	令和3年度は基本方針を定めた「基本プラン」を策定した。令和4年度以降、病児保育の実施等、プランの実現を目指す中で、子育て支援体制の強化を図っていく。
	R4	絵本のお届け事業は継続。 住民主体の子育て拠点整備の支援を行った。 【予算】 327 千円 【決算】 231 千円	B	・子育て支援体制として、令和5年度から開催される地域住民主体の子育て支援事業を支援した。今後も、活動が町内全域に広がるよう支援を継続する。
	R5	絵本のお届け事業は継続。 住民主体の子育て支援事業への支援 【予算】 831 千円 【決算】 732 千円	B	・中間支援組織へ補助金を交付し、子育て支援に関するニーズ調査、おでかけいただきますの日、子育て支援員の育成などを実施された。今後も住民主体の子育て支援活動が町内全域に広がるよう支援を継続する。
	R6	絵本のお届け事業は継続。 住民主体の子育て支援事業への支援 (おでかけいただきますの日、自然観察会、子育て世代の交流・相談の場の実施) 【予算】 826 千円 【決算】 710 千円	A	・絵本のお届け事業について、アンケート調査を実施し、「親子のふれあいの機会となっている」「今後も継続してほしい」などの意見があったため、今後も継続実施したい。 ・中間支援組織と定例会を重ね、新たに子育て世代の交流・相談の場「ここにこ」を新たに開設した。今後は、ファミリーサポートセンター事業に取り組み、子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現にむけて取り組んでいく。
	R7	絵本のお届け事業 住民主体の子育て支援事業への支援 (おでかけいただきますの日、自然観察会、子育て世代の交流・相談の場の実施) 【予算】 1,140 千円 【決算】 1,014 千円	B	・絵本のお届け事業は親子のコミュニケーション機会の増加を図る目的で今後も継続実施。 ・R7.8月からファミリーサポートセンター事業に取り組み、地域における子育て支援の充実に努めてきた。子どもから高齢者まで住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現にむけ、住民主体の子育て支援事業も継続していく。
② 拠点施設の運営の仕組みの再編	R3	すこやかセンター閉鎖に伴う、子育てサポートセンターの一時移転先について、教育課、社会福祉協議会と協議により、川本小学校へ移転することとなった。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	令和3年度は基本方針を定めた「基本プラン」を策定した。令和4年度以降、関係団体等との協議により、プラン実現に向け、拠点施設の運営の仕組みの再編を目指す。
	R4	小学生の居場所事業は小学校空教室、在宅児の居場所は定期的に会館で開催した。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	関係団体等との協議により、プラン実現に向け、拠点施設の運営の仕組みの再編を目指す。
	R5	小学生の居場所事業は小学校空教室、在宅児の居場所は定期的に会館で開催した。(社会福祉協議会) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	関係団体等との協議により、プラン実現に向け、中間支援組織と在宅児の居場所について検討をおこなった。
	R6	小学生の居場所事業は小学校空教室、在宅児の居場所は定期的に会館で開催した。(社会福祉協議会) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・中間支援組織と協議し、子育て世代の交流・相談の場を新たに開設した。今後も支援拠点の運営等について関係団体等と協議していく必要がある。
	R7	・社会福祉協議会による在宅児・小学生の居場所事業の継続(小学生:小学校空教室、在宅児:ふるさと会館) ・たすけあい川本が令和6年度より開始している居場所事業について、事業の定着化に向けた後方的支援の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・中間支援組織と協議し、子育て世代の交流・相談の場を三原まちづくりセンターに開設した。今後も支援拠点の運営等について関係団体等と協議していく必要がある。

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	02	プロジェクト名	医療・介護・福祉サービスの強化	(4)	医療・福祉の担い手の確保・育成
------------	----	---------	-----------------	-----	-----------------

4 / 4

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 医療従事者の確保	R3	公的病院等支援補助金を拡充し、医師確保を図った。 【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円	B	コロナ禍においても、病院機能を維持し、地域医療提供体制を確保するため、不採算地区病院への支援として特別交付税基準額の引き上げに伴い、50,000千円の増額補正を行った。
	R4	公的病院等支援補助金にて財政支援を行うことにより、医師確保を図った。 【予算】 130,000 千円 【決算】 130,000 千円	B	昨年度に引き続き、非常勤医師確保のための財政支援を行った。
	R5	公的病院等支援補助金にて財政支援を行うことにより、医師確保を図った。 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	B	昨年度に引き続き、非常勤医師確保のための財政支援を行った。
	R6	公的病院等支援補助金にて財政支援を行うことにより医師確保を図った。 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	B	昨年度に引き続き、非常勤医師確保のための財政支援を行った。
	R7	・公的病院等支援費補助金による医師及び診療科の確保 ・島根大学医学部地域枠推薦型選抜試験制度の周知 【予算】 168,000 千円 【決算】 168,000 千円	A	仁寿会への財政支援により、医師及び診療科を確保したが、次年度は施設移転による病床数の減少に伴い補助金額が減少。 次年度以降、施設移転に係る資金借入(ふるさと融資)に伴い発生する保証料補助及び利子負担を実施。 関係機関と連携した医療従事者確保事業の検討を進める。
② 保小中高の各段階におけるキャリア教育の推進	R3	高校の授業において、町保健師や、仁寿会医療従事者が健康教育を行うなど、保健医療分野への関心を高めてもらう機会が提供されている。介護の入門的研修に参加いただいた。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	医療介護分野への関心を高めてもらう機会創出のため、医療機関や介護事業所等と連携しながら、引き続きキャリア教育の推進に努める。
	R4	高校の授業において、町保健師が健康教育を行うなど、保健医療分野への関心を高めてもらう機会が提供されている。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	地域医療教育の現状と課題を共有し、将来にわたる邑智地域の医療人材確保に向けた取り組みにつなげるため、来年度はシンポジウムを予定。
	R5	高校の授業において、町保健師が健康教育を行うなど、保健医療分野への関心を高めてもらう機会が提供されている。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	地域医療教育の現状と課題を共有し、将来にわたる邑智地域の医療人材確保に向けた取り組みにつなげるため、子どもを対象としたシンポジウムを予定していたが、調整がつかず、3町合同での実施は見送りとなった。今後、町独自での実施を検討する。
	R6	中学校の職場体験時、役場に来た医療職希望の生徒へ町保健師が健康教育を行った。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	医療介護分野への関心を高めてもらう機会創出のため、医療機関や介護事業所等と連携しながら、引き続きキャリア教育の推進に努める。
	R7	・中学生対象：ジョブカフェ(主催:かわもと暮らし)参加：川本福祉会 ・高校生対象：町企業ガイダンス参加：仁寿会 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	医療福祉分野への関心を高め、地元就業へとつながるよう引き続き関係機関・事業者と連携を図る。次年度からは小中学校による医療教育の推進を支援。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
03	コンパクトタウン弓市の魅力向上	P100~P103	まちづくり推進課
施策の 目指す姿	・川本町の中心市街地である弓市地区のインフラ整備、住まい確保、起業・創業支援などについて総合的に取り組み、賑わい創出・魅力向上を目指す。		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
弓市地区の居住者数 (単位：人)	目標値	785	776	768	760	752
	実績値	717	747	721	728	710
	達成率	91.3%	96.3%	93.9%	95.8%	94.4%
弓市地区での起業・開業者数 (累計値) (単位：件)	目標値	1	2	3	4	5
	実績値	1	1	2	2	3
	達成率	100.0%	50.0%	66.6%	50.0%	60.0%

評価	【担当評価】
B	・令和9年度以降の事業化にむけ、プロジェクト会議を設立し、都市再生整備計画案を策定した。今後は当該計画に基づき取組を進める。 ・弓市地区の良質な住まいが不足するなか、令和7年度の民間住宅整備の実績は無かった。令和8年度は補助制度を拡充し、民間整備を促す。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
B	・立地適正化計画に基づくまちづくりと移住定住施策を進めることにより民間投資を促すこと。 ・令和8年春の加藤病院移転に伴う人の流れの変化を注視し、また課題となっている宿泊業不足などの状況も踏まえ、商工会や（一社）かわもと暮らしなど関係機関と情報交換会を密にし、事業承継や新たなビジネスチャンスにつながる細やかな情報把握に努めること。

【外部評価】
・旧加藤病院跡地が寂しくなったという声を聞く。活用策について、スピードをあげて考えていく必要がある。 ・弓市地区の公衆トイレ整備を最優先で行って欲しい。 ・空き店舗を活用した起業は、補助制度だけでなく起業する方への伴奏支援が大切。 ・島根中央高校や島根フィルハーモニーなど、「野球」という地域資源を生かして合宿できる施設を作って欲しい。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
B	・商工会や観光協会、一般社団法人かわもと暮らしと更なる連携を図り取組を進めること。 ・令和6年度に策定した立地適正化計画が打ち出す理念「コンパクトタウンかわもと」の中核たる弓市における、宿泊ニーズをはじめとする民間活力を呼び込む取組を進めること。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	03	プロジェクト名	コンパクトタウン弓市の魅力向上	(1)	歩いて暮らせるコンパクトで安全なまちづくり
------------	----	---------	-----------------	-----	-----------------------

1 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 安全・便利で災害に強い道路整備	R3	・主要地方道川本波多線（川本工区）の早期事業化に対する県への要望活動 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度において、川本工区として山側ルートが決定され、今後は事業の早期着手に対して要望活動を継続。
	R4	・主要地方道川本波多線（川本工区）の早期事業化に対する県への要望活動 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度において、川本工区として山側ルートが決定され、今後は事業の早期着手に対して要望活動を継続。
	R5	・主要地方道川本波多線（川本工区）の早期完成に対する県への要望活動 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度において、川本工区として山側ルートが決定され、今後は事業の早期完成に対して要望活動を継続。
	R6	・主要地方道川本波多線（川本工区）の早期完成に対する県への要望活動 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度において、川本工区として山側ルートが決定され、今後は事業の早期完成に対して要望活動を継続。
	R7	・主要地方道川本波多線（川本工区）の早期事業化に対する県への要望活動 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和3年度において、川本工区として山側ルートが決定され、今後は事業の早期完成に対して要望活動を継続。
② 駐車場整備、公衆トイレ等の設置	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・今後、弓市地区を中心としたマスタープランの策定に併せて検討を継続。
	R4	・弓市魅力化検討案を策定し具体案を明記した。 【予算】 1,903 千円 【決算】 1,903 千円	B	・重点PJ3の具体計画となる弓市魅力化検討案にて取組項目、場所等の素案を定めた。
	R5	・立地適正化計画策定の過程で検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・立地適正化計画策定の中の誘導施策（施設）の1つとして検討中。
	R6	・立地適正化計画及び都市再生整備事業整理の過程で検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・立地適正化計画及び都市再生整備事業整理の過程で検討する。
	R7	・都市再生整備事業整理の過程で検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・都市再生整備事業整理の過程で検討する。
③ 弓市市内の移動手段の確保	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に予定している地域公共交通計画策定の中で検討を進める。
	R4	【再掲】 ・弓市魅力化検討案を策定し具体案を明記した ・地域公共交通計画を策定した 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	【再掲】 ・重点PJ3の具体計画となる弓市魅力化検討案にて取組項目、場所等の素案を定めた。 ・地域公共交通計画においても本項目について記載した。
	R5	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和7年度に加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、検討を行った。
	R6	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和8年度に加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、検討を行った。
	R7	・加藤病院移転に伴う路線バス延伸の協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和8年度に加藤病院移転に伴う運行案を関係各所に提示し、協議・検討を行った。その結果を踏まえ、令和8年5月2日から運行を開始予定。 ・引き続き、住民の利便性向上に向け、運行形態の検討を行う。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ番号	03	プロジェクト名	コンパクトタウン弓市の魅力向上	(2)	町の拠点エリアの魅力向上	2 / 3
--------	----	---------	-----------------	-----	--------------	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 空き店舗の活用、事業承継の支援	R3	・川本町商工会、西部県民センターと事業承継に関する協議、情報共有。 ・Webサイト「つながる、かわもと。」に空き店舗データベース公開。 【予算】 3,870 千円 【決算】 1,964 千円	B	・空き店舗の活用、事業承継について、川本町商工会と引き続き連携し、情報収集及び意向調査を行う。
	R4	・川本町商工会、西部県民センターと事業承継に関する協議、情報共有。 ・Webサイト「つながる、かわもと。」に空き店舗データベース公開。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・空き店舗の活用、事業承継について、川本町商工会と引き続き連携し、情報収集及び意向調査を行う。
	R5	・地域商業等支援事業による新規開業支援(1件) ・事業承継推進協議会における商工会、県、関係機関との協議、情報共有 ・Webサイト「つながる、かわもと。」に空き店舗データベース公開。 【予算】 4,000 千円 【決算】 678 千円	B	・空き店舗の活用、事業承継について、川本町商工会と引き続き連携し、情報収集及び意向調査を行う。
	R6	・地域商業等事業費補助金(継続:1件) ・商工会による空き店舗HP「つながる、かわもと」の運営及びかわもと暮らしHPへのリンク掲載 ・商工会、かわもと暮らしとの定例連絡会開催による情報共有 【予算】 742 千円 【決算】 742 千円	B	・補助金活用による開業継続:1件 ・商工会やかわもと暮らしと連携し、活用可能な空き店舗等の把握、選定を進めた。 ・立地適正化計画の策定に伴い、都市機能誘導区域内での起業等の促進に向け、R7での補助制度の拡充を検討した。
	R7	・商工会による空き店舗HP「つながる、かわもと」の運営及びかわもと暮らしHPへのリンク掲載 ・商工会、かわもと暮らしとの定例連絡会における情報共有及び意向確認等の対応 【予算】 325 千円 【決算】 311 千円	B	・商工会による空き店舗HP「つながる、かわもと」の運営及びかわもと暮らしHPへのリンク掲載 ・商工会、かわもと暮らしとの定例連絡会における情報共有及び意向確認等の対応
② 旧JR石見川本駅周辺の利活用	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に予定している重点プロジェクト3実施計画策定の中で検討を進める。
	R4	・駅舎は島根中央信用金庫へ貸出し、ホームや線路内は観光協会によるレールバイクイベント等で利用。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・レールバイクイベントには、中・高校生等もスタッフとして参加し、町内外から、飲食や物品の販売をしに個人店舗が集まっている。また、定期的に開催していることもあり、賑わいの創出につながっている。
	R5	・駅舎は島根中央信用金庫へ貸出し、ホームや線路内は観光協会によるレールバイクイベント等で利用。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・レールバイクイベントには、中・高校生等もスタッフとして参加し、町内外から、飲食や物品の販売をしに個人店舗が集まっている。また、毎月開催していることもあり、賑わいの創出につながっている。
	R6	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金(かわもと暮らし) 【予算】 23,550 千円 【決算】 22,775 千円	B	・継続的なイベント実施による賑わい創出
	R7	・観光協会による駅活用イベントの実施 ・交流人口拡大推進事業補助金(かわもと暮らし) 【予算】 29,134 千円 【決算】 29,134 千円	B	・旧三江線、駅舎等を活用した広域イベントを開催し、外貨獲得の機会に寄与。 ・今後もさらなる広域連携等を検討。
③ まちの賑わい創出	R3	・川本町観光協会によるレールバイクイベントの開催(6回) ・弓市商店会と観光協会の共催によるテイクアウトフェア開催(2回) ・弓市ストア(13回) 【予算】 950 千円 【決算】 950 千円	B	・レールバイクイベントには高校生がスタッフとして参加している。 ・テイクアウトフェアはコロナ禍における飲食店活性化の一助となった。 ・休日における弓市地区の賑わい創出につながっており、継続的な実施が必要。
	R4	・レールバイク(10回) ・アウトドアイベント(笹遊里) ・イルミネーション点灯式(実行委員会) 【予算】 950 千円 【決算】 950 千円	B	・観光協会実施イベントへの高校生スタッフ(あそろ)の参加。 ・イルミネーション点灯式(石見川本駅)の企画・運営。
	R5	・レールバイク(8回) ・アウトドアイベント(笹遊里) ・高校学園祭マルシェ(島根中央高校) ・イルミネーション点灯式(実行委員会) 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・観光協会実施イベントへの高校生スタッフ(あそろ)の参加。 ・イルミネーション点灯式(石見川本駅)の企画・運営。 ・町内事業者との関わりの検討を進める。
	R6	・まち歩きイベント ・レールバイク ・アウトドアイベント(笹遊里) ・高校学園祭マルシェ(島根中央高校) 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・商店街との関わり方の検討。 ・助成制度の検討。
	R7	・まち歩きイベント ・レールバイク ・アウトドアイベント(笹遊里) 【予算】 956 千円 【決算】 956 千円	B	・レールバイクイベントの開催(7回) ・ツアーの受け入れ(イズモコバイモや山城ツアー等)計166名参加 ・アウトドアイベント(笹遊里)やアークスでの出店等今後も連携しながら取り組みを続けたい

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)
B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)
C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)
D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	03	プロジェクト名	コンパクトタウン弓市の魅力向上	(3)	居住環境の整備
------------	----	---------	-----------------	-----	---------

3 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 定住促進住宅、高齢者住宅等の整備促進【再掲】	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に予定している重点プロジェクト3実施計画策定の中で検討を進める。
	R4	【再掲】 ・弓市魅力化検討案を策定し具体案を明記した 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	【再掲】 ・重点PJ3の具体計画となる弓市魅力化検討案にて取組項目、場所等の素案を定めた。
	R5	・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで協議、検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・庁内で横断的な連携を行い、町に適した政策を進める
	R6	・因原地区に4棟の定住促進住宅を建設 ・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで協議、検討 【予算】 141,951 千円 【決算】 120,788 千円	B	・因原地区に4棟の定住促進住宅が完成 ・庁内で横断的な連携を行い、町に適した政策を進める
	R7	・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで次期定住促進住宅について協議、検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・次期定住促進住宅の建設予定地を三原地区に決定した。弓市地区については、川本堤防の完成堤防化に一定の方向性がついた段階で、整備について検討を進める。
② 民間資産の活用による住宅整備【再掲】	R3	- 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・令和4年度に予定している重点プロジェクト3実施計画策定の中で検討を進める。
	R4	【再掲】 ・弓市魅力化検討案を策定し具体案を明記した 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	【再掲】 ・重点PJ3の具体計画となる弓市魅力化検討案にて取組項目、場所等の素案を定めた。
	R5	【再掲】 ・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで協議、検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・庁内で横断的な連携を行い、町に適した政策を進める ・町内事業者へアプローチを行い資産活用に取組む
	R6	・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで協議、検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・庁内で横断的な連携を行い、町に適した政策を進める ・町内事業者へアプローチを行い資産活用に取組む
	R7	・住生活基本計画に基づき、庁内でのプロジェクトチームで協議、検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・令和7年度は実績なし。 ・資材費高騰等に対応するため、令和8年度以降は補助額を増額し更なる制度活用を促す。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
04	地域資源を活かした付加価値の創出	P104～P107	産業振興課
施策の 目指す姿	・高齢化に伴う作付面積や生産量の減少が見込まれる中、新たな就農プランを構築し、新規就労者の確保や作業の効率化、生産基盤の保全などを進め、持続可能な農林水産業の確立を目指す。 ・農業の高付加価値化の推進や道の駅を拠点とした情報発信機能の強化等を通じ、町内で清算される農産物のブランド力の向上を推進する。		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
道の駅かわもとの売上高 (単位：百万円)	目標値	152.8	152.8	152.8	168.1	183.4
	実績値	139.3	151.4	156.5	146.6	157.9
	達成率	91.1%	99.1%	102.4%	87.2%	86.1%
町内の起業家数（累計値） (単位：件)	目標値	1	3	4	6	7
	実績値	1	1	3	5	7
	達成率	100.0%	33.3%	75.0%	83.3%	100%
電子決済導入事業者（店舗）数 【累計値】（単位：件）	目標値	20	60	70	75	80
	実績値	20	61	60	60	60
	達成率	100%	101.7%	85.7%	80%	75%
新規就農者数（累計値） (単位：人)	目標値	1	2	3	4	5
	実績値	0	2	2	3	3
	達成率	0%	100%	66%	75%	60%

評価	【担当評価】
B	・道の駅来店者の状況が売上に影響するが、引き続き施設の魅力向上を推進し、次年度以降の更なる増加を目指すため継続する。 ・新規就農者の確保について、R7年は0人となったものの、R8開始に向けた就農計画を候補者と協力して検討し、年度末に認定に至った。今後も地域おこし協力隊制度の活用、新たな就農プランを作成し、就農相談会等へ参加することで新規就農者及び起業家を発掘するため継続する。 ・今年度、事業拡大により新たに都市機能誘導区域内での起業・創業での展開を実施し、1件支援した。また、宿泊業の課題解決に向け、宿泊業立地可能性調査を実施。次年度以降、町内での宿泊確保に向けた事業支援を行い、町内の活性化につなげる。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
B	・商工会や（一社）かわもと暮らしなど関係機関と情報交換会を密にし、事業承継や新たなビジネスチャンスにつながる細やかな情報把握に努めること。 ・地域おこし協力隊等で起業を志す者の発掘に向けて、ビジネスコンペティションの実施や支援制度の活用など時機を得た取組を行うこと。 ・資材エネルギー価格高騰など厳しい状況が続く中、本町の農林水産業の持続性を高めるための諸施策を令和7年度に拡充。施策の活用状況を注視し、制度拡充・変更等柔軟な対応に努めること。

【外部評価】
・道の駅で、町外から来た人に勧めることが出来る商品が欲しいので、新たな商品開発に力を入れて欲しい。 ・「野球」という地域資源を生かした商品（例：バットの形をしたパン）を道の駅で販売し、町公式HPやSNSで宣伝すると盛り上がるのでは。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
B	・圏域内の経済循環の拠点である道の駅のソフト及びハード面の今後のあり方について、令和6年度に策定した立地適正化計画による方向性を見据え、検討すること。 ・国や県の施策を呼び込むとともに、令和7年度より拡充した諸施策の活用を図り、農林水産業の付加価値を向上させること。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	04	プロジェクト名	地域資源を活かした付加価値の創出	(1)	農産物のブランド力の向上
------------	----	---------	------------------	-----	--------------

1 / 5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	事業進捗	評価の説明
① エゴマの更なる品質向上	R3	島根県農業技術センターと連携した害虫対策協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	町内の圃場に、モンオビヒメヨトウが大量発生し、収穫ができない圃場が多く出たため、島根県農業技術センターと連携し、蛹の捕獲及び生態調査をおこなった。令和4年度において、モンオビヒメヨトウ対策の実証圃の設置をおこなっている。
	R4	・奨励作物拡大支援補助金の交付 ・エゴマ害虫防除実証ほ業務の実施 【予算】 12,720 千円 【決算】 7,741 千円	B	補助金はエゴマ生産者を支える重要な制度であり、継続は必須。また実証ほ業務の実施により、害虫防除に関する一定の知見を得られた。
	R5	奨励作物拡大支援補助金の交付 【予算】 9,950 千円 【決算】 6,924 千円	B	補助金を継続し、エゴマ生産者への支援を行った。今後の課題として新たな担い手の確保が必要。
	R6	奨励作物拡大支援補助金の交付 【予算】 7,450 千円 【決算】 5,654 千円	B	町の奨励作物(エゴマ・ピーマン)を継続するため補助を行う。今後の課題として、生産量が減少傾向なので新たな担い手の確保が必要。
	R7	奨励作物拡大支援補助金の交付 川本町エゴマ振興協議会の開催 【予算】 7,880 千円 【決算】 6,693 千円	B	町の奨励作物(エゴマ・ピーマン)を継続するため補助を実施。エゴマでは、収量増を目的として従来品種に加え新規2品種の作付も行い、作付面積が減少する中でも収量の維持・増加につなげた。今後の課題として、R2まで実施した一坪ファーマーの取組復活などの事業展開により、生産量が減少傾向への歯止めや新たな担い手の確保が必要。
	R3	6次産業化推進事業 【予算】 804 千円 【決算】 48 千円	B	地域おこし協力隊が製造する百貨店等に向けた、エゴマ油等の新規パッケージの開発をおこない、販売をおこなった。
	R4	・えごま鴨だしラーメンの販売(民間事業者により実施) 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	民間事業者を中心に新たな商品開発が実施された。
② エゴマ関連商品の開発支援	R5	6次産業化推進事業 【予算】 557 千円 【決算】 227 千円	B	認定農業者が製造するえごま油の新商品パッケージの開発、百貨店等での店頭販売による商品アピールを支援した。
	R6	6次産業化推進事業補助金の活用による商品開発 【予算】 1,200 千円 【決算】 978 千円	B	・商品の新規開発や販路拡大、施設整備等が実施された。実績：7件
	R7	6次産業化推進事業補助金の活用による商品開発 【予算】 4,000 千円 【決算】 2,936 千円	B	商品の新規開発、販路拡大や施設整備等を実施した。実績：8件
	R3	奨励作物拡大支援事業 担い手アクションサポート事業 【予算】 8,265 千円 【決算】 8,265 千円	B	水田を活用し、有害鳥獣被害に強いエゴマ・ピーマンの生産奨励をおこなった。ピーマンについては、JAと連携して拡大を広め、令和2年度と比較して、生産農家が3件から23件に増加した。また、ピーマンの栽培促進PR動画を、県・JA・町で作成し、まげなネットで放映をおこなった。
	R4	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・特別栽培米生産拡大補助金の交付 【予算】 1,162 千円 【決算】 1,150 千円	B	取組が町内全体の水田活用状況の把握や、水田活用の支援等へとつながっており、水田農業の振興のために継続して実施する必要がある。
③ 水田農業の振興【再掲】	R5	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・特別栽培米生産拡大補助金の交付 【予算】 1,187 千円 【決算】 1,022 千円	B	水田を活用した取組を支援することで、耕作放棄地対策に繋がっている。また、JAで推奨している特別栽培米(ハーブ米)の買取価格支援を行い、生産者の確保、面積の拡大を図った。
	R6	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 【予算】 1,072 千円 【決算】 1,072 千円	B	水田を活用した取組を支援することで、耕作放棄地対策に繋がっている。
	R7	・経営所得安定対策等推進事業補助金の交付 ・水稲農業経営安定化支援事業補助金の交付 【予算】 2,372 千円 【決算】 2,133 千円	B	水田を活用した取組や、物価高騰の影響を受けている水稲生産者に対し、乾燥調製に対する費用を支援することで、生産者の確保や面積の維持拡大を図った。水田農業の振興のため、継続して実施する必要がある。なお、渇水対策に向け、ため池の水位状況を把握し対策を検討する。

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

D…終了(「目的」が達成されたこと等により終了する場合)

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	04	プロジェクト名	地域資源を活かした付加価値の創出	(1)	農産物のブランド力の向上
------------	----	---------	------------------	-----	--------------

2 / 5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 地域ブランドの発信拠点としての道の駅の機能強化	R3	6次産業化推進事業	B	川本エゴマの会が、自社製品を道の駅で陳列する棚のリニューアルをおこない、エゴマ販売の促進を図った。
		【予算】 804 千円 【決算】 58 千円		
	R4	担い手アクションサポート事業補助金の交付	B	地域農業再生協議会が、コロナ禍が終了し、今後は産直イベントの開催を行うための備品（音響設備）を整備した。今後は、道の駅の機能強化を推進していく必要がある。
		【予算】 130 千円 【決算】 130 千円		
	R5	6次産業化推進事業	B	特に取り組みはできなかったが、コロナ禍が終了したため、道の駅の機能強化を推進していく必要がある。
		【予算】 557 千円 【決算】 0 千円		
	R6	6次産業化推進事業	B	・商品の新規開発や販路拡大、施設整備等が実施された。実績：7件
		【予算】 1,200 千円 【決算】 978 千円		
	R7	6次産業化推進事業	B	商品の新規開発、販路拡大や施設整備等を実施した。実績：8件
		【予算】 4,000 千円 【決算】 2,936 千円		
	R3			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3			
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6			
		【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7			
		【予算】 千円 【決算】 千円		

- 【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	04	プロジェクト名	地域資源を活かした付加価値の創出	(2)	医療・福祉と異業種の連携促進
------------	----	---------	------------------	-----	----------------

3 / 5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 産業連関の把握 【再掲】	R3	・ 調査の実施方法等を検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 実態調査を行い、状況把握・再整理を行う。
	R4	・ 調査方法等の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・ 評価指標の見直しに伴い、より効果的な取り組みの実施を検討
	R5	・ 商工会との定期的な協議による聞き取り ・ 調査方法等の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・ 評価指標の見直しに伴い、より効果的な取り組みの実施を検討
	R6	・ 商工会との定期的な協議 ・ 調査方法等の検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	D	・ KPI変更により進捗追跡はないため終了した。 ・ 次年度で宿泊業や企業誘致に向けた調査において、経済波及効果の分析を行うことにより、産業連関に向け検討する。
	R7	- 【予算】 千円 【決算】 千円		-
② 異業種連携・ビジネス マッチングの推進	R3	・ 町内調達の実施方法を検討 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 実態調査を行い、状況把握及び対応策を検討する。
	R4	・ 調査方法等の検討 ・ 商工会との協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・ 評価指標の見直しに伴い、より効果的な取り組みの実施を検討
	R5	・ 調査方法等の検討 ・ 商工会との協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	C	・ 評価指標の見直しに伴い、より効果的な取り組みの実施を検討
	R6	・ 調査方法等の検討 ・ 商工会との定期的な協議 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	D	・ KPI変更により進捗追跡はないため終了した。 ・ 次年度で宿泊業や企業誘致に向けた調査において、経済波及効果の分析を行うことにより、異業種連携やビジネスマッチングに向け検討する。
	R7	- 【予算】 千円 【決算】 千円		-
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	04	プロジェクト名	地域資源を活かした付加価値の創出	(3)	企業との連携体制の構築
------------	----	---------	------------------	-----	-------------

4 / 5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 企業との連携体制の構築	R3	・(株)三協との情報共有 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・引き続き(株)三協との情報交換を行い、ニーズ把握及び支援を行う。
	R4	・三協との協議、情報共有（広報紙の発行） ・植樹イベントの実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・継続的な協議、効果的な支援策の検討が必要。
	R5	・(株)三協との協議、情報共有（広報紙の発行） ・植栽イベントの開催、創立60周年記念式典に出席 ・中小企業設備投資促進事業補助金の創設 【予算】 5,000 千円 【決算】 4,675 千円	B	・(株)三協と定期的な協議を継続し、現状及びニーズを把握し今後の支援策を検討する。 ・創設した補助金による企業の進出を促す。
	R6	・三協との協議、情報共有、知事による視察の実施 ・三協主催イベントへの参加 ・中小企業設備投資促進事業補助金交付 【予算】 5,000 千円 【決算】 5,000 千円	B	・(株)三協と定期的な協議を継続し、現状及びニーズを把握し今後の支援策を検討する。 ・(株)三協が補助金を活用し、新たな設備を導入 ・補助金をフックに企業進出の促し方法検討。
	R7	・三協との協議、情報共有、県の理事（企業立地課）と訪問実施 ・三協主催イベントへの参加（町長、島根フィルティーズ選手） ・中小企業設備投資促進事業補助金交付 【予算】 5,000 千円 【決算】 4,146 千円	B	・定期的な協議の実施 ・企業ニーズに合った支援策の検討 ・各種イベント情報の発信による継続的な交流促進
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	04	プロジェクト名	地域資源を活かした付加価値の創出	(4)	起業支援の充実と新しい人の流れづくり
------------	----	---------	------------------	-----	--------------------

5 / 5

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 起業家の育成・誘致	R3	・雇用型から起業型地域おこし協力隊への移行(1件) ・かわもと暮らしを窓口とした協力隊員の相談、支援を実施	B	・新規の協力隊員の募集に至らなかった。 ・R4で任期満了となる協力隊員(5名うち農業1名)の定着を図る。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・起業型地域おこし協力隊員の支援	B	・任期満了隊員の定着(5名) ・新規協力隊員の募集、確保を図る
		【予算】 13,966 千円 【決算】 13,966 千円		
	R5	・起業型地域おこし協力隊員の支援	B	・任期満了となった協力隊員の定着を図る。 ・新規協力隊員の募集、確保を図る。
		【予算】 6,266 千円 【決算】 3,566 千円		
	R6	・地域おこし協力隊(起業型)任期満了前後1年以内の隊員の起業を支援	B	・任期満了となった協力隊員の定着を図る。 ・新規協力隊員の募集、確保を図る。
		【予算】 1,000 千円 【決算】 1,000 千円		
	R7	・起業型地域おこし協力隊員の支援(対象者なし)	B	・任期満了後の協力隊員の起業にむけて支援を行う。
		【予算】 500 千円 【決算】 0 千円		
② サテライトオフィス等受け入れ体制強化	R3	・かわもとテレワークスペースOto-LaVoへの新規入居(1件)	B	・引き続き受け入れ体制の整備、物件の選定等を行う。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・国や県による支援事業等の情報収集	B	・ターゲット業種の明確化、進出企業への支援策の検討。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・国や県による支援事業等の情報収集 ・中小企業設備投資促進事業補助金の創設	B	・創設した補助金による企業の進出を促す。 ・ターゲット業種の明確化を進める。
		【予算】 5,000 千円 【決算】 4,675 千円		
	R6	・進出可能性のある事業者との協議 ・商工会との定例打合せによる情報共有	B	・補助金による企業の進出を促す。 ・ターゲット業種の明確化を進める。
		【予算】 5,000 千円 【決算】 5,000 千円		
	R7	・町独自の誘致戦略策定予定(企業視察までつなげる) ・商工会との定例打合せによる情報共有	B	・昨年度に引き続き、県「企業立地ガイドブック」及び広島広域都市圏作成パンフレット「ぶちすこい広島広域都市圏!」に掲載し周知した。 ・誘致戦略策定を行い、企業視察を目標としていた4社、受け入れた。
		【予算】 5,400 千円 【決算】 5,399 千円		
③ 関係人口の確保	R3	・スタディツアーの実施方法を検討。	B	・町内事業者の課題等を抽出しツアー内容の検討を進める。 ・かわもと暮らし、県定住財団と連携した効果的な実施方法の検討。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・高校卒業生を対象とした「しまちゅうエール」(LINE、HP)	B	・町内事業者の課題等を把握し実施内容を検討する。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	・高校卒業生を対象とした「しまちゅうエール」(LINE、HP)の継続	B	・町内事業者と関係人口が関わる場の創出を実施
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R6	・移住フェア、県外イベント等への出身者参画	B	・町をPRする場に運営スタッフとして参加することで、改めて町の良さに気づききっかけとしてもらい、町へのUターン機運を醸成する。
		【予算】 7,000 千円 【決算】 6,650 千円		
	R7	・県内高校生還流促進事業の実施 ※国交付金事業	B	・島根中央高校卒業生とのつながりを維持・強化し、町内及び近隣企業への就職促進並びに川本町への回帰を目的に事業を実施した。 委託先：(一社)かわもと暮らし ・R8年度は一部業務を(一社)asolabにも委託し、還流への機運を更に醸成する。
		【予算】 6,996 千円 【決算】 6,996 千円		

【評価】A…拡充(今後内容を拡充して実施する必要がある)

B…継続(当面の間、現状のまま継続して実施)

C…見直し(事務事業の効率化などにより見直す必要がある)

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
05	保小中高の連携による教育環境の充実	P108~P111	教育課
施策の 目指す姿	・成長過程に応じた町の教育の方向・あり方を地域・学校・保育所・行政が共有し、教育ビジョンの実現を目指す。 ・成長段階で取り組むふるさと教育や地域課題の解決を通じた学びの場の充実を図り、感性が豊かで川本の町と人を愛することができる人材の育成を目指す。		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
地域社会の魅力や課題について考える学習に主体的に取り組んでいると回答した児童の割合（小学生）（単位：％）	目標値	93.0	94.0	95.0	96.0	97.1
	実績値	88.0	93.0	86.0	89.0	85.5
	達成率	94.6%	98.9%	90.5%	92.7%	88.1%
地域社会の魅力や課題について考える学習に主体的に取り組んでいると回答した生徒の割合（中学生）（単位：％）	目標値	84.0	85.0	86.0	87.0	88.2
	実績値	72.0	90.0	92.0	100.0	94.0
	達成率	85.7%	105.9%	107.0%	114.9%	106.6%
地域社会の魅力や課題について考える学習に主体的に取り組んでいると回答した生徒の割合（高校生）（単位：％）	目標値	57.8	58.8	59.9	60.9	62.0
	実績値	66.0	68.3	72.4	68.8	79.7
	達成率	114.2%	116.2%	120.9%	113.0%	128.5%
情報を、勉強したことや知っていることと関連付けて理解していると回答した高校3年生の割合（単位：％）	目標値	83.0	85.0	88.0	90.0	95.0
	実績値	74.7	79.1	85.7	85.7	73.3
	達成率	90.0%	93.1%	97.4%	95.2%	77.2%

評価	【担当評価】
B	・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を基盤に、学校教育と社会教育との連携体制が強化されている。 ・ジョブカフェ（中1）、かわもと一く（小5×高校生、中2×大人）、職場体験（中3）がキャリア教育として定着しつつあること、かわもとあそびの運営体制が強化されたこと等活動の機会はあるが、評価が伸び悩んでいることから、今後は児童・生徒の満足度や達成感を高める必要があると考えている。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
B	・学校教育、社会教育ともに本町ならではの環境整備に努めているところであるが、引き続き教育機関と連携を密にし子どもたちの学びや成長を支える機会の創出に関して必要な課題に細やかに取り組むこと。 ・県内各高校が入学確保に苦戦する中、移住定住促進の意味においても高校の更なる魅力化は重要であり、公設民営塾の開所は新たな魅力化策として評価できる。 ・学校建設にあたっては教育機関や関係者の意見を踏まえ、ハード・ソフト面ともに計画的に検討を進めること。 ・引き続き地域活動への関心や活動への参加を促すための体制整備に取り組むこと。

【外部評価】
・文科省が近年理系人材に力を入れている。川本町の保・小・中・高の一貫教育の中でこういった理念を盛り込むか。今後の社会で求められる理系人材の育成を目標にするのも面白いのではないかと。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
A	・小中一貫教育校の実現に向けて、将来を見据えたハード及び教育カリキュラムを構築すること。 ・令和7年度に開設した公営塾が、上記と連動して将来を担う子ども達の学力向上に繋がり、保小中高の連携の基軸となるよう取り組むこと。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(1)	川本町教育ビジョンの実現と推進体制の整備	1 / 6
------------	----	---------	-------------------	-----	----------------------	-------

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地域との協働によるビジョンの実現	R3	・第2期川本町教育ビジョン実施計画策定。 ・第2期川本町教育ビジョンPT会議による協議。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保小中高、社会教育関係者と連携し、育てたい子ども像のグランドデザインを作成した。 ・今年度の目的である連携体制が構築できたため、今後は関係機関の連携に向けて協議を進めていく必要がある。
	R4	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小中高のグループによる連携体制の構築 ・教育講演会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保小、中高の連携を図るために、グループ会議を開催し、令和5年度以降に実施できる内容を検討した。保小については、令和5年度よりコロナ禍前の内容を再開していくこととした。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、島根大学教授と鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。参加者は少人数であったが、有意義な会となった。
	R5	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催 ・教育講演会の開催 【予算】 30 千円 【決算】 30 千円	B	・保小、中高の連携を図るためにグループ会議を開催した。保小については、令和5年度から教員の保育所見学や、年長児と小学校1年生との交流など、コロナ禍前の内容を一部再開した。中高グループは、令和5年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。 ・プロジェクトチームを対象とした保小連携合同研修会を開催し、幼小連携等の情報共有の機会となった。 ・学校、家庭、地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える人づくりについて一緒に考える機会の創出のため、鳥取県南部町社会教育委員を招聘し、教育講演会を開催した。
	R6	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保小については、令和6年度は年長児と小学5年生、年長児と小学校1年生との交流を行った。年長児は小学校の生活について知る機会ができたこと、小学生は自分自身の成長に気づく機会を持てた。中高グループは、令和6年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。
	R7	・第2期川本町教育ビジョンPT会議において保小・中高の2つのグループによる連携体制の構築 ・保小連携合同研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・保小については、令和7年度は年長児と小学5年生、年長児と小学校1年生との交流を行った。年長児は小学校の生活について知る機会ができたこと、小学生は自分自身の成長に気づく機会を持てた。中高グループは、令和7年度にも開催した「探求フェスタ」を通して連携ができるように検討を行った。
② 一体型コンソーシアムの構築	R3	・コミュニティスクール制度説明（教育委員、校長会） ・R3.6月17日に設立総会及び第1回理事会を実施。 ・6月に第2回理事会を実施（規約改正 顧問・アドバイザー設置） ・R4.3月23日に第3回理事会を実施（活動報告など） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・教育委員会、学校に対してコミュニティスクールの制度説明を実施し、今後検討していくことを共有したが、検討体制を構築するまでは至らなかった。 ・令和3年度は計画どおり新たな協働体制「教育創生コンソーシアム島根中央」の設立を実現できた。 現状は、高校の取り組みに対する協働体制だが、川本町全体の教育発展するための協働体制構築に向け、今後取り組みを進めていく。
	R4	【教育】 ・コミュニティスクール制度説明 ・川本町立学校のあり方検討委員会での協議 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーの配置（1名） ・第1回理事会（5月30日）：事業報告・事業計画 ・第2回理事会（10月24日）：中間報告 ・第3回理事会（3月22日）：活動報告等 ・コンソーシアム拠点「Linkベース」の整備 【予算】 2,199 千円 【決算】 2,012 千円	B	【教育】 ・川本町立学校のあり方検討委員会としての方向性を答申するために、県内の学校視察を行い、学校運営協議会、地域学校協働本部について協議した。3回の検討委員会を実施したが、令和5年度に答申することになり、答申を基に今後の体制を検討していく。 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーを中心に、高校の取り組みに対する協働体制の構築を進めた。 ・コンソーシアムの拠点「Linkベース」を校内に整備した。今後、生徒・教員が利用しやすい場所づくりや地域との橋渡しをこの拠点を中心に進める。 ・今後、生徒会とコンソーシアムとの事業のすみ分けを明確化し、それぞれの立場から取り組みを進めていく。
	R5	【教育】 ・川本町立学校のあり方検討委員会の答申 ・町立学校運営協議会設置準備 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーの配置（1名） ・第1回理事会（5月23日）：事業報告・事業計画 ・第2回理事会（10月31日）：中間報告 ・第3回理事会（3月21日）：活動報告等 ・コンソーシアム拠点「Linkベース」の運用開始 【予算】 2,822 千円 【決算】 2,404 千円	B	【教育】 ・川本町立学校のあり方検討委員会の答申（5/31）を受け、R6年度に学校運営協議会設置に向けた準備開始。 *準備委員会（教育課長、補佐、指導主事、社教主事） *推進会議（教育長、学校長+準備委員会メンバー） ・教育関係者の研修 12/25開催（CSマスター） ・教育委員会 1月協議会規則を制定、3月委員任命。 ・R6年度より3回の協議会を開催予定（第1回：R6.4.16） 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーを中心に、高校の取り組みに対する協働体制の構築を進めた。 ・コンソーシアムの拠点「Linkベース」を校内に設置し、地域・行政・学校を結ぶ中継地点として、生徒自らの活発な地域活動をサポート。

	R6	【教育】 ・町立学校運営協議会 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーの配置（1名） ・第1回理事会（5月23日）：事業報告・事業計画 ・第2回理事会（書面決議）：中間報告 ・第3回理事会（3月実施予定）：活動報告等 ・コンソーシアム拠点「Linkベース」の運用	B	【教育】 ・R6年度から学校運営協議会を設置して、年3回の協議会を開催し地域と一体となった特色ある学校づくりを進めた。 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーを中心に、高校の取り組みに対する協働体制の構築を進めた。 ・コンソーシアムの拠点「Linkベース」を校内に設置し、地域・行政・学校を結ぶ中継地点として、生徒自らの活発な地域活動をサポート。 【共通】 町学校運営協議会と高校コンソーシアムとが連携することにより、保小中高が一体的な学びの環境づくりの推進を図っていく。
		【予算】 1,710 千円 【決算】 1,532 千円		
	R7	【教育】 ・町立学校運営協議会 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーの配置（1名） ・第1回理事会（6月20日）：事業報告・事業計画 ・第2回理事会（12月18日）：中間報告 ・第3回理事会（2月25日）：活動報告等 ・コンソーシアム拠点「Linkベース」の運用	B	【教育】 ・R7年度は年3回の協議会を開催し、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めた。 【まち】 ・コンソーシアム運営マネージャーや高校魅力化コーディネーターを中心に、高校の取り組みに対する協働体制の構築を進めた。 ・コンソーシアムの拠点「Linkベース」を校内に設置し、地域・行政・学校を結ぶ中継地点として、継続的に生徒自らの活発な地域活動をサポート。
		【予算】 1,578 千円 【決算】 1,355 千円		
③ 活動の推進に取り組む団体の育成	R3	・教育（高校魅力化）の活動推進に高校魅力化CN7名を配置 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中	B	・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中。 ・持続的で発展的に教育を通じた人づくりの取り組みを行う団体創出に向けた取り組みを継続実施。
		【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	・教育（高校魅力化）の活動推進に高校魅力化CN7名を配置 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体の在り方について継続検討中	B	・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中。 ・持続的で発展的に教育を通じた人づくりの取り組みを行う団体創出に向けた取り組みを継続実施。 ・来年度、吹奏楽部にCNを配置しより一層高校魅力化を推進する。
		【予算】 16,470 千円 【決算】 13,925 千円		
	R5	・教育（高校魅力化）の活動推進に高校魅力化CN7名を配置 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体の在り方について継続検討中	B	・吹奏楽部にCNを配置しより一層の高校魅力化を推進。 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中。 ・持続的で発展的に教育を通じた人づくりの取り組みを行う団体創出に向けた取り組みを継続実施。
		【予算】 20,774 千円 【決算】 20,595 千円		
	R6	・教育（高校魅力化）の活動推進に高校魅力化CN7名を配置 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体の在り方について継続検討中	B	・男女硬式野球部、吹奏楽部にCNを配置しより一層の高校魅力化を推進。 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中。 ・持続的で発展的に教育を通じた人づくりの取り組みを行う団体創出に向けた取り組みを継続実施。
		【予算】 21,701 千円 【決算】 20,879 千円		
	R7	・教育（高校魅力化）の活動推進に高校魅力化CN6名を配置 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体の在り方について継続検討中	B	・男女硬式野球部、吹奏楽部にCNを配置し、より一層の高校魅力化を推進。 ・保小中高の特色ある学びの推進に向けた団体のあり方について検討中。 ・持続的で発展的に教育を通じた人づくりの取り組みを行う団体創出に向けた取り組みを継続実施。
		【予算】 19,367 千円 【決算】 18,916 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(1)	川本町教育ビジョンの実現と推進体制の整備
------------	----	---------	-------------------	-----	----------------------

2 / 6

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 島根県立大学等、高大連携の推進	R3	・実施可能な大学との協働事業などについて検討中。 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考に する機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県 立大学と実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業について検討中。 ・島根中央高校の特色ある学びの場としてPRできる、 高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り 組む。
	R4	・県立大生とバーチャル国際交流の参加（4回） ・上級学校（大学）訪問（島根大学、県大看護・栄養、出 雲トリニティカレッジ保育） ・韓国語スピーチ動画コンテスト参加（3名） ・韓国語ハングル講座（6名） 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業について検討中。 ・島根中央高校の特色ある学びの場としてPRできる、 高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り 組む。
	R5	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にす る機会として、バーチャル国際交流（オンライン）、ハン グル語講座、短期留学生の受け入れを県立大学と実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・島根中央高校の特色ある学びの場としてPRできる、 高度で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り 組む。
	R6	・実施可能な大学との協働事業などについて検討 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にす る機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立 大学と実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びの場としてPRできる、高度 で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組 む。
	R7	・実施可能な大学との協働事業を実施 ・大学生の体験を聞き高校生がこれからの進路の参考にす る機会として、バーチャル国際交流（オンライン）を県立 大学と実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	実施可能な大学との協働事業について検討。 島根中央高校の特色ある学びの場としてPRできる、高度 で多様な学びのプログラム構築に向け継続して取り組 む。
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ番	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(2)	保小中高が連携した教育の推進	3 / 6
主な取り組み		年度	具体的取組内容	評価	評価の説明	
① 基礎学力の定着	R3		- 派遣指導主事1名の配置による学校支援。 - 英検ジュニアチャレンジ会 (3回) - 英語検定、英検jr検定費用助成。	A	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等の学校支援施策を推進するためには、専門性のある指導主事が行った。 - 学び合い学習に伴う研修を3回実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施となった。 - 英検費用助成制度を活用し、小学生向けの英検ジュニアを団体受検することとし、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数6名のうち3名は次のグレード（シルバー）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 - 次年度以降は、意欲ある子どもたちをさらに支援するために、幼児期から取り組める算数・数学検定や漢字検定を英語費用助成制度に加えることとし、支援を拡大する。	
			【予算】 2,995 千円 【決算】 2,446 千円			
			「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 英検ジュニアチャレンジ会（3回） - 英語検定、算数・数学検定、漢字検定費用助成 - 算数・数学検定、漢字検定会場設置 - 英検jr検定費用助成 - 学力育成会議の設置・運営	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等の学校支援施策を推進するためには、専門性のある指導主事が行った。 - 英検費用助成制度を活用し、小学生向けの英検ジュニアを団体受検することとし、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数15名のうち11名は次のグレード（シルバー）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」21名、「漢字検定」39名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。今後は、学ぶ意欲のある町民に対して、事前学習や検定料助成を検討する必要がある。	
			【予算】 3,587 千円 【決算】 2,923 千円			
			「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 各種検定助成事業（英語、算数・数学、漢字） *英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） *検定会場設置（算数・数学、漢字） - 学力育成会議の設置・運営（2回）	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 - 学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 - 中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 - 小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者数は昨年の15名から21名に増え、そのうち13名は次のグレード（シルバー、ゴールド）の受験資格を得た。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」28名、「漢字検定」37名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。今後は、町全体が学ぶ風土を醸成するため、学ぶ意欲のある町民に対する検定助成などを検討していきたい。 - 検定助成について、町が準会場を設置する場合、検定料徴収から補助金交付までの流れが複雑であるため、受検費用の流れを整理し、可能であれば補助制度と町費負担の検定事業との2本立てで実施するようにR7予算から見直しを検討したい。	
			【予算】 3,113 千円 【決算】 1,446 千円			
			「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） - 派遣指導主事1名の配置による学校支援 - 各種検定助成事業（英語、算数・数学、漢字） *英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） *検定会場設置（算数・数学、漢字） - 学力育成会議の設置・運営（2回）	B	- 児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 - 学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 - 中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 - 小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。受検者16名のうち9名は次のグレード（シルバー、ゴールド）や英検を目指す受検者も出てきた。毎年度、受検者数の増減はあるものの、学ぶ意欲のある児童が参加し、楽しく学習している。 「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から「算数・数学検定」28名、「漢字検定」37名の参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。今後は、町全体が学ぶ風土を醸成するため、学ぶ意欲のある町民に対する検定助成などを検討していきたい。	
			【予算】 2,700 千円 【決算】 1,082 千円			

		R7	・「共に学び合う授業を目指して」校内研究会（学び合い研修）（3回） ・派遣指導主事1名の配置による学校支援 ・各種検定助成事業（英語、算数・数学、漢字） *英検ジュニア検定とチャレンジ会（3回） *英検と英検5級対策講座（5回） *検定会場設置（算数・数学、漢字、英検） ・学力育成会議の設置・運営（2回）		・児童生徒の学力向上や教職員の学級経営力向上、生徒指導、特別支援教育の推進等、学校支援施策の推進にあたっては、専門性のある指導主事と連携した。 ・学力育成会議を開催し、児童生徒の課題を小中で確認し、指導の重点等について協議した。 ・中学校では、英検と漢検に学校として取り組み、ほぼ全校生徒が受検している。 ・小学生向けの英検ジュニアを団体受検する機会を設け、これに向けた学習会を無料で開催した。毎年度、受検者数の増減はあるものの、低学年からの参加があり、学ぶ意欲のある児童が参加し楽しく学習している。 ・「算数・数学検定」、「漢字検定」の準会場を町内に設け、学ぶ意欲のある方を対象に検定を実施した。町内外から参加があり、町内に住所を有する児童生徒に対しては検定料を助成した。 ・検定助成について、受験者の利便性や事務効率化の観点から、町が準会場を設置する場合は町費負担で実施とし、助成を充実している。
			【予算】 1,553 千円 【決算】 1,089 千円		
② スポーツや文化活動(部活動)に取り組める環境の実現	R3	・スポーツ団体ヒアリングによる現状把握（一部） 2030島根国体に向けたジュニア育成事業（カヌー体験教室） ・川本中学校吹奏楽部との合同練習を実施（島根中央高校） 女子硬式野球部はオープンスクールとは別に近隣中学生向けに部活動体験会を実施。		B	・スポーツ団体の活動支援に向けてヒアリングを計画していたが、一部しか実施できなかった。次年度については、関係者へのアンケートを実施し、支援に向けて進めていく。 ・カヌー体験教室については、2回計画していたが、雨天のため1回は中止とした。町民プールを活用し開催した教室には沢山の子どもが参加し、引き続き育成に向けて事業を実施していく。 ・令和3年度の計画どおり中高生合同の練習会を実施。今後も中高生合同練習会の実施を継続し取り組む。
			【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【教育】 ・KSCや川本町体育協会との連携 ・2030島根国スポに向けたジュニア育成事業（カヌー体験教室） 【まち】 （島根中央高校） ・中国地区女子野球大会及び野球教室の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。		B	・KSC、川本町体育協会、学校を交え、「島根国スポ」、「部活動の地域移行」を含めて検討していく必要がある。 ・カヌー体験教室については、島根中央高等学校や美郷町と連携しながら、選手育成及び次世代の掘り起こしを含めて、継続的な取り組みにするよう検討する。
			【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R5	【教育】 ・川本町スポーツ大会等出場助成金制度 ・スポーツ講演会開催 ・中学校部活動遠征費補助 【まち】 （島根中央高校） ・中国地区女子野球大会及び野球教室の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。		B	・かわもとスポーツクラブのジュニアチーム(野球、バレー)が上位大会へ出場するなど目覚ましい成績を残した。こうした場合の遠征費などを支援するため、「川本町スポーツ大会等出場助成金交付要綱」を制定した。(R6.4.1施行) ・中学校部活動の県大会以上の出場にあたっては、部活動遠征費補助金において支援した。 ・スポーツ講演会を開催し、スポーツに取り組むことの素晴らしさを体験する機会も設けた。(R6.3.2女子野球) ・部活動の地域移行については特に動きなし。
			【予算】 2,251 千円 【決算】 2,134 千円		
	R6	【教育】 ・川本町スポーツ大会等出場助成金制度 ・スポーツ講演会開催 ・中学校部活動遠征費補助 【まち】 （島根中央高校） ・中国地区女子野球大会の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。		B	【教育】 ・スポーツ大会助成金については対象となる団体が無かったが、引き続き制度周知に努める。 ・3月にスポーツ講演会として、北京オリンピックバレーボール男子日本代表監督の植田辰哉氏を迎え、講話と実技指導を行っていただいた。(参加人数：150人) ・中学校部活動の県大会以上の出場にあたっては、部活動遠征費補助金において支援した。 【まち】 ・中国地区女子野球大会の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。
			【予算】 2,208 千円 【決算】 2,032 千円		
	R7	【教育】 ・川本町スポーツ大会等出場助成金制度(150千円) ・スポーツ講演会開催(220千円) ・中学校部活動遠征費補助 【まち】 （島根中央高校） ・中国地区女子野球大会の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。		B	【教育】 ・kidsベースボールクラブが大会の上位大会への出場したことから、スポーツ大会助成金を交付した。引き続き制度周知に努めるとともに引き続きジュニアチームの支援に取り組む。 ・スポーツ講演会として、11月に東京オリンピック3,000m障害へ出場した陸上選手の三浦龍司氏を迎え、子ども陸上教室を開催した。(参加人数：112人)また、翌日の町内一周駅伝大会へ招待ランナーとして参加いただいた。 ・中学校部活動の県大会以上の出場にあたっては、部活動遠征費補助金において支援した。 ・部活動地域展開を見据えて、中学校や各関係団体と協議を行った。 【まち】 （島根中央高校） ・中国地区女子野球大会の運営を女子野球部がサポートし、高校生と中学生の交流機会を創出。
			【予算】 1412 千円 【決算】 2,962 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）
 B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）
 C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）
 D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ番号	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(2)	保小中高が連携した教育の推進
--------	----	---------	-------------------	-----	----------------

4 / 6

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
③ 成長段階に応じた地域資源を活かした教育の推進	R3	・〈幼児〉K-POP（親子体験プログラム）の実施（全3回） 〈小学生〉かわもとサマーデイキャンプの実施（全3回、延べ104名） 〈中学生〉かわもとあそらボの取り組み支援 〈その他〉川本町ふるさとカルタの作成（500セット） ・ふるさと学、探究学習で地域資源を用いた学習機会の場を実施。地域資源を活かした探究授業の発展に向け、授業プログラムの検討を継続	B	・子育て世代の親子を対象に、地域の方や自然とのふれあいを通して、参加者通して繋がりが不安や疑問を解消する。 ・小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し地域の大人や中高生ボランティアの方々と交流し、関係性づくりを図った。 ・中高校生の放課後の居場所として「カフェ・オレンジ」を活動拠点に、中高生と地域の大人とつながりづくりができるよう教育委員会イベントにボランティアスタッフとして関わり、幅広い世代との交流ができた。 ・地域教材として、川本町の魅力（自然、文化・暮らし、歴史、観光）に関する事柄を集めたカルタという形に残るものを作成した。カルタを通して地域の魅力を再発見することができる。 ・令和3年度の計画どおり地域資源を用いた授業を実施。 ・小中高と学びの連続性や校種間のつながりを意識したプログラム構築に向けた取り組みが必要。
		【予算】 3,899 千円 【決算】 3,638 千円		
	R4	〈幼児〉K-POP（親子体験プログラム）の実施（全4回） 〈小学生〉かわもとサマーチャレンジウィークの実施 〈中学生〉かわもとあそらボの取り組み支援 〈その他〉川本町ふるさとカルタの活用 〈学校〉ふるさと学、探究学習で地域資源を用いた授業を構成。その成果発表の場等活用を検討	B	・子育て世代の親子を対象に、地域の方や自然とのふれあいを通して、参加者通して繋がりが不安や疑問を解消する機会を提供できた。また、新に計画したプログラムでは、新たな人材の出番を創出することができた。 ・小学生を対象に、町内4カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し地域の大人や大学生の方々と交流し、関係性づくりが図れた。 ・中高校生の活動の場として、教育委員会だけでなく、観光協会等にも協力し連携できる体制を図ることができた。また、小学生をはじめ、自らいイベントの企画・運営をすることができ、これからの取り組みの幅を広げることが期待できる。 ・川本町ふるさとカルタを小中高校や公民館、福祉施設等へ配布し、公民館活動でも実施するなど普及活動に務めた。 ・ふるさと教育においても地域資源や人材を活用した授業が展開でき、今後は、成果発表等の活用の場の提供を検討することが必要とされる。
		【予算】 6,470 千円 【決算】 6,067 千円		
	R5	〈幼児〉K-POP（親子体験プログラム）の実施（全4回） 〈小学生〉かわもとサマーチャレンジウィークの実施 7/24～7/28（5日間）参加者延べ79名 〈中学生〉かわもとあそらボの取り組み支援 〈その他〉川本町ふるさとカルタの活用 〈学校〉ふるさと学、探究学習で地域資源を用いた授業を構成。その成果発表の場等活用を検討	B	・子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして、年4回実施し、様々な活動の場を提供できた。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。 ・サマーチャレンジウィークでは、小学生を対象に、町内5カ所を活動拠点とする地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・参加者の固定化と事業実施の日程調整が課題。
		【予算】 6,902 千円 【決算】 6,081 千円		
	R6	〈幼児〉K-POP（親子体験プログラム）の実施（全4回） 〈小学生〉かわもとサマーチャレンジウィークの実施 7/23、25、26（3日間）参加者延べ47名 〈中学生〉かわもとあそらボの取り組み支援 〈その他〉川本町ふるさとカルタの活用 〈学校〉ふるさと学、探究学習で地域資源を用いた授業を構成。その成果発表の場等活用を検討	B	・子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして、年3回実施し、様々な活動の場を提供した。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。 ・サマーチャレンジウィークでは、小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点とする地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生等と交流し、関係性を作った。 ・参加者の固定化と事業実施の日程調整が課題。
		【予算】 5,365 千円 【決算】 5,079 千円		
	R7	〈幼児〉K-POP（親子体験プログラム）の実施（全4回） 〈小学生〉かわもとサマーチャレンジイベントの実施（7月・8月に4日間開催、延べ67名） 〈中学生〉かわもとあそらボの取り組み支援 〈その他〉川本町ふるさとカルタの活用 〈学校〉ふるさと学、探究学習で地域資源を用いた授業を構成。その成果発表の場等活用を検討	B	・子育て世代の親子を対象に、親同士のつながりづくりや家族間交流、豊かな自然とのふれあいをねらいとして、年4回実施し、様々な活動の場を提供した。参加家族だけの交流ではなく、地域住民や中高生ボランティアスタッフとも交流することができた。 ・サマーチャレンジイベントでは、小学生を対象に、町内3カ所を活動拠点として、地域の自然探検を通し、地域の大人や高校生・大学生ボランティアと交流し、関係性を作った。 ・参加者が幅広い年代であることもあり、安全管理と日程調整、及び地域の新たなテーマ発掘が課題。
		【予算】 16,136 千円 【決算】 15,521 千円		

④ 安心して学ぶことができる教育環境の整備	R3	・小中学校長寿命化調査。・教育情報化推進計画策定、実施。 ・川本町立学校のあり方検討委員会設置、運営（1回）。	B	・小中学校を今後10年間使用していくうえでの修繕内容について調査を実施し、調査結果に基づいて修繕を実施する。 ・学校でのICT活用を推進していくために、教育情報化推進計画を策定し、学校に対して説明を実施した。学校においては、取組レベル指標を基に、進捗状況を確認している。 ・学校施設の建て替えを含めた今後の学校のあり方を検討していくため、検討委員会を設置し、検討委員会を開催した。令和5年2月を目途に答申をまとめていく。
		【予算】 3,367 千円 【決算】 3,373 千円		
	R4	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校のあり方検討委員会設置、運営（3回） ・教育情報化推進計画の推進	B	・学校改修事業は、物価の高騰により全項目の改修が完了しなかった。 ・学校施設の建て替えを含めた学校のあり方を検討するため、学校視察、地域公聴会を行い、検討委員会において審議を進め、令和5年5月を目途に答申をまとめる。 ・ICT機器の有効活用を図るため、教育委員会、学校担当者において、教育情報化推進計画の見直しに進め、活用促進を図っている。
		【予算】 41,250 千円 【決算】 41,250 千円		
	R5	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校のあり方に関する答申を踏まえた方向性の検討 ・教育情報化推進計画の推進	B	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・川本町立学校のあり方検討委員会からの答申（5/31）を受け、小中学校の建替えを具体的に進めるための検討体制について協議した。「基本構想」及び「基本計画」の策定に向けた検討委員会を設置することが決定。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を導入。浜田管内三市三町統一システム。
		【予算】 21,381 千円 【決算】 20,157 千円		
	R6	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校建設検討委員会による検討 ・教育情報化推進計画の推進	B	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・学校建設検討委員会を9月に設置して、2回の委員会を開催。主に基本構想について検討を行った。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を令和5年度導入。浜田管内三市三町統一システム。令和6年度より学校での運用開始。
		【予算】 7,825 千円 【決算】 3,909 千円		
	R7	・川本町立学校改修事業 ・川本町立学校建設検討委員会による検討 ・教育情報化推進計画の推進	B	・施設利用者の安全確保および施設を長期間維持していくため、毎年実施する施設点検、保守点検において報告された修繕箇所について修繕を行った。 ・学校建設検討委員会を3回開催。基本構想・基本計画について検討を行った。 ・教職員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上や業務の効率化を図るため、学籍情報や成績管理・健康管理など、児童生徒の全ての情報を一元管理できる「統合型校務支援システム」を令和5年度導入。浜田管内三市三町統一システム。令和6年度より学校での運用を開始し、業務への利活用を進めている。
		【予算】 20,498 千円 【決算】 7,857 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ番号	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(3)	キャリアプランニングの支援	5 / 6
主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明		
① 高校のカリキュラム編成	R3	・令和5年度入学生からの新たなカリキュラム編成及びコース再編に向け、コンソーシアム協働チームで内容を検討 【予算】 0千円 【決算】 0千円	B	・コンソーシアム協働チームによるカリキュラム編成及びコース再編の検討を実施。 ・令和5年度入学者からスタートする新たなカリキュラム及びコース実施に向け継続して取り組みを実施。		
	R4	・令和5年度入学生からの新たなカリキュラム編成及びコース再編に向け、コンソーシアム協働チームで内容を検討 【予算】 0千円 【決算】 0千円	B	・コンソーシアム協働チームによるカリキュラム編成及びコース再編の検討を実施。 ・令和5年度入学者からスタートする新たなカリキュラム及びコース実施に向け継続して取り組みを実施。		
	R5	・令和6年度入学生からの新たなカリキュラム編成及びコース再編に向け、コンソーシアム協働チームで内容を検討 【予算】 0千円 【決算】 0千円	B	・コンソーシアム協働チームによるカリキュラム編成及びコース再編の検討を実施。 ・令和6年度入学者から新たなカリキュラム及びコース、単位制（個別ルート）のスタート。		
	R6	・令和6年度入学生から新たなカリキュラム編成（コースの細分化するルート設定）を実施 【予算】 0千円 【決算】 0千円	A	・コンソーシアム協働チームによるカリキュラム編成及びコース再編の検討を実施。 ・令和6年度入学者（令和7年度の2年生）から新たなカリキュラム及びコース、個別ルートのスタート。 ・令和7年度から高校内に公設民営方式による学習塾「島根中央みらいゼミ」を開講。「特別進学ルート」との連携により、島根中央高校の新たな魅力に繋げていく。		
	R7	・令和6年度入学生から新たなカリキュラム編成（コースの細分化するルート設定）を実施 ・令和7年度2年生のコース選択より、進学ルートの運用を開始 ・10月開講の学習塾と連携した取組により、生徒の学習指導をより個別最適化していく 【予算】 21,000千円 【決算】 17,540千円	B	・令和6年度入学者（令和7年度の2年生）から新たなカリキュラム及びコース、個別ルートのスタート。 ・令和7年度から高校内に公設民営方式による学習塾「島根中央みらいゼミ」を開講。「特別進学ルート」との連携により、島根中央高校の新たな魅力に繋げていく。		
② 子どもの夢実現応援事業	R3	・夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業の実施 【予算】 1,219千円 【決算】 1,179千円	B	・令和3年度は既存の取組を継続。 ・令和4年度以降で対象の拡充や小中学生も交えた仕組みの検討などを進める。		
	R4	・夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業の実施 自分計画書発表会9月・3月実施（8名） 定住助成金交付2件 【予算】 3,620千円 【決算】 3,620千円	B	・令和4年度は既存の取組を継続。 ・令和5年度以降で対象の拡充や小中学生も交えた仕組みの検討などを進める。（令和6年度開始を目指す）		
	R5	・夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業の実施 自分計画書発表会9月・2月実施（7名） 定住助成金交付2件、奨学金返還助成金3件 【予算】 5,024千円 【決算】 4,006千円	B	・令和5年度は既存の取組を継続。 ・令和6年度以降で対象の拡充や小中学生を交えた仕組みの検討を進める。		
	R6	・夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業の実施 自分計画書発表会（9月実施：5名、3月実施7名） 定住助成金交付2件、奨学金返還助成金4件 【予算】 5,224千円 【決算】 4,468千円	B	・主な発表対象者を3年生（9月）から2年生（2、3月）へ移行 ・令和7年度以降も状況に応じて新しい仕組みを検討する。		
	R7	・夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業の実施 自分計画書発表会（3月実施：8名） 定住助成金交付3件、奨学金返還助成金3件 【予算】 6,224千円 【決算】 4,709千円	B	・令和7年度は既存の取組を継続。 ・発表対象を高校2年生へ変更したことにより、中学校での発表機会がなくなり、中学生が本事業を知る機会が減少した。このため、令和8年度以降は、将来的な事業参加者となる中学生に対して、本事業の目的や内容を知る機会を確保できるよう、中学校での周知方法や発表機会の設定など、効果的な発表形態について検討する。		

③ 奨学金プログラムの検討	R3	・かわもとあそラボの取り組み支援、地域活動参加証の発行（キャリアパスポート）	A	・中高校生の放課後の居場所として「カフェ・オレンジ」を活動拠点に、中高校生と地域の大人とつながりづくりができるよう教育委員会イベントにボランティアスタッフとして関わり、幅広い世代との交流ができた。 ・かわもとあそラボを通して、地域活動へボランティアスタッフとして参加した生徒に地域活動参加証であるキャリアパスポートを発行し、進学の際に活用してもらった。 ・今後、他の教育・定住関係事業や人材育成事業との連携、調整を図りながら、事業実施の可否等について検討する。
		【予算】 2,231 千円 【決算】 2,231 千円		
	R4	・かわもとあそラボの取り組み支援、地域活動参加証の発行（キャリアパスポート）	B	・中高校生と地域の大人とつながりづくりができるよう教育委員会イベントにボランティアスタッフとして関わり、幅広い世代との交流ができた。 ・かわもとあそラボを通して、地域活動へボランティアスタッフとして参加した生徒に地域活動参加証であるキャリアパスポートを発行し、進学の際に活用してもらった。 ・今後、他の教育・定住関係事業や人材育成事業との連携、調整を図りながら、事業実施の可否等について検討する。
		【予算】 5,450 千円 【決算】 5,450 千円		
	R5	・かわもとあそラボの取り組み支援、地域活動参加証の発行（キャリアパスポート）	B	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。これまでの経験を活かし、一人でじっくり考えたり、仲間と一緒に会話を楽しんだりすることができる場となっている。 ・教育課として新たな奨学金プログラムの検討はしていない。
		【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円		
	R6	・かわもとあそラボの取り組み支援 ・地域活動参加証の発行（キャリアパスポート）	D	・コミュニティカフェ「オレンジ」を子どもたちの夢実現のための地域活動の拠点とし、地域の大人を含む幅広い世代のつながりの中で活動を展開する体制が確立された。 ・また、中高生の地域活動の実績を「キャリアパスポート」として積み上げ、進路選択や進路実現に生かせるサポートを継続している。 ・総合計画策定当時目指していた「奨学金プログラム」が、活動を継続する中で「キャリアパスポート」に移行したが、これまでの取組により、目指していた地域が関わりながら子どもの夢を実現する体制の構築が出来たと考える。
		【予算】 4,450 千円 【決算】 4,450 千円		
	R7	・あそラボ（一社asolab）の取り組み支援	B	・コミュニティカフェ「オレンジ」を活動拠点とし、中高校生を中心とし、大学生や地域の大人等幅広い世代のつながりの中で活動することができた。特に、毎年行っている中高生主体でのイベントを開催したくさんの方の来場があり、充実したイベントとなった。 ・6名の大学生短期インターンの受け入れを行い、小学生から大学生までが集う環境が整えられた。 ・委託事業として実施しているが、活動の充実とともに運営スタッフ・活動場所の不足等の課題があることから、安全に活動できるよう検討を続ける。
		【予算】 15,368 千円 【決算】 15,368 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	05	プロジェクト名	保小中高の連携による教育環境の充実	(4)	卒業も町と関わりを持ち続ける人材 確保(関係人口)
------------	----	---------	-------------------	-----	------------------------------

6 / 6

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 地域との継続的な関わり づくりの推進【まちづくり】	R3	・移住定住ワンストップ窓口「かわもと暮らし」のLINE開設 ・各種SNS等での情報発信 ・県関係人口サイト「しまっち」の活用 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・かわもと暮らしによる公式LINE登録促進や、SNSの活用による情報提供手段の確保を行った。 ・また、レールバイクイベントなどの関わり企画を県関係人口サイトに掲載。引き続き発信と関わりシロの提供を継続していく。
	R4	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 ・移住・定住・交流促進事業（一財）地域活性化センターを活用した大学生インターンシップモデル事業を実施 【予算】 6,220 千円 【決算】 5,970 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：87名） 県外でのイベントの実施（東京0名・広島17名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する意識調査 ・移住・定住・交流促進事業 2名の受け入れサポート＋R5年度1名の受入決定 PRのための動画作成
	R5	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 【予算】 7,000 千円 【決算】 5,731 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：144名） 県外でのイベントの実施（東京8名・広島7名） 町内企業に向けたインターンシップ制度に関する説明会実施（参加企業：8社） 町内企業のPR動画を作成
	R6	・高校生とのつながり創出モデル事業を県と協働で実施。 【予算】 7,000 千円 【決算】 6,650 千円	B	・高校生とのつながり創出モデル事業 専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：203名） イベントの実施（東京2名・広島3名・大阪3名・川本8名） 町内企業のPR動画を作成（新規：4社分） ・令和7年度からは「つながる機会の醸成」から実際の「還流」へテーマを移行し、県と協働で「県内卒業生還流促進事業」を実施予定
	R7	・県内高校卒業生還流促進事業を県と協働で実施 【予算】 6,996 千円 【決算】 6,996 千円	B	・島根県の事業再編に伴い、令和7年度より県内高校卒業生還流促進事業として再編 ・専用公式LINE及びHP「しまちゅうエール」開設（登録者数：245名） ・令和7年度よりInstagram「時々、川本のことを思い出してね」開設 ・イベントの実施（東京5名・広島5名・大阪3名・川本5名）
	R3	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

重点プロジェクト 施策評価シート

重点PJ	プロジェクト名	記載ページ	主担当課
06	治水対策の推進	P112~P115	地域整備課
施策の 目指す姿	近年、頻発・激甚化する水害から住民の生命と財産を守るべく、治水対策未実施地区の解消を図るとともに、住民一人一人が自らの生命を守ることができるよう、防災教育などソフト面での対策も充実させる。		

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7
治水対策未完了地区数 (単位：地区)	目標値	3	3	3	3	2
	実績値	3	3	3	3	3
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.6%
防災士の数（累計値） (単位：人)	目標値	4	6	8	9	10
	実績値	3	3	5	5	8
	達成率	75.0%	50.0%	62.5%	55.5%	80.0%
自主防災組織の訓練（研修）の 参加者数 (単位：人)	目標値	300	400	500	600	800
	実績値	302	403	487	502	535
	達成率	100.7%	100.8%	97.4%	83.7%	66.9%

評価	【担当評価】
A	【治水】 ・未対策箇所谷戸地区については、主要地方道川本波多線の改良により、嵩上げが行われる予定。 ・上記改良事業については、早期着工に向け、県と連携して、関係者や地元説明を実施し、全ての関係者から同意を得た。 【防災士・自主防災組織の訓練】 ・防災士については年々認知度も上がり、問い合わせが増えてきており、継続して防災の育成を行っていく。また、自主防災組織に対する研修など、防災士と連携した活動を行うため、防災士が一堂に会する場の提供を進めていき、より効果的な事業としていきたい。

評価	【一次評価】（副町長、総務課長）
A	・実施中の治水対策が着実に実現できるよう、また川本堤防の完成堤防化に向け引き続き国・県に対して要望を行っていくこと。 ・水防災をはじめ、地震や雪害などへの備えも含めて意識啓発に努めること。

【外部評価】
・防災士が3名増えて8名になっているが、災害が発生した際に活躍できるよう日頃から研修や情報交換を行うべき。

評価	【最終評価】（町長、教育長）
A	・進展している治水対策の加速化に加えて、大命題である川本堤防の完成堤防化を呼び込むため、国・県に対して引き続き強く働きかけること。 ・併せて重要となる意識啓発を含めたソフト面の取組に注力すること。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	06	プロジェクト名	治水対策の推進	(1)	ハード対策
------------	----	---------	---------	-----	-------

1 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 堤防整備の要望強化	R3	・国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・瀬尻・久料谷地区および谷地区における治水対策については事業化となったが、弓市地区における暫定堤防の早期完成に向け引き続き要望活動を実施。
	R4	・国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・瀬尻・久料谷地区、谷地区における治水対策については事業化、今後は弓市地区における川本暫定堤防の早期完成に向け引き続き要望活動を実施。
	R5	・国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・瀬尻・久料谷地区、谷地区における治水対策については事業化済。 ・弓市地区における川本暫定堤防の早期完成に向け引き続き要望活動を実施。
	R6	・国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・瀬尻・久料谷地区、谷地区における治水対策については事業化済。 ・弓市地区における川本堤防の早期完成に向け、国交省と令和7年2月に国への寄附手続きに向けた確認書を締結。
	R7	・国・県に対する早期事業化へ向けての要望活動を実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・瀬尻・久料谷地区、谷地区における治水対策については事業化済。 ・弓市地区における川本堤防の早期完成に向け、令和7年度中国地方治水大会にて意見発表。
② 排水設備整備の要望強化	R3	・尾原地区へ緊急排水ポンプ1台の設置 【予算】 5,000 千円 【決算】 5,000 千円	A	・出水期前にポンプの購入及び設置を完了し、出水の際に稼働し、一定の成果はあった。しかし、降雨量に対し台数不足もあったため、拡充が必要である。
	R4	・尾原地区へ緊急排水ポンプ2台、因原地区へ緊急排水ポンプ1台、計3台の設置 【予算】 15,000 千円 【決算】 14,999 千円	B	・緊急排水ポンプの稼働がなかったため、台数が十分であるか検証ができていない。また、保管、管理場所の確保が必要。
	R5	・谷地区内水排除設備の埋設工事 【予算】 3,500 千円 【決算】 3,493 千円	A	・内水排除用の排水管を埋設したことで、県道の通行規制や近隣事業所の避難作業の影響を受けることなく排水作業の準備に取り掛かることができるため、作業時間に余裕が持てる。
	R6	・因原地区内水排除設備工事（常設排水ポンプ4台設置） 【予算】 65,500 千円 【決算】 24,500 千円	A	・既設の4台に加えて新たに4台ポンプの設置を完了。本格稼働に向けて次年度設置工事を継続。 ・出水期にポンプが正常に稼働するよう試運転、点検の定期化を検討する。
	R7	・因原地区内水排除設備工事（常設排水ポンプ4台設置） ※明許繰越 【予算】 39,510 千円 【決算】 39,507 千円	A	・新規排水用ポンプを4台設置を出水期までに完了。（4台→8台）リース発電機により運用。また、同ポンプを稼働するための発電機と既存発電機の管理委託を検討する。また、R8年度運用開始に向け発電機の新規購入を行い、出水期前の試運転を含め、発電機の管理委託を検討する。さらに、国土交通省所有のポンプ車をより効率的に運用するため、排水管を常設を検討する。
	R3	【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	06	プロジェクト名	治水対策の推進	(2)	ソフト対策
------------	----	---------	---------	-----	-------

2 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
① 情報伝達の仕組みづくり	R3	・ 情報伝達訓練の実施 ・ 避難訓練の実施 ・ 職員情報共有のためのエルガナの活用 【予算】 251 千円 【決算】 251 千円	B	・ 避難所職員との情報伝達及び他部署と連絡体制は迅速な対応ができていた。また、町民への伝達について、告知放送・防災無線・まげなTVなどを活用できた。まげなTV等更なる活用方法の模索が必要。
	R4	・ 情報伝達訓練の実施 ・ 避難訓練の実施 ・ 職員情報共有のためのエルガナの活用 【予算】 251 千円 【決算】 251 千円	B	・ 情報伝達訓練及び避難訓練は計画通り実施。 ・ エルガナの更なる利活用について検討が必要
	R5	・ 情報伝達訓練の実施 ・ 避難訓練の実施 ・ 職員情報共有のためのエルガナの活用 ・ 町LINEの整備 【予算】 251 千円 【決算】 251 千円	B	・ 情報伝達訓練及び避難訓練は計画通り実施。 ・ エルガナの更なる利活用について、町のイベントでの利用などを実施 ・ 町公式LINEの整備に合わせ、防災情報の発信を行った。
	R6	・ 情報伝達訓練の実施 ・ 避難訓練の実施 ・ 職員情報共有のためのエルガナの活用 ・ 町LINEの整備 【予算】 251 千円 【決算】 251 千円	B	・ 情報伝達訓練及び避難訓練は計画通り実施。 ・ エルガナの利用はR6年度で終了し、情報共有方法として、ロゴチャットを活用 ・ 町公式LINEの整備に合わせ、防災情報の発信を行った。
	R7	・ 情報伝達訓練の実施 ・ 避難訓練の実施 ・ 職員情報共有にロゴチャット活用 ・ 町LINEの整備 【予算】 251 千円 【決算】 251 千円	B	・ 情報伝達訓練及び避難訓練は計画通り実施。 ・ ロゴチャットを活用 ・ 町公式LINEの整備に合わせ、防災情報の発信を行った。
	R3	－ 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 実施に至らなかった。
② マイ・タイムラインの作成支援	R4	・ 個別避難計画策定に併せ説明会の実施。 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 実施に至らなかった。
	R5	・ 自主防災組織単位での説明会の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	A	・ 自主防災組織単位での説明会は、他の情報説明と併せて情報提供・説明をした。
	R6	・ 自主防災組織単位での説明会の実施 ・ まちづくり意見交換会、自治会長会議時に説明 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 自主防災組織単位での説明会は、他の情報説明と併せて情報提供、説明をした。また、自主防災組織ではない団体への説明も実施。
	R7	・ 自主防災組織単位での説明会の実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 避難訓練や地区ごとに実施された避難訓練に出向き、マイタイムラインの重要性を説明した。
	R3	・ 小・中学校職員を対象とした講義を実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 町内一斉避難訓練では、希望される自治会を対象に防災に関する講習会を実施。また、保・小・中の職員を対象とした研修会を実施した。これらは住民からの希望により実施しており、意識の向上の表れと感じる。
③ 防災教育の充実	R4	・ 小学校への防災授業実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 小学校5年生を対象に防災授業を実施。授業のカリキュラムに併せ継続して実施が必要
	R5	・ 学校や地域へ出向いた防災研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 昨年度の取り組みに加え、中学校での防災授業を行った。『地域で活躍できる中学生』を目指し、今後も継続した取り組みを行っていく。
	R6	・ 学校や地域へ出向いた防災研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ R6年度は小学校での防災授業は行わず、川本中学校へ出向き、防災授業を2回実施。 また、民間事業者である、山陰中央新報社と共催で2回の防災セミナーを実施。
	R7	・ 学校や地域へ出向いた防災研修会の開催 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 小学校4年生を対象とした防災授業を行ったほか、PTA活動として防災講習を行い、児童と保護者への研修会を行った。
	R3	・ 小・中学校職員を対象とした講義を実施 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・ 町内一斉避難訓練では、希望される自治会を対象に防災に関する講習会を実施。また、保・小・中の職員を対象とした研修会を実施した。これらは住民からの希望により実施しており、意識の向上の表れと感じる。

【評価】A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）

■重点プロジェクト 主な取り組み評価シート

重点PJ 番号	06	プロジェクト名	治水対策の推進	(2)	ソフト対策
------------	----	---------	---------	-----	-------

3 / 3

主な取り組み	年度	具体的取組内容	評価	評価の説明
④ 防災を自分事とするプロジェクトの実施	R3	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・構想はあるが、実現に至らなかった。
	R4	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円	B	・自主防災組織のリーダー育成につながる内容を検討しているが、実現に至らなかった。
	R5	・自主防災組織でのリーダー人材の育成 【予算】 108 千円 【決算】 63 千円	A	・自主防災組織から防災士講習への参加が2名あった。継続して地域リーダーの育成に努めていく。
	R6	・自主防災組織でのリーダー人材の育成 【予算】 108 千円 【決算】 0 千円	B	・防災士講習への呼びかけを行ったが、今年度の参加者はなかった。次年度は複数の受講見込がある。引き続き地域リーダーの育成を進めていく。
	R7	・自主防災組織でのリーダー人材の育成 【予算】 161 千円 【決算】 67 千円	B	・防災士講習を3自治会から合計3名が受講し、3名の新たな防災士が増員された。今後は、防災士の活用について検討が必要。
	R3	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R4	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R3	— 【予算】 0 千円 【決算】 0 千円		
	R4	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R5	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R6	— 【予算】 千円 【決算】 千円		
	R7	— 【予算】 千円 【決算】 千円		

【評価】 A…拡充（今後内容を拡充して実施する必要がある）

B…継続（当面の間、現状のまま継続して実施）

C…見直し（事務事業の効率化などにより見直す必要がある）

D…終了（「目的」が達成されたこと等により終了する場合）